TOKYO DENKI UNIVERSITY

2006

東京電機大学理工学部

〔平成18年度　理工学部主要行事日程〕

主　要　行　事	日　　程
入学式	平成18年４月２日（日）
新入生･在学生オリエンテーション	４月３日（月）～４月７日（金）
平成18年度1～4年次定期健康診断	４月３日（月）～４月６日（木）
前期授業開始	４月10日（月）
合同体育祭	５月14日（日）
	［予備日　５月21日（日）］
学生大会	５月18日（木）
	＊　学部は午後休講（大学院は休講せず）
前前期授業終了	６月３日（土）
前後期授業開始	６月５日（月）
前期特定日	７月25日（火）＊学部は休講
	７月29日（土）＊学部は休講
	７月31日（月）＊学部は休講
前期授業・試験終了	７月31日（月）
夏季休業	８月１日（火）～９月15日（金）
創立記念日	９月９日（土）（※９月11日（月）を振替）
後期授業開始・前期成績発表	９月16日（土）
授業置換え日	９月19日（火）：後期月曜日の授業
鳩山祭及び	11月１日（水）～７日（火）
準備・片付けのための休講	（鳩山祭は　11月３日（金）～11月５日（日））
	＊　鳩山祭期間中は学部・大学院とも休講
後前期授業終了	11月15日（水）
後後期授業開始	11月16日（木）
授業終了	12月22日（金）
冬季休業	12月23日（土）～１月８日（月）
授業再開	平成19年１月９日（火）
大学センター入試及び準備のため休講	１月19日（金）～１月21日（日）
後期特定日	１月24日（水）＊学部は休講
	１月30日（火）＊学部は休講
	１月31日（水）＊学部は休講
後期授業・試験終了	１月31日（水）
卒業発表・進級発表	３月８日（木）
卒業式	３月19日（月）

追試験は前期：８月４・５日、後期：２月５・６日を予定しています。
詳細は時期の前に掲示します。
特定日とは、15週を越える曜日で、一部の科目の試験等を行う日です。

UNIVERSITY CATALOGUE

学生要覧　2006

東京電機大学は、平成９年４月１日付で、大学基準協会が実施する相互評価の認定を受けています。相互評価の認定は、大学が本来あるべき「大学」に相応しい要件を備え、その「理念・目的」の実現に向け改善・改革のための努力を払っているとの評価を、同基準協会から得たことの証しとなるものです。本学は、全国の大学の中でも初めてこの認定を受けた22校の大学の中の一つです。

東京電機大学理工学部

目　次

第１章　学生生活をはじめるにあたって

学長より …… 2
理工学部長より …… 3
東京電機大学理工学部・理工学研究科の歴史と構成 …… 4
大学・大学院各英文名 …… 5
カリキュラム・授業等についての注意 …… 6
知っておいて欲しいこと …… 7
気をつけて欲しいこと …… 13

第２章　学修活動について

理工学部で学ぶ学生諸君へ …… 16
彩の国大学コンソーシアム …… 17
ホームページ …… 18
授業科目 …… 19
授業 …… 24
再履修 …… 28
単位認定 …… 29
他大学・他学部・他学科履修 …… 33
履修基準 …… 35
履修計画 …… 38
履修申告 …… 45
試験 …… 58
成績 …… 61
進級 …… 65
卒業 …… 66
人間形成・英語科目・リテラシー科目群 …… 69
　履修案内 …… 71
　授業科目配当表 …… 78
学部導入科目・共通基幹科目・学部共通科目群 …… 81
　履修モデル …… 82
　授業科目配当表 …… 86
専門科目群 …… 97
　数理科学科 …… 97
　情報科学科 …… 107
　情報システム工学科 …… 119
　建設環境工学科 …… 131
　知能機械工学科 …… 151
　電子情報工学科 …… 159
　生命工学科 …… 173
　情報社会学科 …… 185
　　・履修モデル
　　・進級条件
　　・授業科目配当表

第３章　教職課程

教職課程とは …… 198
大学入学から免許状取得まで …… 199
取得できる免許状 …… 200
履修要件 …… 201
教職課程の履修手続 …… 226
教育実習 …… 227
免許状の申請・交付 …… 229
教職課程授業科目配当表 …… 230

第４章　学生生活について

学籍について …… 235
クラスについて …… 237

オフィス・アワー …… 238
学費について …… 239
奨学金制度 …… 241
教育ローン（銀行提携） …… 245
連絡・呼出し …… 246
証明書の交付 …… 247
届け出・願い出 …… 251
学生相談 …… 254
健康管理 …… 255
ハラスメント防止宣言 …… 257
学習サポートセンター …… 260

第５章　各種施設の利用

総合メディアセンター …… 262
厚生施設 …… 273
スポーツ施設 …… 277

第６章　将来への道標

就　職 …… 280
進　学 …… 288
科目等履修生 …… 289
卒業後の各種証明書の申請について …… 290
校友会 …… 291

第７章　大学院

大学院入学のすすめ …… 297
修士課程
数理科学専攻 …… 298
情報科学専攻 …… 300
情報システム工学専攻 …… 302
建設環境工学専攻 …… 304
知能機械工学専攻 …… 306
電子情報工学専攻 …… 308
生命工学専攻 …… 310
情報社会学専攻 …… 312
・内容と特色　・教員一覧

第８章　その他

エクステンションセンター …… 316
留学 …… 318
保険制度 …… 320
学生生活支援 …… 322
課外活動 …… 323
アルバイト …… 324
東京電機大学　校歌・学生歌・理工学部讃歌 …… 326
鳩山キャンパス案内図 …… 328
鳩山キャンパス教員室一覧 …… 338
理工学部教員一覧 …… 340

第９章　学則および諸規定

東京電機大学学則 …… 350
学生生活についての規程 …… 363
試験に関する細則 …… 366
特別奨学生規程 …… 369
理工学部学生の車両通学に関する取扱細則 …… 371

個人情報保護法施行に伴う個人情報利用について

入学時及び在学中を通じて収集した個人を識別または特定できる情報については、「個人情報保護法」（平成17年４月１日施行）に従い、以下に定める目的以外に利用することはありません。

なお、本学では現在「学校法人東京電機大学個人情報保護に関する規程」の制定を進めており、「個人情報」保護に努めます。

(1)　学籍管理を行うため。
(2)　正課および正課外活動の目的で利用するため。
(3)　学生本人、保証人に対して、本学ならびにその関連機関である東京電機大学後援会および社団法人東京電機大学校友会から、通知および連絡を行うため。
(4)　本学より学生本人に連絡の上、了承を得た目的に利用するため。
(5)　その他本学の教育研究および学生支援に必要な業務を遂行するため。
(6)　その他法令に基づく場合。

以　上

※詳細につきましては、各学部事務部窓口（学生厚生担当）へお問い合わせ下さい。

第１章

学生生活をはじめるにあたって

皆様の世紀



学 長　原島　文雄

皆様の入学を心から歓迎いたします。

学園の創立100周年を目前とする本学は、いままで着実に発展しています。東京電機大学は、その設立の当初から現在に至るまで、人類の豊かな生活を保障する科学技術の発展に寄与する人材育成をモットーとして「実学尊重」の教育を柱としています。この伝統を維持し、さらに発展すべく、大学およびそれを取り巻く社会の現状を正確に認識し、将来にむかって着実な前進をおこなっていくことが、本学の使命であると考えます。

皆様は、21世紀の初頭に大学で勉学に励むことになります。いずれ社会にでられるわけですが、今世紀の社会は皆様方がつくられることになります。今世紀の半ば、2050年を考えてください。ずっと先のことと思われるかもしれませんが、そのとき皆様は、70歳くらいでしょうか、全員がまちがいなく生きておられます。皆様がたがこれから50年かけてつくられる社会に期待いたします。

皆様は、この大学におきまして、科学技術を身につけられます。ご存知のように、20世紀後半の科学技術の進歩ならびにこれが社会に果たした役割は目覚しいものがあります。半導体・コンピュータ・通信・メカトロニクス技術などの発展は、肉体的苦痛を伴う労働から人類を解放しました。さらに、テレパシーに相当するインターネットを世界的規模で構築し、時間と空間を超越することすら可能になりました。しかしながら、科学技術はマイナスの遺産を我々にのこしてきました。科学技術は資源浪費形の経済発展を加速し、その結果として、環境問題をひきおこしてしまいました。地球環境問題の解決は、今後、科学技術が全力をあげて取り組み、人類の生存を確信するまで続く長い戦いとなるでしょう。さらに、来るべき長寿社会において、人間社会は、健康・福祉などの問題と直面し、さらには、DNA／クローン、人口知能などと関連した倫理問題の解決もせまられるでしょう。

皆様方が、人類の叡智をつくして環境問題を解決し、21世紀の半ばまでには、美しい地球の上で、人類が知的なかつ健康な生活をおくれる社会を構築されることを期待いたします。自分の主体性を確立し、独立した人格として、さらに良き市民として、個々の理想を追求していただきたい。期待しております。

夢を実現しよう



理工学部長　山名　昌男

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
　理工学部が、皆さんにとって学びの場、友や先生と出会う場、自己を磨く場、活動を楽しむ場、夢を実現する場であることを願っています。そのような場作りを目指し、私達教員、職員は、教育・研究の向上、キャンパス環境つくりに努め、活気ある理工学部をつくるよう努めています。
　本学には次の建学の精神があります。
　ひとつは、「実学の尊重」です。
　現在の科学技術の進歩には目覚ましいものがあります。例えば、自動車、パソコン、携帯電話などに見られるように機能はますます高度化、複雑化しています。さらに、バイオ技術に見られるように、生命や生態に関する知識の上に様々な技術が組み合わされ、新たな分野が開拓されています。科学技術は高度化すると共に、応用範囲も拡大しています。このような日進月歩の技術世界で活躍するには、数学、物理学、化学などのしっかりした基礎力が必要になります。その基礎の上に専門力をつけてこそ真に実学の伴った技術者といえます。
　本理工学部では、これらの基礎教育に力を入れ、その上に、将来様々な分野での活躍に結びつくような実学教育を行っています。
　もうひとつは、「技術は人なり」です。
　皆さんは、技術者としての活躍が期待されているわけですが、同時に、社会人としての素養も必要とされます。特に、他者とのコミュニケーション力、理解力、さらに相手の立場に立ったものの考え方などです。国際化の中で、最近、日本語ばかりでなく、英語によるコミュニケーションの重要性も叫ばれています。
　また、技術は私達に常に幸せをもたらす訳ではありません。科学技術には光と影があります。科学技術の進歩の過程で、環境悪化、人命軽視、社会不安などの問題も生じています。中でも、環境倫理、生命倫理、情報倫理など考えていかなければならない問題が沢山あります。
　本理工学部では、「技術は人なり」を重視し、皆さんの社会人としての自己研鑽のためのカリキュラムを設けてあります。
　さらに、専門分野の実力をつけて、「自ら問題を発見し、自ら解決する能力を持った技術者」になるように、たゆむことなく努力することを希望します。

　キャンパスライフについて触れておきます。
　まず、毎日キャンパスに来て欲しい。キャンパスに来て、友達に会って、先生の顔を見て、皆さんの学生生活が始まります。
　メールやインターネットなども重要なコミュニケーション手段ですが、キャンパスでの「face-to-face」の会話が学生生活の出発点です。大学は、単なる知識だけを伝える場ではありません。人をつくる場です。ですから、人と人が集まる場が必要になります。それがキャンパスです。キャンパスにこそ皆さんの求めているものがあります。
　理工学部では、この「face-to-face」を技術者教育の基本にしています。きめ細かい基礎教育、少人数教育、卒業研究、学部－大学院一貫教育など、理工学部が力を入れている活動は、いつも学生と教員の「face-to-face」に基づいています。
　ですから、皆さんもこれからキャンパスに来て、友達、教員、職員との会話から出発することを希望します。
　つぎに、キャンパスライフを楽しんで欲しい。理工学部には、学生による自治会、大学祭、部活動、委員会活動などがあり、学生が活発に活動しています。例えば、学生による手作りの大学祭（鳩山祭）は、例年大きな盛り上がりを見せています。
　皆さんが自分達で企画して活動することは、人間としての力量や資質、例えばコミュニケーション力、社会性、人としての優しさなどの向上につながります。是非、多くの学生がいろいろな活動に参加して、より活気のある理工学部のキャンパスにしていってくれることを願っています。
　最後に、皆さんがこれから理工学部での勉学と学生生活において、自己の可能性を最大限に引き出し、自分の将来の夢に向かって果敢にチャレンジしていくことを心から期待しています。私達教員、職員も、皆さんと一緒になって教育と研究に携わることを楽しみにしています。

　勉学、環境、生活などについての意見を聞かせてください。メールでも結構です。
　オフィスアワー：月曜日　16時～18時（本館３階、学部長室）
　メールアドレス：deans@ccs.dendai.ac.jp

東京電機大学理工学部・理工学研究科の歴史と構成

1907（明治40年）
- 電機学校創立

1949（昭和24年）
- 東京電機大学開校
- 工学部設置（現在昼８学科、夜４学科）

1958（昭和33年）
- 大学院工学研究科設置（現在修士８専攻、博士８専攻）

1977（昭和52年）
- 理工学部新設
- 数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置

1981（昭和56年）
- 総合研究所設置
- 大学院理工学研究科修士課程新設
  数理学専攻・システム工学専攻・建設工学専攻・機械工学専攻設置

1983（昭和58年）
- 大学院理工学研究科博士課程新設（応用システム工学専攻）

1984（昭和59年）
- 大学院理工学研究科博士課程増設（数理学専攻）

1986（昭和61年）
- 理工学部情報科学科および応用電子工学科増設

1990（平成２年）
- 大学院理工学研究科修士課程増設
  情報科学専攻・応用電子工学専攻設置

1992（平成４年）
- 大学院理工学研究科博士課程数理学専攻を数理科学専攻に名称変更
  （数理科学専攻）

1994（平成６年）
- 理工学部本館完成

1999（平成11年）
- フロンティア共同研究センター完成
- 理工学部既存５学科名称変更（数理学科を数理科学科に、経営工学科を情報システム工学科に、建設工学科を建設環境工学科に、産業機械工学科を知能機械工学科に応用電子工学科を電子情報工学科に）

2000（平成12年）
- 理工学部生命工学科および情報社会学科増設・12号館完成

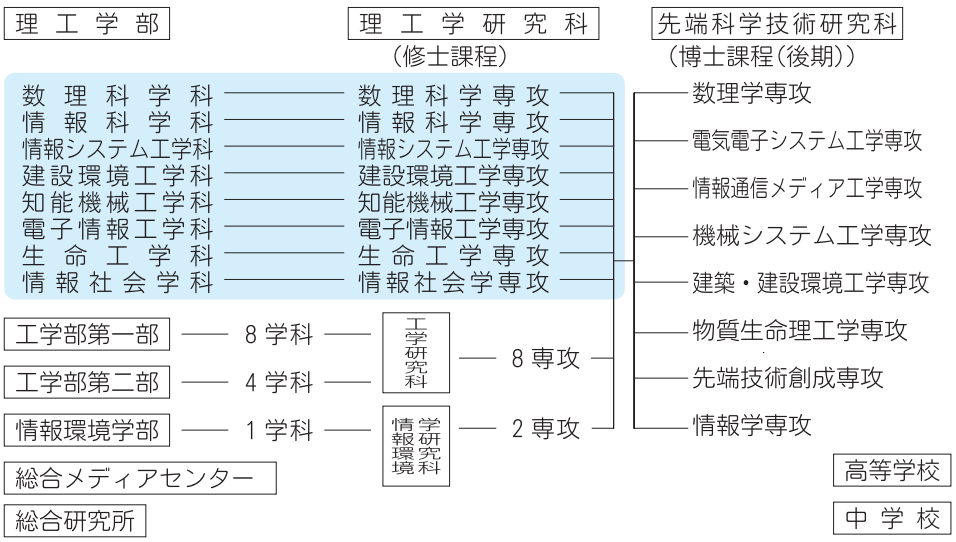
2001（平成13年）
- 情報環境学部（情報環境工学科・情報環境デザイン学科）設置

2002（平成14年）
- 大学院理工学研究科生命工学専攻修士課程設置
- 大学院理工学研究科既存博士後期課程１専攻名称変更
  （数理科学専攻を数理・情報科学専攻に）
- 大学院理工学研究科既存修士課程３専攻名称変更
  （数理学専攻を数理科学専攻に、システム工学専攻を情報システム工学専攻に、機械工学専攻を知能機械工学専攻に）

2003（平成15年）
- 大学院理工学研究科既存修士課程１専攻名称変更
  （応用電子工学専攻を電子情報工学専攻に）
- 21世紀COEプログラムに選定（理工学研究科）

2004（平成16年）
- 大学院理工学研究科情報社会学専攻修士課程設置
- 100周年記念棟完成
- 大学院情報環境学研究科設置（修士２専攻）

2006（平成18年）
- 先端科学技術研究科（博士課程（後期））設置（博士課程（後期））８専攻
  （工学研究科博士課程および理工学研究科博士課程を統合）
- 情報環境学部情報環境学科設置（情報環境工学科・情報環境デザイン学科を統合）
- 大学院理工学研究科既存修士課程１専攻を名称変更（建設工学専攻を建設環境工学専攻に）



大学・大学院英文名

東京電機大学	Tokyo Denki University
理工学部	School of Science and Engineering
数理科学科	Department of Mathematical Sciences
情報科学科	Department of Information Sciences
情報システム工学科	Department of Computers and Systems Engineering
建設環境工学科	Department of Civil and Environmental Engineering
知能機械工学科	Department of Intelligent Mechanical Engineering
電子情報工学科	Department of Electronic and Computer Engineering
生命工学科	Department of Biotechnology
情報社会学科	Department of Information and Arts
東京電機大学大学院	Graduate School of Tokyo Denki University
先端科学技術研究科	Graduate School of Advanced Science and Technology
博士課程（後期）	Doctoral Programs
数理学専攻	Mathematical Sciences
電気電子システム工学専攻	Electrical and Electronic Systems Engineering
情報通信メディア工学専攻	Information, Communication and Media Design Engineering
機械システム工学専攻	Mechanical System Engineering
建築・建設環境工学専攻	Architecture, Civil and Environmental Engineering
物質生命理工学専攻	Materials and Life Sciences
先端技術創成専攻	Advanced Multidisciplinary Engineering
情報学専攻	Informatics
理工学研究科	Graduate School of Science and Engineering
修士課程	Master's Programs
数理科学専攻	Mathematical Sciences
情報科学専攻	Information Sciences
情報システム工学専攻	Computers and Systems Engineering
建設環境工学専攻	Civil and Environmental Engineering
知能機械工学専攻	Intelligent Mechanical Engineering
電子情報工学専攻	Electronic and Computer Engineering
生命工学専攻	Life Sciences and Engineering
情報社会学専攻	Human-Social Informatics

カリキュラム・授業等についての注意

1　卒業要件は、情報システム工学科・電子情報工学科は他の学科と異なっています。自分の所属する学科の卒業要件を必ず確認してください。

2　建設環境工学科は、２年次より「土木コース」「環境創生コース」「建築コース」の３コースに分かれます。コースにより、進級条件、科目の進級コード等が異なりますので、科目配当表などで必ず確認してください。ただし１年次においては各コース共通の科目となります。

3　履修上限単位数は１年間に50単位となっています。これには前期に履修し、単位を取得できなかった科目の単位数も含まれます。進級条件および卒業要件を考慮し、計画的な履修を心掛けてください。

4　Happy Monday 等による授業日数の不足を補うため、他の曜日に授業置換え日として月曜日の授業を行う場合があります。学生要覧の始めに記載されている〔理工学部主要行事日程〕、または掲示等で予め確認してください。

5　学期末試験は原則として授業中に行ないますが、一部の科目は特定日として授業日以外で行ないます。科目や日程は学期末試験の掲示で確認してください。

6　授業は集中講義として土曜日や長期休業中・休講日に、日にちを指定して行う事があります。介護体験・学外研修と重複する事もありますので、予め確認しておいてください。

知っておいて欲しいこと

1．登下校時は掲示板を見てください

掲示板は、大学から学生のみなさんへの伝言板です。みなさんへの告示、通知、呼び出しなどはすべて掲示板によって行われます。授業教室の臨時変更あるいは休講の連絡などもあります。したがって、掲示板を見落としたため不都合が生じても、大学側は責任を負いません。登下校時には、必ず掲示板を見る習慣をつけてください。

（P246参照）

2．学生証について

学生証はプラスチック製カードでできています。この学生証は、みなさんの身分証明書ですから常に携帯してください。特に、試験時に忘れると受験できませんので注意してください。その他に学生証は、通学定期券の購入、各種証明書の発行、図書の貸出し、体育施設など諸施設を利用の際に必要です。卒業するまで使用することになりますので大切に取り扱ってください。万一学生証を紛失したときは、直ちに近くの警察署や交番へ届けるとともに、学生厚生担当へ申し出て、すみやかに学生証再発行（有料）の手続きを取ってください。

（P247参照）

なお、退学、除籍、休学の場合は学生証を直ちに返納してください。

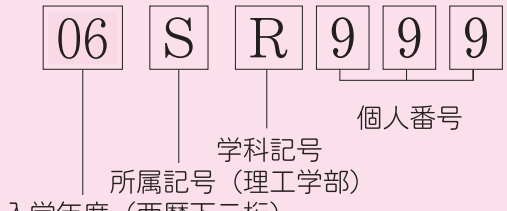
学生証



3．学籍番号について

学生証に記入された 7 桁の数字・記号を学籍番号といいます。この番号は、みなさんの卒業後も生きつづけます。

学籍番号のしくみ



所属学科記号

学内においては、各学科を簡単にアルファベット記号で表しています。

平成18年度（'06）

数理科学科……R	情報科学科……J
情報システム工学科…K	建設環境工学科……G
知能機械工学科……N	電子情報工学科……F
生命工学科……B	情報社会学科……L

4．東武東上線のストライキおよび自然災害などによる授業の取り扱いについて

東武東上線がストライキで運休した場合の授業の取り扱いは、次のとおりです。

（1） 午前 6 時のＮＨＫニュースにおいて運休の場合は、午前中の授業は休講。

（2） 午前 9 時のＮＨＫニュースにおいて運休の場合は、午後の授業も休講（終日休講）。

なお、地震、台風などの自然災害により不測の事態が発生した場合の取り扱いは、そのつど指示します。

5．呼び出し、連絡、照会について

家族・知人などから大学へ、電話による学生の呼び出しを依頼されることがありますが、大学では、学生の居場所については明確に把握しかねますので、呼び出しには応じていません。あらかじめ承知しておいてください。

また、電話による学生の住所、成績などの問い合わせにも一切応じないことになっています。

6．通学定期乗車券について

通学のために電車・バス等を利用する場合の通学定期乗車券の購入方法は、次のとおりです。

ＪＲ・私鉄の場合

通学途中の主要駅で、駅備付の「通学定期乗車券購入申込書」に記入して、学生証を添えて駅窓口に提出すれば購入できます。

バスその他の場合

バス会社によっては大学の通学証明書を必要とする場合があります。その場合には学生厚生担当で証明書を発行しますので申し込んでください。（Ｐ248参照）

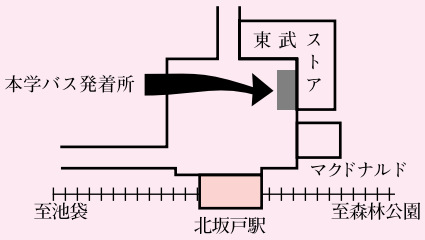
７．スクールバスについて

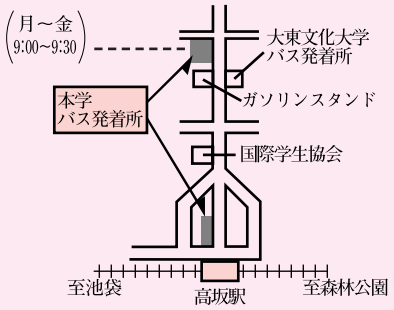
東武東上線高坂駅・北坂戸駅～大学間に、平日・土曜のみ授業時間にあわせてスクールバスを運行しています。運行時刻は大学本館前バス停、高坂駅・北坂戸駅の発着場所に掲示されています。なお、北坂戸駅発着のスクールバスは便数が少ないため、高坂駅発着のスクールバスを利用してください。

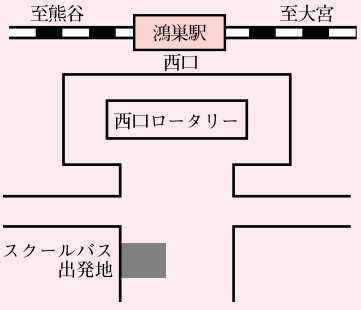
また、ＪＲ熊谷駅・鴻巣駅～大学間にもスクールバスを運行しています。（原則的に熊谷便は平日・土曜、鴻巣便は授業期間の平日のみ）ただし便数が少ないため、運行時間には注意して下さい。（時刻の変更等については掲示をよく確認すること。）熊谷便・鴻巣便のスクールバスは、道路事情や天候により所要時間や時刻が大幅に変わる場合があるので、利用する学生はその点をよく了解の上、利用してください。

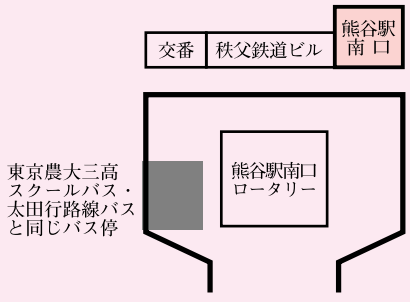
運行時間帯：高坂駅発　８：30頃～大学発　21：30頃

日曜・祝日は運行しておりません。









スクールバスの他、高坂駅からの路線バスも大学まで乗り入れています。通常の路線バスですので有料ですが、スクールバスの運行がない日曜・祝日も運行されています。

運行時間帯　：高坂駅発６：30頃～大学発22：50頃（平日）
土・日・祝日は始発が遅くなり、終発が早くなります。
詳しくは路線バスのバス停で時刻表を確認してください。

運　　賃　：片道￥200
９号館売店（KINDEN SHOP）で、特殊割引回数券（15枚￥2,000）を販売しています。

８．車両通学は許可制です

本学では車両通学許可証の発行を受けていない者の車両による通学は一切認めていません。車両での通学を希望する場合は、年２回行われる「安全運転講習会」を受講し、車両通学願を学生厚生担当に提出して許可を受けてください。

なお、車両通学願には保証人と連名の車両通学届、該当車両の任意保険の写しと、免許証の写しが必要です。

９．許可条件

１．公共の交通機関を利用しての通学が困難な者
２．運転免許取得後６ヶ月以上経過している者
３．道路運送車両法による12ヶ月定期点検整備の適用を受けられる者
４．自動車損害賠償責任および次の自動車任意保険の適用を受けられる者

	対人賠償	対物賠償	搭乗者賠償
四　　輪	7,000万円以上	100万円以上	500万円以上
自動二輪	5,000万円以上	100万円以上	200万円以上

10. 駐車許可証

車両通学を許可した者に対しては、駐車許可証を発行します。駐車許可証は、四輪車の場合には常にダッシュボード上に提示し、自動二輪・原付の場合には常に携帯していなければなりません。

11. 違反者の処置

無許可で車両通学をした場合および車両通学者が道路交通法等の関係法令および学内諸規定に違反し、大学の指示に従わない時は、学則第50条に則り退学を含む厳しい処置を行います。

12. 車両通学は安全運転を心がけましょう

電車やバスなど公共交通機関を利用しての通学が困難な場合には車両通学を認めています。しかしながら、ここ数年、車両事故による残念な報告が後を断ちません。

みなさんは、学友が通学中に尊い生命を失ったり、重傷を負い長期間学業を中断せざるをえなくなったり、また、周囲の方々にも多大な迷惑をかけた例を繰りかえしてはなりません。

できるだけ車両通学をひかえて電車やスクールバスを利用するようにしてください。

13. 自動車・バイク・自転車は指定の置き場に

自動車・バイク・自転車などの車両は必ず学生駐車場（第一・第二・第三・体育館前）・駐輪場に駐車してください。また、バイク・自転車は盗難防止のため錠前をつけるなど各自で防犯対策をとりましょう。

学生駐車場・駐輪場以外の場所に駐車した場合には規則によって罰せられますので注意してください。

14. 無届けの「掲示」「印刷物の配布」は禁止しています

学内での連絡、呼びかけ（クラブ・サークル勧誘を含む）の掲示や印刷物の配布は、許可を得なければなりません。意見、主張などを書いたパンフレット、ビラなどを配布したい場合も同じ取扱いとなりますので、必ず事前に学生厚生担当に届けてください。

15. 良識をもって行動しましょう

・授業中の私語、居眠り
・授業中の携帯電話・PHS・ポケットベル等の使用
・レポートの丸写し
・遅刻、早退
・ゴミ、空カン、タバコの投げ捨て

これらの行動は、クラスメイトのみならず教職員に多大な迷惑をかけ、社会的マナーにも反することですので各々が自分の行動を振り返り、良識のある行動をとってください。

16. キャンパス内は禁煙です

指定の喫煙場所以外では禁煙です。**灰皿の設置されていない場所や歩行中の喫煙は厳禁です**。医学上喫煙は有害であることがわかっていますので、健康管理のうえでも喫煙は控えましょう。

17. 物を大切にしましょう

キャンパス内では落とし物の数が多いにもかかわらず、持ち主に引き取られるのは約半数に過ぎません。学生証や財布など貴重品は別ですが、教科書や学用品はなかなか持ち主が現れないのが実状です。これらの落とし物は、学生厚生担当で保管していますので、気が付いたときは速やかに申し出てください。また、落とし物を拾ったときにも学生厚生担当に届け出てください。自分の持ち物に記名することを習慣づけ、物を大切にする気持ちを養ってください。

なお、落とし物の保管等は次のとおりです。
持ち主不明の物▶事務室前ロビーの陳列棚の中
持ち主が明らかな物▶掲示にて呼び出し
現金等貴重品▶学生厚生担当にて保管

気をつけて欲しいこと

1．盗難に注意

大学キャンパスは公共的色彩の強い施設であり、現にキャンパス内には公道が通っています。学外者の出入りも比較的頻繁であり、盗難事件の発生が懸念されますので、各自所持品は常に身近に携帯するよう心掛けて下さい。

特に校舎や体育館のロッカーに貴重品や高価な物を留め置くことは絶対に止めてください。各自で利用するロッカーには鍵式の錠前をつけるなどして、防犯対策をとるようにして下さい。もし盗難にあった場合には速やかに学生厚生担当に申し出てください。特にキャッシュカードなどを紛失した場合には、カード発行元への連絡も忘れないでください。貴重品の所持には、くれぐれも注意を払ってください。

また、バイクや自転車を学内の駐輪場にとめる際には、錠前をつけるなど各自で盗難防止対策をとるようにして下さい。

2．「金融ローン」の利用は注意してください

「学生証だけで低利融資します」と言うこれらのローンは、利用手続きの簡便さが特徴です。しかし、実際には高金利の利息を支払うことになり、わずかな借金でも、利息が利息を生み、その返済で学業に支障をきたすばかりではなく、両親にまで迷惑をおよぼす結果となります。どうしてもお金が必要なときは、両親などによく相談してください。

3．悪徳商法に注意してください

路上で「アンケートに協力して」と言って声を掛けられたことはありませんか。それがキャッチセールスで、金銭トラブルの多い商法です。また、英会話カセットなど学習用教材の割賦販売、換気扇のフィルター販売などでもトラブルが多発しています。これらは、「海外留学の特典がある」などの甘い誘いや、「すばやい契約」がつきもので「解約に応じてくれない」「多額の違約金を請求された」などのトラブルが多いようです。

いずれも安易な契約がトラブルの原因ですので、契約に際しては、相手がどのような者か

しっかり確認し、その内容について時間をおいて十分に検討したうえで判断してください。そして、甘い誘いにはのらず「断る勇気」を持ちましょう。

なお、解約に関しては無条件で解約できる**「クーリング・オフ制度」**があることも知っておいてください。（契約書や領収書は解約の際必要になる場合があるので、必ず保管して下さい。）

このほか悪徳商法には次のようなものがありますので、おかしいと思ったら、まずはっきりと断ってください。

マルチ（連鎖販売取引）商法

「販売員を増やせば多額の手数料が入ります」などの触れこみでネズミ算式に販売組織を広げる商法です。ノルマ達成のため詐欺的、強迫的な勧誘に奔走せざるをえない末路となりますので、こうした商法に関与しないよう充分注意してください。

点 検 商 法

「消防署から点検にきました」などと公的機関の職員の身分をかたり消火器などの商品を売りつける商法です。他に布団、換気扇フィルターなどの点検商法も多発しています。

アポイントメント商法

「あなたが選ばれました」と言う電話や手紙で勧誘され、商品を買わされる商法です。粗悪品と多額の請求書が送られてきます。

資格取得（ 士（さむらい） ）商法

講座を受けるだけで「〇〇資格が取れます。」と言う手紙で勧誘されて、多額の受講料を払わせる商法です。

クーリング・オフについて

クーリング・オフとは違約金を払わずに無条件解約のできる制度のことです。

クーリングオフの期間は、訪 問 販 売……８日間
電 話 勧 誘……８日間
マルチ商法……20日間
特定継続的役務……８日間
いわゆるエステティックサロン
いわゆる語学教室
いわゆる家庭教師
いわゆる学習塾

通知の方法は、口頭ではなく文書を内容証明郵便または簡易書留郵便で送付してください。

第２章

学修活動について

理工学部で学ぶ学生諸君へ

理工学部のカリキュラムは、皆さんが、４年間これに従って勉学することにより、科学技術の基礎を系統立てて学べるように構成されています。

また、卒業後に優れた科学技術者となり、さらには社会で指導的な立場を担うようになれば、幅の広い人間性が求められてくるでしょう。優れた科学技術者もまずはひとりの人間として優れていなければなりません。そのためにも、人文・社会科学の科目や、これからの国際社会を担う人材となるための語学にも、時間をとって勉強することが必要です。したがって、“幅広く、より専門的に”を心がけて学習することが重要です。

本学部では大学自身の特色を出したカリキュラムを編成しています。今までの教育・研究の実績をもとに、さらには、今後の科学技術の動向、社会からの要望をも考慮し、以下のようなカリキュラムになっています。

ガイダンス・教員のオフィスアワー・学習サポートセンター等（P260参照）を積極的に利用して各自で目標をさだめて履修計画をたてて下さい。

１．卒業単位数を１２４単位とし、卒業要件がシンプルになっています。
※情報システム工学科・電子情報工学科においては他の学科と卒業要件が異なりますので注意して下さい。
２．ほとんどの科目が、半期科目であり、必修科目を少なくしてあります。
３．開講科目の科目名称においては、時代と授業内容にあった科目名称となっています。
４．単位数の計算方法が、学習の負担に応じたものとなっています。
５．専門科目・人間形成科目・英語科目・リテラシー科目・学部導入科目・共通基幹科目・学部共通科目に関係なく、自由に履修できる単位を20単位（情報システム工学科・電子情報工学科は34単位）設けてあります。（各科目の単位数は学科により異なります。）
６．自然科学科目を学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群として独立させています。
７．学部導入科目群では理工学部において体系的、段階的な勉学を可能にする最も基礎となる入門的知識と技法、さらに基礎知識修得のため、基礎教育科目を特に充実させています。
８．高精細映像システムを幅広く活用した授業を開講しています。
９．コンピュータリテラシーで、パソコンの扱い方、ホームページの閲覧及び情報収集、電子メールによる情報交換、文書作成、表計算ソフトの使い方を学び、情報化社会で活躍できる技術者となるための基本的技能が習得できます。

10. 日本語リテラシーで、大学で行われる学術研究のために必須の基本能力、大学生に求められる文章力のあり様について①文章読解力、②思考力・構想力、③知識の整理力、④叙述力・表現力、その他様々な観点から文章読解と論述力が身に付けられます。

このように、皆さんの履修に関する自由度を大幅に認める一方で、皆さんが履修計画をたてやすいように、「履修モデル」を作成し公表しています。

この章は、学修に関する事項を集中的に掲載しています。履修に関する注意事項や進級・卒業の条件、科目配当表（科目名・単位数・配当学年・配当期・担当者・履修条件等）が掲載されています。これらは、「履修モデル」や「授業時間割」とともに履修計画をたてる際には、非常に重要ですので、熟読してから計画を作成して下さい。今年度はオリエンテーションにて、教務担当ガイダンス、一般教養系列・英語系列・自然科学系列ガイダンス、また、各学科ごとのガイダンスを予定しています。詳しくは掲示を確認して下さい。

また、もっと詳しい授業計画（シラバス）を知りたい場合は、インターネットを利用したオンラインシラバスで知ることができます。（Ｐ40参照）

また、教員免許を取得するための教職課程については、第３章で説明してあります。

さらに理工学部には、より高度な学習を学部に引き続き行えるように、それぞれの学科を基礎とした大学院理工学研究科が併設されており、修士課程さらには博士課程（後期）に進むことができます。

最近社会からは、理工系の科学者・技術者には大学院修了程度の知識を求められることもあり、進学者も年々増加しています。よりハイレベルな科学技術の知識修得を目指すことを期待しています。

彩の国大学コンソーシアム

本学は平成13年10月15日に埼玉県の私立大学18大学において彩の国大学コンソーシアムという協定を結びました。この中では単位互換・公開講座を平成14年度より実施しており、今後は大学同士協力しあい教育活動・研究活動・学生交流等を行っていく予定です。詳細については掲示でお知らせしますので掲示板を確認してください。（単位互換はＰ33参照）

協定大学

跡見学園女子大学・埼玉医科大学・埼玉工業大学・十文字学園女子大学・城西大学・尚美学園大学・女子栄養大学・駿河台大学・西武文理大学・大東文化大学・東京家政大学・東京国際大学・東京電機大学・東邦音楽大学・東洋大学・文京学院大学・明海大学・立正大学

ホームページ：http：//www. saicon. jp/

ホームページ（教務担当）

理工学部事務部教務担当では、ホームページを開設しております。休講・補講情報、行事日程、学生要覧、シラバス、授業に関する連絡事項等を掲載しております。

但し、休講・補講・連絡事項は掲示板での確認も必ず行ってください。

アドレス：http：//www. dendai. ac. jp/（東京電機大学）

http：//www. cse. dendai. ac. jp/teacher/index.html

（理工学部事務部教務担当）



デザインは変更される可能性があります。

授　業　科　目

1．授業科目

大学での学修は、授業科目の履修を中心に行われます。授業には講義だけではなく、演習や実験・実習・実技・製図などの形態があります。そのひとつひとつに、内容にふさわしい名称がつけられています。これらを**授業科目**といいます。

この授業科目は、１年次からそれぞれ定められた学年次に配当され、その全体を**教育課程（カリキュラム）**といいます。

理工学部の教育課程には、**共通教育科目・専門教育科目と教職に関する科目**があり、特に専門教育科目は、その学科によって当然異なっており、数理科学・情報科学・情報システム工学・建設環境工学・知能機械工学・電子情報工学・生命工学・情報社会学と、それぞれの分野が特色づけられています。

科目名の最後についているⅠ・Ⅱ、Ａ・Ｂとは何を表しているのか？

Ⅰ・Ⅱというのは、Ⅰを履修してからⅡを学ぶことを原則として開講されている科目です。

Ａ・Ｂというのは、Ａを履修してからＢを学ぶほうが望ましいという科目です。

いずれも半期制の科目ではありますが、通年科目のつもりで履修計画を立ててください。

（＊英語科目についているⅠ・Ⅱ・Ⅲ、Ａ・Ｂはそれぞれ配当学年、配当期を表しています。）

2．授業科目の区分

授業科目は、教育課程の構成上次のように区分されています。

共通教育科目	人間形成科目群	教養文化科目分野 総合文化科目分野
	リテラシー科目群	日本語リテラシー分野 コンピュータリテラシー分野
	英語科目群	英語基幹科目分野 コミュニカティヴ・イングリッシュ分野 英語研修分野
専門教育科目	学部導入科目群	基礎教育分野 入門教育分野
	共通基幹科目群	数学分野 物理学分野 化学分野 生物分野
	学部共通科目群	自然科学分野
	専門科目群	ベース科目分野 ・ ・ ・ 卒研等分野
教職に関する科目	教職課程科目群	教職に関する専門科目

人間形成科目群は、社会共同体の一員としての基礎的教養を身につけ、人間および人間社会に対する広い視野と柔軟な思考力を養うために開講されています。将来社会に出て各方面で活躍するときは、専門分野についての学力のほかに、正しい人生観・社会観をこれによって培っておくことが必要です。

教養文化科目には、哲学、倫理学、心理学、教育心理学概論、歴史学、科学技術史、論理学、言語学、文学、法学、現代社会と法、日本国憲法、政治学、国際政治学、経済学、教職入門、教育学概論、社会学、社会福祉論、体育、教養ゼミナール、教職総合演習、ドイツ語、フランス語、中国語が開講されています。

このうち、**体育**は、生涯にわたって心身共に豊かな生活を送れるようなスポーツの実践力を養うことを目的とし、スポーツサイエンスの諸理論を取り入れた実技が開講されています。体育科目には、学内で行うものと、休業中に学外において宿泊形式で行うものとがあります。

教養ゼミナールは、少人数で行われます。講義内容が担当教員により変わるので、講義要目を参照して下さい。

ドイツ語、フランス語、中国語は、将来専門の職業人として実務に就き、また専門の研究をするために必要な外国語を学ぶことを目的とし、同時に言語構造・表現法などの相違を通して、語学だけではなく他国の文化と日本とを比較しながら、他の国の文化に対する理解と愛情をもつことを目的とする点において、人間形成科目の一環としての意義をもっています。授業においては、ネイティブスピーカーによる授業を多数開講しています。

総合文化科目では、社会参加論、仕事と職業、ヨーロッパ文化論、アジア文化論、英米文化論、アジア地域研究、欧米地域研究、海外事情、技術者倫理、東京電機大学で学ぶ、が開講されています。

リテラシー科目群の中で、日本語リテラシーは大学で行なわれる学術研究のために必須の基礎能力、大学生に求められる文章力のあり様について学びます。

コンピュータリテラシーでは、情報化社会で活躍できる技術者となるための基本的技能が修得できます。

英語科目には集中講義として、アメリカのアイオワ大学、コロラド大学、コースタルカロライナ大学、オーストラリアのシドニー大学での海外英語研修及び国内で終日英語のみで過ごす合宿を行う国内英語研修も開催されています。また、TOEFL・TOEIC での高得点及び英検等の資格を取得することに力をいれています。

学部導入科目群は、本理工学部で勉学を開始する際に必要な入門的知識と基礎知識を会得でき、**共通基幹科目群**は、特色ある教育の一貫としての数学、物理学、化学、生物の科目が、**学部共通科目群**では自然科学の科目が開講されています。

専門科目群は、専門の職業人（技術者・科学者）を育成するために、理学・工学の専門知識を身につけ、その原理と応用を把握することを目的としています。各学科に配当された専門の授業科目は、学科の個性に応じ、上記の目的に適合すべく設けられています。

教職課程科目群は、将来高校または中学校の教育職員になるための教職課程が設けられていますが、これについては後記教職課程の項に詳しく記載されていますので、熟読して間違いのないように履修計画をたてて下さい。（P 198参照）

3．必修科目・選択科目・自由科目（必選区分）

授業科目は、その履修が義務づけられているかどうかにより、必修科目と選択科目および自由科目に分かれます。

必修科目は、その学科において履修が義務づけられている科目であり、卒業するためには、必ずその単位を取得しなければなりません。必修科目は、基礎的内容のものが多いので、下級年次に多く配当されている場合があります。また、卒業研究は、４年間の学習の総決算であり、各人の卒業後の進路をも決定する重要なものであることから必修となっています。

選択科目は、各人の意思により選択履修する科目です。しかし、卒業・進級時の条件では、選択科目の比重がかなり高いので、おろそかにはできない科目です。また、各学科ごとの「進級条件」や「履修モデル」を考慮して履修しなければなりません。

自由科目は、この科目を履修する事によりその科目の単位は与えられますが、進級・卒業所要単位数には算入されない科目です。本学部では、教職関係科目（「生徒指導論」、「道徳教育論」他Ｐ223参照）の一部がその対象になっています。

４．授業時限数と形態

授業科目の開講される期間（配当期）により、次のように分けられます。

通年科目は、１年間週１コマとして３０週にわたって開講される科目で、原則として、前学期末および後学期末に学期末試験が行われます。

前期科目は、前学期の半年間週１コマとして１５週にわたって開講される科目で、原則として前学期末に学期末試験が行われます。

後期科目は、後学期の半年間週１コマとして１５週にわたって開講される科目で、原則として後学期末に学期末試験が行われます。

４半期（前前期、前後期、後前期、後後期）科目は１／４年間週１コマもしくは２コマとして7.5週にわたって開講される科目で、原則としてそれぞれの学期末に学期末試験が行われます。学期の開始と終了日は主要行事日程で確認して下さい。

集中講義は、授業形態が曜日・時限が定期的でなく特別な期間に集中して行うものです。学期末試験はその期間の終りに行ないます。

毎年のカレンダーや休講等により決められた期間を確保できない場合は、別に期日を定め授業を行うことになります。

授業は、その形態により、次のように分けられます。

講義科目は、教室内で、教員が学問を伝える形態の授業科目です。

演習科目は、教室内で、学生が問題を解いたり外国語を日本語に訳したりし、教員がこれに講評を加える形態で行われる授業科目です。

実験・製図・実習科目は、実験室内や製図室で与えれたテーマにつき実験を行ったり、図

面をひいたり外国語の実習をする授業科目です。本学部では、その立地条件上実験器具の取扱いや、薬品の処理などに制約があるので、実験担当教員の注意をよく守ることが必要です。

実技科目は、運動場等で体育を実践する授業科目です。

5．単位数

各授業科目には、それぞれ単位数が割り当てられています。単位数は、授業の形態ごとに、単位が以下のように定められています。

講義および**独立した演習科目**については、週１コマ（90分）１５週をもって２単位です。

講義に付随した演習科目および**語学・実験・実技・製図科目**については、週１コマ（90分）１５週をもって１単位です。（講義に付随した演習科目とは、〇〇〇・同演習といった科目の演習部分を指します）

6．学年制併用単位制

単位制とは、履修した授業科目の所定の試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を取得し、その単位が一定の数に達することによって、学士の学位が与えられる（卒業する）制度です。

学年制とは、学年次ごとにその学年次に配当されている科目の成績を総合的に判断して、それによって上級学年次への進級および卒業を認めるという制度です。

本学部では、上記単位制及び学年制の併用型である、**学年制併用単位制**を採っています。

7．授業科目の配当

各授業科目には、開講される学年と学期があらかじめ決められていて、たとえば、１年次生は１年次に配当されている授業科目を履修することになっています。２年次になれば２年次に配当されている授業科目に加え、自己の学年次より下級年次に配布された授業科目を履修することになります。授業科目は、無秩序に履修するものではなく、特に理学・工学の分野は、これを理解していくための一定の順序を踏むことが、どうしても必要になります。

授業科目は、それに付随した単位数、必修選択の別、配当学年、配当期、配当コマ数、担当教員名とともに、**授業科目配当表**に記載されています。

授業科目の配当をはじめ、試験・成績・進級・卒業・学籍異動等在学中に必要なことがらは学則にもとづいて行われています。学則に改正があったときは、改正された年度以降の新入生に対して適用されるのが原則ですが、主としてカリキュラムに関する事柄は、２年次以上の在学生にも適用されることもありますので、注意して下さい。

特に留年した場合は、留年した学年次のカリキュラムが適用されることになります。

（Ｐ62参照）

授　　業

1．学期と学年

授業は一定の期間継続して行われますが、その期間に、学年と学期があります。

学年　　4月1日から翌年3月31日

学年は、次の2学期に分けられます。

前学期・・・・・4月1日から9月15日まで

後学期・・・・・9月16日から3月31日まで

2．授業時間割

授業は、週単位で決められた**授業時間割**に従って行われます。

(1) 種類

授業時間割には「共通教育・教職科目時間割」と「学部導入・共通基幹・学部共通科目時間割」・「学科配当時間割」の3種類があります。

共通教育・教職科目時間割（全学科共通です）

人間形成科目群・リテラシー科目群・英語科目群・教職課程科目群が記載されています。なお、特定の学科の学生の履修を優先する科目については準学科指定の科目として記載されています。

学部導入・共通基幹・学部共通科目時間割（全学科共通です）

学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群が記載されています。なお、一部準学科指定の科目も記載されています。

学科配当時間割

専門科目群が記載されています。

(2) 内容と注意

①授業時間割には、科目名・担当教員名・教室番号が曜日・時限・配当期ごとに記載されています。

②通常、時間割は四角で囲われていますが、中にはその四角を斜線で区切ってあるものがあります。斜線の区切り方によって次のような意味に区別されますが数科目が組み合さっている場合は特に注意して見て下さい。

・斜線が左上から右下に区切ってある場合

同一時限に複数開講しているため、どれか一科目しか履修することが出来ません。

・斜線が右上から左下に区切ってある場合

開講方法が隔週等であるため、同一時限に開講されている同じ開講方法の科目と両方履修することができます。

③半期を縦に区切っている場合

半期を更に分割してまん中が区切られている科目は 4 半期で開講されていることを表します。

④ 3 種類の時間割表をあわせて、その年度に履修できる全ての科目を網羅することになりますが、②の 2 項目に記載してある場合を除き、同一曜日・同一時限の科目を重複して履修することはできませんので注意してください。

⑤同一配当期に同一科目が複数開講されている場合でも、同一科目を同時に複数履修することはできません。

⑥時間割に学年・学科の記載がある科目を準学科指定の科目（例：基礎線形代数学）といいます。準学科指定の科目は記載されている学生が優先して履修できますが、その他の学生も人数に余裕がある場合は履修することができます。

⑦体育Ⅰ～Ⅳおよび教養ゼミナールⅠＡ・ⅠＢ・ⅡＡ・ⅡＢについては、総じて体育（科目名）・教養ゼミナールというように時間割表に記載されています。なお、これらの科目の履修方法については、P55を参照して下さい。

⑧集中講義科目については時間割表の備考欄に記載してあります。

3．授業時間

授業時間は次のように定められています。

時間	1 時限	休憩	2 時限	休憩	3 時限	休憩	4 時限	休憩	5 時限
時間	9：30 ～ 11：00	10 分	11：10 ～ 12：40	50 分	13：30 ～ 15：00	10 分	15：10 ～ 16：40	10 分	16：50 ～ 18：20

4．休　　講

次の場合、休講となります。

(1) 学校行事を行う場合。（主要行事日程表・掲示により連絡します）

(2) 授業科目担当教員にやむを得ない理由が生じた場合。（掲示および大学の HP・携帯用情報端末により連絡します）

(3) 休講の掲示がなく、授業開始時間から３０分を経過しても授業科目担当教員がやむを得ない理由で講義を開始できない場合。（自然休講と呼ぶ）
ただし、特別な指示により、それ以上経過しても授業を行う場合があります。

(4) 東武東上線の事故等の場合。（Ｐ 8 参照）

(5) 地震、台風、大雪などの自然災害により不測の事態が発生した場合。（そのつど指示します。）

5．補　　講

授業回数が不足した場合など必要に応じて、補講を行うことがあります。補講の有無は授業科目担当教員によって指示され、原則として**火曜日 5 限、木曜日 5 限、土曜日**に行うことになっています。日程は、授業中または掲示および大学の HP・携帯用情報端末により伝達します。

6．授業の欠席

病気、ケガその他やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、教務担当窓口で欠席届の用紙を受けとり、必要事項を記入し、診断書等欠席を証明出来る物等を添えて提出してください。(P252参照)

7．授業等のガイダンス

授業科目のガイダンスは、授業開始前あるいは開始時に行われますので、必ず出席して下さい。特に、実験・演習・実技等については、グループ分け等の説明がある場合が多いので、出席しないと履修に支障が出る場合があります。

8．テストによるクラス分け

学年末や学年始めにテストを行い、授業科目のクラス分けを行う科目があります。

	クラス分けする授業科目名	テストの実施時期
英語	英語Ⅰ Com. EngⅠ	平成18年４月初
	英語Ⅱ	平成19年１月末
数学	数学基礎	平成18年４月初
化学	化学基礎	平成18年４月初
物理	物理学基礎	平成18年４月初

これらの授業を受けるには、年度始めや年度末に行うテストを受けなければなりません。詳しいことは、入学時のガイダンス及び掲示を確認してください。

9．提出物期限の厳守

履修申告・レポート・製図その他の提出物には、必ず期限が定められています。期限を守らないと成績評価を受けられないことになるので、期限・提出場所は厳守するように注意して下さい。

10. e-Campus 科目

東京電機大学にある３学部（理工学部・工学部・情報環境学部）では、平成18年度より遠隔授業を行なうことになりました。遠隔授業で行なう科目は以下の科目です。今までに記載してきた授業形態とは異なる所もありますが、積極的に履修をしてください。

科目名	主催学部	科目区分	進級コード	配当学年	配当期	単位数	授業時間
東京電機大学で学ぶ	理工学部	人間形成科目群	H	1年次	前期	1単位	水曜日16：50～18：00
生物科学	理工学部	学部導入科目群	＊1	1年次	後期	2単位	金曜日９：30～11：00
曲線・曲面論	理工学部	専門教育科目群（数理科学科）	＊1	3年次	前期	2単位	火曜日11：10～12：40
アルゴリズミックデザイン	工学部	専門教育科目	＊2	3年次	前期	2単位	水曜日10：40～12：10

＊1　学科により異なります。
＊2　他学部履修と同様です。

再　履　修

1．再履修

履修した授業科目の単位が取得できなかったときに、もう一度その科目を履修からやり直すことを、**再履修**といいます。

2．再履修上の注意

⑴ 必修科目の単位を取得できなかったときは、必ず再履修しなければなりません。

⑵ 選択科目の単位を取得できなかったときに、再履修するかしないかは、各自の意思にまかせられますが、その際、履修基準、進級条件、履修モデルに充分注意して下さい。

⑶ 再履修科目名等科目配当条件に変更があった場合は、年度始めのガイダンスや掲示を参考にして、単位未取得科目に対応する授業科目を理解し、誤りのないよう再履修して下さい。

⑷ 再履修科目の担当教員が前年度と変更になった場合は、再履修年度の担当教員のもとで再履修しなければなりません。

⑸ 授業時間割は前年と同時限に配置されるとは限りません。

⑹ 再履修科目の履修申告・受講・試験等については、新規履修の場合と同様です。

単　位　認　定

1．入学前に取得した単位の認定

⑴ 編入学（転入学・再入学・転学科・転学部含む）の場合

編入学前に、大学・短期大学・高等専門学校・専修学校等で取得した成績を、本学で取得したものとして認定の対象科目とすることができ（高等専門学校での科目は、原則として４・５年次の科目に限ります。）、単位は進級・卒業条件へ算入することができます。

１年次への編入学の認定方法は**“科目対応認定”**で行います。入学前に取得した科目を本学部もしくは所属学科に対応する科目に振り替える方法です。卒業要件、進級条件は正規入学の学生と同じになります。

２・３年次への編入学の認定方法は**“包括単位認定”**とし、原則として科目の指定はせずに単位数のみで認定を行います（但し、一部科目の認定を行う場合があります。）。認定単位数合計は原則として２年次編入学者に対しては36単位以上、３年次編入学者に対しては68単位以上となっています。

なお、包括単位認定を行うことにより、進級・卒業条件が他の学生とは異なりますので注意してください。

詳しくは、教務担当窓口にて確認してください。

⑵ 新入学者の場合

入学前に、大学、短期大学、高専等で取得した科目・単位のうち、本学部の科目・単位に相当するものを、教育上有益と認めた場合には本学で取得したものとして認定します。

この場合の単位認定については入学後他学科、他学部、他大学等で取得した単位を合わせて最高６０単位までです。

認定希望者は、「単位認定申請書」に、入学前の最終成績証明書及び講義要目を添付して、期日までに教務担当へ申し出て下さい。４月上旬に掲示にて提出期限等をお知らせします。

2．本学部の指定する資格

次頁に記載されている資格取得者に対して本学の科目を認定することができます。資格による科目の認定を希望する者は、教務担当へ申し出て下さい。

なお、この認定の注意事項は次のとおりです。

①資格による認定の際は、該当科目を履修する必要はありません。

②該当科目を履修中の場合は履修を取り消すこととなります。

③既に単位取得済みの科目については認定することが出来ません。

④履修上限単位数には加算されません。

⑤該当科目が現学年より上級年次の配当であっても、成績表には表記され、進級条件にも加算することができます。

資格と認定科目（所属学科の科目のみ認定）　　必選単位数の○印は必修科目を表す

学科名	資格名称	科目名	学年	必選単位数
全学科	実用英語技能検定（２級） TOEIC510点以上	英語ⅠA	1	1
		英語ⅠB	1	1
	実用英語技能検定（準１級） TOEIC730点以上	英語ⅠA	1	1
		英語ⅠB	1	1
		英語ⅡA	2	1
		英語ⅡB	2	1
	実用英語技能検定（１級） TOEIC850点以上	英語ⅠA	1	1
		英語ⅠB	1	1
		英語ⅡA	2	1
		英語ⅡB	2	1
		英語ⅢA	3	1
		英語ⅢB	3	1
	ドイツ語技能検定（４級）	ドイツ語入門Ⅰ	全	1
		ドイツ語入門Ⅱ	全	1
	ドイツ語技能検定（３級）	ドイツ語入門Ⅰ	全	1
		ドイツ語入門Ⅱ	全	1
		ドイツ語基礎AⅠ	全	1
		ドイツ語基礎AⅡ	全	1
		ドイツ語基礎BⅠ	全	1
		ドイツ語基礎BⅡ	全	1
	実用フランス語技能検定（４級）	フランス語入門Ⅰ	全	1
		フランス語入門Ⅱ	全	1
	実用フランス語技能検定（３級）	フランス語入門Ⅰ	全	1
		フランス語入門Ⅱ	全	1
		フランス語基礎AⅠ	全	1
		フランス語基礎AⅡ	全	1
		フランス語基礎BⅠ	全	1
		フランス語基礎BⅡ	全	1
	ソフトウェア開発技術者 （旧名：第１種情報処理技術者）	コンピュータリテラシー	1	2
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	コンピュータリテラシー	1	2
	初級システムアドミニストレータ	コンピュータリテラシー	1	2
数理科学科	ソフトウェア開発技術者 （旧名：第１種情報処理技術者）	計算機演習Ｂ	3	2
		計算機応用演習	3	2
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	計算機演習Ｂ	3	2

学科名	資格名称	科目名	学年	必選単位数
情報科学科	ソフトウェア開発技術者 （旧名：第１種情報処理技術者）	プログラム言語Ⅱ・同演習	1	③
		アルゴリズム論Ⅰ・同演習	2	3
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	プログラム言語Ⅱ・同演習	1	③
情報システム工　学　科	ソフトウェア開発技術者 （旧名：第１種情報処理技術者）	情報システム工学演習Ａ	2	②
		情報システム工学演習Ｃ	2	②
		プログラム基礎・同演習Ⅰ	1	③
		プログラム基礎・同演習Ⅱ	1	③
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	プログラム基礎・同演習Ⅰ	1	③
		プログラム基礎・同演習Ⅱ	1	③
	電気主任技術者（第３種）	基礎電気回路	1	2
建設環境工学科	測量士	測量学・同演習	1	③
		空間情報工学	3	2
		測量実習	1	②
	測量士補	測量実習	1	②
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	プログラミング演習Ａ	1	②
		プログラミング演習Ｂ	2	②
	ＣＡＤ利用技術者試験１級	基礎製図	1	②
知能機械工学科	ＴＯＥＩＣ630点以上	科学英語Ａ	3	2
		科学英語Ｂ	3	2
	実用英語技能検定（１級）	科学英語Ａ	3	2
		科学英語Ｂ	3	2
	実用英語技能検定（準１級）	科学英語Ａ	3	2
		科学英語Ｂ	3	2
電子情報工学科	ソフトウェア開発技術者 （旧名：第１種情報処理技術者）	基礎プログラミング演習	1	2
		応用プログラミング演習	2	2
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	基礎プログラミング演習	1	2
	電気主任技術者（第1•2•3種）	基礎電気回路・同演習	1	3
情報社会学科	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	プログラミング入門・同演習	2	②
	CGエンジニア検定CG部門２級 （旧名：ＣＧ検定２級）	コンピュータ・グラフィックスⅠ	1	2
		コンピュータ・グラフィックスⅡ	2	2
	CGエンジニア検定３級 （旧名：ＣＧ検定３級）	コンピュータ・グラフィックスⅠ	1	2
	マルチメディア検定２級	デジタル・コンテンツ論	3	2
	テクニカルエンジニア（データベース）	データベース	2	2
	テクニカルエンジニア（ネットワーク）	ネットワーク工学	2	2
	ＤＴＰエキスパート	出版論・電子出版	2	2

他大学・他学部・他学科履修

以下の制度を利用し科目の履修を行なう場合の注意点は、原則として、自己が所属する学科において開講されていない科目のみが対象ということです。但し、項目の ”５．他学部科目の履修”においては、自己が所属する学科において開講している科目であっても必要な手続きを取り認められた場合においては可能となります。

履修時期や方法も各協定により異なっていますので掲示をよく見て決められた期間内に履修申告をして下さい。

１．東京理工系４大学の単位互換について

東京電機大学・工学院大学・芝浦工業大学・武蔵工業大学の４大学間において、単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、上記の本学を除く他の３大学の科目を履修することが出来ます。

２．東洋大学との単位互換について

本学部は東洋大学と単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、東洋大学の科目を履修することが出来ます。

３．彩の国大学コンソーシアムについて

本学部では、埼玉県に所在する17大学と「彩の国大学コンソーシアム」という協定を結んでおり、その中で以下の９大学と単位互換協定を行っています。

跡見学園女子大学、十文字学園女子大学、城西大学、尚美学園大学、駿河台大学、
西武文理大学、大東文化大学、東京家政大学、文京学院大学

４．山村学園短期大学との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い

本学部では山村学園短期大学との間に単位互換協定を結んでいます。本協定により、希望者は特別科目等履修生として、山村学園短期大学の科目を履修することができます。

５．他学部科目の履修

工学部第一部・工学部第二部・情報環境学部科目の履修を希望する学生は、本人の所属する学科長、または専任教員の承認を得た上で、授業担当教員の承認を得れば履修することが

出来ます。

6．他学科科目の履修

他学科科目の履修を希望する学生は、本人の所属する学科長、または専任教員の承認を得た上で、授業担当教員の承認を得れば履修することが出来ます。

これらの履修を行う際に許可をもらう必要のある相手、修得した単位の扱い、履修費等については、以下の表を確認してください。

	許可をもらう相手	修得した単位の扱い	履　修　費
東京理工系４大学	所属する学科長	専門科目群※	無　料
東洋大学	所属する学科長	専門科目群※	無　料
彩の国大学コンソーシアム	所属する学科長	専門科目群※、または人間形成科目群	１大学2,000円
山村学園短期大学	所属する学科長	人間形成科目群	１単位500円
他学部科目	所属する学科長または専任教員、科目担当教員	専門科目群※、または人間形成科目群・リテラシー科目群・英語科目群	無　料
他学科科目	所属する学科長または専任教員、科目担当教員	専門科目群※	無　料

※　卒業所要単位数には専門選択科目として算入されますが、Ｒ１には算入されません。

また、履修するにあたっては次の点に注意して下さい。

⑴　既に取得した科目や履修中の科目と内容の重複する科目は認められません。

⑵　自分の所属する学年または原則として下級年次配当の科目でなければなりません。

⑶　自学科の授業内容及び時限と重複しないように気をつけて下さい。特に他大学、他学部の科目を履修する場合は、移動時間を含め、本学部の授業と重複しないように注意して下さい。

他大学・他学部・他学科で取得した単位について

編入学・転入学をのぞき、他大学・他学部・他学科等において取得した単位については、卒業所要単位として算入出きる単位数は入学前の既取得単位等と合せて60単位を超えることは出来ない。

履　修　基　準

1．履修基準

入学してから卒業するまでに必ず修得しなければならない単位数の定めを、履修基準といい、科目区分ごとに次の通り決められています。

区分		単位数	
		数理科学科 情報科学科 建設環境工学科 知能機械工学科 生命工学科 情報社会学科	情報システム工学科 電子情報工学科
共通教育科目	人間形成科目群 教養文化科目 総合文化科目	14	4
	英語科目群 英語基幹科目 コミュニカティヴ・イングリッシュ 英語研修	6	2
	リテラシー科目群 日本語リテラシー コンピュータリテラシー	−	−
専門教育科目	学部導入科目群	84	84
	共通基幹科目群		
	学部共通科目群		
	専門科目群		
自主選択科目		20	34
合計		124	124

☆　必修科目の単位の全部を履修し、修得しなければならない。

☆　自主選択科目については、任意に選択し（自由科目を除く）、修得した科目とする。

2．卒業するための最低取得単位数

(1)　人間形成科目群

教養文化科目、総合文化科目の各科目の中から最低１４単位（情報システム工学科・電子情報工学科は最低４単位）以上を卒業するまでに取得しなければなりません。

(2)　英語科目群

英語基幹科目、コミュニカティヴ・イングリッシュ、英語研修分野から最低６単位（情報システム工学科・電子情報工学科は最低２単位）以上取得しなければなりません。

(3)　学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群・専門科目群

必修科目の単位数を含めて、卒業するまでに最低８４単位以上取得しなければなりません。

(4)　自主選択単位

卒業するまでに最低２０単位（情報システム工学科・電子情報工学科は最低34単位）以上取得しなければなりません。

「自主選択単位」を取得するには、特別な授業科目を履修するのではなく、前述の(1)～(3)のそれぞれの最低取得単位を超えた単位数が自動的にこの自主選択単位となります。したがって「自主選択単位」として履修できるのは、必修科目を除く全ての選択科目です。

卒業するための最低取得単位数を簡単に式にすると次のようになります。

	人間形成科目群		英語科目群		学部導入科目群 共通基幹科目群 学部共通科目群 専門科目群	
情報システム工学科・電子情報工学科以外の学科	14単位	＋	6単位	＋	84単位	＝104単位
情報システム工学科・電子情報工学科	4単位	＋	2単位	＋	84単位	＝ 90単位

	卒業所要単位数				自主選択単位
情報システム工学科・電子情報工学科以外の学科	124単位	－	104単位	＝	20単位
情報システム工学科・電子情報工学科	124単位	－	90単位	＝	34単位

人間形成科目群の最低取得単位数（14単位・情報システム工学科・電子情報工学科は 4 単位）と英語科目群の最低取得単位数（ 6 単位・情報システム工学科・電子情報工学科は 2 単位）と学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群・専門科目群の最低取得単位数（84単位）を充たしただけでは104単位（情報システム工学科・電子情報工学科は90単位）にしかならず、卒業所要単位数（124単位）をクリアすることはできません。不足分の20単位（情報システム工学科・電子情報工学科は34単位）を「自主選択単位」として人間形成科目群か、リテラシー科目群、英語科目群、学部導入科目群、共通基幹科目群、学部共通科目群、専門科目群から補なわなければ卒業できませんので注意して履修してください。

履修計画をたてる際には、各学科から示されている「履修モデル」と進級条件を念頭におき、人間形成科目群（14単位・情報システム工学科・電子情報工学科は 4 単位）英語科目群（ 6 単位・情報システム工学科・電子情報工学科は 2 単位）と学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群・専門科目群（84単位）の最低取得単位数は勿論のこと、自主選択単位数（20単位・情報システム工学科・電子情報工学科は34単位）も余裕をもって取得できるように十分注意してください。

履　修　計　画

1．履修計画の意味

その年度に授業科目を何科目・何単位、どのような順序で履修するかを計画することを「履修計画」といいます。本学では履修申告をして、「授業に出席する」ことを「授業科目を履修する」といい、また「履修申告をして授業に出席する科目」を「履修科目」と呼びます。

2．履修計画のたてかた

履修計画は各自によって異なりますが、これまでに説明した事柄をまとめると次のようになります。

⑴　各学科・系列等の「履修モデル」を参考にして、履修科目の見通しを立てて下さい。

⑵　授業科目配当表と学期始めに配布する授業時間割表を参考にし、オンラインシラバスを読んで、授業科目の内容をつかむようにして下さい。

⑶　必修科目の履修を忘れないようにして下さい。

⑷　各学科で定められている、進級条件・卒業要件をクリアできるように充分考慮し、余裕をもって履修して下さい。

⑸　履修上限単位数（50単位／年）を越えないように注意して下さい。

⑹　3種類の授業時間割表に記載のある科目をあわせて履修できることになりますが、同一曜日同一時限の科目を重複して履修することはできないので注意して下さい。

⑺　履修できる科目は自分の所属する学年または、原則として下級年次に配当された授業科目だけです。（上級年次配当科目を履修する場合はＰ39を参照して下さい。）

⑻　所属する学科以外（他大学・他学部・他学科等）の科目も一定の条件内で履修でき、60単位まで取得単位を、入学前の既取得単位等と合せて卒業要件に含めることができます。（Ｐ33参照）

3．履修上限について

全学年とも1年間に履修することができる単位数（履修上限単位数）は**50単位**と定められています。従って進級条件および卒業要件に注意しながら、しっかりと4年間の履修計画を立てることが必要となります。

なお、以下に該当する場合については履修上限50単位の制限を受けません。

①成績優秀者に対して、学科の判断による場合（１・４年次生は除く）。

②教職課程科目の場合。

③国内英語研修・海外英語研修・学外体育研修の場合。

④「インターンシップＡ～Ｈ」「特別研修（N科）」「海外事情Ａ・Ｂ・Ｃ」の場合。

⑤進級・卒業に影響する場合。

⑥その他の特別な場合で、学部長の判断により認める場合。

４．上級年次科目・下級年次新設科目の履修について

上級年次に配当されている科目、または下級年次カリキュラムに新設された科目（平成19年度以降入学生に対し新設された科目）は通常履修できないことになっていますが、下記の場合については履修が可能となります。

上級年次科目の評価は、当該学年次に進級した時点で、成績通知書・成績証明書等へ表記されますので、現学年次の進級条件には含まれません。

※３年または3.5年での卒業の場合、４年次配当の科目は卒業単位に算入されませんので注意して下さい。

【上級年次科目の履修】

１）　成績優秀者において、上級年次配当の科目を履修する場合は、学生の所属する学科の承認の他定められた手続きを行い、学部長の決済を得る。

２）　各学科の別途定める基準を満たしていること。

【下級年次新設科目の履修】

１）　上級年次における開講を可能とする新設科目を、年度初めに学科・系列で指定する。

２）　通常の科目と同様に履修申告を行う。

※履修方法、手続期間等の詳細については掲示を確認してください。

５．オンラインシラバスについて

オンラインシラバスとは、教員が作成する授業計画（シラバス）をインターネットを介して閲覧することができるシステムです。科目担当教員は随時、授業に係る情報の内容を書きかえることができ、学生は学内外のインターネットに繋がっているパソコンを通して、常に最新の授業に関する情報を得ることができます。

シラバスに掲載される情報は、科目名、進級コード、必選区分、単位数、講義概要、講義内容、履修条件、成績評価方法、教科書、参考書、オフィスアワー、その他等が掲載されています。特に"その他"の項目には、課題等が記載されるケースがあります。しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成すると共に、常時確認することにより確実に知識を積み重ねて行って下さい。

オンラインシラバス利用方法

１．オンラインシラバスはどのパソコンから閲覧できるか。

オンラインシラバスは、鳩山キャンパスの教育用の全てのパソコン（パソコン教室：本館１階、第３実習室：１号館１階、第２実習室：２号館１階メディアセンター内）から自由に閲覧できる他、学内に設置されている情報端末及び研究室において、またインターネットに繋がっているパソコンが自宅や下宿にあれば、自宅や下宿からも閲覧することができます。

以下に閲覧方法を記載しますが、画面のデザイン等はリニューアル等により変更される事がありますので予めご了承下さい。

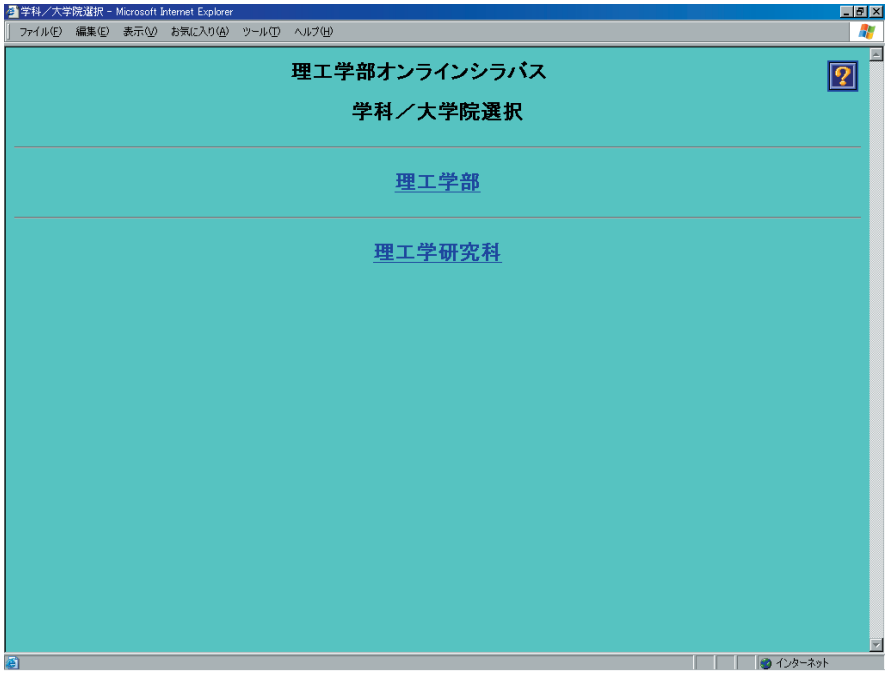
2．オンラインシラバスの閲覧方法

(1) 理工学部事務部教務担当のホームページの「オンラインシラバス」を選択します。

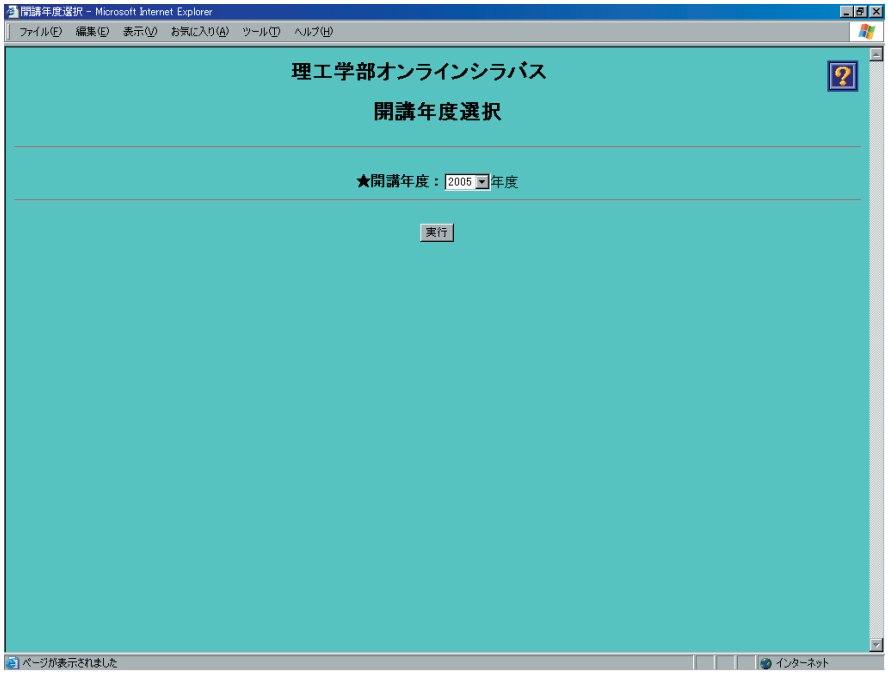
http：//www.cse.dendai.ac.jp/teacher/index.html



(2) 学部科目を閲覧する場合は「理工学部」を、大学院科目を閲覧する場合は「理工学研究科」をクリックします。



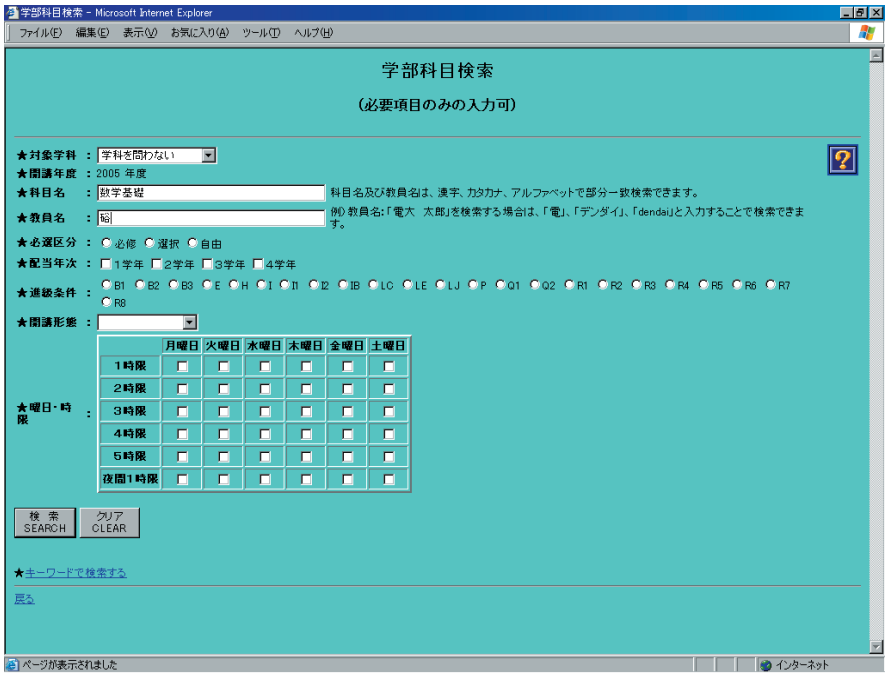
(3) 検索する科目の開講年度を選択し、実行 ボタンを押して下さい。



(4) 科目検索画面の検索項目を入力・選択し、科目の検索を行います。検索項目の入力・選択を行った後、 検索 ボタンを押して下さい。

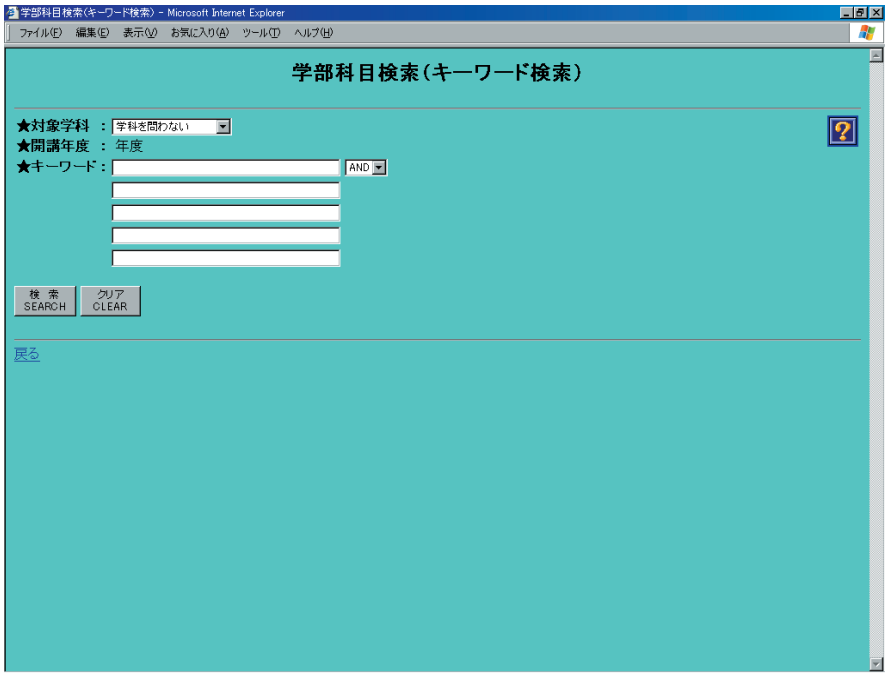
なお、検索項目の絞り込みが少ないと、膨大な科目数がリストアップされることになるため、300科目を超える表示は行いませんので注意して下さい。

科目名及び教員名に関しては、漢字、カタカナ、アルファベット（科目名は英語、教員名はローマ字）の入力検索をすることができます。



(5) 科目検索は前記の他に、キーワードでも検索することが出来ます。

この機能は項目に関係なく全ての文字列に対して検索を行うものです。AND または OR 条件で最高 5 件の条件が指定できます。



(6) 科目検索結果画面に科目名が表示されるので、目的の科目をクリックして下さい。



(7) 選択した科目のシラバスが表示されます。



6．授業評価アンケートについて

目的：大学で開講されている授業は、学生個々においても積極的に授業に参加することにより、その授業科目の充実度が増すばかりではなく、より専門性の高い授業が受講できるものです。学生の授業参加の一手段として授業評価アンケートという形が位置付けられており、これらは科目担当教員にとっても授業改善の大きな方策の一つであることはいうまでもなく、その科目の位置付けにも大きな影響を与える場合もあります。

方法：授業評価アンケートには大別すると２つの種類があります。一つは、鳩山キャンパスの共通フォーマットにて行なわれるもの。また、もう一つは学科および系列など独自のフォーマットを使用しているもの。どちらの場合においても、科目担当教員の指示により、行なって下さい。

注意：授業評価アンケートは上記の目的により、授業のより一層の向上につながるものでありますから、率直な意見を記載して下さい。一時的な感情やいい加減な考えでなく、毎回の授業での様子をできるだけ正しく伝えるようにして下さい。

　なお、この処理はＯＣＲ（光学読取装置）を使用し機械処理を行いますので、読み取りミスなどを減らすため、丁寧な記載をお願いします。

集計結果の閲覧：授業評価アンケートの集計結果については、図書館、事務室窓口等で閲覧出来ます。また、キャンパス内に設置されたパソコンにおいて、Webでも公開しています。

履　修　申　告

1．履修申告の意味

各自がどの授業に出席し、科目を修得しようとしているのかをあらかじめ届け出る作業を履修申告といいます。

授業科目を履修するには、履修計画に従い必ず履修申告をしなければなりません。

履修申告をしていない科目は、授業に出席することも、また学期末試験を受験する事もできません。

2．履修申告の期間

履修申告は、その年度に開講される全ての科目について、前期開始後、１週間程度経過した時点（おおむね４月中旬）で１年間（通年・前期・後期・前前期・前後期・後前期・後後期・集中講義科目）の申告を行い、各自で履修科目を確認の後、履修申告の修正期間が設けられています。（修正期間は後期にも設けられています）

また、一部の前後期科目（１／４期）に限り、別途履修修正期間が設けられています。

日程はすべて掲示によりお知らせします。

履修申告の内容と時期

<table>
<tr><th>科目
時期</th><th>自学科配当科目</th><th>重複履修特定科目</th><th>他学科科目</th><th>他学部科目</th><th>他大学科目
（芝浦工大
工学院大
武蔵工大
山村学園短大
東洋大学
彩の国コンソーシアム）</th><th>科目担当教員が履修制限する科目</th><th>前後期科目の一部</th><th>大学院科目
（理工学研究科進学内定者のみ）</th></tr>
<tr><td>※1 4月中旬
（履修申告）</td><td>パソコンで申告</td><td></td><td></td><td></td><td>願い用紙を窓口へ</td><td>パソコンで申告</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>履修申告終了後
～4月下旬</td><td colspan="5">確　認　期　間</td><td rowspan="2">授業時間中に科目担当者へ</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4月下旬
（前期履修修正期間）</td><td>パソコンで申告</td><td>願い用紙を窓口へ</td><td>願い用紙を窓口へ</td><td>願い用紙を窓口へ</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5月中旬</td><td colspan="6">確　認　期　間</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6月中旬
（前後期科目修正期間）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>願い用紙を窓口へ</td><td></td></tr>
<tr><td>9月中旬</td><td colspan="7">前　期　科　目　成　績　発　表</td><td></td></tr>
<tr><td>※2 9月下旬
（後期履修修正期間）</td><td>パソコンで申告</td><td></td><td>願い用紙を窓口へ</td><td>願い用紙を窓口へ</td><td>願い用紙を窓口へ</td><td>授業時間中に科目担当者へ</td><td></td><td>願い用紙を窓口へ</td></tr>
<tr><td>10月上旬</td><td colspan="6">確　認　期　間</td><td></td><td>確認期間</td></tr>
</table>

※1 すべての科目（前期・前前期・前後期・前期集中・後期・後前期・後後期・後期集中・通年科目）が対象

※2 後期科目（後期・後前期・後後期・後期集中科目）が対象

3．履修申告の方法

履修申告はすべて、履修期間内に各自でパソコンのWebから入力することとなります。（一部Web以外での申請科目もあります。P45参照）

パソコンは学内設置のパソコン、教務担当窓口に臨時に置いてあるパソコン、その他の場所でもインターネット接続可能なパソコンから行う事ができます。

履修申告期間中であれば何回でも修正することが出来、24時間行う事が出来ます（学内に設置してあるパソコンは時間が決っています）。履修申告を行う際には、あらかじめ自分の履修したい科目を決定してからパソコンに向かい、すみやかに作業を終了するようにして下さい。

また、**自分のパソコンの操作ミスを含む入力ミスや、勘違い等による履修申告漏れがあった場合でも、履修申告期間及び履修申告修正期間以外では一切認められません**ので、履修申告の確認期間には各自で責任を持って確認しなくてはなりません。

なお、科目によっては**科目担当教員が履修制限する科目**があります。これらの科目は、学期始めの授業等で科目担当教員が最終的に決定した者のみが履修の資格を与えられるものです。パソコンで学生が履修申告を行う事ができるのは４月のみで、その後は科目担当教員へ直接申し出を行い、履修の意思表示をハッキリ伝える必要があります。

履修申告結果は、後日、Webで公開すると共に、個人毎に「履修登録確認表」を証明書自動発行機より配布します。各自で必ず確認し、申告の追加及び取消等の必要があるときは所定期間中に手続をとって下さい。

－科目担当教員が履修制限する科目－

英語ⅠA	英語ⅠB
英語ⅡA	英語ⅡB
英語ⅢA	英語ⅢB
Communicative English ⅠA	Communicative English ⅠB
Communicative English ⅡA	Communicative English ⅡB
Communicative English ⅢA	Communicative English ⅢB
コンピュータリテラシー	体　育　Ⅰ～Ⅳ
教職総合演習	特別活動論
道徳教育論	生徒指導論

※年度により異なる場合があります。

「オンライン履修申告システム」操作手順

⑴　全体の流れ

「オンライン履修申告システム」ではWebブラウザを用いて、履修希望科目の登録を行うことができます。登録は下記のような手順で行います。

1．ログイン

2．「履修時間割」に履修を希望する科目を選択し、登録（保存）

3．登録（保存）が正しく行われているかどうか確認するため、再ログイン

4．「履修時間割」のプリントアウト

⑵　起動方法

教務担当のホームページ（http://www.cse.dendai.ac.jp/teacher/index.html）、『履修申告』ボタンをクリックします。（図１）



図１教務担当HP画面

すると、トップ画面が出てきますので、ログインをクリックします。（図２）

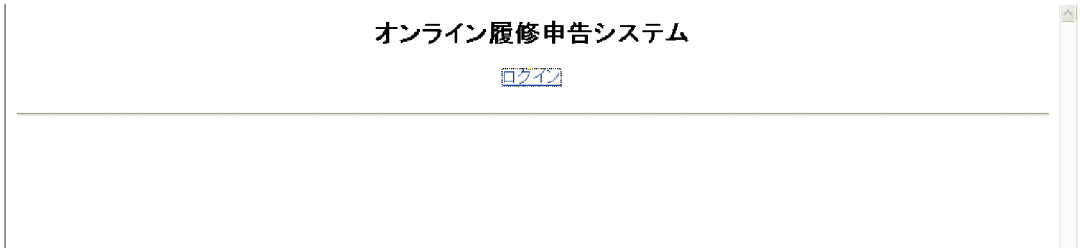


図２　トップ画面

クリックするとログイン画面になります。（図３）

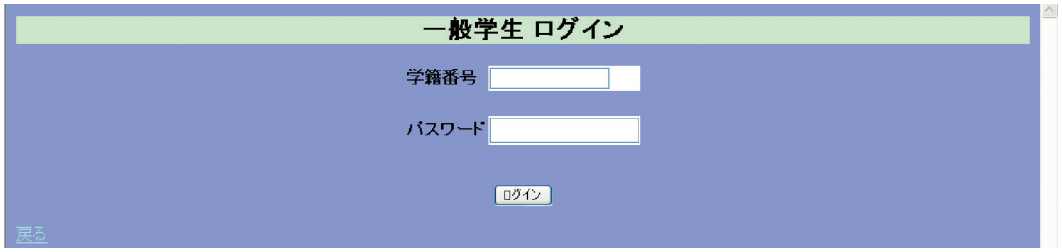


図３　起動／ログイン画面

⑶　利用開始処理（ログイン）

「**学籍番号**」、「**パスワード**」欄にあなたの「**学籍番号**」および「**パスワード**」を入力し、ログインをクリックします（図４）。

「パスワード」はパソコン実習室でログインする時のものと同じになります。総合メディアセンターで管理していますので、「パスワード」について不明な点は総合メディアセンターで確認して下さい。

「パスワード」は定期的に変更が義務づけられています。変更しないままにしておくと履修申告は行えませんので十分に注意して下さい（P268ユーザー端末の利用参照）。

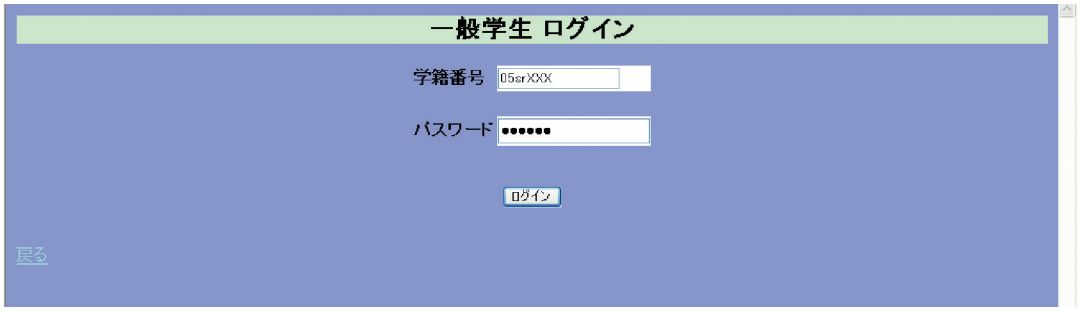


図４　学籍番号／パスワードの入力

入力した学籍番号やパスワードに誤りがある場合、エラーメッセージが表示されます。（図５）正しく入力しているのにもかかわらず、エラーメッセージが出る場合は教務担当までご連絡ください。パスワードの誤りについては総合メディアセンターへ行くこととなります。

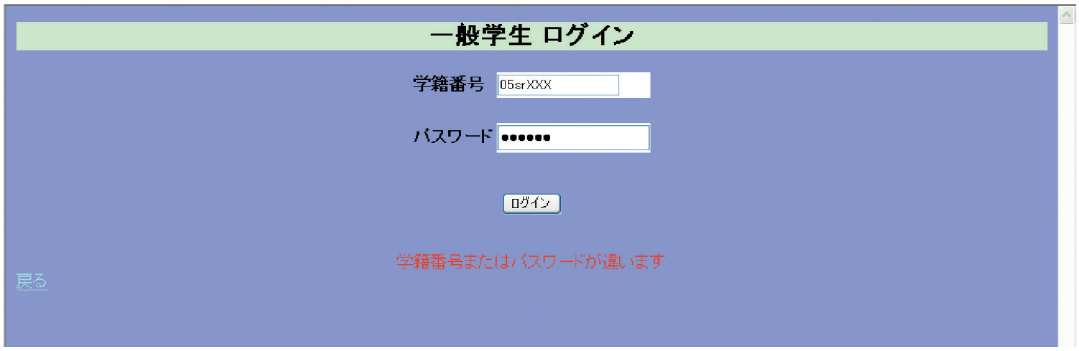


図５　学籍番号／パスワードの入力

(4)　画面構成の説明

学籍番号・パスワードが正確に入力されログインすると、履修登録の画面になります。（図６）



図６　履修登録画面

①履修時間割欄　　現在の履修状況が時間割の形で表示されます

②単位表示欄　　現段階での、履修単位の状態が表示されます。

⑸　履修科目の選択

⑺開講期および授業時限の選択

①前期・後期を選択し、②編集したい授業時限の編集ボタンをクリックします。（図７）

※集中講義等は、枠外に編集ボタンがあります。

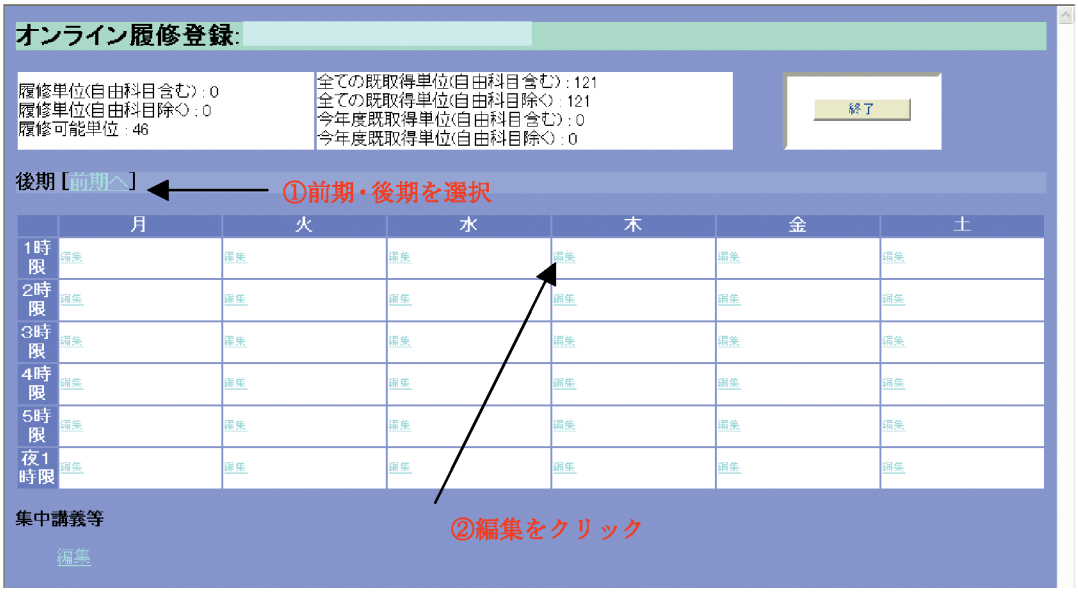


図７　開講期・授業時限の選択

⑴履修可能科目から選択

⑺の手順の後、履修可能科目の一覧が表示されるので、①履修する科目を選択、②「戻る」ボタンを押して履修科目の選択を行います。（図８）



図８　履修可能科目から選択

(ｳ)選択科目の確認、登録（保存）

(ｲ)の手順の後、①選択した科目の確認を行います。そして、確認が取れたら②**“保存して終了”をクリックします。新しく履修科目を選択した場合は、この“保存して終了”を必ずクリックして下さい。これにより、初めて履修登録が行われることになります。**

既に登録されている科目は、ログイン時に表示されます。

選択した科目を保存せずに、既に登録してある科目のみを残す場合は“編集内容を破棄して終了”をクリックして下さい。



図 9　選択した科目の確認、登録

(I)科目選択時誤りの場合

何らかの条件で履修することができない科目が選択された場合、履修時間割画面、履修科目選択画面にエラーメッセージが表示され、履修登録ができません。機械的に判断をしているため、実際には履修できるはずがエラーになる可能性もありますので、そのような場合は教務担当までお知らせください。(図10、11)



図10　代表的なエラー表示（時限重複：履修時間割画面）

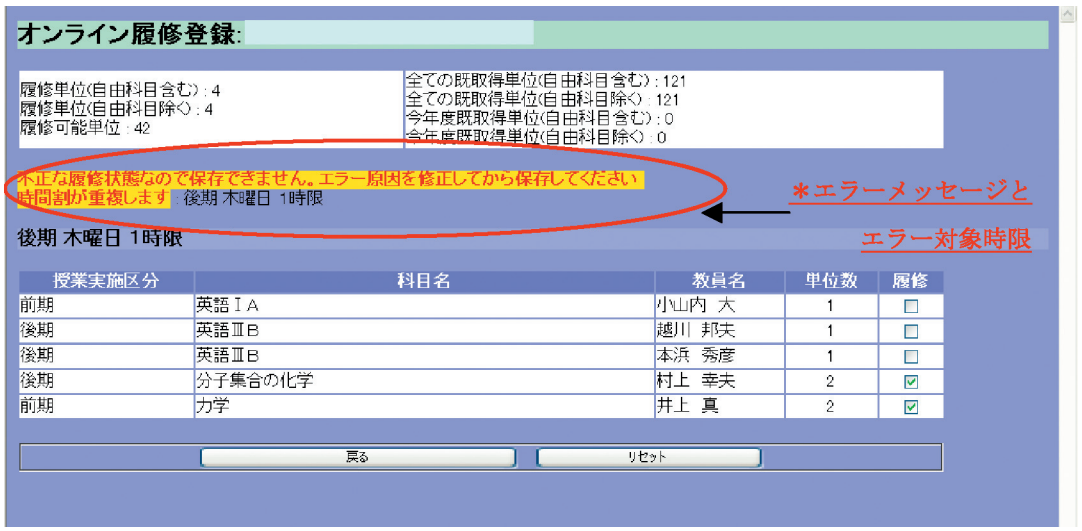


図11　代表的なエラー表示（時限重複：履修科目選択画面）

⑹　再ログイン（利用開始処理）、履修登録の確認

⑺～(エ)の操作の後、選択した科目が正しく履修登録されているかどうか確認するため、再度ログインを行って下さい「P.47(1)～P.49(4)参照」。そして、履修登録の確認を行って下さい。

その際、①登録を行った科目の確認、②登録を行った日時の確認を行います。特に**②の日時の確認では、登録を行った時の日時に更新されているかどうか十分注意して下さい。**（図12）

→例．P.51図 9 の画面では「分子集合の化学」は2004/09/07 13：10になっていますが（まだ保存して終了を行っていないため）、図12の画面では登録した日時の2004/11/01 13：05に更新されています。

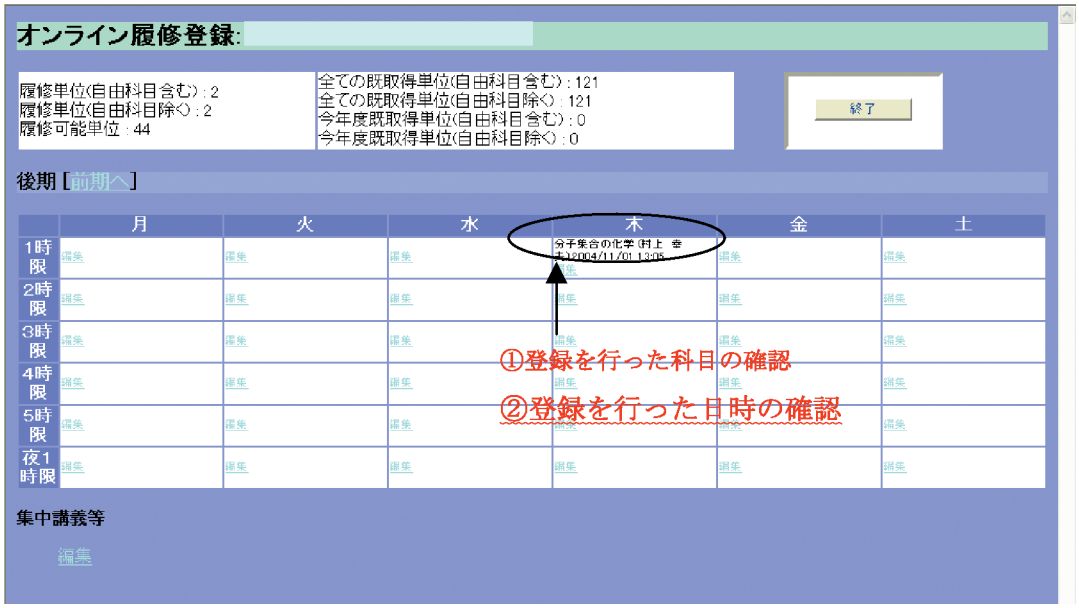


図12　再ログイン、履修登録の確認

(7) 「履修時間割」のプリントアウト

後日、履修登録確認表やWebにより、学生自身で今年度の履修内容を確認しなくてはなりません。その際、今回の作業で正しく履修登録したはずの科目が登録されていなかった場合、履修の妥当性について判断するために、今回の作業で登録した履修時間割をプリントアウトします。従って、前ページ(6)の手順で履修登録を確認したら、必ずプリントアウトしてください。(図13)

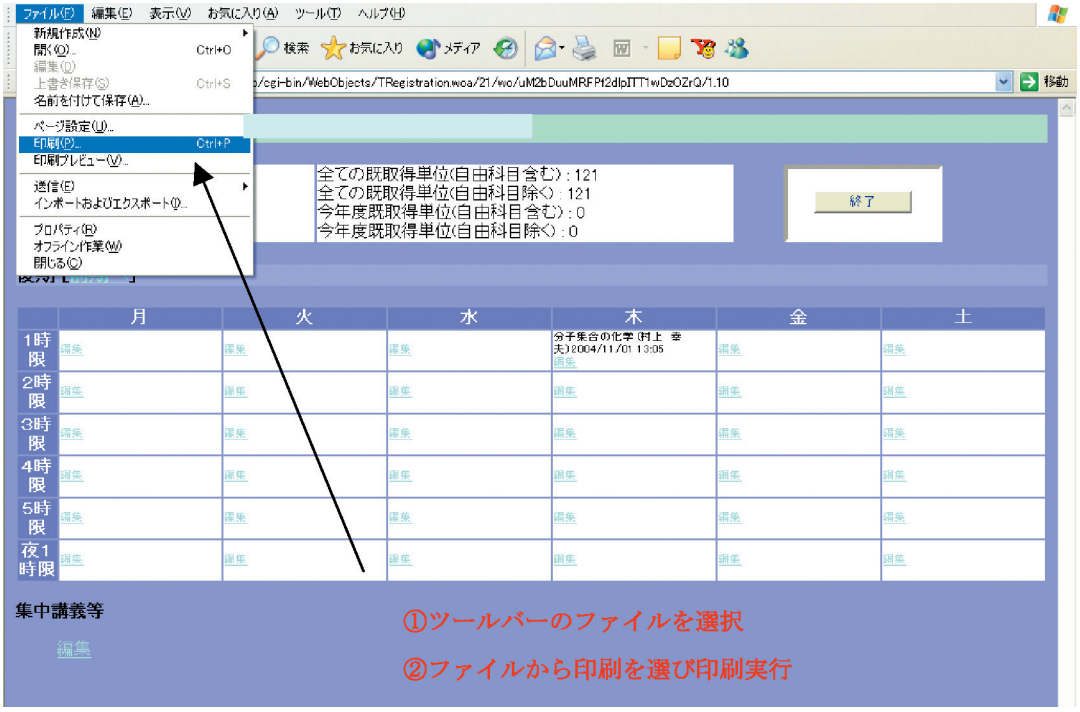


図13　プリントアウト

4．履修人数の制限

履修申告はパソコンで受け付けますが、科目によっては申告を受け付けた結果１つの時限に履修者が集中し、その履修人数が教室等の関係で一定人数を超えた場合に限り、履修人数の制限をかける場合があります。

履修人数は抽選または科目担当教員の判断により制限をかけ、それらの結果によっては、希望する科目を履修できずに第二希望・第三希望の科目に移ることになる場合があります。

履修申告に関する詳細や申告期間・具体的な申告方法等は掲示により知らせますので、見落すことの無いように注意してください。

5．体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

この科目は、授業時間割の表記と履修申告システムの表記が異なっています。授業時間割表の表記は「体育（種目名）」として記載されています。履修申告システムの表記は「体育Ⅰ～Ⅳ」となっています。履修申告の際には自分の履修したい教員名で選択して下さい。

順番は体育ⅠからⅣと順番になるように履修を行って下さい。

6．教養ゼミナールⅠA・B、ⅡA・B

教養ゼミナールも体育と同様、履修したい科目を教員名で選択し、ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBと順番になるように履修を行って下さい。

7．インターンシップA～Hについて

インターンシップは、科目の性質上一般の科目とは履修及び履修申告上以下の点で取り扱いが異なりますので注意して下さい。

(1) インターンシップについて

インターンシップとは、一般的には、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことであり、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として幅広くとらえられています。（労働報酬はありません）

本学部でのインターンシップに関する科目は、全学科に開講され、講義科目の「情報と職業入門」及び実習科目の「インターンシップA～H」にて構成されています。

実習科目の「インターンシップA～H」を履修する学生は、その前提科目として「情報と職業入門」の履修をしなくてはなりません。

(2) 履修の取り扱い

インターンシップは科目配当表上の「インターンシップA～H」のうち、在籍学年に

配当されている科目のみが履修可能であり、下級年次科目としての履修や再履修はできません。学科によっては履修できない学年や取得上限単位があるので、授業科目配当表を確認の上注意してください。

(3) インターンシップ科目の運用

インターンシップ科目の運用は以下のようになります。

- 履修の希望を学科へ申し出て企業を決定します。
- １企業あたりの派遣学生数は企業毎に異なります。
- 研修期間は合計２週間程度。
- 研修形態は学科と打ち合せ、決定します。
- **履修申告の手続きは不要**です。
- 履修上限単位数には含まれません。
- **研修前には必ず「情報と職業入門」を取得**し、事前指導を受けて下さい。
- 評価は学期末もしくは、翌年度となります。

(4) 履修の形態

インターンシップは、全学科に配当されていますが、科目名は履修した時の在籍学年・配当期によって次の通りになります。

１年次前期：インターンシップＡ	後期：インターンシップＢ
２年次前期：インターンシップＣ	後期：インターンシップＤ
３年次前期：インターンシップＥ	後期：インターンシップＦ
４年次前期：インターンシップＧ	後期：インターンシップＨ

(5) 教育職員免許免許状（情報）を取得希望の学生へ

「情報」の免許取得希望の学生は、「インターンシップＡ～Ｈ」を「情報と職業」として振り替えることができます。

8．海外研修における振替について

理工学部において各種海外研修に参加した学生は、下記のような科目に振替られます。海外研修の実施については掲示か、学生厚生担当に確認してください。

(1) 海外研修の研修校及び実施時期について

- フランス国立高等精密機械大学院大学（フランス）
  実施時期：２月～３月（２週間）
  最終実施年度：平成14年度
- 上海交通大学（中国）・西安交通大学（中国）
  実施時期：８月～９月（２週間）
  最終実施年度：平成10年度

※実施時期についての詳細及び申込みについては、掲示または、学生厚生担当にお問合せください。

(2) 振替科目について

人間形成科目群の「海外事情Ａ・Ｂ・Ｃ」に振替となります。

但し、同一海外研修に複数回参加しても振替は１回のみとなります。

(3) 履修について

海外研修の参加申込をすることにより履修となります。

また、この履修は履修上限には含まれません。

9．履修申告をしなくても良い科目

・海外英語研修Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ
・国内英語研修Ａ・Ｂ
・学外体育研修Ａ・Ｂ
・インターンシップＡ～Ｈ
・海外事情Ａ・Ｂ・Ｃ
・特別研修（Ｎ科）

これらの科目は、参加の申し込みを行った後、参加が許可されることにより、履修申告した事になります。参加申込み受付については掲示しますが、定員がありますのであらかじめ了解しておいてください。実施の時期により年度内に成績がつかない場合がありますので、年度末に実施される研修は確認して下さい。

10. 重複履修特定科目について

特定科目とは、**再履修者**に対しその科目を担当する学科又は系列が、授業時間外に指導すること等を条件に、時間割上での重複履修を許可する科目のことをいいます。４月の履修申告前に科目名と対象者がいる場合は掲示します。重複履修が認められるのは特定科目が再履修科目となる場合のみであり、**特定科目の申請は年１回４月下旬の修正申告時期のみ**なので、掲示には充分注意してください。

試　　験

授業科目の単位認定の方法として、試験が行われます。試験には、学期末試験・中間試験・追試験等があります。いずれの試験も**受験する際に必ず学生証を携帯してください。**

なお、試験は主に筆記試験の方法で行われますが、科目によってはレポート提出・口頭試問などの方法により行われることもあります。

1．学期末試験

学期末試験は、原則として授業時間中に行われ、一部の科目については学期末の学部が定める期間（特定日）に行われます。（科目によっては、小テスト、レポートなどの内容により採点する為、行わない場合もあります。）

学期末試験は試験のなかでも最も重要なもので、単位認定の大部分を占めるのは学期末試験の結果によるといっても過言ではありません。

2．中間試験等

学期末試験以外の通常の授業中行う小試験や学期の途中で行われる中間試験は、授業科目担当教員が実施日・方法などを決定し、授業中または掲示により伝達します。

3．追試験

学期末試験の受験資格があり、かつ、次に示した真にやむを得ない理由により学期末試験を受験できなかった学生に対して行われる試験を追試験といいます。

(1)　病気で受験できなかった場合

(2)　親族の死亡などで受験できなかった場合

(3)　交通機関の運休・遅延などで受験できなかった場合

(4)　火災・台風災害などに罹災した場合

(5)　上記と同程度と認められる本人の責任でないやむを得ない理由がある場合

ただし、追試験の実施方法は科目担当教員の判断によります。

追試験を希望する学生は、追試験願に医師の診断書等の**欠席理由を証明する書面等**を添えて、当該科目の試験終了時から試験期間終了後 2 日後までに、教務担当へ提出しなければなりません。追試験は、追試験願受付期限終了後 2 日後から実施されます。
（追試験手数料は、 1 科目につき500円です。）

4．学期末試験の受験資格

学期末試験受験のためには、次の条件を備えていることが必要となります。

(1) 履修申告をした授業科目であること。

(2) その学期までの学費を納入していること。

(3) 休学期間中ではないこと。

5．学期末試験受験上の注意

学期末試験の受験に際しては、次のような注意が必要です。授業中に実施する場合や学部の指定する期間に実施する場合にかかわらず熟読し、よく理解しておいてください。

(1) 試験時間割等の確認

試験日・試験時間割・試験教室・座席表など試験に関する掲示は、試験開始日のおおむね 1 週間前に掲示されます。試験教室が通常の授業の教室と変更となる場合等がありますので、よく確認し見間違いのないようにしてください。

(2) 試験教室・座席の指定

試験教室・座席は、学籍番号により以下の 3 種類の指定があります。掲示される座席表で確認して下さい。

- 授業着席（隣席との間を空けずに着席します）
- 試験着席（原則として隣席との間を 1 席分空けて着席します。掲示物には㊟と表示します。）
- 教員にて指示（科目担当教員により事前に掲示等での指示、また当日口頭での指示等があります）

(3) 遅刻・退出について

遅刻－試験開始後30分を経過すると入室は認められません。

退出－試験開始後40分を経過しないと退出は許可されません。

（ただし、終了10分前まで）

なお、事情により、上記に拠らない場合がありますので、試験監督者の指示に従ってください。

(4) 学生証について

学生証は常に携帯し、試験（学期末試験・中間試験・追試験等）のときは常に机の上に出しておいてください。また監督者からの要求があったときには、必ず提示しなければなりません。

学生証を持参していない学生は、いかなる理由があっても受験できません。

注）学生証を忘れた者は、証明書自動発行機で仮受験票を発行してください。ただし仮受験票発行手数料は1,000円です。当日１～６時限の仮受験票が紙で出力されますので、該当の時限分を切り取って使用してください。なお、仮受験票は当日のみ有効ですので、受験しない時限の仮受験票は各自で処分してください。

(5) 試験場での心得

試験期間中は試験監督者が一切の権限を持ちます。試験監督者の指示に従わない者や、態度不良の者は退室を命ぜられることがあります。

また、ポケベル・ＰＨＳ・携帯電話等の持ち込み（時計としての使用も不可）は禁止しています。

(6) 不正行為

カンニングなど不正行為をした者は、退室を命じられたうえ、原則としてその学期末試験の全部の試験が無効となり卒業・進級が不可能な事態を招くことがあります。試験は各自の実力を公正にためすものですから、カンニングなどは、学生の本分に反する卑劣な行為であると心得てください。

(7) 放棄

放棄する場合でも、答案用紙に必ず、学年・学科・学籍番号・氏名を記入し提出しなければなりません。

成　　績

1．単位認定と成績評価

試験の結果は科目担当教員が採点し、１点きざみの**評点**が与えられます。60点以上の評点が与えられたとき、その授業科目は合格とされ、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを、大学側からみて**単位認定**、学生側からみて**単位取得**といいます。

単位取得した授業科目は、履修の修了が認定されたわけですから、たとえ評価が不本意なものであっても再履修はできません。

評点に対し、**S・A・B・C・D**等の評価が与えられ、本人が確認する成績通知書にはこの評価と評点が記載されます。**なお成績証明書には、評価のみ記載となっており、D・ーの評価の科目は記載されません。**

成績（評点・評価）

評点と評価の関係は、次の通りです。

評点	評価		判定
	成績通知書	成績証明書	
９０点以上	S	S	合格 (単位取得)
８０～８９点	A	A	
７０～７９点	B	B	
６０～６９点	C	C	
認定された科目	R	R	
５９点以下	D	記載されません	不合格
放棄	ー		

ー　放棄（履修した授業科目を受験しなかったとき）

＊　履修中（履修した授業科目にまだ評点が入らないとき）

注(1) 単位認定の時期は、その授業科目の履修が終わる配当期の終了時点です。これは再履修の場合も同じで、これ以外の時期に単位認定が行なわれることはありません。

注(2) 配当期が変更された科目を再履修した場合の単位の認定の時期は、原則として現に受講している科目の配当期末とします。

2．成績の通知

成績の通知は指定日（掲示により通知）に本人に成績通知書を配布することにより行ないます。

成績配布の時期は次の通りです。

(1)前期・前前期・前後期・前期集中科目……後期授業開始後

(2)後期・後前期・後後期・後期集中・通年・通年集中科目

…… 3 月初旬の卒業・進級判定発表日

成績の通知後、学期の途中で担当教員から採点の訂正がおこなわれた場合でも、原則としてその都度の発表はしません。

3．留年

留年したときには、次のような点に注意して下さい。

(1) 留年すると 1 学年下の者と同じクラスになりますが、自己の学習能力に過度の疑いをもつことなく、毎日授業に出席することが必要です。

(2) 留年した場合においては、在籍する学年の科目配当表に従うことになります。したがって、**留年者に対し翌年度適用される進級条件は、その学年に正規に進んだ者の条件と同じものになります。教務担当窓口にて、該当の学生要覧を必ず受け取って下さい。**

(3) この 1 年間に、留年の原因となった単位未取得科目を重点的に履修し、進級条件を満たすよう努力してください。その他の時間には、進級条件以外の科目も履修することができます。

また、同一学年次に 3 回留年してなお進級できないときは、**除籍**となります。

（注）留年（休学による留年も含む）した場合の学費は、当該学年の正規学年次生の学費を納めなければならないので注意すること。

4．科目配当条件変更時の注意（留年者）

前年度と今年度とで、授業科目名、必修・選択、新設・廃止、分割・統合、単位数、配当学年、配当期等の変更があったときは、**留年者（休学により現学年次にとどまった者、卒業延期者を含む）は、履修上次の点に注意して下さい。**

(1) **必修・選択の変更**　留年者にとって選択科目であった授業科目が、正規学年次生（その学年次に正規に進んできた者）にとって必修科目に変更になっていれば、留年者にとっても必修科目となり、単位未取得であれば必ず取得しなければなりません。必修が選択に変更になった場合は、必ずしも再履修する必要はありません。単位取得済であれば、変更されたとおりの取扱いになります。

(2) **科目の新設・廃止**　留年者にとって配当されていなかった授業科目が、正規学年次生に新設されているとき、特に必修科目として新設されたときは、留年者にとっても必修科目となり、必ず修得しなければなりません。逆に廃止されているときは、履修する必要はありませんが、取得した科目はそのまま取得単位として卒業単位に含む事が出来ます。

(3) **科目の分割・統合**　留年者にとって通年１科目であった授業科目が、正規年次生にとっては、前期科目と後期科目の２科目に分割されたときは、留年者にとっても２科目の扱いとなります。逆に、前期科目と後期科目の２科目が通年１科目に統合されたときは、通年１科目の扱いとなります。分割または統合された科目について単位取得済のときは、それぞれ新しい単位数に変更になることがあります。

(4) **単位数の変更**　授業科目の単位数が、留年者と正規年次生との間で変更になった場合、その科目についての単位が取得済であれば、取得単位数は原則として変更されません。単位未取得であれば、再履修の結果合格すれば新しい単位数が与えられます。

5．GPA（Grade Point Average）について

本学部では、成績の総合評価の指標としてGPAを採用しています。

GPAとは、科目を履修して最終的に与えられたS・A・B・C・Dの評価（Grade）に５～０のポイント（Point）を配当しそれに単位数を掛け、取得したポイントの合計と単位数をもとに算出する平均値（Average）です。

そのポイントと計算式は以下のようで、GPAの最高値は“５”となり、最高値に近いほど評価が高くなります。

・ポイント

ポイント（GP）	評　価	評　点
５　P	S	９０点 ～１００点
４　P	A	８０点 ～　８９点
３　P	B	７０点 ～　７９点
２　P	C	６０点 ～　６９点
０　P	D	０点 ～　５９点
０　P	―	―

・計算式

$$GPA＝\frac{（各科目の単位数 \times その科目で得たポイント）の合計}{履修申告した科目の単位数の合計―自由科目・教職科目の単位数}$$

※　GPAの値は小数点第２位を四捨五入した値とします。

※　分母の「履修申告した科目の単位数の合計」は履修中の科目は除きます。

※　対象科目は本学部で履修し評価を受けた科目となるので、資格等で認定された単位（R評価）は含まれません。

※　卒業要件とならない科目（教職に関する科目・自由科目）は含まれません。

・用　途

※　成績証明書及び成績通知書に記載します。

※　学部内における判定等（３年次在学における卒業・履修上限を超えての履修・その他）に使用します。

※　順位計算に使用します。

Dおよび放棄科目は０ポイントとなるため、放棄しない計画的な履修が結果的にGPAを上げることとなります。

進　　級

1．進級制度

大学は学年制併用単位制をとるのが前提であることは前にも触れました。理工系の大学では、学問の性質上、基礎から応用へと積み重ねて勉学していくことが不可欠です。

そこで、本学部では、学問の基礎から応用へと順序立てて修得できるように、それに適した授業科目を各学年に配当し、その学年ごとに履修を指定しています。

したがって、下級学年次に不合格科目が多い状態で上級学年次に進むと、基礎学力が不足しているにもかかわらず上級学年次配当の専門的授業科目を履修しなければならないことになり、教育的にみて好ましくない状況をもたらします。

このような事態を避けるため、本学部においては、低学年次配当授業科目の単位取得状況を考慮し、上級学年次へ**進級**するための条件を定め、この条件を充たさないときは、もとの学年次に**留年**するという**進級制度**をとっています。

2．進級条件

上級学年次に進級するための条件を**進級条件**といいます。

理工学部においては、以下の学年に進級条件を設けています。

1年次から2年次（数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科）

2年次から3年次（情報科学科、建設環境工学科、電子情報工学科）

3年次から4年次（全学科）

進級条件は、学科、学年ごとに異なるので、各学科のページを熟読して下さい。

3．2・3年次への編入学者の進級条件

2・3年次への編入学者については入学時に取得している成績の包括単位認定をおこないますので、各学科に表示してある条件とは異なります。編入学者は教務担当窓口で確認してください。

卒　業

1．卒業の要件

卒業するための必要要件は、次のとおりです。

(1) 卒業に必要な単位数（卒業所要単位数）を取得していること。

(2) 自己の所属する学科に配当されている必修科目の単位を全て取得していること。

(3) 各学年次に 1 年、合計 3 年以上（ 8 年以内､但し休学時は異なる）在学していること。

(4) 卒業までに、必要な学費が全て納入されていること。

4 年以上在学での卒業所要単位数は、前記の履修基準と同じですが、念のため以下に表示します。

区分		単位数	
		数理科学科 情報科学科 建設環境工学科 知能機械工学科 生命工学科 情報社会学科	情報システム工学科 電子情報工学科
共通教育科目	人間形成科目群 教養文化科目 総合文化科目	14	4
	英語科目群 英語基幹科目 コミュニカティヴ・イングリッシュ 英語研修	6	2
	リテラシー科目群 日本語リテラシー コンピュータリテラシー	−	−
専門教育科目	学部導入科目群	84	84
	共通基幹科目群		
	学部共通科目群		
	専門科目群		
自主選択科目		20	34
合計		124	124

☆　必修科目の単位の全部を履修し，修得しなければならない。

☆　自主選択科目については、任意に選択し（自由科目を除く）、修得した科目とする。

2．3年以上の在学での卒業について

以下の条件により4年間をかけなくても卒業することができます。

条件は以下のようになります。

⑴　3年以上の在学での卒業における基準

1．在学期間が3年以上の学生であること。

2．3年次以上までに卒業要件単位数124単位以上を取得していること。

3．3年次から4年次への進級条件を充足していること。

4．在学期間中の各学科において定められている全ての必修科目を修得していること。

5．原則として全履修科目の85％以上がＳ・Ａ評価であること（自由科目は除く）。
もしくはＧＰＡが4.3以上とする。

6．学科長・学部長の判断を要する。

⑵　3年以上の在学での卒業における運用

3年次以上の在学での卒業を望む学生に対し、所属学科の判断により以下の①～④のうちいずれかを適用し実施する。

①修業年限を3年とする。（卒業研究の修得はなし。）

②修業年限を3年とする。（3年次後期に卒業研究Ⅰ（生命工学科は卒業研究A）を履修する。）

③修業年限を3.5年とする。4年次前期に卒業研究Ⅰ（生命工学科は卒業研究A）を履修し、4年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。

④修業年限を3.5年とする。3年次後期に卒業研究Ⅰ（生命工学科は卒業研究A）を、4年次前期に卒業研究Ⅱ（生命工学科は卒業研究B）を履修し、4年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。

※詳細については掲示にて確認して下さい。

3．卒業の時期

卒業の時期は学年末で、卒業式は毎年3月の下旬に挙行されます。

3.5年での卒業の場合は9月15日付での卒業となり、卒業式については別途連絡いたします。

4．学位の授与

理工学部を卒業した者には、次の学位が授与されます。

数理科学科 学士（理学）	知能機械工学科 学士（工学）
情報科学科 学士（理学）	電子情報工学科 学士（工学）
情報システム工学科 学士（工学）	生命工学科 学士（工学）
建設環境工学科 学士（工学）	情報社会学科 学士（情報社会学）

学位は卒業式の時に授与される学位記により証明されます。

共通教育科目

人間形成・英語科目・リテラシー科目群

人間形成・リテラシー科目群履修案内

1．人間形成・リテラシー科目群とは

人間形成・リテラシー科目群は、第一に、所属する専門学科に関わりなく、社会人あるいは家庭人として身につけておきたいさまざまな「教養」を培う科目です。第二には、人間形成・リテラシー科目群では専門的な職業人・技術者として生きていく上で必要な「教養」を学びます。特に社会の中で、また多様な人間関係の中で技術者として必要となる幅広い視野と思考力を養うことに目的があります。東京電機大学初代学長である丹羽保次郎博士の銘言「技術は人なり」を人生の中で実践するためにも、「教養」の修得は大切です。

人間形成・リテラシー科目群によって身につけてほしいのは、何よりも長期的な人生設計の中で役立つ、自ら思考し学び続ける力です。人間形成・リテラシー科目群は皆さんの興味や関心の広がり、深まりに対応できるよう、どの学年でも自由に履修できるようにしてあります（一部、履修学年が指定されている科目もあります）。大学生としてのフレッシュな意欲を持って一年次に履修することも、また社会への船出を展望しながら上級学年次で履修することもできます。人間形成・リテラシー科目群は基本的に必修科目ではありませんので、自由に履修計画を立てて下さい。

なお科目名にＡ、Ｂが付されているものについては、それぞれが半期ごとの独立した科目として開講されます。Ａ、Ｂの両方を履修することもできますし、片方だけを履修したり、またＢを履修した後にＡを履修することもできます。

2．各分野の案内

人間形成科目

(1)　教養文化科目

教養文化科目は、さらに次のグループから構成される。①人文科学、②社会科学、③保健体育、④教養ゼミナール、⑤教養語学ゼミナール。

①人文科学では「ひと」「精神」などに関わる思考の方法やスタイルを学びます。**哲学Ａ・Ｂ、倫理学Ａ・Ｂ、心理学Ａ・Ｂ、教育心理学概論（２年次以上）、歴史学Ａ・Ｂ、科学技術史Ａ・Ｂ、論理学Ａ・Ｂ、文学Ａ・Ｂ**が開講されます。

なお教員免許の取得を希望する学生は必ず教育心理学概論を履修しなければなりません。

②　社会科学について。「ひと」については人文科学で学び、「もの」については皆さんの専門科目である自然科学で学びます。この「ひと」と「もの」が出会い、複雑にからみあうフィールドが「社会」です。社会科学では、私たちが生きているこの社会の仕組みを学ぶとともに、社会の中で生じているさまざまな問題について考え抜く能力の修得をめざします。**法学Ａ・Ｂ、現代社会と法、日本国憲法、政治学、国際政治学、経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、言語学Ａ・Ｂ、教職入門、教育学概論Ｂ、教育学概論Ｃ（２年次以上）、社会学Ａ・Ｂ、社会福祉論**が開講されます。

なお教員免許の取得を希望する学生は日本国憲法、教職入門、教育学概論Ｂ・教育学概論Ｃをすべて履修しなければなりません。

③　保健体育について。よき職業人であるためには健康でなければなりません。心身の健康を保ち充実した人生を過ごすために継続的にスポーツに親しむ習慣を持つこと、つまり生涯スポーツの必要が言われています。本学部のカリキュラムでは体育の授業は必修ではありませんが、体育科目の履修を勧めたいと思います。**体育科目**は、いろいろな種目が開講されています。これは、１年から４年までの間に、自分の実施したい種目を選択し、履修することができます。種目に拘わらず、体育Ⅰ～Ⅳの４コマの履修が可能です。また、休業期間中に学外において宿泊形式で行われる**学外体育研修Ａ・Ｂ**という集中授業もあります。この学外体育研修においても、いくつかの種目が開講されており、４年間を通じて自分の希望する種目を選択し、履修することができます。最初に履修したものが学外体育研修Ａ、次に履修したものが学外体育研修Ｂとして認定されます。

なお、教員免許の取得を希望するものは、体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのうち、いずれか２つの単位を必ず取得しなければなりません。

④　教養ゼミナールについて。教養ゼミナールは、発表・討論などを通じて皆さんが自ら考え、表現する能力を養うことを目的とした少人数クラスの授業（科目名称としての教養ゼミナール）です。また、理工系と人文社会系、芸術系のさまざまな境界を越えて総合的に複合的にものごとを考えていこう、という目的もあります。

教養ゼミナールとして開講される「教職総合演習」は、教員免許の取得を希望する学生は必ず履修しなければなりません。（P198参照）

（※「留学生のための日本語」は、外国籍の学生のための科目です。他の学生の履修は出来ません。）

⑤　教養語学ゼミナールについて。英語以外の外国語科目は**「教養語学ゼミナール」**として開講されています。現在、**ドイツ語、フランス語、中国語**の三つが置かれています。それぞれ基礎的な入門から段階をおって学習することができますし、ネイティブ・スピーカーが担当する授業もあり、英語以外の言語に親しむ機会として大いに履修を勧めたいと思います。また将来大学院への進学を考えている学生は、これらの外国語のひとつを履修しておくことが望まれます。

(2)　総合文化科目

総合文化科目は、さらに次のグループから構成されています。①職業観やボランティア意識を養う講座「社会参加論」「仕事と職業」。②地域社会や地域文化への理解を深める講座「ヨーロッパ文化論」「英米文化論」「アジア文化論」「欧米地域研究」「アジア地域研究」「海外事情」。そして③技術者を目指す学生に必須の教養講座「技術者倫理」。また、e-learningの科目として「東京電機大学で学ぶ」。以上の特色と魅力のある科目が開講されています。

リテラシー科目

(1)　日本語リテラシー

日本語リテラシーでは主として情報通信や最先端医療、バリアフリーなどへのハイテクノロジーの応用と、それが生みだす社会的諸問題を扱った論説を読み、それに対して自分なりの意見や提言を文章化します。中には 4 年次に進級するのに必ず取得する科目としている学科もあります。

理工系、社会系を問わず、およそ大学生であるならば、多くの学術論文・専門書を読み、それらを参考にして報告書なり意見論述なりをまとめることは、基本中の基本です。大学で行われる学問研究のために必須の基本能力、大学生に求められる文章力は、①文章読解力、②思考力・構想力、③知識の整理法、⑥叙述力・表現力、⑤読解・論述対策という 5 つの観点から考えられます。なかなか課題のレポートが書けない、考えを文章に表せないと嘆く大学生は、このところ急増しています。該当する諸君は、この科目をしっかり履修して、文章読解と論述力強化に向けた対策を練って下さい。

(2)　コンピュータリテラシー

コンピュータリテラシーでは、情報化社会で活躍できる技術者となるための基本的技能が修得できます。

英語科目群履修案内

1．英語のカリキュラムはどういう構成になっているのか？

“実践的な英語”を理工学部の英語教育の目標としています。教育効果をより上げるために、英語の読み・書き・話し・聞く 4 技能を 2 つに統合してカリキュラムを組んでいます。

読み・聞くという情報受信型の技能は英語基幹科目の英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの科目で向上をはかります。就職そして卒業後の実社会での活動も視野に、 3 年次にTOEICのスコアが最高となるように 1 年次からTOEIC対策の教育を行っています。

話し・書く情報発信型の技能はCommunicative English Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの科目で向上をはかります。英語によるコミュニケーション能力が重視される社会環境のなか、実践的な英語が身につく言語スキルの訓練を効果的に行うために、ネイティブ・スピーカーが授業を担当します。

英語Ⅰ、Ⅱ、Communicative English Ⅰでは英語習熟度の多様化に対応するために習熟度別クラス編成を導入し、レベルに適した授業を行っています。さらに、英語科目には卒業単位として認定されるアイオワ大学、コロラド大学、シドニー大学、コースタルカロライナ大学における海外英語研修も用意されています。

英語は卒業に必要な単位として、英語科目のうちから 6 単位（電子情報工学科、情報システム工学科は 2 単位）を取得しなければなりません。英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英語ⅢA・B、Communicative English ⅠA・B、Communicative English ⅡA・B、Communicative English ⅢA・B、海外英語研修A・B・C・D、のうちから 6 単位です。英語は半期で 1 単位、例えば、英語ⅠAで 1 単位です。

英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英語ⅢA・B、Communicative English ⅠA・B、Communicative English ⅡA・Bは学年学科指定科目、Communicative English ⅢA・Bは全学科共通科目となっています。

※英語Ⅰ～ⅢA・Bについては、履修の当該学期中において最低 1 回TOEICを受験することが単位取得の必須条件となっています。詳細は掲示で確認して下さい。

2．科目についているⅠ・Ⅱ・Ⅲ、そしてA・Bは何を表しているのか？

Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、それぞれ1年次、2年次、3年次の指定科目を表わし、A・Bは前期、後期を表わしています。これでわかるように英語の科目は半期制の科目です。ただし、通年科目のつもりで履修計画を立てるようにすすめます。

3．英語ⅠA・Bとは？

英語ⅠA・Bは、各学科を4つの習熟度別クラスに分けて、授業を行います。クラスは年度初めのプレースメントテストによって決定します。TOEIC対策を授業目標とします。

英語を不得手とし、基礎能力を身につける必要のある人たちのクラスでは、発音記号、基礎的な英文法も扱います。

4．英語ⅡA・Bについて

学年学科指定、2年次履修。1年次の成績評価に基づいて各学科を3つの習熟度別クラスに分けて、授業を行います。

英語ⅠA・Bに次いで、TOEIC対策を授業目標とします。

5．英語ⅢA・Bについて

学年学科指定、3年次履修。習熟度別クラス編成による授業を行います。この英語ⅢA・Bは、さらに英語に親しむことにより、語彙の増強等、積極的に英語力を高めたいと考えている学生を対象に、間近に控えた就職を視野に入れ、TOEIC対策を授業目標とします。

6．Communicative EnglishⅠA・Bとは？

Communicative EnglishⅠA・Bは、1年次配当の科目です。学年学科指定科目で、各学科を4つの習熟度別クラスに分けて授業を行います。クラスは年度初めに行うプレースメントテストによって決定します。すべてのクラスを外国人教員が担当します。授業内容はspeakingとwritingを主とします。

7．Communicative EnglishⅡA・B について

Communicative EnglishⅡA・Bは、2 年次配当の学科指定科目です。各学科について1クラスの選抜クラスです。授業内容は、speakingとwritingを主とします。

8．Communicative EnglishⅢA・B について

Communicative EnglishⅢ A・Bは、3 年次配当の全学科共通科目です。全学科に対して共通時間割に 3 クラスの選抜クラスです。

9．英語各科目のクラス分けについて

プレースメントテストや前学年度の統一テストによる成績評価に基づいた指定クラスの第 1 回目の授業に出席し、担当教員から履修許可を得てください。

クラス分けが行われる科目

英語ⅠA・B　　英語ⅡA・B　　英語ⅢA・B

Communicative EnglishⅠA・B

10．大学 4 年間に英語をどう勉強するとよいのか？

新 1 年次生のみなさんは、大学1年生として十分な英語力、語彙力をもっているかどうか、見直してみてください。

とにかく、自分で予習、復習をする習慣を身に付けることです。テキストのわからない単語、語句は辞書（電子辞書でもよい）を引き、授業に出席すること。ただし、辞書を引くということは、あたりまえのことですが、単語、語句を調べる際に、いくつかある意味のなかから、文脈のなかで最もふさわしい意味を見つけ出すことです。そうして、予習、復習を励行する習慣を身に付けることが、TOEIC・英検等の資格取得の近道でもあるのです。

本学部では、将来のためにTOEIC・英検（特に英検 2 級）を受験するように大いにすすめています。英検 2 級合格者TOEICスコア510点以上取得者については英語ⅠA・Bを単位取得したとみなされます。

鳩山キャンパスはTOEICの会場になっています。ぜひ、これを利用するようにすすめます。

11. 海外英語研修

現在、海外英語研修はアイオワ、コロラド、シドニー、コースタルカロライナ大学において開催されています。現地教員による少人数レッスンで本学学生専用のプログラムが組まれています。コースタルカロライナ大学ではネイティヴの学生対象の授業を聴講することができます。所定の成績を修めれば海外英語研修A、B、C（各 2 単位）、D（1 単位）のいずれかの科目を取得することが可能です。

12. 英語教育プログラムについて（EEP：English Education Program）

英語教育プログラム、英語名称の頭文字を取って EEP は、英語の専任教員とインストラクターの教員が英語の授業を連携して運営するためのプログラムです。EEP の部屋は 8 号館 1 階8101Cにあり、日本人 4 名、ネイティブ・スピーカー 3 名のインストラクターが、担当授業時間以外は月曜日から金曜日までの 9 ：00～17：00に学生の質問などに応じます。また専任教員への質問は、指定されたオフィスアワーに 1 号館 4 階の研究室を訪ねましょう。

授業科目配当表

平成18年度 全学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1 2	1年 後期 3 4	2年 前期 5 6	2年 後期 7 8	3年 前期 9 10	3年 後期 11 12	4年 前期 13 14	4年 後期 15 16	担当教員及び備考	教職コード
人間形成科目	教養文化科目	H	哲学A	2	前期1コマ								石村 多門	50300
		H	哲学B	2	後期1コマ								石村 多門	50300
		H	倫理学A	2	前期1コマ								*美頭 千不美	50300
		H	倫理学B	2	後期1コマ								*美頭 千不美	50300
		H	心理学A	2	前期1コマ								小林 春美	50300
		H	心理学B	2	後期1コマ								小林 春美	50300
		H	教育心理学概論	2			1	1						10200
		H	歴史学A	2	前期1コマ								石塚 正英	
		H	歴史学B	2	後期1コマ								石塚 正英	
		H	科学技術史A	2	前期1コマ								若松 征男	
		H	科学技術史B	2	後期1コマ								若松 征男	
		H	論理学A	2	前期1コマ								石村 多門	50300
		H	論理学B	2	後期1コマ								石村 多門	50300
		H	言語学A	2	前期1コマ								小林 春美	
		H	言語学B	2	後期1コマ								小林 春美	
		H	文学A	2	前期1コマ								細川 正昭	
		H	文学B	2	後期1コマ								*高橋 喜郎	
		H	法学A	2	前期1コマ								都築 広巳	50100
		H	法学B	2	後期1コマ								都築 広巳	50100
		H	現代社会と法	2	前期1コマ								都築 広巳	50100
		H	日本国憲法	2	後期1コマ								都築 広巳	00100
		H	政治学	2	前期1コマ								*水戸 克典	50100
		H	国際政治学	2	後期1コマ								*水戸 克典	50100
		H	経済学Ⅰ	2	前期1コマ								岡林 茂	50200
		H	経済学Ⅱ	2	後期1コマ								岡林 茂	50200
		H	教職入門	2	前期1コマ								前島 康男	10100
		H	教育学概論B	2	後期1コマ								前島 康男	10200
		H	教育学概論C	2	後期1コマ								前原 健二	10200
		H	社会学A	2	前期1コマ								若松 征男	50200
		H	社会学B	2	後期1コマ								若松 征男	50200
		H	社会福祉論	2	半期1コマ ※1								*杉山 精一	50200
		H	体育Ⅰ	1	半期1コマ								掛水 隆・田中 伸明 他	00200
		H	体育Ⅱ	1	半期1コマ								掛水 隆・田中 伸明 他	00200
		H	体育Ⅲ	1	半期1コマ								掛水 隆・田中 伸明 他	00200
		H	体育Ⅳ	1	半期1コマ								掛水 隆・田中 伸明 他	00200
		H	学外体育研修A	1	半期1コマ								掛水 隆・田中 伸明 他 集中講義	
		H	学外体育研修B	1	半期1コマ								掛水 隆・田中 伸明 他 集中講義	
		H	教養ゼミナールⅠA	2	前期1コマ								前島 康男・石村 多門 他	
		H	教養ゼミナールⅠB	2	後期1コマ								前島 康男・石村 多門 他	
		H	教養ゼミナールⅡA	2	前期1コマ								前島 康男・石村 多門 他	
		H	教養ゼミナールⅡB	2	後期1コマ								前島 康男・石村 多門 他	
		H	留学生のための日本語ⅠA	2	前期1コマ								細川 正昭・*酒井ひろみ	
		H	留学生のための日本語ⅠB	2	後期1コマ								細川 正昭・*酒井ひろみ	
		H	留学生のための日本語ⅡA	2	前期1コマ								細川 正昭・*酒井ひろみ	
		H	留学生のための日本語ⅡB	2	後期1コマ								細川 正昭・*酒井ひろみ	
		H	教職総合演習	2	半期1コマ ※1								*池田 旭	10500

※1 但し、前・後期開講。

※2 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成18年度 全学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1 2	1年 後期 3 4	2年 前期 5 6	2年 後期 7 8	3年 前期 9 10	3年 後期 11 12	4年 前期 13 14	4年 後期 15 16	担当教員及び備考	教職コード
人間形成科目	教養文化科目	H	ドイツ語入門Ⅰ	1	前期1コマ								勝又 洋子・細川 正昭 他	00300
		H	ドイツ語入門Ⅱ	1				後期1コマ					勝又 洋子・細川 正昭 他	00300
		H	ドイツ語基礎AⅠ	1	前期1コマ								細川 正昭	00300
		H	ドイツ語基礎AⅡ	1				後期1コマ					細川 正昭	00300
		H	ドイツ語基礎BⅠ	1	前期1コマ								細川 正昭・°高橋 喜郎	00300
		H	ドイツ語基礎BⅡ	1				後期1コマ					細川 正昭・°高橋 喜郎	00300
		H	フランス語入門Ⅰ	1	前期1コマ								°増田 晴美・°デルメール	00300
		H	フランス語入門Ⅱ	1				後期1コマ					°増田 晴美・°デルメール	00300
		H	フランス語基礎AⅠ	1	前期1コマ								°デルメール	00300
		H	フランス語基礎AⅡ	1				後期1コマ					°デルメール	00300
		H	フランス語基礎BⅠ	1	前期1コマ								°増田 晴美	00300
		H	フランス語基礎BⅡ	1				後期1コマ					°増田 晴美	00300
		H	中国語入門Ⅰ	1	前期1コマ								°呂 小燕・°林 鳴宇 他	00300
		H	中国語入門Ⅱ	1				後期1コマ					°呂 小燕・°林 鳴宇 他	00300
		H	中国語基礎AⅠ	1	前期1コマ								°呂 小燕・°林 鳴宇	00300
		H	中国語基礎AⅡ	1				後期1コマ					°呂 小燕・°林 鳴宇	00300
		H	中国語基礎BⅠ	1	前期1コマ								°呂 小燕・°林 鳴宇	00300
		H	中国語基礎BⅡ	1				後期1コマ					°呂 小燕・°林 鳴宇	00300
	総合文化科目	H	社会参加論	2	前期1コマ								石村 多門	
		H	仕事と職業	2				1 1						
		H	ヨーロッパ文化論	2	半期1コマ ※1								勝又 洋子	
		H	アジア文化論	2	半期1コマ ※1								°呂 小燕・°河野 次郎	
		H	英米文化論	2	半期1コマ ※1								°工藤 豊・°杉山 精一	
		H	アジア地域研究	2	半期1コマ ※1								°呂 小燕・°河野 次郎	
		H	欧米地域研究	2	半期1コマ ※1								°杉山 精一・細川 正昭	
		H	海外事情A	1	半期1コマ								若松 征男 集中講義	
		H	海外事情B	1	半期1コマ								若松 征男 集中講義	
		H	海外事情C	1	半期1コマ								若松 征男 集中講義	
		H	技術者倫理	2	半期1コマ ※1								石塚 正英	60100
		H	東京電機大学で学ぶ	1	1 1								大園 成夫 他	
リテラシー科目	テクノロジー・日本語リテラシー	LJ	日本語リテラシー	1	1/4期1コマ（但し、前前・前後・後前・後後期開講）								石塚 正英・°河野 次郎 他	
	コンピュータリテラシー	LC	コンピュータリテラシー	2	1 1								藤本 衡 他	00400
英語科目	英語基幹科目	E	英語ⅠA	1	1 1								越川 邦夫・松平 圭一 他	00300
		E	英語ⅠB	1		1 1							越川 邦夫・松平 圭一 他	00300
		E	英語ⅡA	1			1 1							00300
		E	英語ⅡB	1				1 1						00300
		E	英語ⅢA	1					1 1					00300
		E	英語ⅢB	1						1 1				00300
	インクリッシュ・コミュニカティヴ	E	Communicative English ⅠA	1	1 1								Ken Hazel・Blair Thomson 他	00300
		E	Communicative English ⅠB	1		1 1							Ken Hazel・Blair Thomson 他	00300
		E	Communicative English ⅡA	1			1 1							00300
		E	Communicative English ⅡB	1				1 1						00300
		E	Communicative English ⅢA	1					1 1					00300
		E	Communicative English ⅢB	1						1 1			集中講義	00300
	英語研修	E	海外英語研修A	2	半期2コマ								小山内 大（アイオワ大学） 集中講義	00300
		E	海外英語研修B	2	半期2コマ								小山内 大（コロラド大学） 集中講義	00300
		E	海外英語研修C	2	半期2コマ								小山内 大（シドニー大学） 集中講義	00300
		E	海外英語研修D	1	半期1コマ								小山内 大（コースタルカロライナ大学） 集中講義	00300
		E	国内英語研修A	1	半期1コマ								小山内 大 集中講義	00300
		E	国内英語研修B	1	半期1コマ								小山内 大 集中講義	00300

※1 但し、前・後期開講。

※2 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

自然科学系列

学部導入科目・共通基幹科目・学部共通科目群

学部導入科目・共通基幹科目・学部共通科目群履修モデル

近年の技術の進歩・発展は早く、現在最先端といわれる技術を学んでも、現在の技術はすぐに過去の技術となります。未来に対して創造性・発展性のある技術は、確固たる学問体系に裏付けられたものしか成り得ないことは言うまでもありません。理工学部では、どの学科でどのような専門を学ぶにも必要となる最低限の基礎知識を整理し勉強するため、数学・物理学・化学について共通教育を行っています。諸君が必要とする学問体系としての基礎知識は一、二年次のうちにこの共通教育から習得しておく必要があります。共通教育における大きな柱は数学、物理学と化学です。数学では科学的な考え方と技術を表現する世界共通の言語を学びます。物理学では物質の運動と存在の基本を学び、化学では物質の性質と変化の本質を学びます。いずれも、これからの技術の発展に欠くことのできない基礎となる学問です。共通科目の科目名のなかには専門学科の科目名と類似のものもありますが、共通科目は学問体系の中の基礎を確実に理解するために必要な教育内容となっています。

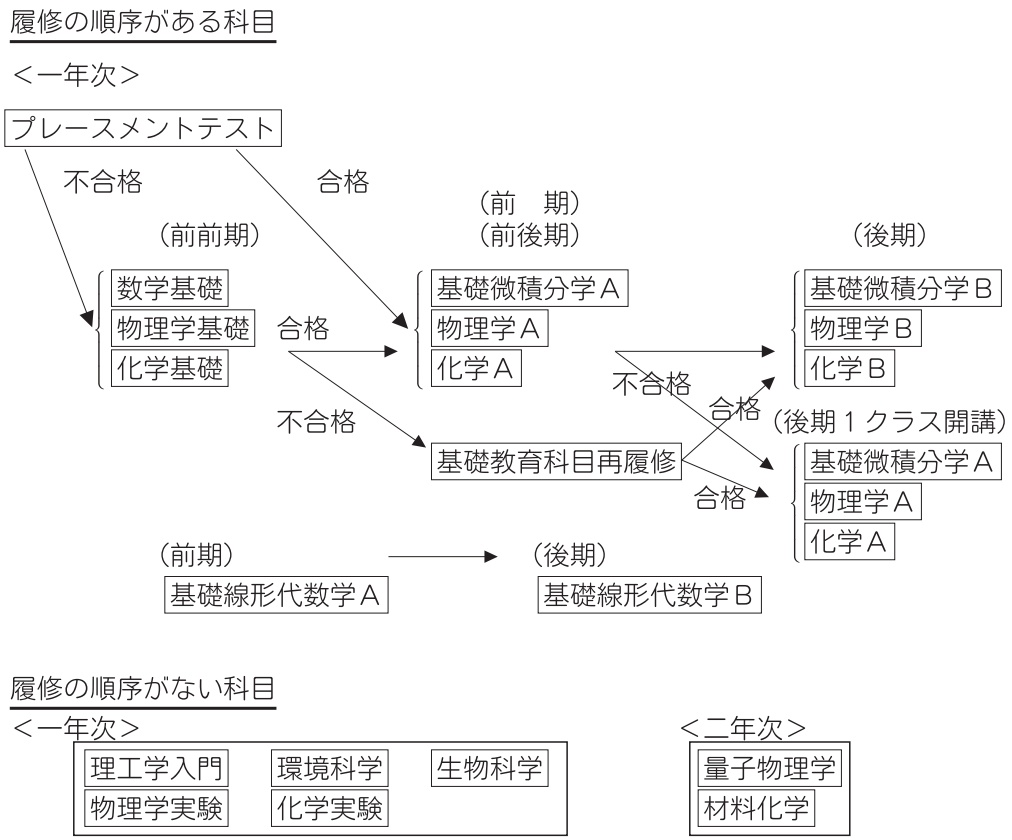
共通科目の構成と履修の順序

共通科目は学部導入科目群、共通基幹科目群および学部共通科目群から成り、学部導入科目群は基礎教育科目と入門科目から成ります。学部導入科目群の基礎教育科目では共通基幹科目や専門科目を学ぶために必要な数学・物理学・化学の基礎を学びます。実験科目以外の共通基幹科目の履修のためにはプレースメントテストで合格しているか、基礎教育科目の単位を取得しておく必要があります。入門科目の「**理工学入門**」ではこれからの科学技術の発展に学問がどのように関与するのか、関係しなければならないかを、わが国の科学技術の歴史を振り返りながら考えて行きます。共通基幹科目群は理工学部のどの専門学科の科目を学ぶにも必要な共通した基礎学力を養うための科目で、数学・物理学・化学・生物学から成ります。

数学・物理学・化学の共通教育の科目は、基礎教育科目→基幹科目→共通科目の順に履修すると理解しやすいでしょう。基礎教育科目は基礎学力が不足する学生は必ず履修する必要があります。共通基幹科目は全科目の履修を勧めます。入門科目と学部共通科目は必要に応じて履修すると良いでしょう。具体的にどの科目をどの順序で履修するかは、履修モデル図

と各科目系統別説明を参考に、学科の進級条件を考慮して学生自らの判断で決めなくてはなりません。

＜＜共通科目の履修モデル図＞＞



科目系統別の履修について

基礎教育科目：

確実に基礎を身につけるため、「**数学基礎**」・「**物理学基礎**」・「**化学基礎**」は学力別クラス編成を取り前前期に週 2 回の授業があります。どのクラスを履修するかは 4 月初めに行われるプレースメントテストの結果によって指示されます。前前期に基礎教育科目の成績が不合格となった場合は、合格しなかった基礎教育科目を前後期に再履修しなくてはなりません。数学・物理・化学のプレースメントテストにそれぞれ合格せず、また基礎科目も合格しない場合、「**基礎微積分学Ａ**」・「**基礎微積分学Ｂ**」・「**物理学Ａ**」・「**物理学Ｂ**」・「**化学**

Ａ」・「**化学B**」をそれぞれ履修することはできません。

数学：

数学関連科目の「**基礎線形代数学Ａ・Ｂ**」、「**基礎微積分学Ａ・Ｂ**」は理工学部でこれから学んで行くいろいろな分野の基礎となる、最も基本的な知識を習得するためのものです。そのためにも、これらをできるだけ一年次のうちに履修しておいて、その後の各学科での、より専門的な科目を学習するときに支障とならないようにすることが大切です。

また「**数学基礎**」は、高校では十分に数学を学んで来なかった人、例えば、「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はやったけれども、「数学Ａ・Ｂ・Ｃ」の中にはやってないものがあるという人のために、大学での学習への橋渡しを行う科目です。数学の実力にあまり自信が持てない人は履修するとよいでしょう。

物理学：

物理学は読んで字のごとく、物事（自然現象）の理（ことわり）を探求する学問です。「自然現象が何故どのように起きているのか、それをどう理解していくのか」という、理工系の学問全体に共通する考え方の基礎を学びます。また専門分野への直接的なあるいは間接的な基礎ともなっています。

物理学を理解するためには科目の履修順序に注意する必要があります。以前に物理をまったく学んでこなかった人や苦手だった人は「**物理学基礎**」から履修することになります。基礎が身に付いた人は「**物理学A**」を履修し、あらゆる物理学の基礎学問である力学を理解してから「**物理学B**」で更なる自然の理解へと進んでいくと良いでしょう。また、これら講義科目と平行して「**物理学実験**」を履修することで、より鮮明に物理学を理解することができます。

「**物理学基礎**」は力学の基礎分野の演習を含んだ講義です。これは物理学に慣れることを目的とし、続いて履修する「**物理学A**」の理解の手助けとなる科目です。「**物理学A**」では物理学の考え方や現象をどう理解しどう説明するかを、物体の運動の解析を通じて学んでいきます。「**物理学B**」では電磁気学、波動と光学および熱力学の基礎を学びます。しかし、どの分野に重点を置くかは学科によって異なるため、どのクラスを履修するかは自分の進路を考えて選択してください。詳しくはオンラインシラバスを参照してください。「**物理学実験**」では理論で予想されたものが実験結果と一致するかを実体験することができます。

化学：

化学では物質とは何か、物質はどのように変化し物質集合体にはどのような性質があるかを学びます。現在の科学技術は物質抜きでは成り立ちません。従って、直接化学物質を扱わ

ない専門学科の学生にとっても、理工系である以上、化学は重要な基礎科目です。しかし、理工学部では高校で化学を十分学習しないで入学する学生が少なくありませんので、化学関連科目は基礎から学べるよう配慮されています。

「**化学基礎**」では原子・分子の基本的な構造、物質量と溶液濃度、化学結合、物質の状態や化学平衡などの化学の基本を学び、できるだけ多くの演習問題を解く事で基礎学力を身につけます。化学の基礎が身に付いた学生は「**化学Ａ**」に進み、「**化学Ｂ**」も履修すると良いでしょう。「**化学Ｂ**」を先に履修してもかまいません。「**化学Ａ**」では量子化学によって解き明かされた原子と分子の本当の姿と化学結合を理解します。「**化学Ｂ**」では物質の状態を物質エネルギーの学問体系である化学熱力学の観点から理解し、化学反応機構や反応速度についても学びます。さらに化学に興味のある人は「**材料化学**」を履修すると良いでしょう。有機高分子・金属・セラミックなどの材料の構成・構造および特性を学びます。

化学は現象の発見や実験を通して発展してきた学問です。化学現象の本当の姿を理解し化学の面白さを体験するためには、是非「**化学実験**」を履修することを勧めます。基本的な実験器具の扱い方から本格的な化学分析まで自ら行い実験技術を習得します。また、「**化学実験**」では学問としての化学ばかりではなく、実験の準備から後かたづけと報告書の作成に至るまで、科学技術者に必要な全ての要素を練習し身につけることも学習目標となっています。

その他の科目：

以下の科目は自分の状況にあったものを履修すると良いでしょう。

「**生物科学**」は専門分野で関係する諸君には必要となる科目ですが、自然科学の素養を付けたい人にも見逃せません。高校で生物を履修しなかった学生のことも考え、生物学の初歩から学びます。授業時間のはじめの10分くらいで、キャンパス周辺の植物を取り上げ、その構造や分類学上の位置などについて説明することも考えています。

「**環境科学**」も専門分野で関係する諸君には必要となる科目ですが、自然科学の素養を付けたい人にも見逃せません。現代の技術は環境を配慮しないと生き残ることはできません。この科目では、現在の地球環境問題の科学技術的側面を見渡し、技術者として身につけるべき環境保全・修復の基礎を勉強します。また、地球上での人類の位置づけについて、グローバルな視点と地球史的な視点から考えていきます。

授業科目配当表

平成18年度 数理科学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
学部導入科目	基礎教育		数学基礎	1	履修不可																硲　文夫・佐藤　定夫　他	
			物理学基礎	1	※1								履修不可								木下　彬・井上　真　他	
			化学基礎	1	※1																野村　浩康・小川　英生　他	
	入門		理工学入門	2	1	1															*勝　忠義	
共通基幹科目	数学		基礎微積分学A	2	履修不可																硲　文夫・佐藤　定夫　他	
			基礎微積分学B	2																	佐藤　定夫・仲光　邦昭　他	
			基礎線形代数学A	2																	硲　文夫・佐藤　定夫　他	
			基礎線形代数学B	2																	硲　文夫・佐藤　定夫　他	
	物理学	B1	物理学A	2	※5																井上　真・本橋　章　他	
		B1	物理学B	2			1	1													木下　彬・井上　真　他	
		B1	物理学実験	2	※4																本橋　章・井上　真　他	
	化学	B1	化学A	2	※5																野村　浩康・岡本　博司　他	
		B1	化学B	2			1	1													岡本　博司・小川　英生　他	
		B1	化学実験	2	※4																野村　浩康・岡本　博司　他	
	生物	B1	生物科学	2			1	1													栗山　昭	
学部共通科目	自然科学	B1	量子物理学	2							1	1										
		B1	環境科学	2	※3																岡本　博司・小川　英生　他	
		B1	材料化学	2							1	1										

※1　1/4期2コマ（但し、前前・前後期開講）

※2　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し後期開講）

※3　半期1コマ（但し、前・後期開講）

※4　半期2コマ（但し、前・後期開講）

※5　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し前・後期開講）

授業科目配当表

平成18年度 情報科学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
学部導入科目	基礎教育		数学基礎	1	履修不可																裕 文夫・佐藤 定夫 他	
			物理学基礎	1	※1								履修不可								木下 彬・井上 真 他	
			化学基礎	1	※1																野村 浩康・小川 英生 他	
	入門		理工学入門	2	1	1															゛勝 忠義	
共通基幹科目	数学		基礎微積分学A	2	※5																裕 文夫・佐藤 定夫 他	
			基礎微積分学B	2			1	1													佐藤 定夫・仲光 邦昭 他	
			基礎線形代数学A	2	※3																裕 文夫・佐藤 定夫 他	
			基礎線形代数学B	2			1	1													裕 文夫・佐藤 定夫 他	
	物理学	B1	物理学A	2	※5																井上 真・本橋 章 他	
		B1	物理学B	2			1	1													木下 彬・井上 真 他	
		B1	物理学実験	2	※4																本橋 章・井上 真 他	
	化学	B1	化学A	2	※5																野村 浩康・岡本 博司 他	
		B1	化学B	2			1	1													岡本 博司・小川 英生 他	
		B1	化学実験	2	※4																野村 浩康・岡本 博司 他	
	生物	B1	生物科学	2			1	1													栗山 昭	
学部共通科目	自然科学	B1	量子物理学	2							1	1										
		B1	環境科学	2	※3																岡本 博司・小川 英生 他	
		B1	材料化学	2							1	1										

※1 1/4期2コマ(但し、前前・前後期開講)

※2 1/4期2コマ(但し、前後期開講)または半期1コマ(但し後期開講)

※3 半期1コマ(但し、前・後期開講)

※4 半期2コマ(但し、前・後期開講)

※5 1/4期2コマ(但し、前後期開講)または半期1コマ(但し前・後期開講)

授業科目配当表

平成18年度 情報システム工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
学部導入科目	基礎教育	B1	数学基礎	1	※1								履修不可								硲　文夫・佐藤　定夫　他	
		B1	物理学基礎	1	※1																木下　彬・井上　真　他	
		B1	化学基礎	1	※1																野村　浩康・小川　英生　他	
	入門		理工学入門	2	1	1															゛勝　忠義	
共通基幹科目	数学	B1	基礎微積分学A	2	※5								履修不可								硲　文夫・佐藤　定夫　他	
		B1	基礎微積分学B	2			1	1													佐藤　定夫・仲光　邦昭　他	
		B1	基礎線形代数学A	2	※3																硲　文夫・佐藤　定夫　他	
		B1	基礎線形代数学B	2			1	1													硲　文夫・佐藤　定夫　他	
	物理学	B1	物理学A	2	※5																井上　真・本橋　章　他	
		B1	物理学B	2			1	1													木下　彬・井上　真　他	
		B1	物理学実験	2	※4																本橋　章・井上　真　他	
	化学	B1	化学A	2	※5																野村　浩康・岡本　博司　他	
		B1	化学B	2			1	1													岡本　博司・小川　英生　他	
		B1	化学実験	2	※4																野村　浩康・岡本　博司　他	
	生物	B1	生物科学	2			1	1													栗山　昭	
学部共通科目	自然科学	B1	量子物理学	2							1	1										
		B1	環境科学	2	※3																岡本　博司・小川　英生　他	
		B1	材料化学	2							1	1										

※1　1/4期2コマ（但し、前前・前後期開講）

※2　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し後期開講）

※3　半期1コマ（但し、前・後期開講）

※4　半期2コマ（但し、前・後期開講）

※5　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し前・後期開講）

授業科目配当表

平成18年度 建設環境工学科(土木コース) 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
学部導入科目	基礎教育	I1	数学基礎	1	※1												履修不可				硲 文夫・佐藤 定夫 他	
		I1	物理学基礎	1	※1																木下 彬・井上 真 他	
		I1	化学基礎	1	※1																野村 浩康・小川 英生 他	
	入門		理工学入門	2	1	1															°勝 忠義	
共通基幹科目	数学	B1	基礎微積分学A	2	※5																硲 文夫・佐藤 定夫 他	
		B1	基礎微積分学B	2			1	1													佐藤 定夫・仲光 邦昭 他	
		B1	基礎線形代数学A	2	※3																硲 文夫・佐藤 定夫 他	
		B1	基礎線形代数学B	2			1	1													硲 文夫・佐藤 定夫 他	
	物理学		物理学A	2	※5																井上 真・本橋 章 他	
			物理学B	2			1	1													木下 彬・井上 真 他	40400
		B2	物理学実験	2	※4																本橋 章・井上 真 他	
	化学		化学A	2	※5																野村 浩康・岡本 博司 他	
			化学B	2			1	1													岡本 博司・小川 英生 他	
		B2	化学実験	2	※4																野村 浩康・岡本 博司 他	
	生物		生物科学	2			1	1													栗山 昭	
学部共通科目	自然科学		量子物理学	2							1	1										
		B3	環境科学	2	※3																岡本 博司・小川 英生 他	
			材料化学	2							1	1										

※1 1/4期2コマ(但し、前前・前後期開講)

※2 1/4期2コマ(但し、前後期開講)または半期1コマ(但し後期開講)

※3 半期1コマ(但し、前・後期開講)

※4 半期2コマ(但し、前・後期開講)

※5 1/4期2コマ(但し、前後期開講)または半期1コマ(但し前・後期開講)

授業科目配当表

平成18年度　建設環境工学科（環境創生コース）1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
学部導入科目	基礎教育	I1	数学基礎	1	※1												履修不可				裕　文夫・佐藤　定夫　他	
		I1	物理学基礎	1	※1																木下　彬・井上　真　他	
		I1	化学基礎	1	※1																野村　浩康・小川　英生　他	
	入門		理工学入門	2	1	1															゜勝　忠義	
共通基幹科目	数学	B1	基礎微積分学A	2	※5																裕　文夫・佐藤　定夫　他	
		B1	基礎微積分学B	2			1	1													佐藤　定夫・仲光　邦昭　他	
		B1	基礎線形代数学A	2	※3																裕　文夫・佐藤　定夫　他	
		B1	基礎線形代数学B	2			1	1													裕　文夫・佐藤　定夫　他	
	物理学		物理学A	2	※5																井上　真・本橋　章　他	
			物理学B	2			1	1													木下　彬・井上　真　他	40400
		B2	物理学実験	2	※4																本橋　章・井上　真　他	
	化学		化学A	2	※5																野村　浩康・岡本　博司　他	
			化学B	2			1	1													岡本　博司・小川　英生　他	
		B2	化学実験	2	※4																野村　浩康・岡本　博司　他	
	生物		生物科学	2			1	1													栗山　昭	
学部共通科目	自然科学		量子物理学	2							1	1										
			環境科学	2	※3																岡本　博司・小川　英生　他	
			材料化学	2							1	1										

※1　1/4期2コマ（但し、前前・前後期開講）

※2　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し後期開講）

※3　半期1コマ（但し、前・後期開講）

※4　半期2コマ（但し、前・後期開講）

※5　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し前・後期開講）

授業科目配当表

平成18年度　建設環境工学科（建築コース）1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
学部導入科目	基礎教育	I1	数学基礎	1	※1												履修不可				硲　文夫・佐藤　定夫　他	
		I1	物理学基礎	1	※1																木下　彬・井上　真　他	
		I1	化学基礎	1	※1																野村　浩康・小川　英生　他	
	入門		理工学入門	2	1	1															*勝　忠義	
共通基幹科目	数学	B1	基礎微積分学A	2			※5														硲　文夫・佐藤　定夫　他	
		B1	基礎微積分学B	2				1	1												佐藤　定夫・仲光　邦昭　他	
		B1	基礎線形代数学A	2			※3														硲　文夫・佐藤　定夫　他	
		B1	基礎線形代数学B	2				1	1												硲　文夫・佐藤　定夫　他	
	物理学		物理学A	2			※5														井上　真・本橋　章　他	
			物理学B	2				1	1												木下　彬・井上　真　他	40400
		B2	物理学実験	2			※4														本橋　章・井上　真　他	
	化学		化学A	2			※5														野村　浩康・岡本　博司　他	
			化学B	2				1	1												岡本　博司・小川　英生　他	
		B2	化学実験	2			※4														野村　浩康・岡本　博司　他	
	生物		生物科学	2				1	1												栗山　昭	
学部共通科目	自然科学		量子物理学	2							1	1										
		B3	環境科学	2			※3														岡本　博司・小川　英生　他	
			材料化学	2							1	1										

※1　1/4期2コマ（但し、前前・前後期開講）

※2　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し後期開講）

※3　半期1コマ（但し、前・後期開講）

※4　半期2コマ（但し、前・後期開講）

※5　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し前・後期開講）

授業科目配当表

平成18年度　知能機械工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
学部導入科目	基礎教育		数学基礎	1	※1								履修不可								硲　文夫・佐藤　定夫　他	
			物理学基礎	1	※1																木下　彬・井上　真　他	
			化学基礎	1	※1																野村　浩康・小川　英生　他	
	入門		理工学入門	2	1	1															゜勝　忠義	
共通基幹科目	数学	B3	基礎微積分学A	2	※5																硲　文夫・佐藤　定夫　他	
		B3	基礎微積分学B	2			1	1													佐藤　定夫・仲光　邦昭　他	
		B1	基礎線形代数学A	2	※3																硲　文夫・佐藤　定夫　他	
		B2	基礎線形代数学B	2			1	1													硲　文夫・佐藤　定夫　他	
	物理学	B2	物理学A	2	※5																井上　真・本橋　章　他	
		B2	物理学B	2			1	1													木下　彬・井上　真　他	40400
		B1	物理学実験	2	※4																本橋　章・井上　真　他	
	化学	B2	化学A	2	※5																野村　浩康・岡本　博司　他	
		B2	化学B	2			1	1													岡本　博司・小川　英生　他	
		B2	化学実験	2	※4																野村　浩康・岡本　博司　他	
	生物	B2	生物科学	2			1	1													栗山　昭	
学部共通科目	自然科学	B2	量子物理学	2							1	1										
		B2	環境科学	2	※3																岡本　博司・小川　英生　他	
		B2	材料化学	2							1	1										

※1　1/4期2コマ（但し、前前・前後期開講）

※2　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し後期開講）

※3　半期1コマ（但し、前・後期開講）

※4　半期2コマ（但し、前・後期開講）

※5　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し前・後期開講）

授業科目配当表

平成18年度 電子情報工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
学部導入科目	基礎教育		数学基礎	1	※1								履修不可								裕 文夫・佐藤 定夫 他	
			物理学基礎	1	※1																木下 彬・井上 真 他	
			化学基礎	1	※1																野村 浩康・小川 英生 他	
	入門		理工学入門	2	1	1															勝 忠義	
共通基幹科目	数学	B2	基礎微積分学A	2	※5																裕 文夫・佐藤 定夫 他	
		B2	基礎微積分学B	2			1	1													佐藤 定夫・仲光 邦昭 他	
		B2	基礎線形代数学A	2	※3																裕 文夫・佐藤 定夫 他	
		B2	基礎線形代数学B	2			1	1													裕 文夫・佐藤 定夫 他	
	物理学	B2	物理学A	2	※5																井上 真・本橋 章 他	
		B2	物理学B	2			1	1													木下 彬・井上 真 他	40400
		B2	物理学実験	2	※4																本橋 章・井上 真 他	
	化学	B2	化学A	2	※5																野村 浩康・岡本 博司 他	
		B2	化学B	2			1	1													岡本 博司・小川 英生 他	
		B2	化学実験	2	※4																野村 浩康・岡本 博司 他	
	生物	B1	生物科学	2			1	1													栗山 昭	
学部共通科目	自然科学	B2	量子物理学	2							1	1										
		B1	環境科学	2	※3																岡本 博司・小川 英生 他	
		B1	材料化学	2							1	1										

※1 1/4期2コマ(但し、前前・前後期開講)

※2 1/4期2コマ(但し、前後期開講)または半期1コマ(但し後期開講)

※3 半期1コマ(但し、前・後期開講)

※4 半期2コマ(但し、前・後期開講)

※5 1/4期2コマ(但し、前後期開講)または半期1コマ(但し前・後期開講)

授業科目配当表

平成18年度 生命工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数																担当教員及び備考	教職コード
					1年				2年				3年				4年					
					前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
学部導入科目	基礎教育		数学基礎	1	※1												履修不可				裕　文夫・佐藤　定夫　他	
			物理学基礎	1	※1																木下　彬・井上　真　他	
			化学基礎	1	※1																野村　浩康・小川　英生　他	
	入門		理工学入門	2	1	1															°勝　忠義	
共通基幹科目	数学	B1	基礎微積分学A	2			※5														裕　文夫・佐藤　定夫　他	
		B1	基礎微積分学B	2					1	1											佐藤　定夫・仲光　邦昭　他	
		B1	基礎線形代数学A	2			※3														裕　文夫・佐藤　定夫　他	
		B1	基礎線形代数学B	2					1	1											裕　文夫・佐藤　定夫　他	
	物理学	B1	物理学A	2			※5														井上　真・本橋　章　他	30100
		B1	物理学B	2					1	1											木下　彬・井上　真　他	
		B2	物理学実験	2			※4														本橋　章・井上　真　他	30200
	化学	B1	化学A	2			※5														野村　浩康・岡本　博司　他	30300
		B1	化学B	2					1	1											岡本　博司・小川　英生　他	30300
		B2	化学実験	2			※4														野村　浩康・岡本　博司　他	30400
	生物	B1	生物科学	2					1	1											栗山　昭	30500
学部共通科目	自然科学	B1	量子物理学	2							1	1										30100
		B1	環境科学	2			※3														岡本　博司・小川　英生　他	30700
		B1	材料化学	2							1	1										30300

※1　1/4期2コマ（但し、前前・前後期開講）

※2　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し後期開講）

※3　半期1コマ（但し、前・後期開講）

※4　半期2コマ（但し、前・後期開講）

※5　1/4期2コマ（但し、前後期開講）または半期1コマ（但し前・後期開講）

授業科目配当表

平成18年度 情報社会学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
学部導入科目	基礎教育		数学基礎	1	※1								履修不可								裕 文夫・佐藤 定夫 他	
			物理学基礎	1	※1																木下 彬・井上 真 他	
			化学基礎	1	※1																野村 浩康・小川 英生 他	
	入門		理工学入門	2	1	1															゜勝 忠義	
共通基幹科目	数学		基礎微積分学A	2	※5																裕 文夫・佐藤 定夫 他	
			基礎微積分学B	2			1	1													佐藤 定夫・仲光 邦昭 他	
			基礎線形代数学A	2	※3																裕 文夫・佐藤 定夫 他	
			基礎線形代数学B	2			1	1													裕 文夫・佐藤 定夫 他	
	物理学		物理学A	2	※5																井上 真・本橋 章 他	
			物理学B	2			1	1													木下 彬・井上 真 他	
			物理学実験	2	※4																本橋 章・井上 真 他	
	化学		化学A	2	※5																野村 浩康・岡本 博司 他	
			化学B	2			1	1													岡本 博司・小川 英生 他	
			化学実験	2	※4																野村 浩康・岡本 博司 他	
	生物		生物科学	2			1	1													栗山 昭	
学部共通科目	自然科学		量子物理学	2							1	1										
			環境科学	2	※3																岡本 博司・小川 英生 他	
			材料化学	2							1	1										

※1 1/4期2コマ(但し、前前・前後期開講)

※2 1/4期2コマ(但し、前後期開講)または半期1コマ(但し後期開講)

※3 半期1コマ(但し、前・後期開講)

※4 半期2コマ(但し、前・後期開講)

※5 1/4期2コマ(但し、前後期開講)または半期1コマ(但し前・後期開講)

専門教育科目

数　理　科　学　科

(Department of Mathematical Sciences)

数理科学科履修モデル

１．卒業所要単位

卒業するには4年間で124単位以上を取得する必要があります。そのうち人間形成科目群（教養文化科目、総合文化科目）より14単位以上、英語科目群より６単位以上取得する必要があります。しかし３年次から４年次への進級条件として、英語科目から６単位以上とコンピュータリテラシーの２単位を取得する必要があります。したがって、実際卒業するには英語科目群から６単位、コンピュータリテラシーは必ず取得しなければいけません。また、専門科目群・学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群より84単位以上取得する必要があります。残りの124－(14＋６＋２＋84)＝18単位（以上）はどの科目群から取得しても構いません。例えば、人間形成科目群の教養文化科目より８単位、総合文化科目から４単位、専門科目群から10単位（合計22単位）のような履修が考えられます。

このように、選択が各自の判断に任される科目を自主選択科目と言います。

［数理科学科ではコンピュータリテラシー（２単位）を選択必修科目としているため、P66に書かれた履修基準（卒業所要単位の表）と２単位分の差が生じますので注意して下さい。］

２．専門科目等の履修について

必修科目：必修科目とは、必ず取得しなければいけない科目で、１科目でも必修科目の単位が取得できていなければ、他の科目の単位をいくら取得していても卒業できません。数理科学科では18科目（48単位）の専門科目が必修となっています。そのうち３年次の輪講（４単位）と４年次の卒業研究Ⅰ（３単位）、卒業研究Ⅱ（３単位）は、少人数のゼミ形式で行われるものであり、残りの38単位は講義または演習科目です。

選択科目：必修でない科目を選択科目と言います。数理科学科の専門科目群には46科目（91単位）の選択科目があります（ただし、履修不可の科目を除く）。84単位を専門科目群・学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群から取得する必要がありますが、必修科目を除いた残りの単位数は84－48＝36です。もし仮に、自主選択の18単位をすべてこれらの科目群から選択したとしても全部で36＋18＝54単位です。この単位数は、開講されている専門科目群内の選択科目（91単位）と学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群の科目の総単位数と比べるとかなり少なく、皆さんの選択の自由度は大きいといえます。それゆえ、各自の興味、得意・不得意、将来の希望等に沿った実効的な選択が望まれます。

３．履修に関するその他の注意

コンピュータリテラシー： リテラシー科目群の「コンピュータリテラシー」は選択科目となっていますが、３年次終了までにその単位を取得することが、４年次に進級する為の必要条件ですから、実質的には専門科目群内の必修科目と同じと考え下さい。

情報と職業：数理科学科ではこの科目の履修は３、４年次生に限ります。この科目については、次のどちらか一方の方法で単位取得ができます。（ｉ）他の科目のように時間割上の「情報と職業」を履修して単位取得する、（ii）「インターンシップ」（次の説明を参照）の２単位を取得して、この科目の単位取得に振り替える。

インターンシップ：数理科学科ではこの科目の履修は３、４年次生に限ります。また、履修上限単位数には含まれません。しかし、取得単位は２単位までです。たとえ「インターンシップ」の単位を「情報と職業」の単位に振り替えた場合でも新たな「インターンシップ」の単位は取得できません。

取得した学年・学期により、該当する科目名を当てはめます。

排他条件： 科目配当表の共通基幹科目群に「基礎微分積分学Ａ，Ｂ」および「基礎線形代数学Ａ，Ｂ」、学部導入科目に「数学基礎」がありますが、これらの科目の履修は１年から４年のどの年次においても認めません。数理科学科の場合、微分積分（すなわち解析学）および線形代数関連の科目は全て専門科目群より履修することになっています。また、学部導入科目の「物理学基礎」、「化学基礎」の３、４年次での履修は認めません。「情報と職業」、「インターンシップ」については１、２年次の履修も認めません。

他学部・他学科履修： 工学部第一部、第二部、および理工学部の他学科に配当されている授業科目のうちで、自分の学年次以下に配当されている授業科目の履修が認められ、卒業所要単位数として60単位まで算入することができます。ただし、他学部・他学科科目の履修をするには、前もって担当教員の許可が必要です。なお、数理科学科の学生が他学部・他学科履修を希望するときは、その時点以前に配当されている数理科学科の全ての必修科目のうち単位数にして80％以上を取得していなければいけません。その条件がみたされている場合のみ、他学部・他学科履修を許可します。

４．専門科目の指導的履修コース

次のページに数理科学科が開講している専門科目群の科目のうち１年次の「数学序論」、３年次の「輪講」と４年次の「卒業研究」を除いた全ての科目を載せています。科目は開講されている学年ごとに４つに分けてあります。□で囲まれた科目は必修科目を表し、それ以外は選択科目です。また、２つの科目（例えばＡ，Ｂ）のあいだの矢印Ａ→Ｂは、ＢがＡよりも上級年次に配当されている場合は、「科目Ｂの履修を希望する学生は科目Ａを履修しておくことが望ましい」ことを意味します。科目Ａ，Ｂが同学年に配当されている場合、「科目Ｂを履修する学生は、同時に科目Ａを履修することが望ましい」を意味します。

この表はかなり複雑ですが、１年次の科目は必修科目が中心で、あまり選択の自由度が無く、2年次あたりから徐々に自由度が出てくるのが理解できると思います。

皆さんは、どの様な履修が自分に向いているか決める必要があります。

１年次に開講されている専門科目を受講している間に自然と選択するコースが分かって来ると思いますが、次の１～３も実行して下さい。

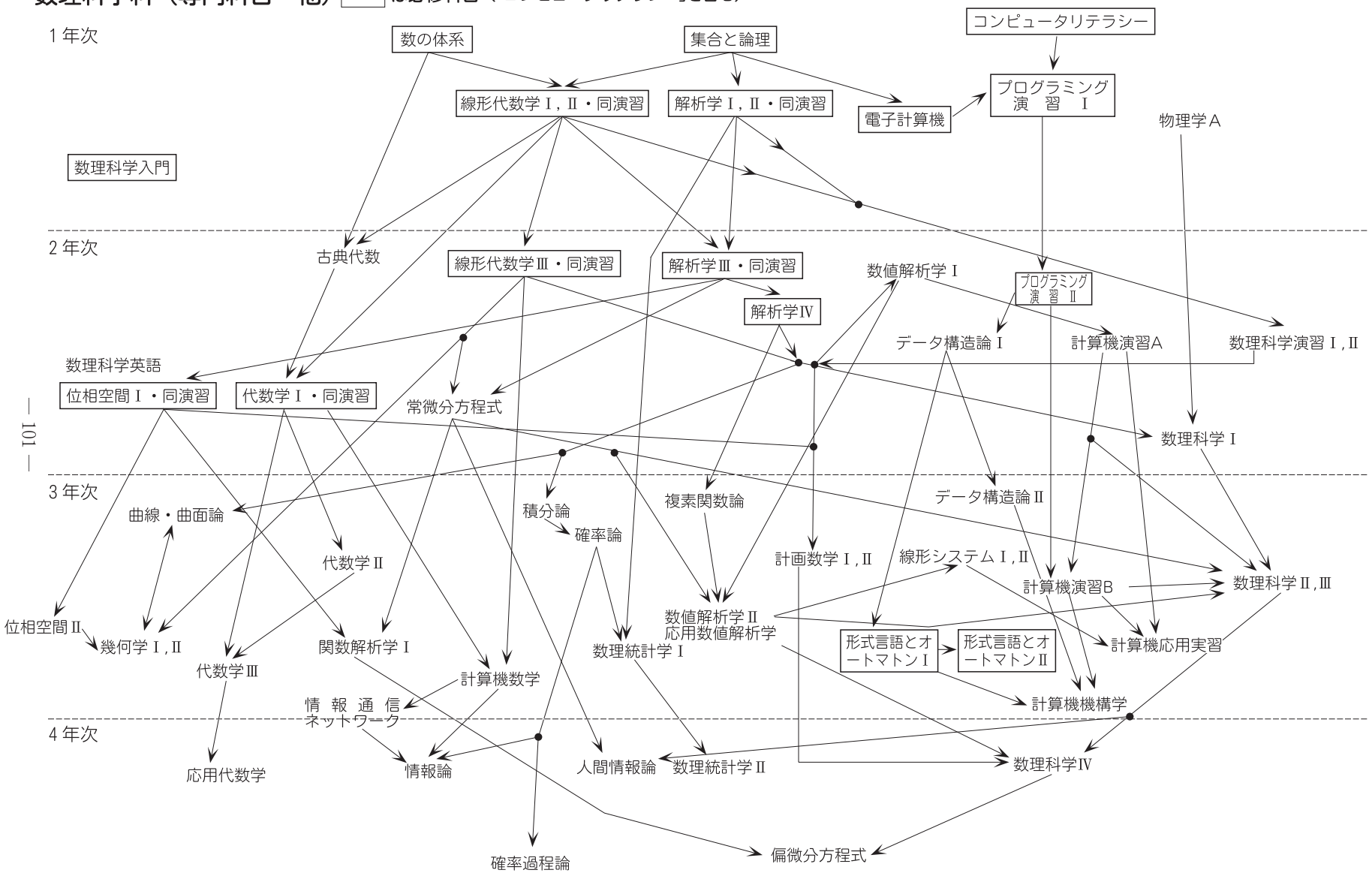
１．ホームページ上のオンラインシラバスには全科目の授業内容や授業方針についての解説がありますので、履修の前に読んでおいて下さい。

２．１年次後期に開講されている必修科目「数理科学入門」では、数理科学科の各教員が交代で1回ずつ、各自の専門分野について分かりやすく紹介するので、欠かさず受講して自分の勉学の方向づけに役立てて下さい。

３．数理科学科の教員、1年次の担任教員、または上級年次生に直接相談することも有意義です。

４．２年次配当科目の「数理科学英語」は２年次生のみが履修出来る科目です。この科目は数理科学に関する英文のテキストを用いて学生の発表を主体とするゼミ形式で行われます。専門に関する英文の読解力を養うことは進路に関わらず将来において役立ちます。また、「数理科学英語」の成績は、３年次配当科目「輪講」及び、４年次配当科目「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」の研究室配属を決めるときに、担当教員により参考にされます。そのため、「数理科学英語」は選択科目ですが、履修及び単位取得することを強く勧めます。

数理科学科（専門科目・他） □ は必修科目（「コンピュータリテラシー」を含む）



数理科学科履修計画の例（人間形成科目群、英語科目群、教職科目を除く）

以下の履修計画は、皆さんの興味の中心がどこにあるかによって作った専門科目の履修計画の例を示したものです。この通り履修する必要はありませんが、皆さんが自分なりのメニューを作るときに参考にして下さい。ただし、この例では履修した科目全ての単位取得を前提としていますから、実際には多少余裕を見て履修科目数を増やした方がいいでしょう。

	数学中心(特に代数)	コンピュータ中心	数理科学中心
1年	必修*24単位	必修*24単位	必修*24単位 物理学A 化学A
2年	必修16単位 古典代数 常微分方程式 数理科学演習Ⅰ，Ⅱ データ構造論Ⅰ 数値解析学Ⅰ 計算機演習A 数理科学Ⅰ 数理科学英語	必修16単位 常微分方程式 古典代数 数理科学演習Ⅰ，Ⅱ データ構造論Ⅰ 数値解析学Ⅰ 計算機演習A 数理科学Ⅰ 数理科学英語	必修16単位 数理科学演習Ⅰ，Ⅱ データ構造論Ⅰ 計算機演習A 数値解析学Ⅰ 数理科学Ⅰ 数理科学英語
3年	必修4単位 代数学Ⅱ，Ⅲ 幾何学Ⅰ，Ⅱ 曲線・曲面論 位相空間Ⅱ 複素関数論 積分論　関数解析学Ⅰ 確率論 数理科学Ⅱ 計画数学Ⅰ 数理統計学Ⅰ	必修4単位 複素関数論 データ構造論Ⅱ 形式言語とオートマトンⅠ，Ⅱ 計算機演習B 計算機応用演習 計算機数学 計算機機構学 線形システムⅠ 数理統計学Ⅰ 計画数学Ⅰ　数理科学Ⅱ 情報通信ネットワーク 曲線・曲面論 数値解析学Ⅱ	必修4単位 複素関数論 常微分方程式 数理科学Ⅱ，Ⅲ 計画数学Ⅰ，Ⅱ 確率論 線形システムⅠ，Ⅱ 計算機演習B 数理統計学Ⅰ 数値解析学Ⅱ
4年	必修6単位 応用代数学 偏微分方程式 確率過程論	必修6単位 情報論 人間情報論	必修6単位 応用数値解析学 偏微分方程式 数理統計学Ⅱ 数理科学Ⅳ
単位数計	必修*：　50単位 選択　：　50単位 計　　：100単位	必修*：　50単位 選択　：　52単位 計　　：102単位	必修*：　50単位 選択　：　50単位 計　　：100単位

*「コンピュータリテラシー」を含む

数理科学科

平成18年度1年次在籍者　進級条件

［1年次から2年次への進級条件］

1年次に配当されている授業科目のうち、32単位以上を取得すること。

［3年次から4年次への進級条件］

科目群	コード	進　級　条　件
人間形成科目群	H	人間形成科目群から10単位以上取得のこと。
英語科目群	E	英語科目群から6単位以上取得のこと。
リテラシー科目群	LC	コンピュータリテラシー分野から2単位を取得のこと。
専門科目群	Q1	次の9科目26単位から8科目23単位以上取得のこと。 線形代数学Ⅰ・同演習③　線形代数学Ⅱ・同演習③ 線形代数学Ⅲ・同演習③　代数学Ⅰ・同演習③　位相空間Ⅰ・同演習③ 解析学Ⅰ・同演習③　解析学Ⅱ・同演習③　解析学Ⅲ・同演習③ 解析学Ⅳ②
	Q2	次の6科目12単位から、5科目10単位以上取得のこと。 集合と論理②　数理科学入門②　数の体系②　電子計算機② プログラミング演習Ⅰ②　プログラミング演習Ⅱ②
	R1	3年次までに配当されているそれぞれの科目群（R1およびB1）から、合計34単位以上取得のこと。但し、R1から28単位以上取得すること。
学部共通科目群 共通基幹科目群	B1	
総取得単位数が　95　単位以上であること。		

授業科目配当表

平成18年度 数理科学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数																担当教員及び備考	教職コード
						1年				2年				3年				4年					
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
専門科目	ベース科目	Q2	集合と論理	2		1	1															山形 周二	
		Q2	数理科学入門	2				1	1													古東 馨 他	
		Q2	数の体系	2		1	1															中野 哲夫	
		R1	古典代数		2					1	1												
			数学序論		2	1	1			履修不可												荒牧 淳一	
		R1	数理科学英語		2							1	1	履修不可									
	代数	Q1	線形代数学Ⅰ・同演習	3		2	2															山形 周二 他	20100
		Q1	線形代数学Ⅱ・同演習	3				2	2													山形 周二 他	20100
		Q1	線形代数学Ⅲ・同演習	3						2	2												20100
		Q1	代数学Ⅰ・同演習	3								2	2										20100
		R1	代数学Ⅱ		2									1	1								20100
		R1	代数学Ⅲ		2											1	1						20100
			応用代数学		2															1	1		20100
	幾何	Q1	位相空間Ⅰ・同演習	3								2	2										20200
		R1	位相空間Ⅱ		2									1	1								20200
		R1	幾何学Ⅰ		2									1	1								20200
		R1	幾何学Ⅱ		2											1	1						20200
		R1	曲線・曲面論		2									1	1								20200
	解析	Q1	解析学Ⅰ・同演習	3		2	2															宮地 秀樹 他	20300
		Q1	解析学Ⅱ・同演習	3				2	2													宮地 秀樹 他	20300
		Q1	解析学Ⅲ・同演習	3						2	2												20300
		Q1	解析学Ⅳ	2								1	1										20300
		R1	積分論		2									1	1								20300
		R1	複素関数論		2									1	1								20300
		R1	常微分方程式		2							1	1										20300
		R1	関数解析学Ⅰ		2											1	1						20300
			偏微分方程式		2															1	1		20300
	確率統計	R1	確率論		2									1	1								20400
		R1	数理統計学Ⅰ		2											1	1						20400
			情報論		2													1	1				60400
			数理統計学Ⅱ		2													1	1				20400
			確率過程論		2															1	1		20400
	数理科学	R1	数理科学Ⅰ		2							1	1										20300
		R1	数理科学Ⅱ		2									1	1								20300
		R1	数理科学Ⅲ		2											1	1						20300
			数理科学Ⅳ		2													1	1				20300
		R1	数理科学演習Ⅰ		2					1	1												20300
		R1	数理科学演習Ⅱ		2							1	1										20300
		R1	数値解析学Ⅰ		2					1	1												60200
		R1	数値解析学Ⅱ		2											1	1						60200
		R1	応用数値解析学		2									1	1								20300
		R1	計画数学Ⅰ		2									1	1								20300
		R1	計画数学Ⅱ		2											1	1						20300
		R1	線形システムⅠ		2									1	1								60200
		R1	線形システムⅡ		2											1	1						60200
			人間情報論		2													1	1				60500
	計算機	Q2	電子計算機	2		1	1															片岡 一夫	60200
		R1	データ構造論Ⅰ		2							1	1										20500
		R1	データ構造論Ⅱ		2									1	1								60300

※ 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成18年度 数理科学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目	計算機	R1	形式言語とオートマトンⅠ		2									1	1								20500
		R1	形式言語とオートマトンⅡ		2											1	1						60200
		R1	計算機数学		2											1	1						20500
		R1	計算機機構学		2									1	1								60300
		R1	情報通信ネットワーク		2											1	1						60400
		Q2	プログラミング演習Ⅰ	2				1	1													陳　致中 他	60200
		Q2	プログラミング演習Ⅱ	2						1	1												60200
		R1	計算機演習A		2							1	1										20500
		R1	計算機演習B		2									1	1								60500
		R1	計算機応用演習		2											1	1						60500
	卒研等	R1	情報と職業入門		1	1／4期1コマ																中山　洋　集中講義	60600
		R1	情報と職業		2	履修不可								後期1コマ								※1	60600
		R1	インターンシップA		2	履修不可																	
		R1	インターンシップB		2	履修不可																	
		R1	インターンシップC		2	履修不可																	
		R1	インターンシップD		2	履修不可																	
		R1	インターンシップE		2									1	1							※2　集中講義	
		R1	インターンシップF		2											1	1					※2　集中講義	
			インターンシップG		2													1	1			※2　集中講義	
			インターンシップH		2															1	1	※2　集中講義	
			輪講	4										1	1	1	1						
			卒業研究Ⅰ	3														3	3				
			卒業研究Ⅱ	3																3	3		
			卒業研究Ⅰ	3												3	3					3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			卒業研究Ⅱ	3														3	3				

※1 「情報と職業」はインターンシップの科目と振替可能。「インターンシップE～H」と合せて上限2単位。

※2 「情報と職業」と合せて上限2単位。

※3 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

専門教育科目

情　報　科　学　科

(Department of Information Sciences)

情報科学科の履修モデル

1．情報科学科カリキュラムの概要

情報科学科の専門科目は、後の「授業科目配当表」にのせられています。専門科目は、「情報科学基礎」、「情報数理」、「システム情報」、「計算機」、「専門共通」、および「その他」の各科目群に分類されています。またこの表で、特に各科目の必修・選択の区別と単位、進級条件に関わるコード（Ｐコード、Ｒコードなど）、配当時期、を注意してみて下さい。また各科目間のつながりや専門分野、４年生で所属する研究室との関係は後の表や図として示しています。各科目の講義内容はオンラインシラバスを参照して下さい。

2．進級・卒業条件

情報科学科では、１年、２年、３年の各学年で進級の条件を定め進級判定します。この条件は後のページに示され、一方、卒業条件は本書の第２章「学修活動について」の「履修基準」や「卒業」で説明されています。

- **３年次までの進級**：１年次から２年次、および２年次から３年次、への進級の条件は単位数のみの条件になっています。これらの条件は、４年間で卒業できるための最低限の数値に設定されています。

- **４年次への進級**：３年次から４年次への進級には、様々な条件をみたしていることが必要です。特に専門科目群ではＰコード（必修科目）やＲコード（専門選択科目）の条件をすべてみたしている必要があることに注意して下さい。

- **卒業条件**：単位数でみれば、「人間形成科目群」、「英語科目群」、「専門教育科目群」、「自主選択科目群」、の各科目群からそれぞれ所定の単位数以上（第２章に記載）、かつ合計124単位以上が必要です。その他の条件もあるので注意して下さい。

3．履修ガイド

各進級条件や卒業条件において、１つでも条件がみたされないと（例えば１単位でも不足

すると）進級や卒業ができないことを肝に銘じて履修して下さい。

・**各学年での単位数の目安**：４年次では卒業研究（６単位）と就職や進学の活動が中心となります。従って、卒業に必要な単位数124単位から考えて、各学年で取得すべき単位数として、１年次40単位＋２年次40単位＋３年次40単位＋４年次卒業研究６単位＝126単位、を一つの目安と考えて履修して下さい。

・**数学と情報、コンピュータの基礎**：基礎科目の多くは、科目配当表の「情報科学基礎」科目群の中に主に低学年次科目として配当されています。必修科目（Ｐコード）はもちろん、それ以外の科目もできるだけ履修し、基礎をしっかりと身につけて各専門の科目に進んで下さい。

・**演習・実習科目**：解析学Ⅰ・同演習や線形代数学Ⅰ・同演習のような科目での演習は、主にその講義内容の理解を深めることが目的です。一方、単独の演習、実習科目もあり、できる限り履修することを勧めます。例えば「情報科学演習ＩＡ、ＩＢ、ⅡＡ、ⅡＢ」では、情報科学の学問分野からの課題を題材として計算機やプログラミングに慣れ親しみ、また自発的に問題解決に取り組むことをめざして設けられています。

・**インターンシップ**：３年次に配当されている「インターンシップE・F」を履修するためには、事前に「情報と職業入門」を履修する必要があります。（くわしくは第２章「履修申告」を参照してください）。しかし、インターンシップを受け入れる企業側の日程は限られていますので、３年次に２つの科目を同時に履修することが困難な場合もあります。このため、「情報と職業入門」は１・２年次のうちに履修しておくことを勧めます。

・**専門分野の選択**：情報科学科では、３つの専門分野「情報数理」、「システム情報」、「計算機」があり、科目配当表に見られるように各分野の科目はそれぞれの科目群として分類され主に２年次以降に配当されています。この３つの分野のうちの１つを自分の主たる分野、その他を二次的な分野と考えて科目履修し、自分の希望する卒業研究の研究室へと進んで下さい。なお、研究室の内容は、パンフレットや各研究室のホームページを参照して下さい。

4．資格の取得等

- **教員免許**：情報科学科では「数学」や「情報」の教員免許を取得することができます。詳しくは本書の第 3 章「教職課程」のページを参照して下さい。

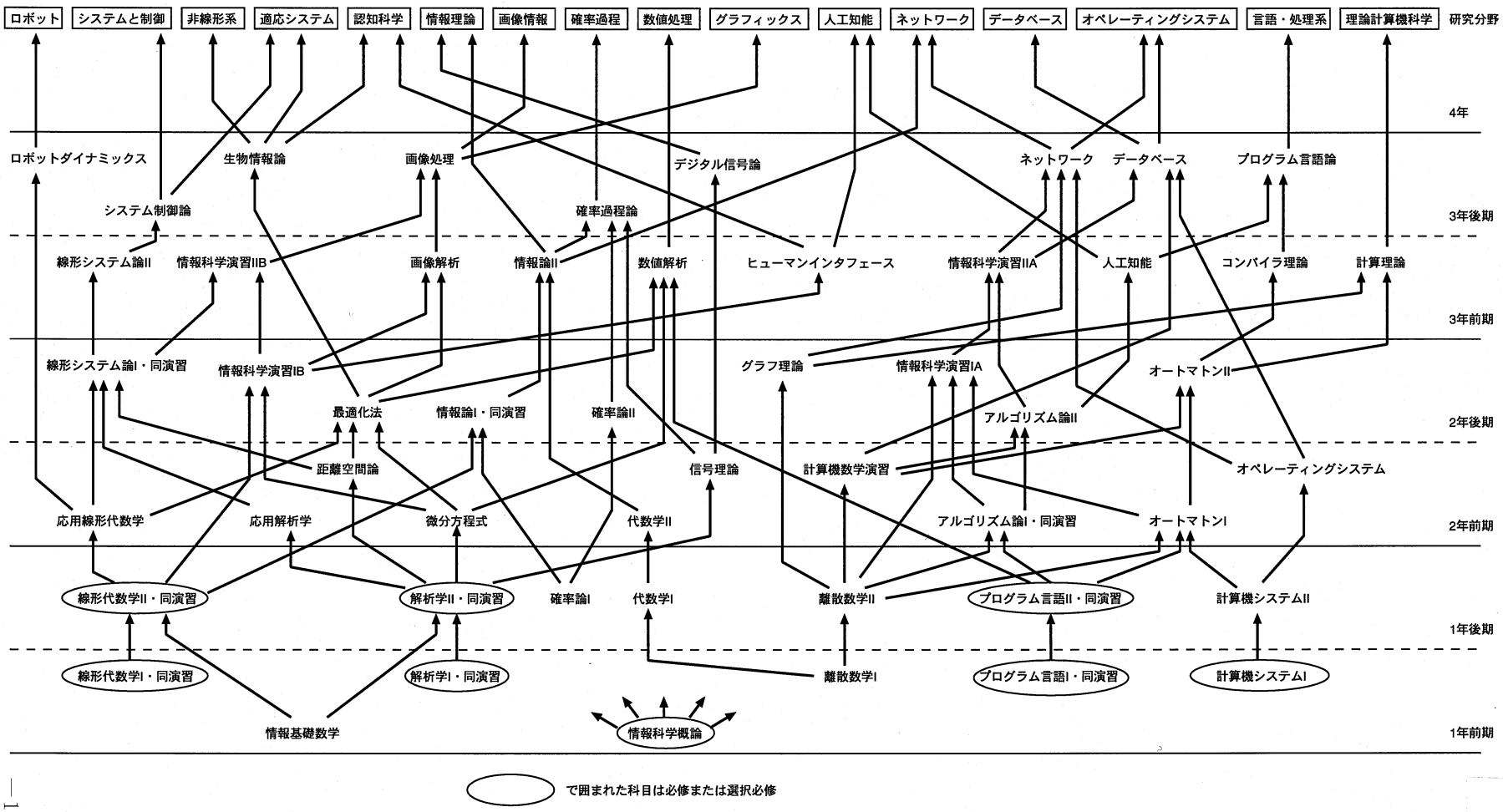
- **情報関係の資格**：情報関連企業の多くでは、「基本情報技術者」、「ソフトウエア開発技術者」等の資格取得を奨励しています。在学中にできるだけこのような資格試験に挑戦することを勧めます。
- **英語**：ＴＯＥＩＣの受験は、英語基幹科目の単位取得に必要な条件となっています。しかし、ＴＯＥＩＣは単位のためだけにあるものではなく、就職活動の際に評価対象となることが多く、また就職後の昇進などにも影響します。情報分野でも、新技術を積極的に自分のものにするためには、英語力は必須です。

  この鳩山キャンパスでは、ＴＯＥＩＣの試験が定期的に実施されています。定期的に受験し、スコアを着実に伸ばすよう努めて下さい。

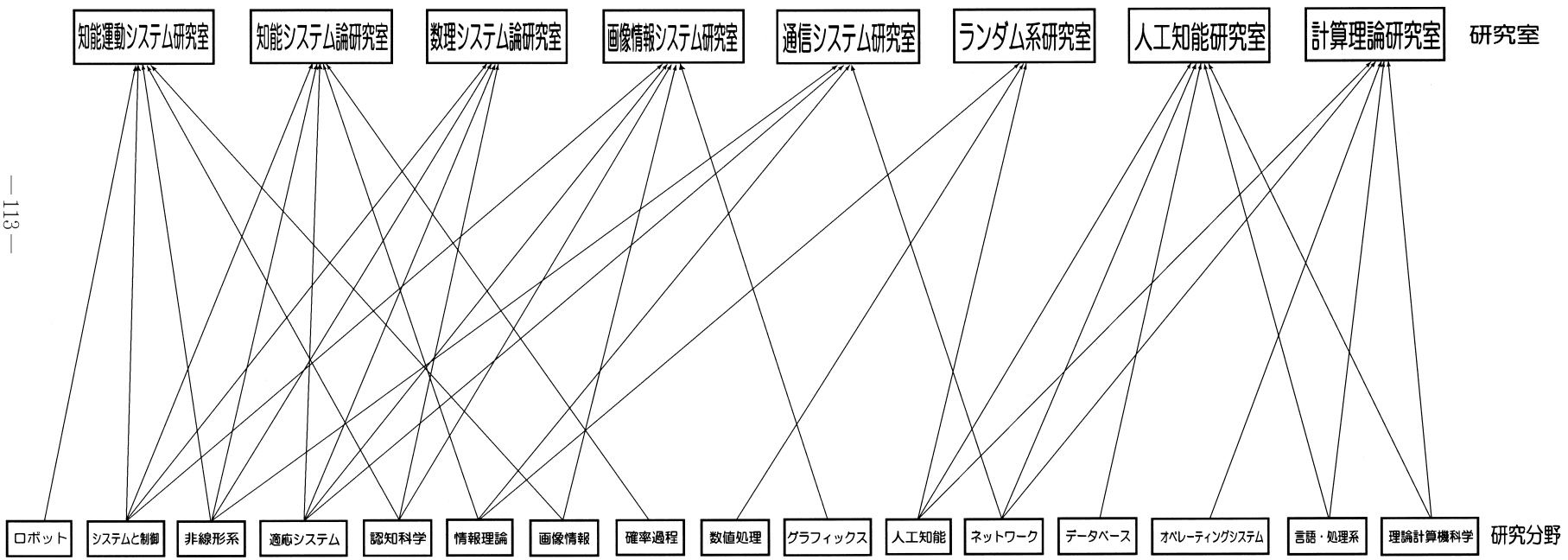
5．大学院への進学

情報技術はますます発展しており、より高度な専門性をもった人材が求められています。情報科学科の上には大学院修士課程「情報科学専攻」が設置されていますので、できるだけ大学院への進学も視野に入れて履修することを勧めます（本書の第 7 章「大学院」のページ参照）。

情報科学科における科目と研究分野の関連図



情報科学科における研究分野と研究室の対応



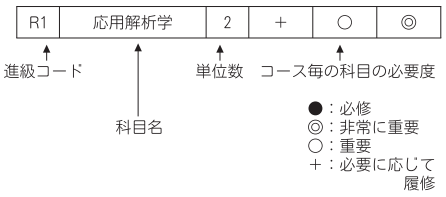
情報科学科履修モデル

コード	科　目　名	単位数	計 算 機	システム情報	情報数理
P	線形代数学Ⅰ・同演習	3	●	●	●
P	線形代数学Ⅱ・同演習	3	●	●	●
P	解析学Ⅰ・同演習	3	●	●	●
P	解析学Ⅱ・同演習	3	●	●	●
P	プログラム言語Ⅰ・同演習	3	●	●	●
P	プログラム言語Ⅱ・同演習	3	●	●	●
P	情報科学概論	2	●	●	●
P	計算機システムⅠ	2	●	●	●
R1	計算機システムⅡ	2	◎	＋	＋
R4	離散数学Ⅰ	2	◎	○	◎
R4	離散数学Ⅱ	2	◎	◎	◎
R4	確率論Ⅰ	2	○	◎	◎
R4	代数学Ⅰ	2	◎	◎	◎
	情報基礎数学	2	＋	＋	＋
	1年次　小計	34			
R1	情報論Ⅰ・同演習	3	◎	◎	◎
R1	オペレーティングシステム	2	◎	＋	＋
R1	代数学Ⅱ	2	○	○	◎
R1	確率論Ⅱ	2	＋	◎	◎
R1	グラフ理論	2	◎	＋	◎
R1	応用解析学	2	＋	○	◎
R2	オートマトンⅠ	2	◎	○	○
R2	オートマトンⅡ	2	◎	○	○
R2	アルゴリズム論Ⅰ・同演習	3	◎	◎	◎
R2	アルゴリズム論Ⅱ	2	◎	○	＋
R2	計算機数学演習	2	◎	◎	◎
R3	線形システム論Ⅰ・同演習	3	○	◎	◎
R3	応用線形代数学	2	○	◎	◎
R3	信号理論	2	○	◎	○
R3	最適化法	2	○	◎	◎
R4	微分方程式	2	＋	○	◎
R4	距離空間論	2	◎	◎	◎
R1	情報科学演習ⅠA／ⅠB	2	◎	◎	◎
	2年次　小計	39			
P	輪講	4	●	●	●
R1	プログラム言語論	2	◎	＋	＋
R1	コンパイラ理論	2	◎	＋	＋
R1	計算理論	2	◎	＋	○
R1	人工知能	2	◎	＋	＋
R1	ネットワーク	2	◎	＋	○
R1	情報論Ⅱ	2	＋	○	◎
R1	画像解析	2	＋	◎	○
R1	ロボットダイナミックス	2	＋	○	＋
R1	生物情報論	2	＋	○	＋
R1	システム制御論	2	＋	◎	＋
R1	画像処理	2	○	○	＋
R1	ヒューマンインタフェース	2	○	○	＋
R1	確率過程論	2	＋	○	◎
R1	数値解析	2	○	◎	◎
R1	情報科学演習ⅡA／ⅡB	2	◎	◎	◎
R2	データベース	2	◎	＋	＋
R3	線形システム論Ⅱ	2	＋	◎	＋
R3	デジタル信号論	2	＋	◎	＋
	3年次　小計	40			
	卒業研究Ⅰ	3	●	●	●
	卒業研究Ⅱ	3	●	●	●
	情報科学	2	◎	◎	◎
	4年次　小計	8			

専門科目履修に際しての注意：

- どのコースに進んでもよいように、1・2年次では広い範囲で選択するのがよい。
- 必修科目は配当年度で確実に単位取得するよう、特に心掛けること。
- 3年次は進級条件に留意しつつ、自分の希望コースにある程度絞って選択する。
- 履修単位の上限に注意し、履修科目の放棄や不可がなるべくないようにすること。

表の見方：



情報科学科

平成18年度1年次在籍者　**進級条件**

[1年次から2年次への進級条件]

1年次に配当されている授業科目のうち、30単位以上を取得すること。

[2年次から3年次への進級条件]

2年次までに配当されている授業科目のうち、64単位以上を取得すること。

[3年次から4年次への進級条件]

<table>
<tr><th>科目群</th><th colspan="2">コード</th><th>進　級　条　件</th></tr>
<tr><td>人間形成　科目群</td><td colspan="2">H</td><td>人間形成科目群から10単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td>英語　科目群</td><td colspan="2">E</td><td>英語科目群から6単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専門科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群</td><td colspan="2">P</td><td>3年次までに配当されている専門必修科目9科目26単位を全て取得のこと。</td></tr>
<tr><td colspan="2">R1・B1</td><td>3年次までに配当されている科目群（R1・B1）から、50単位以上取得のこと。
但し、専門科目群（R1・R2・R3・R4）から44単位以上を取得し、かつ以下の条件を満たすこと。</td></tr>
<tr><td></td><td>R2</td><td>次の科目から4単位以上取得のこと。
オートマトンⅠ②　オートマトンⅡ②
アルゴリズム論Ⅰ・同演習③　アルゴリズム論Ⅱ②
計算機数学演習②　データベース②</td></tr>
<tr><td></td><td>R3</td><td>次の科目から4単位以上取得のこと。
応用線形代数学②　線形システム論Ⅰ・同演習③　線形システム論Ⅱ②
信号理論②　最適化法②　デジタル信号論②</td></tr>
<tr><td></td><td>R4</td><td>次の科目から4単位以上取得のこと。
離散数学Ⅰ②　離散数学Ⅱ②　確率論Ⅰ②　代数学Ⅰ②
距離空間論②　微分方程式②</td></tr>
<tr><td colspan="4">総取得単位数が　96　単位以上であること。</td></tr>
</table>

授業科目配当表

平成18年度 情報科学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目	情報科学基礎		情報基礎数学		2	1	1			履修不可												狩野 弘之 他	
		P	線形代数学Ⅰ・同演習	3		2	2															内門 茂 他	20100
		P	線形代数学Ⅱ・同演習	3				2	2													内門 茂 他	20100
		P	解析学Ⅰ・同演習	3		2	2															大塚 尚久 他	20300
		P	解析学Ⅱ・同演習	3				2	2													大塚 尚久 他	20300
		P	プログラム言語Ⅰ・同演習	3		2	2															藤本 衡 他	60200
		P	プログラム言語Ⅱ・同演習	3				2	2													浅野 泰仁 他	20500
		P	計算機システムⅠ	2		1	1															浅野 泰仁	60200
		R1	計算機システムⅡ		2			1	1													浅野 泰仁	60300
		R4	離散数学Ⅰ		2	1	1															〝近谷 英昭	
		R4	離散数学Ⅱ		2			1	1													〝近谷 英昭	20100
		R4	確率論Ⅰ		2			1	1													藤本 衡	20400
		R4	代数学Ⅰ		2			1	1													硲 文夫	20100
		R1	情報論Ⅰ・同演習		3							2	2										60400
		R1	代数学Ⅱ		2					1	1												20100
		R1	応用解析学		2					1	1												20300
		R3	応用線形代数学		2					1	1												20100
		R4	微分方程式		2					1	1												20300
		R4	距離空間論		2					1	1												20200
	情報数理	R1	グラフ理論		2							1	1										20200
		R1	確率論Ⅱ		2							1	1										20400
		R1	数値解析		2									1	1								20300
		R1	情報論Ⅱ		2									1	1								60400
		R1	確率過程論		2											1	1						20400
		R1	ネットワーク		2											1	1						60400
	システム情報	R3	信号理論		2							1	1										20400
		R3	最適化法		2							1	1										20200
		R3	線形システム論Ⅰ・同演習		3							2	2										20100
		R1	画像解析		2									1	1								20300
		R1	ロボットダイナミックス		2											1	1						
		R1	生物情報論		2											1	1						
		R1	システム制御論		2											1	1						
		R1	ヒューマンインタフェース		2									1	1								
		R1	画像処理		2											1	1						60500
		R3	線形システム論Ⅱ		2									1	1								20100
		R3	デジタル信号論		2											1	1						60300
	計算機	R1	オペレーティングシステム		2					1	1												60300
		R2	オートマトンⅠ		2					1	1												20500
		R2	オートマトンⅡ		2							1	1										20500
		R2	アルゴリズム論Ⅰ・同演習		3					2	2												60200
		R2	アルゴリズム論Ⅱ		2							1	1										20500
		R2	計算機数学演習		2					1	1												20500
		R1	コンパイラ理論		2									1	1								20500
		R1	計算理論		2									1	1								20500
		R1	人工知能		2									1	1								60500
		R1	プログラム言語論		2											1	1						20500
		R2	データベース		2											1	1						60300

※ 教職コードは第3章「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成18年度 情報科学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目	専門共通	P	情報科学概論	2		1	1															内門　茂	60100
		R1	情報科学演習ⅠA		2							1	1										60300
		R1	情報科学演習ⅠB		2							1	1										60300
		P	輪講	4										1	1	1	1						
		R1	情報科学演習ⅡA		2									1	1								60400
		R1	情報科学演習ⅡB		2									1	1								60400
			情報科学		2															1	1		60600
			卒業研究Ⅰ	3														3	3				
			卒業研究Ⅱ	3																3	3		
			卒業研究Ⅰ	3												3	3					3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			卒業研究Ⅱ	3														3	3				
	その他	R1	情報と職業入門		1	1／4期1コマ																中山　洋　集中講義	60600
		R1	情報と職業		2	履修不可								半期1コマ				履修不可				※1　集中講義	60600
		R1	インターンシップA		2	履修不可																	
		R1	インターンシップB		2	履修不可																	
		R1	インターンシップC		2	履修不可																	
		R1	インターンシップD		2	履修不可																	
		R1	インターンシップE		2									1	1							※2　集中講義	
		R1	インターンシップF		2											1	1					※2　集中講義	
			インターンシップG		2	履修不可																	
			インターンシップH		2	履修不可																	

※1 「情報と職業」はインターンシップの科目と振替可能。「インターンシップE・F」と合せて上限2単位。

※2 「情報と職業」と合せて上限2単位。

※3 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

専門教育科目

情報システム工学科

(Department of Computers and Systems Engineering)

図1. 情報システム工学科　カリキュラム構成図

1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次

ＳＴゼミ（少人数科学技術指導）

情報システム工学輪講

情報システム工学概論

プログラム基礎・同演習Ⅰ　情報システム工学演習Ａ、Ｃ　情報システム工学演習Ｅ、Ｆ
プログラム基礎・同演習Ⅱ　情報システム工学演習Ｂ、Ｄ　情報システム工学総合実験Ⅰ、Ⅱ
情報システム工学基礎実験　情報システム工学実験Ⅰ、Ⅱ

《情報システム基礎》

コンピュータ基礎
システムアナロジ
科学技術のための基礎数学
システム基礎数学
科学技術のための数学
コンピュータシステム
基礎電気回路
情報数学入門

《情報システムコア》

システム数学
データ構造とアルゴリズム
言語とオートマトン
数値解析
電気回路
電子工学
情報理論
ソフトウェア工学
データベース
コンピュータネットワーク
自動制御
情報基礎数学Ａ、Ｂ
システムモデリング

《情報システム専門》

マルチメディア基礎
信号処理
計算量理論
オペレーティングシステム
オペレーションズ・リサーチ
システム制御理論
電子制御
エネルギー工学
マルチメディア工学
情報セキュリティ
分散並列システム
システム工学手法
コンピュータ制御システム
ロボティクス
数理計画法
情報処理技術

卒業研究

- 計算機科学
- ソフトウェア工学
- ネットワーク
- システムデザイン
- システム制御
- メカトロニクス

インターンシップ

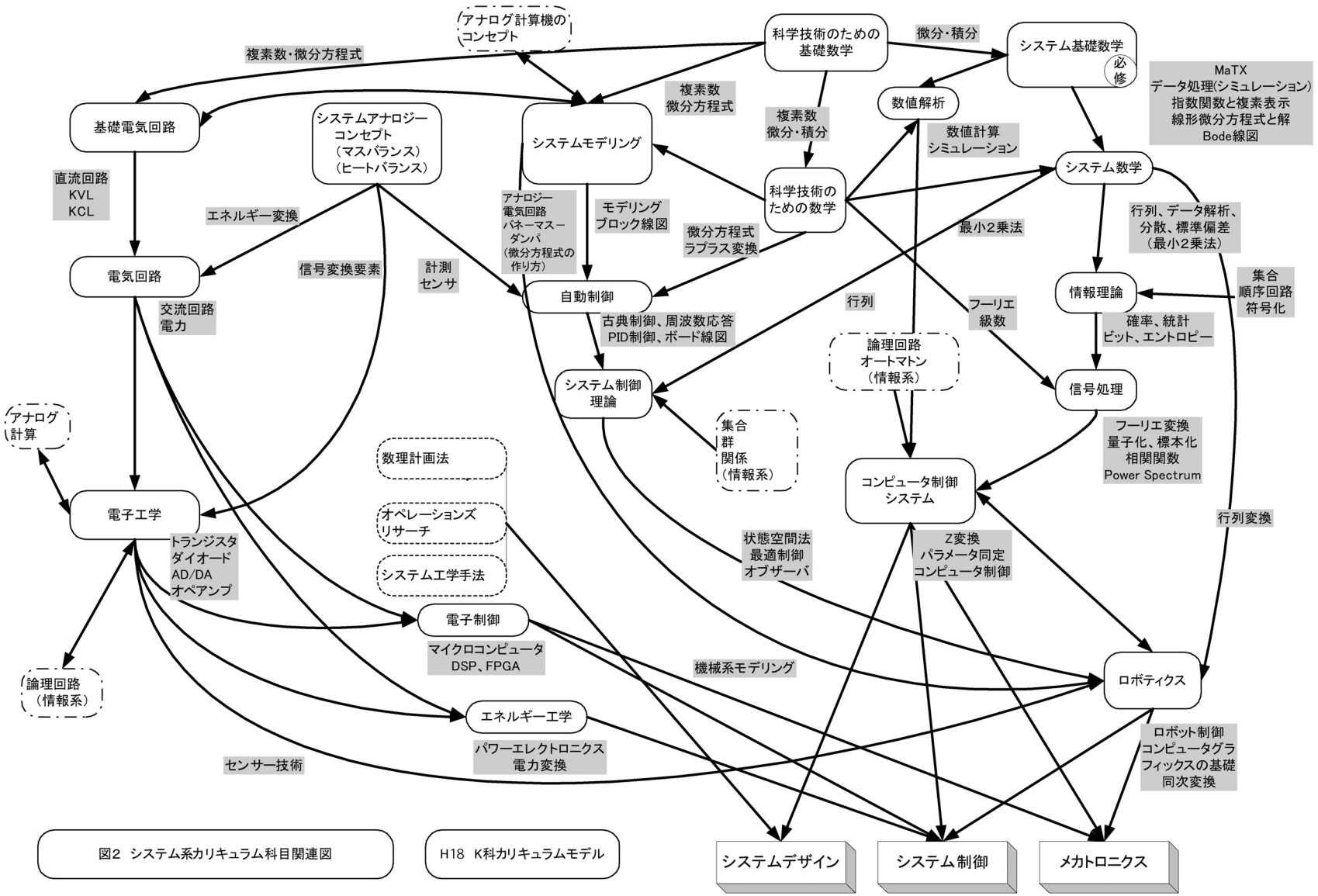
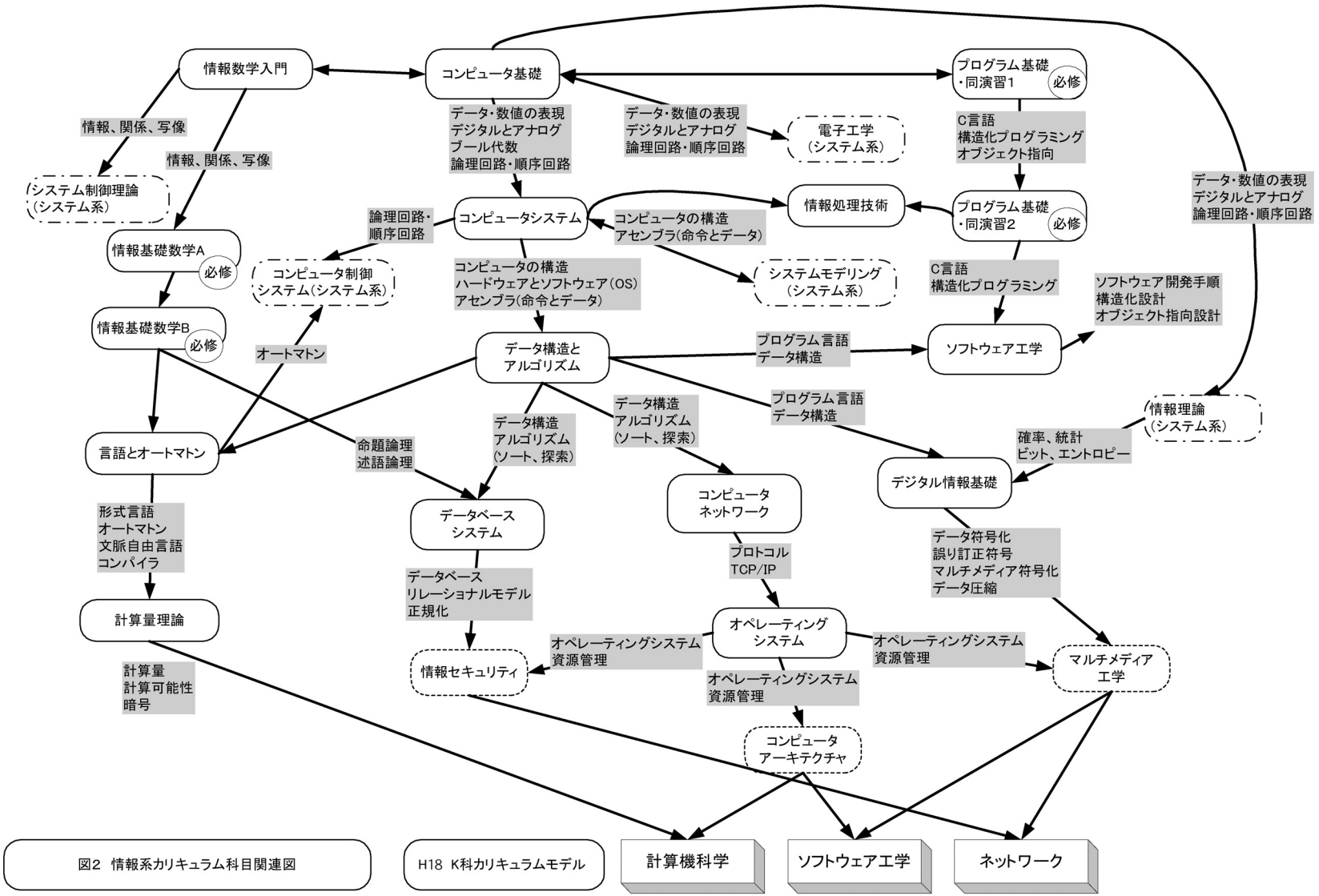


図2　システム系カリキュラム科目関連図

H18　K科カリキュラムモデル


情報数学入門
コンピュータ基礎
プログラム基礎・同演習1 必修
情報、関係、写像
情報、関係、写像
データ・数値の表現
デジタルとアナログ
ブール代数
論理回路・順序回路
データ・数値の表現
デジタルとアナログ
論理回路・順序回路
電子工学（システム系）
C言語
構造化プログラミング
オブジェクト指向
データ・数値の表現
デジタルとアナログ
論理回路・順序回路
システム制御理論（システム系）
コンピュータシステム
情報処理技術
プログラム基礎・同演習2 必修
論理回路・順序回路
コンピュータの構造
アセンブラ(命令とデータ)
情報基礎数学A 必修
コンピュータ制御システム(システム系)
コンピュータの構造
ハードウェアとソフトウェア(OS)
アセンブラ(命令とデータ)
システムモデリング（システム系）
C言語
構造化プログラミング
ソフトウェア開発手順
構造化設計
オブジェクト指向設計
情報基礎数学B 必修
オートマトン
データ構造とアルゴリズム
プログラム言語
データ構造
ソフトウェア工学
情報理論（システム系）
言語とオートマトン
命題論理
述語論理
データ構造
アルゴリズム
(ソート、探索)
データ構造
アルゴリズム
(ソート、探索)
プログラム言語
データ構造
確率、統計
ビット、エントロピー
デジタル情報基礎
形式言語
オートマトン
文脈自由言語
コンパイラ
データベースシステム
コンピュータネットワーク
データ符号化
誤り訂正符号
マルチメディア符号化
データ圧縮
プロトコル
TCP/IP
データベース
リレーショナルモデル
正規化
計算量理論
オペレーティングシステム
オペレーティングシステム
資源管理
オペレーティングシステム
資源管理
マルチメディア工学
情報セキュリティ
オペレーティングシステム
資源管理
計算量
計算可能性
暗号
コンピュータアーキテクチャ
図2 情報系カリキュラム科目関連図
H18 K科カリキュラムモデル
計算機科学
ソフトウェア工学
ネットワーク

カリキュラム概要

授業科目は次の 7 つに分類されています。

1）専門科目群

2）学部共通科目群

3）共通基幹科目群

4）学部導入科目群

5）人間形成科目群

6）リテラシー科目群

7）英語科目群

卒業するには、専門科目・学部共通科目・共通基幹科目・学部導入科目群より84単位以上、人間形成科目群より 4 単位以上、英語科目群より 2 単位以上、そのほか上記 7 科目群のいずれかより34単位以上、合計124単位以上の単位を取得しなくてはなりません。これらの授業科目をどのように学習していくかは、学生本人が決めます。各授業科目の内容をシラバス等でよく研究し、自分の大学での学習目標にあわせて計画的に履修することが重要です。ここでは、情報システム工学科の専門科目についての説明と、履修計画をたてる上での注意事項、アドバイスをまとめておきます。他の授業科目群については、学生要覧の該当箇所を参考にしてください。

専門科目群

情報システム工学科の専門科目は次の分野に大別されます。

1）情報システム基礎

2）情報システムコア

3）情報システム専門

4）実験・演習・卒研等

5）その他

ここでは上記専門科目分野の概要、情報システム工学科のカリキュラムでの位置付けを説明します。

（図 1　情報システム工学科カリキュラム構成図を参照のこと）

情報システム基礎：当学科で学習するすべての科目の基礎となる科目です。この分野には必

修科目 6 科目16単位、選択科目 8 科目16単位があり、主に 1 年次に配当されています。高学年次でより専門的な学習をする上で必要となる科目です。 3 年次から 4 年次への進級には、必修科目全て単位取得、選択科目 8 科目中 6 科目以上の単位取得が必要です。

情報システムコア：情報システム工学分野の技術を修得する上で必要となる基礎科目です。情報システム基礎よりやや専門性が高い科目であり、主に 2 年次に配当されています。選択科目13科目26単位で構成されています。 3 年次から 4 年次への進級には、13科目のうち 8 科目以上の単位取得が必要です。

情報システム専門：より専門性の高い科目です。 3 年次に配当され、選択科目14科目28単位で構成されています。情報システム基礎、情報システムコアを履修してきている学生にとっては十分理解できるはずです。自分の卒業研究や将来進もうとする分野にあわせて履修してください。この分野からは 5 科目以上の単位取得が必要です。就職、進学いずれにおいても専門的な科目の知識は必要となりますので、なるべく多くの科目を履修することをすすめます。

実験・演習・卒研等：小人数教育ＳＴゼミ、輪講、実験、卒業研究で構成されています。ＳＴゼミ、輪講、実験、卒業研究は必修科目です。ＳＴゼミは小人数に分かれて科学技術を学ぶための基礎を勉強します。大学での学習、研究の進め方等を学ぶだけでなく、教員に身近に接し大学生活や成績、進路、就職などいろいろな相談のできる機会を与えています。演習は、プログラミング技術の向上、さらに、情報システム分野での必須の技術の習得を実践を通して学ぶものです。実験は、 1 年次の情報システム工学基礎実験で基本的な計測技術や計器の使い方をマスターし、 2 年次の情報システム工学実験では情報システム工学における基礎技術の修得、 3 年次の情報システム工学総合実験では小ネットワークの構築やマイクロマウスロボットの作成などそれまで学習してきた技術を用いて小システムを設計、作成、評価する総合実験を行います。卒業研究は、各教員の研究室に配属になり、各自のテーマで 1 年間研究にあたります。各研究室ではそれぞれの専門を卒業研究テーマとしていますから、計画的にそのテーマの基礎となる科目を履修しておく必要があります。研究成果は卒業研究発表会で発表します。

その他：インターンシップ関連の科目で構成されています。学生のうちに実社会に触れるよ

い機会です。自分の学習意欲を高める効果もありますので、積極的に参加して下さい。

情報システム工学科のカリキュラムの特徴

どんな分野を専門に学ぶのか？

情報システム工学科の専門科目には47単位の必修科目があります。必修科目の履修により、全員、情報システム工学の基礎的な知識は修得できます。さらに選択科目により、情報工学を中心としてコースや、システム工学中心としたコース、情報システム工学を幅広く学ぶコースを、各学生が自分の希望にあわせて設計できるようになっています。（図 2　科目関連図を参照）

どんな順番に科目を履修したらよいか？

情報システム工学科では、 1 年次から多くの専門科目が配当されています。専門科目は、専門性の強さに合せて配当されています。すなわち低学年次には基礎的な科目（情報システム基礎、情報システムコア）が配当され、 3 年次には卒業研究、大学院につながる専門科目が配当されています。専門性の高い科目の修得には、基礎科目の知識が必要となりますので、配当学年に沿って履修していくことを勧めます。特に、必修科目は配当年次に単位取得するよう努力すべきです。

進級するには？

情報システム工学科では 1 年次から 2 年次および 3 年次から 4 年次への進級に取得単位の条件が課せられています。 1 年次から 2 年次への進級条件は、情報システム工学科への適性と学生自身の学習態度を確認する最小限の条件となっています。一方、 3 年次から 4 年次への進級条件は、 4 年次 1 年間で卒業が見込まれることを前提として設けられていますので厳しい条件となっています（進級条件のページ参照）。ですから 4 年間通しての履修計画を立てることを勧めます。必修科目を配当学年に不合格になったときには、次の学年で履修しなおさなくてはなりません。その場合、 1 学年下の科目を履修しますから、同時に開講される在籍学年次の専門科目は履修不可能になります。このように不合格の場合には、時間割上の制限が発生しますので、大幅に履修計画からずれてくることになります。したがって、進級するには、配当されている科目の単位をその年次に取得する努力をすべきです。

資格をとるべきか？

情報システム工学科の就職状況から、就職先から基本情報技術者、ソフトウェア開発技術者（旧名称、第 2 種情報処理技術者、第 1 種情報処理技術者）の資格の有無、TOEIC の点数を問われる場合が増えています。これらの資格は就職活動において重要視されているばかりではなく、就職後も必要とされる資格です。学生時代にこれらの資格を取得することを奨励します。情報システム工学科のカリキュラムは、基本情報技術者、ソフトウェア開発技術者試験の内容をカバーしていますから、十分合格のチャンスはあります。更に高度な情報処理関連の資格や PE/FE 試験（プロフェッショナルエンジニア/PE一次試験）などの資格にも挑戦してください。

大学院への進学は？

情報システム工学の技術は目覚しく発展しています。より高度な技術を修得するためや、現在の就職状況などから考えても、大学院への進学を勧めます。大学院への進学は、推薦入学と大学院入試に合格することによる進学があります。大学院への推薦資格は、 3 年次終了時点の成績を基に判断されます。また、極めて成績優秀な学生には飛び級が認められます。早い段階で大学院での学習・研究環境を整えることは有意義なことです。大学院での研究に必要な知識を学部時代に修得するには、専門科目を幅広く履修しておくことが重要です。

情報システム工学科

平成18年度1年次在籍者　進級条件

[1年次から2年次への進級条件]

次の3科目5単位を全て取得のこと。

プログラム基礎・同演習Ⅰ③　STゼミⅠA①　STゼミⅠB①

また、1年次に配当されている授業科目のうち、20単位以上を取得すること。

[3年次から4年次への進級条件]

<table>
<tr><th>科目群</th><th colspan="2">コード</th><th>進　級　条　件</th></tr>
<tr><td>人間形成科目群</td><td colspan="2">H</td><td>人間形成科目群から4単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td>英語科目群</td><td colspan="2">E</td><td>英語科目群から2単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">専門科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群</td><td colspan="2">P</td><td>次の22科目41単位を全て取得のこと。
システム基礎数学④　プログラム基礎・同演習Ⅰ③
プログラム基礎・同演習Ⅱ③　情報基礎数学A②　情報基礎数学B②
情報システム工学概論②
STゼミIA①　STゼミIB①　STゼミIIA①　STゼミIIB①
STゼミIII②　情報システム工学基礎実験①
情報システム工学実験I①　情報システム工学実験II①
情報システム工学総合実験I①　情報システム工学総合実験II①
情報システム工学輪講②
情報システム工学演習A②　情報システム工学演習B②
情報システム工学演習C②　情報システム工学演習D②
情報システム工学演習E②　情報システム工学演習F②</td></tr>
<tr><td rowspan="5">R1・R2・R3・R4・B1</td><td colspan="2">3年次までに配当されている専門選択科目から48単位以上取得のこと。但し、以下の条件を考慮のこと。</td></tr>
<tr><td>R1</td><td>情報システム基礎分野の専門選択科目8科目16単位から12単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>情報システムコア分野の専門選択科目13科目26単位から16単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td>R3</td><td>14科目28単位から10単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td>R4</td><td>8科目15単位から2単位を超えて入れられない。</td></tr>
<tr><td colspan="4">総取得単位数が　102　単位以上であること。</td></tr>
</table>

授業科目配当表

平成18年度 情報システム工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目	情報システム基礎	R1	コンピュータ基礎		2	1	1															桧垣 博章 他	40600
		R1	システムアナロジ		2	1	1															花﨑 泉 他	70100
		R1	科学技術のための基礎数学		2	1	1															古田 勝久 他	
		P	プログラム基礎・同演習Ⅰ	3		2	2															※1 横山 智紀 他	40600
		P	プログラム基礎・同演習Ⅱ	3				2	2													※2 遠山 宏明 他	60200
		P	システム基礎数学	4				2	2													畠山 省四朗 他	
		R1	科学技術のための数学		2			1	1													花﨑 泉 他	70100
		R1	コンピュータシステム		2			1	1													中村 克彦	60200
		R1	基礎電気回路		2			1	1													三井 浩康	40400
		R1	情報数学入門		2			1	1													足立 暁生	60200
		R1	システムモデリング		2					1	1												
		P	情報基礎数学A	2						1	1												
		P	情報基礎数学B	2								1	1										
		P	情報システム工学概論	2										2									
	情報システムコア	R2	システム数学		2					1	1												70100
		R2	データ構造とアルゴリズム		2					1	1												60200
		R2	言語とオートマトン		2					1	1												70100
		R2	数値解析		2					1	1												
		R2	電気回路		2					1	1												40400
		R2	電子工学		2							1	1										40200
		R2	情報理論		2							1	1										
		R2	ソフトウェア工学		2							1	1										40600
		R2	データベース		2							1	1										60300
		R2	コンピュータネットワーク		2							1	1										60400
		R2	自動制御		2							1	1										70100
		R2	数理計画法		2									1	1								70100
		R2	情報処理技術		2									1	1								60200
	情報システム専門	R3	マルチメディア基礎		2									1	1								60500
		R3	信号処理		2									1	1								70100
		R3	計算量理論		2									1	1								70100
		R3	オペレーティングシステム		2									1	1								60300
		R3	オペレーションズ・リサーチ		2									1	1								
		R3	システム制御理論		2											1	1						70100
		R3	電子制御		2									1	1								70100
		R3	エネルギー工学		2											1	1						70100
		R3	マルチメディア工学		2											1	1						60500
		R3	情報セキュリティ		2											1	1						60400
		R3	分散並列システム		2											1	1						60200
		R3	システム工学手法		2											1	1						70100
		R3	コンピュータ制御システム		2											1	1						60200
		R3	ロボティクス		2											1	1						
	実験・演習・卒研等	P	情報システム工学演習A	2						1	1												60300
		P	情報システム工学演習B	2						1	1												60300
		P	情報システム工学演習C	2								1	1										70100
		P	情報システム工学演習D	2								1	1										70100
		P	情報システム工学演習E	2										1	1								60500
		P	情報システム工学演習F	2										1	1								60500
		P	STゼミⅠA	1			1															花﨑 泉 他	
		P	STゼミⅠB	1				1														花﨑 泉 他	
		P	STゼミⅡA	1						1													
		P	STゼミⅡB	1								1											
		P	STゼミⅢ	2										2									

※1・2「ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ基礎・同演習Ⅰ」の単位を取得していないと「ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ基礎・同演習Ⅱ」の履修が出来ない。

授業科目配当表

平成18年度 情報システム工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目	実験・演習・卒研等	P	情報システム工学基礎実験	1				1	1													三井 浩康 他	40400
		P	情報システム工学実験Ⅰ	1						1	1												40100
		P	情報システム工学実験Ⅱ	1								1	1										60500
		P	情報システム工学総合実験Ⅰ	1										1	1								40300
		P	情報システム工学総合実験Ⅱ	1												1	1						60400
		P	情報システム工学輪講	2												1	1						
			卒業研究Ⅰ	3														3	3				
			卒業研究Ⅱ	3																3	3		
			卒業研究Ⅰ	3												3	3					3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			卒業研究Ⅱ	3														3	3				
	その他	R4	情報と職業入門		1	前前期1コマ																‘佐藤 達雄	60600
		R4	情報と職業		2	後期1コマ																※3 ‘佐藤 達雄	60600
		R4	インターンシップA		2	1	1															花﨑 泉 集中講義	
		R4	インターンシップB		2			1	1													花﨑 泉 集中講義	
		R4	インターンシップC		2					1	1											集中講義	
		R4	インターンシップD		2							1	1									集中講義	
		R4	インターンシップE		2									1	1							集中講義	
		R4	インターンシップF		2											1	1					集中講義	
			インターンシップG		2													1	1			集中講義	
			インターンシップH		2															1	1	集中講義	

※3 「情報と職業」はインターンシップの科目と振替可能。

※ 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

専門教育科目

建設環境工学科

(Department of Civil and Environmental Engineering)

建設環境工学科の学習・教育目標

本学科では、21世紀の循環型社会の構築に向けて、人間と自然が調和する環境を多方面から考察できるとともに、ゆとりとうるおいのある自然環境を目指して、社会基盤の創造と保全に寄与できる建設技術者を育成します。すなわち、社会が要請する構造物を計画・設計・施工・管理する技術、地域から地球規模に至る環境保全・予測に必要な技術、さらに高度情報化社会に対応できる情報技術を習得し、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者の育成を目的としています。

以上の目的を達成するために、本学科では以下の学習・教育目標を掲げています。

（A）「技術は人なり」を目標とした人間形成の教育

良識ある人間性、倫理性、福祉への眼差し等の資質・感性を有し、かつ人文科学、社会科学等の基礎知識を有する心身健全な建設技術者を育成する。

（B）相互理解を深めるコミュニケーション能力の開発

科学技術のグローバル化に伴い、異文化を理解する能力や文化的素養を有し、かつ柔軟な思考力のもと自らの考えを文章化し、意見交換を通して多様化する社会の諸問題に対応でき、将来において国際的にも活躍できる建設技術者を育成する。

（C）基礎工学を重視した実学教育の徹底

物理学、化学、数学などの工学的基礎力の育成に重点を置き、専門科目では講義および実験、実習、演習を通して、即戦力となる建設技術者を育成する。

（D）創造力および問題発見・解決能力の開発

豊かな創造力や柔軟な思考力を有する技術者の育成と、現実社会の中で直面している諸問題を認識し、その問題解決について考える能力を有し、かつ高度な社会的要請にも対応できる建設技術者を育成する。

（E）環境と調和する循環型社会をリードする建設技術者の育成

自然の仕組みを理解し、人間と自然界が共生でき、持続可能な社会を構築する技術、また地域から地球規模にいたる環境評価・予測・保全に必要な技術を有した建設技術者を育成する。

（F）プロジェクト遂行能力の開発

与えられた制約のもとで、情報の収集・評価・利用する能力を有し、チームを組織して計画的に仕事を進め、問題を解決していく能力の開発ならびにその人材を育成する。

（G）情報技術革新へ対応できる建設技術者の育成

急速に発展する高度情報化に対応できるように、情報技術に関する基礎およびアプリケーションの活用やプログラム作成能力を有した建設技術者を育成する。

建設環境工学科履修モデル

〔１年次〕

２年次に進級するためには、１年次の配当科目より32単位以上取得することが必要です。ただし、これは最低限の条件ですので、ぜひ40単位程度取得できるよう努めてください。ただし履修上限単位数は50単位です。

では履修すべき科目について説明します。まず、専門の必修科目を履修します。１年次には『建設環境工学へのアプローチ（２）(力ッコ内の数字は単位数)』、『建設環境セミナーＡ（１）』、『測量学・同演習（３）』、『測量実習（２）』、『基礎製図（２）』、『数学演習（１）』、『確率・統計学（２）』、『静力学（２）』、『プログラミング演習Ａ（２）』の９科目17単位が配当されています。

次に、リテラシー科目群から『日本語リテラシー（１）』と『コンピュタリテラシー（２）』、学部導入科目群から『数学基礎（１）』、『物理学基礎（１）』、『化学基礎（１）』、共通基幹科目群から『基礎微積分学Ａ（２）』、『基礎微積分学Ｂ（２）』、『基礎線形代数学Ａ（２）』、『基礎線形代数学Ｂ（２）』、『物理学実験（２）』、『化学実験（２）』の計11科目18単位を履修します。

次に英語を２単位以上、できれば４単位履修しましょう。４年次に進級するためには、３年次終了時までに英語を６単位以上取得していることが必要です。以上で39単位ほど履修したことになり、あと11単位履修することができます。土木コースあるいは建築コースへ進級を考えている場合は、学部共通科目から『環境科学（２）』を履修しましょう。

基礎教育である『数学基礎』、『物理学基礎』、『化学基礎』は１週間に２回講義があり、前期の半分で終了します。引き続いて、『物理学Ａ（２）』と『化学Ａ（２）』が講義されますので、これらの科目を履修することを薦めます。それ以外については、学部導入科目、学部共通科目、人間形成科目から履修すると良いでしょう。

人間形成科目群からは卒業までに14単位以上、３年次終了までに10単位以上取得しなければなりません。これらの科目については興味ある授業を履修すると共に、幅広い教養を身につけることも心がけてください。なお人間形成科目群の『技術者倫理（２）』は、３年次終了時までに単位を取得しなければなりません。なお、授業科目間の関連を図１に示します。

次に２年次から所属するコースについて説明します。学生は、「土木」、「環境創生」、「建築」の何れかのコースに所属し、コース別に設定された進級条件を満足するように学習します。所属するコースは学生の希望に沿って決定されますが、各コースには定員があり、定員を越えた場合には１年次の成績に基づいて所属する学生が決定されます。そのため希望するコースに所属できない学生が出るかもしれません。ただし、何れのコースに所属しても、学生は自由に科目を履修することができますので、専門知識の修得は一切妨げられません。

〔土木コース２年次〕

２年次から３年次への進級条件は、２年次までに配当されている科目から64単位以上を取得することになっていますが、３年次から４年次への進級条件には、土木コースで指定した専門選択科目においてＲ１科目とＢ３科目から12単位以上、Ｒ３科目から４単位以上取得する条件がありますので、これらを考えて履修計画を立てる必要があります。

まず、専門必修科目を履修します。「プログラミング演習Ｂ（２）」、「設計製図（２）」、「図形処理（２）」、「応用力学Ａ・同演習（３）」、「土質力学Ａ・同演習（３）」、「水理学Ａ・同演習（３）」、「材料実験（１）」、「土質実験（１）」の８科目17単位です。次にＲ３科目から『応用力学Ｂ（２）』、『土質力学Ｂ（２）』、『鉄筋コンクリート工学（２）』を履修します。３年次までにはＲ３科目から４単位以上取得しなければなりません。次にＲ１科目を履修します。土木コースでは「水理学Ｂ（２）」、「建設材料学（２）」、「計画数理（２）」、の３科目６単位が配当されています。

以上で29単位の履修となりますが、『環境科学』を１年次に履修していない場合には２年次に履修しましょう。履修上限50単位まであと21単位程度履修できますので、１年次での単位取得状況を考慮して、英語４単位、人間形成科目から４～８単位程度履修すると良いでしょう。更に、Ｒ１を除く専門選択科目から「微分方程式（２）」、「プログラミング演習Ｃ（２）」、「建設環境セミナーＢ（１）」等の履修を薦めます。

〔環境創生コース２年次〕

２年次から３年次への進級条件は、２年次までに配当されている科目から64単位以上を取得することになっていますが、３年次から４年次への進級条件には、環境創生コースで指定した専門選択科目において、Ｒ１科目から15単位以上、Ｒ３科目から４単位以上取得する条件がありますので、これらを考えて履修計画を立てる必要があります。

まず、専門必修科目を履修します。「プログラミング演習Ｂ（２）」、「設計製図（２）」、「図形処理（２）」、「応用力学Ａ・同演習（３）」、「土質力学Ａ・同演習（３）」、「水理学Ａ・同演習（３）」、「材料実験（１）」、「土質実験（１）」の８科目17単位です。次にＲ３科目から「水理学Ｂ（２）」、「水圏の環境（２）」、「計画数理（２）」の３科目６単位履修します。３年次までにＲ３科目から４単位以上取得しなければなりません。次にＲ１科目を履修します。環境創生コースでは「応用力学Ｂ（２）」、「流れの科学（２）」、「気圏・地圏の環境（２）」、「プログラミング演習Ｃ（２）」の４科目８単位が配当されています。以上で31単位の履修となり、履修上限50単位に対してあと19単位程度履修できますので、１年次での単位取得状況を考慮して、英語２～３単位、人間形成科目から４～６単位程度履修すると良いでしょう。更に、Ｒ１，Ｒ３を除く専門選択科目から基礎科目である「微分方程式（２）」、「建設環境セミナーＢ（１）」および建設分野の公務員・入社試験対策として「建設材料学（２）」、「土質力学Ｂ（２）」、「鉄筋コンクリート工学（２）」の履修を薦めます。

〔建築コース２年次〕

２年次から３年次への進級条件は、２年次までに配当されている科目から64単位以上を取得することになっていますが、３年次から４年次への進級条件には、建築コースで指定した専門選択科目において、Ｒ１科目とＢ３科目から20単位以上取得する条件がありますので、これを考えて履修計画を立てる必要があります。

まず、専門必修科目を履修します。「プログラミング演習Ｂ（２）」、「設計製図（２）」、「図形処理（２）」、「応用力学Ａ・同演習（３）」、「土質力学Ａ・同演習（３）」、「水理学Ａ・同演習（３）」、「材料実験（１）」、「土質実験（１）」の８科目17単位です。次にＲ１科目を履修します。建築コースでは「住居論（２）」、「建築計画学（２）」、「ランドスケープデザイン（２）」、「建築史（２）」、「建築デザイン論（２）」、「建設材料学（２）」、「鉄筋コンクリート工学（２）」の７科目14単位が配当されていますので、これらの科目を履修して下さい。

以上で31単位の履修となり、履修上限50単位まであと19単位履修できますので、１年次での単位取得状況を考慮して英語４単位、人間形成科目から４～６単位程度履修すると良いでしょう。更に、Ｒ１を除く専門選択科目から「プログラミング演習Ｃ（２）」、「建設環境セミナーＢ（１）」を含み６単位程度履修することを薦めます。

〔土木コース３年次〕

３年次から４年次への進級条件は１、２年次の進級条件よりも厳しく設定されていますので、進級条件表を参照して、１、２年次で取得した科目、及び単位数を考慮して履修計画を立てて下さい。

まず、専門必修科目「構造実験（１）」、「水理実験（１）」の２科目２単位を履修します。次にＲ３科目である「空間情報工学（２）」を履修します。次にＲ１科目を履修します。土木コースでは「鋼構造学（２）」、「河海工学（２）」、「建設基礎工学（２）」、「道路工学（２）」、「建設マネジメント（２）」、「衛生工学（２）」の６科目12単位が配当されています。

以上で16単位の履修となり、履修上限50単位まであと34単位履修できますので、２年次までの単位取得状況を考慮して、英語２単位、人間形成科目から４～８単位程度履修すると良いでしょう。更に、Ｒ１，Ｒ３を除く専門選択科目から「空間デザインＡ（２）」、「水文学（２）」、「交通計画（２）」、「景観工学（１）」、「数値計算法（２）」、「建設環境セミナーＣ（１）」、「耐震設計法（２）」、「建設施工法（２）」、「画像解析・リモートセンシング（２）」等の履修を薦めます。また、履修科目に余裕がある場合には「環境」、「建築」分野から興味ある科目を履修することを薦めます。

〔環境創生コース３年次〕

３年次から４年次への進級条件は１、２年次の進級条件よりも厳しく設定されていますので、進級条件表を参照して、１、２年次で取得した科目、及び単位数を考慮して履修計画を立てて下さい。

まず、専門必修科目「構造実験（１）」、「水理実験（１）」の２科目２単位を履修します。次にＲ１科目を履修します。環境創生コースでは、「河海工学（２）」、「水文学（２）」、「生物圏の環境（１）」、「生態系のデザイン（１）」、「経済・政策と環境（２）」、「プロジェクト評価（１）」、「環境アセスメント（２）」、「衛生工学（２）」、「景観工学（１）」、「建築環境工学（２）」の10科目16単位が配当されています。

以上で18単位の履修となり、履修上限50単位まであと32単位履修できますので、２年次までの単位取得状況を考慮して、英語２単位、人間形成科目から６～10単位程度履修すると良いでしょう。更に、Ｒ１，Ｒ３を除く専門選択科目から「交通計画（２）」、「数値計算法（２）」、「建設施工法（２）」、「建設マネジメント（２）」、「画像解析・リモートセンシング（２）」「建設環境セミナーＣ（１）」等の履修を薦めます。

更に、自分の将来の技術者像を描きながら「土木」、「建築」分野から興味ある科目を履

修することを薦めます。

〔建築コース３年次〕

３年次から４年次への進級条件は１、２年次の進級条件よりも厳しく設定されていますので、１、２年次で取得した科目、及び単位数を考慮して履修計画を立てて下さい。

まず、専門必修科目の「構造実験（１）」、「水理実験（１）」の２科目２単位を履修します。次にＲ１科目を履修します。「建築構法（２）」、「空間デザインＡ（２）」、「空間デザインB（２）」、「建築環境工学（２）」、「建築構造学（２）」、「建築とアートワーク論（２）」、「耐震設計法（２）」、「地域・都市計画（２）」の８科目16単位が配当されています。

また、建築コースも更に専門的にみると建築計画系と建築構造系に分けることができます。前者を目指す学生はＲ１を除く専門選択科目から「景観工学（１）」等の計画系科目を、また、後者を目指す学生は「鋼構造学（２）」等の構造系科目の履修を薦めます。

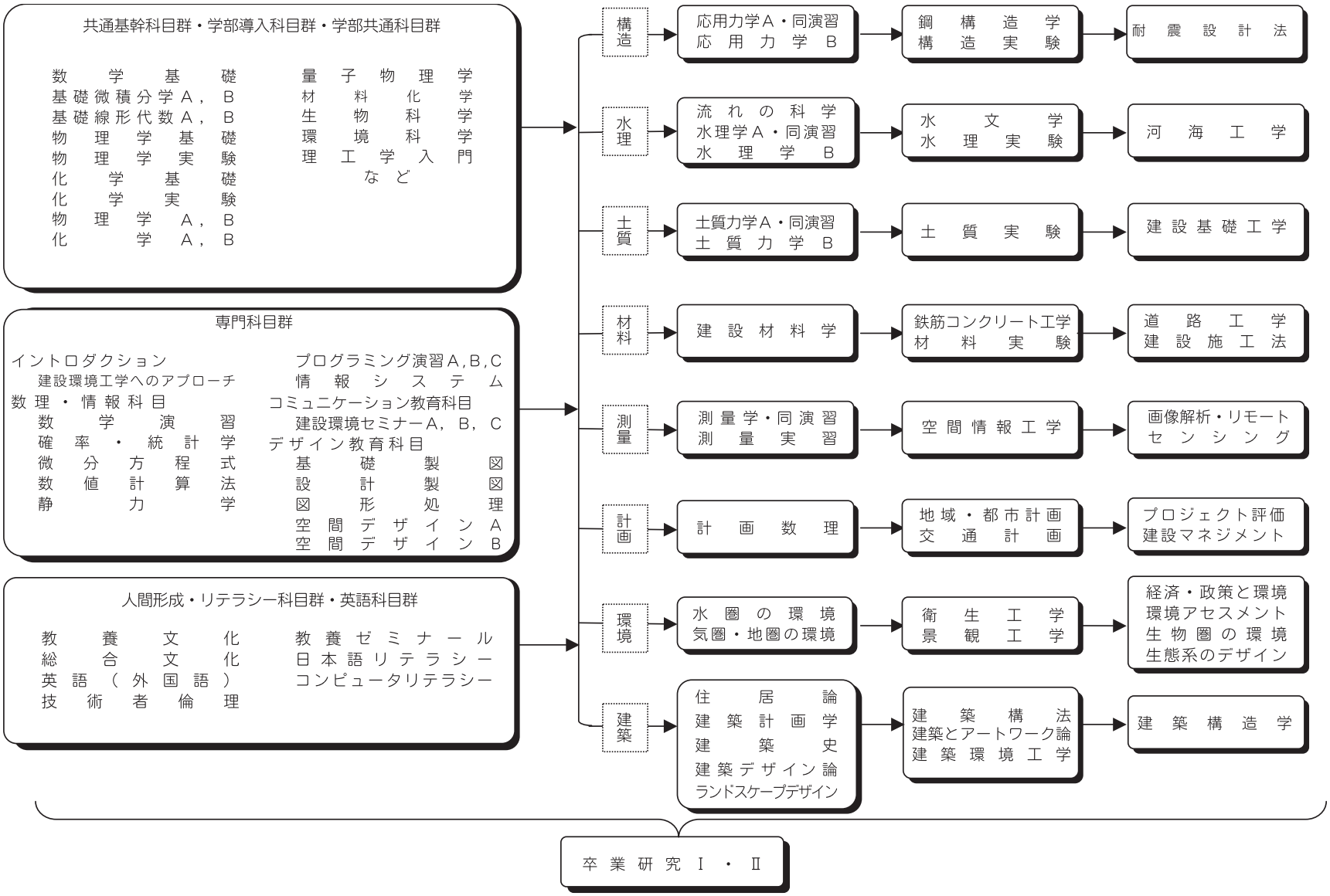

共通基幹科目群・学部導入科目群・学部共通科目群
数学基礎
基礎微積分学A，B
基礎線形代数A，B
物理学基礎
物理学実験
化学基礎
化学実験
物理学A，B
化学A，B
量子物理学
材料化学
生物科学
環境科学
理工学入門
など
専門科目群
イントロダクション
建設環境工学へのアプローチ
数理・情報科目
数学演習
確率・統計学
微分方程式
数値計算法
静力学
プログラミング演習A,B,C
情報システム
コミュニケーション教育科目
建設環境セミナーA，B，C
デザイン教育科目
基礎製図
設計製図
図形処理
空間デザインA
空間デザインB
人間形成・リテラシー科目群・英語科目群
教養文化
総合文化
英語（外国語）
技術者倫理
教養ゼミナール
日本語リテラシー
コンピュータリテラシー
構造
応用力学A・同演習
応用力学B
鋼構造学
構造実験
耐震設計法
水理
流れの科学
水理学A・同演習
水理学B
水文学
水理実験
河海工学
土質
土質力学A・同演習
土質力学B
土質実験
建設基礎工学
材料
建設材料学
鉄筋コンクリート工学
材料実験
道路工学
建設施工法
測量
測量学・同演習
測量実習
空間情報工学
画像解析・リモートセンシング
計画
計画数理
地域・都市計画
交通計画
プロジェクト評価
建設マネジメント
環境
水圏の環境
気圏・地圏の環境
衛生工学
景観工学
経済・政策と環境
環境アセスメント
生物圏の環境
生態系のデザイン
建築
住居論
建築計画学
建築史
建築デザイン論
ランドスケープデザイン
建築構法
建築とアートワーク論
建築環境工学
建築構造学
卒業研究Ⅰ・Ⅱ

図１　授業科目間の関連

建設環境工学科　平成18年度1年次在籍者
土木コース　進級条件

[1年次から2年次への進級条件]

1年次に配当されている授業科目のうち、32単位以上を取得すること。

[2年次から3年次への進級条件]

2年次までに配当されている授業科目のうち、64単位以上を取得すること。

[3年次から4年次への進級条件]

科目群	コード	進　級　条　件
人間形成　科目群	H	人間形成科目群から10単位以上取得のこと。ただし技術者倫理②を必ず含むこと。
英語　科目群	E	英語科目群から6単位以上取得のこと。
リテラシー　科目群	LJ	日本語リテラシー分野から1単位を取得のこと。
	LC	コンピュータリテラシー分野から2単位を取得のこと。
専門科目群・学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群	Q1	以下の19科目36単位から27単位以上取得のこと。 建設環境工学へのアプローチ②　建設環境セミナーA① 数学演習①　確率・統計学②　静力学②　基礎製図② 設計製図②　図形処理②　プログラミング演習A②　プログラミング演習B② 測量学・同演習③　測量実習②　応用力学A・同演習③ 土質力学A・同演習③　水理学A・同演習③ 構造実験①　水理実験①　土質実験①　材料実験①
	R1・R2・R3・B3	3年次までに配当されている専門選択科目R1、R2、R3および学部共通科目B3より33単位以上取得のこと。ただし以下のR1の10科目とB3の1科目から12単位以上取得のこと。
	R1	水理学B②　建設マネジメント②　地域・都市計画②　衛生工学② 建設基礎工学②　鋼構造学②　河海工学②　道路工学②　建設材料学② 計画数理②
	R3	以下の4科目から4単位以上取得のこと。 応用力学 B②　土質力学 B②　空間情報工学②　鉄筋コンクリート工学②
	B3	環境科学②
	B1	以下の4科目から6単位以上取得のこと。 基礎微積分学A②　基礎微積分学B② 基礎線形代数学A②　基礎線形代数学B②
	B2	以下の2科目から2単位以上取得のこと。 物理学実験②　化学実験②
	I1	次の3科目3単位を取得のこと。 物理学基礎①　化学基礎①　数学基礎①
総取得単位数が　100　単位以上であること。		

建設環境工学科　平成18年度1年次在籍者
環境創生コース　進級条件

[1年次から2年次への進級条件]
　1年次に配当されている授業科目のうち、32単位以上を取得すること。

[2年次から3年次への進級条件]
　2年次までに配当されている授業科目のうち、64単位以上を取得すること。

[3年次から4年次への進級条件]

科目群	コード	進　級　条　件
人間形成　科目群	H	人間形成科目群から10単位以上取得のこと。ただし技術者倫理②を必ず含むこと.
英語　科目群	E	英語科目群から6単位以上取得のこと。
リテラシー　科目群	LJ	日本語リテラシー分野から1単位を取得のこと。
	LC	コンピュータリテラシー分野から2単位を取得のこと。
専門科目群・学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群	Q1	以下の19科目36単位から27単位以上取得のこと。 建設環境工学へのアプローチ②　建設環境セミナーA① 数学演習①　確率・統計学②　静力学②　基礎製図② 設計製図②　図形処理②　プログラミング演習A②　プログラミング演習B② 測量学・同演習③　測量実習②　応用力学A・同演習③ 土質力学A・同演習③　水理学A・同演習③ 構造実験①　水理実験①　土質実験①　材料実験①
	R1・R2・R3	3 年次までに配当されている専門選択科目 R1、R2、R3 より 33 単位以上取得のこと。ただし以下の R1 の 14 科目から 15 単位以上取得のこと。
	R1	流れの科学②　河海工学②　気圏・地圏の環境②　水文学② 生物圏の環境①　経済・政策と環境②　プロジェクト評価① 環境アセスメント②　衛生工学②　景観工学①　建築環境工学② プログラミング演習C②　応用力学B②　生態系のデザイン①
	R3	以下の3科目から4単位以上取得のこと。 水理学B②　水圏の環境②　計画数理②
	B1	以下の4科目から6単位以上取得のこと。 基礎微積分学A②　基礎微積分学B② 基礎線形代数学A②　基礎線形代数学B②
	B2	以下の2科目から2単位以上取得のこと。 物理学実験②　化学実験②
	I1	次の3科目3単位を取得のこと。 物理学基礎①　化学基礎①　数学基礎①
総取得単位数が　100　単位以上であること。		

建設環境工学科　平成18年度1年次在籍者
建築コース　進級条件

[1年次から2年次への進級条件]
　1年次に配当されている授業科目のうち、32単位以上を取得すること。

[2年次から3年次への進級条件]
　2年次までに配当されている授業科目のうち、64単位以上を取得すること。

[3年次から4年次への進級条件]

<table>
<tr><th>科目群</th><th colspan="2">コード</th><th>進　級　条　件</th></tr>
<tr><td>人間形成　科目群</td><td colspan="2">H</td><td>人間形成科目群から10単位以上取得のこと。ただし技術者倫理②を必ず含むこと。</td></tr>
<tr><td>英語　科目群</td><td colspan="2">E</td><td>英語科目群から6単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リテラシー　科目群</td><td colspan="2">LJ</td><td>日本語リテラシー分野から1単位を取得のこと。</td></tr>
<tr><td colspan="2">LC</td><td>コンピュータリテラシー分野から2単位を取得のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">専門科目群・学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群</td><td colspan="2">Q1</td><td>以下の19科目36単位から27単位以上取得のこと。
建設環境工学へのアプローチ②　建設環境セミナーA①
数学演習①　確率・統計学②　静力学②　基礎製図②
設計製図②　図形処理②　プログラミング演習A②　プログラミング演習B②
測量学・同演習③　測量実習②　応用力学A・同演習③
土質力学A・同演習③　水理学A・同演習③
構造実験①　水理実験①　土質実験①　材料実験①</td></tr>
<tr><td colspan="2">R1・R2
・B3</td><td>3 年次までに配当されている専門選択科目 R1, R2 および学部共通科目 B3 より33単位取得のこと。ただし以下の R1 の 15 科目と B3 の1科目から 20 単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>R1</td><td>建築構法②　建築計画学②　建築史②　住居論②　建築デザイン論②
建築とアートワーク論②　建築環境工学②　建築構造学②
空間デザインA②　空間デザインB②　耐震設計法②　建設材料学②
鉄筋コンクリート工学②　地域・都市計画②　ランドスケープデザイン②</td></tr>
<tr><td>B3</td><td>環境科学②</td></tr>
<tr><td colspan="2">B1</td><td>以下の4科目から6単位以上取得のこと。
基礎微積分学A②　基礎微積分学B②
基礎線形代数学A②　基礎線形代数学B②</td></tr>
<tr><td colspan="2">B2</td><td>以下の2科目から2単位以上取得のこと。
物理学実験②　化学実験②</td></tr>
<tr><td colspan="2">I1</td><td>次の3科目3単位を取得のこと。
物理学基礎①　化学基礎①　数学基礎①</td></tr>
<tr><td colspan="4">総取得単位数が　100　単位以上であること。</td></tr>
</table>

授業科目配当表

平成18年度 建設環境工学科（土木コース）1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目	イントロダクション	Q1	建設環境工学へのアプローチ	2		1	1															有田 正光	60600
	数理・情報	Q1	数学演習	1				1	1													安田 進 他	
		Q1	確率・統計学	2				1	1													高田 和幸	
		R2	微分方程式		2					1	1												
		R2	数値計算法		2									1	1			1	1				60200
		Q1	静力学	2				1	1													松井 邦人	
		Q1	プログラミング演習A	2				1	1													中尾 雅躬 他	40600
		Q1	プログラミング演習B	2						1	1												40600
		R2	プログラミング演習C		2							1	1										60200
		R2	情報システム		2									1	1								60300
	コミュニケーション	Q1	建設環境セミナーA	1				1	1													有田 正光 他	70100
		R2	建設環境セミナーB		1							1	1										70100
		R2	建設環境セミナーC		1											1	1						70100
	設計・製図	Q1	基礎製図	2				2	2													岩城 和哉 他	70100
		Q1	設計製図	2						2	2												40100
		Q1	図形処理	2								2	2										60500
		R2	空間デザインA		2									2	2								70100
		R2	空間デザインB		2											2	2						70100
	構造	Q1	応用力学A・同演習	3						2	2												40300
		R3	応用力学B		2							1	1										40300
		R1	鋼構造学		2									1	1								40200
		R2	耐震設計法		2											1	1						40300
		Q1	構造実験	1										1	1								70100
	水理	Q1	水理学A・同演習	3						2	2												70100
		R2	流れの科学		2					1	1												70100
		R1	水理学B		2							1	1										70100
		R2	水文学		2									1	1								70100
		R1	河海工学		2											1	1						70100
		Q1	水理実験	1												1	1						70100
	土質	Q1	土質力学A・同演習	3						2	2												70100
		R3	土質力学B		2							1	1										70100
		R1	建設基礎工学		2									1	1								70100
		Q1	土質実験	1								1	1										70100
	材料	R1	建設材料学		2					1	1												70100
		R3	鉄筋コンクリート工学		2							1	1										40200
		R1	道路工学		2									1	1			1	1				70100
		R2	建設施工法		2									1	1								70100
		Q1	材料実験	1						1	1												70100
	測量	Q1	測量学・同演習	3		2	2															近津 博文 他	70100
		Q1	測量実習	2		2	2															近津 博文 他	70100
		R3	空間情報工学		2											1	1						70100
		R2	画像解析・リモートセンシング		2									1	1								60500

※ 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成18年度 建設環境工学科（土木コース）1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目	計画	R1	計画数理		2					1	1												60400
		R1	地域・都市計画		2									1	1								70100
		R2	交通計画		2									1	1								70100
		R2	プロジェクト評価		1											1							70100
		R1	建設マネジメント		2											1	1			1	1		70100
	環境	R2	水圏の環境		2					1	1												70100
		R2	気圏・地圏の環境		2							1	1										70100
		R2	生物圏の環境		1											1							70100
		R2	生態系のデザイン		1												1						70100
		R2	景観工学		1									1									70100
		R1	衛生工学		2									1	1								70100
		R2	経済・政策と環境		2											1	1						70100
		R2	環境アセスメント		2											1	1			1	1		70100
	建築	R2	建築構法		2									1	1								40100
		R2	ランドスケープデザイン		2					1	1												70100
		R2	住居論		2					1	1												70100
		R2	建築計画学		2							1	1										70100
		R2	建築史		2							1	1										70100
		R2	建築デザイン論		2							1	1										70100
		R2	建築とアートワーク論		2									1	1								70100
		R2	建築環境工学		2									1	1								70100
		R2	建築構造学		2											1	1						70100
	卒研等	R2	情報と職業入門		1	1／4期1コマ																中山 洋 集中講義	60600
		R2	情報と職業		2	半期1コマ																※1 有田 正光 集中講義	60600
		R2	インターンシップA		2	履修不可																	
		R2	インターンシップB		2	履修不可																	
		R2	インターンシップC		2					1	1											※2 集中講義	
		R2	インターンシップD		2							1	1									※2 集中講義	
		R2	インターンシップE		2									1	1							※2 集中講義	
		R2	インターンシップF		2											1	1					※2 集中講義	
			インターンシップG		2													1	1			※2 集中講義	
			インターンシップH		2															1	1	※2 集中講義	
			卒業研究Ⅰ	3														3	3				
			卒業研究Ⅱ	3																3	3		
			卒業研究Ⅰ	3												3	3					3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			卒業研究Ⅱ	3														3	3				

※1 「情報と職業」はインターンシップの科目と振替可能。

※2 「情報と職業」と合せて上限4単位。

※3 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成18年度 建設環境工学科（環境創生コース）1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目	アクション・インパクト	Q1	建設環境工学へのアプローチ	2		1	1															有田 正光	60600
	数理・情報	Q1	数学演習	1				1	1													安田 進 他	
		Q1	確率・統計学	2				1	1													高田 和幸	
		R2	微分方程式		2					1	1												
		R2	数値計算法		2									1	1			1	1				60200
		Q1	静力学	2				1	1													松井 邦人	
		Q1	プログラミング演習A	2				1	1													中尾 雅躬 他	40600
		Q1	プログラミング演習B	2						1	1												40600
		R1	プログラミング演習C		2							1	1										60200
		R2	情報システム		2									1	1								60300
	コミュニケーション	Q1	建設環境セミナーA	1				1	1													有田 正光 他	70100
		R2	建設環境セミナーB		1							1	1										70100
		R2	建設環境セミナーC		1											1	1						70100
	設計・製図	Q1	基礎製図	2				2	2													岩城 和哉 他	70100
		Q1	設計製図	2						2	2												40100
		Q1	図形処理	2								2	2										60500
		R2	空間デザインA		2									2	2								70100
		R2	空間デザインB		2											2	2						70100
	構造	Q1	応用力学A・同演習	3						2	2												40300
		R1	応用力学B		2							1	1										40300
		R2	鋼構造学		2									1	1								40200
		R2	耐震設計法		2											1	1						40300
		Q1	構造実験	1										1	1								70100
	水理	Q1	水理学A・同演習	3						2	2												70100
		R1	流れの科学		2					1	1												70100
		R3	水理学B		2							1	1										70100
		R1	水文学		2									1	1								70100
		R1	河海工学		2											1	1						70100
		Q1	水理実験	1												1	1						70100
	土質	Q1	土質力学A・同演習	3						2	2												70100
		R2	土質力学B		2							1	1										70100
		R2	建設基礎工学		2									1	1								70100
		Q1	土質実験	1								1	1										70100
	材料	R2	建設材料学		2					1	1												70100
		R2	鉄筋コンクリート工学		2							1	1										40200
		R2	道路工学		2									1	1			1	1				70100
		R2	建設施工法		2									1	1								70100
		Q1	材料実験	1						1	1												70100
	測量	Q1	測量学・同演習	3		2	2															近津 博文 他	70100
		Q1	測量実習	2		2	2															近津 博文 他	70100
		R2	空間情報工学		2											1	1						70100
		R2	画像解析・リモートセンシング		2									1	1								60500

※ 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成18年度 建設環境工学科(環境創生コース) 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数														担当教員及び備考	教職コード
						1年				2年				3年				4年			
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
専門科目	計画	R3	計画数理		2					1	1												60400
		R2	地域・都市計画		2									1	1								70100
		R2	交通計画		2									1	1								70100
		R1	プロジェクト評価		1											1							70100
		R2	建設マネジメント		2											1	1			1	1		70100
	環境	R3	水圏の環境		2					1	1												70100
		R1	気圏・地圏の環境		2							1	1										70100
		R1	生物圏の環境		1											1							70100
		R1	生態系のデザイン		1												1						70100
		R1	景観工学		1									1									70100
		R1	衛生工学		2									1	1								70100
		R1	経済・政策と環境		2											1	1						70100
		R1	環境アセスメント		2											1	1			1	1		70100
	建築	R2	建築構法		2									1	1								40100
		R2	ランドスケープデザイン		2					1	1												70100
		R2	住居論		2					1	1												70100
		R2	建築計画学		2							1	1										70100
		R2	建築史		2							1	1										70100
		R2	建築デザイン論		2							1	1										70100
		R2	建築とアートワーク論		2									1	1								70100
		R1	建築環境工学		2									1	1								70100
		R2	建築構造学		2											1	1						70100
	卒研等	R2	情報と職業入門		1	1／4期1コマ																中山 洋 集中講義	60600
		R2	情報と職業		2	半期1コマ																※1 有田 正光 集中講義	60600
		R2	インターンシップA		2	履修不可																	
		R2	インターンシップB		2	履修不可																	
		R2	インターンシップC		2					1	1											※2 集中講義	
		R2	インターンシップD		2							1	1									※2 集中講義	
		R2	インターンシップE		2									1	1							※2 集中講義	
		R2	インターンシップF		2											1	1					※2 集中講義	
			インターンシップG		2													1	1			※2 集中講義	
			インターンシップH		2															1	1	※2 集中講義	
			卒業研究Ⅰ	3														3	3				
			卒業研究Ⅱ	3																3	3		
			卒業研究Ⅰ	3												3	3					3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			卒業研究Ⅱ	3														3	3				

※1 「情報と職業」はインターンシップの科目と振替可能。

※2 「情報と職業」と合せて上限4単位。

※3 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成18年度 建設環境工学科(建築コース) 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目	イントロダクション	Q1	建設環境工学へのアプローチ	2		1	1															有田 正光	60600
	数理・情報	Q1	数学演習	1				1	1													安田 進 他	
		Q1	確率・統計学	2				1	1													高田 和幸	
		R2	微分方程式		2					1	1												
		R2	数値計算法		2									1	1			1	1				60200
		Q1	静力学	2				1	1													松井 邦人	
		Q1	プログラミング演習A	2				1	1													中尾 雅躬 他	40600
		Q1	プログラミング演習B	2						1	1												40600
		R2	プログラミング演習C		2							1	1										60200
		R2	情報システム		2									1	1								60300
	コミュニケーション	Q1	建設環境セミナーA	1				1	1													有田 正光 他	70100
		R2	建設環境セミナーB		1							1	1										70100
		R2	建設環境セミナーC		1											1	1						70100
	設計・製図	Q1	基礎製図	2				2	2													岩城 和哉 他	70100
		Q1	設計製図	2						2	2												40100
		Q1	図形処理	2								2	2										60500
		R1	空間デザインA		2									2	2								70100
		R1	空間デザインB		2											2	2						70100
	構造	Q1	応用力学A・同演習	3						2	2												40300
		R2	応用力学B		2							1	1										40300
		R2	鋼構造学		2									1	1								40200
		R1	耐震設計法		2											1	1						40300
		Q1	構造実験	1										1	1								70100
	水理	Q1	水理学A・同演習	3						2	2												70100
		R2	流れの科学		2					1	1												70100
		R2	水理学B		2							1	1										70100
		R2	水文学		2									1	1								70100
		R2	河海工学		2											1	1						70100
		Q1	水理実験	1												1	1						70100
	土質	Q1	土質力学A・同演習	3						2	2												70100
		R2	土質力学B		2							1	1										70100
		R2	建設基礎工学		2									1	1								70100
		Q1	土質実験	1								1	1										70100
	材料	R1	建設材料学		2					1	1												70100
		R1	鉄筋コンクリート工学		2							1	1										40200
		R2	道路工学		2									1	1			1	1				70100
		R2	建設施工法		2									1	1								70100
		Q1	材料実験	1						1	1												70100
	測量	Q1	測量学・同演習	3		2	2															近津 博文 他	70100
		Q1	測量実習	2		2	2															近津 博文 他	70100
		R2	空間情報工学		2											1	1						70100
		R2	画像解析・リモートセンシング		2									1	1								60500

※ 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成18年度 建設環境工学科(建築コース) 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目	計画	R2	計画数理		2					1	1												60400
		R1	地域・都市計画		2									1	1								70100
		R2	交通計画		2									1	1								70100
		R2	プロジェクト評価		1											1							70100
		R2	建設マネジメント		2											1	1			1	1		70100
	環境	R2	水圏の環境		2					1	1												70100
		R2	気圏・地圏の環境		2							1	1										70100
		R2	生物圏の環境		1											1							70100
		R2	生態系のデザイン		1												1						70100
		R2	景観工学		1									1									70100
		R2	衛生工学		2									1	1								70100
		R2	経済・政策と環境		2											1	1						70100
		R2	環境アセスメント		2											1	1			1	1		70100
	建築	R1	建築構法		2									1	1								40100
		R1	ランドスケープデザイン		2					1	1												70100
		R1	住居論		2					1	1												70100
		R1	建築計画学		2							1	1										70100
		R1	建築史		2							1	1										70100
		R1	建築デザイン論		2							1	1										70100
		R1	建築とアートワーク論		2									1	1								70100
		R1	建築環境工学		2									1	1								70100
		R1	建築構造学		2											1	1						70100
	卒研等	R2	情報と職業入門		1	1／4期1コマ																中山 洋 集中講義	60600
		R2	情報と職業		2	半期1コマ																※1 有田 正光 集中講義	60600
		R2	インターンシップA		2	履修不可																	
		R2	インターンシップB		2	履修不可																	
		R2	インターンシップC		2					1	1											※2 集中講義	
		R2	インターンシップD		2							1	1									※2 集中講義	
		R2	インターンシップE		2									1	1							※2 集中講義	
		R2	インターンシップF		2											1	1					※2 集中講義	
			インターンシップG		2													1	1			※2 集中講義	
			インターンシップH		2															1	1	※2 集中講義	
			卒業研究Ⅰ	3														3	3				
			卒業研究Ⅱ	3																3	3		
			卒業研究Ⅰ	3												3	3					3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			卒業研究Ⅱ	3														3	3				

※1 「情報と職業」はインターンシップの科目と振替可能。

※2 「情報と職業」と合せて上限4単位。

※3 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

専門教育科目

知能機械工学科

(Department of Intelligent Mechanical Engineering)

知能機械工学科履修モデル

1．知能機械工学科の目標

21世紀のはじめ、私達は、地球環境問題に取り組んだ結果、米国で最も厳しい排気ガス規制の基準を10分の１に抑えた多くの低公害エンジンやハイブリッド・カーそして電気自動車が街中を走行するのを見ることができます。また、宇宙に飛び立つロケットは、一般の人を乗せ宇宙旅行へと進むことも夢ではなくなります。さらに、難しい頭部の手術は、精巧なロボットにより手術支援が行われ、短時間で済むこととなり交通事故による災害に大きな福音となるでしょう。体内にできた病巣のガンは、マイクロメカニズムの技術により体内用手術装置が開発され切除されるかもしれません。

このような夢のある作業はすでに一部で研究が進み実用にもなっています。知能機械工学科で学ぶことは、いろいろな教科を単に知識として覚えるばかりではなく、上述したような研究に参加できる可能性があります。先端技術を支える基礎技術のひとつは機械工学です。世の中に存在する各種機械装置といえば賢い機械があたりまえといえるような時代が到来しています。

私たちの学科では、この賢い機械を考えるための知識を獲得し、賢い機械を設計するための手法、賢い機械に関わる研究・実験を行うためのプログラムを用意しています。このような知識と実践を通して、技術者として社会に貢献できる人材を養成することを目標としています。

2．履修ガイド

１年次　賢い機械とは？　賢い機械はいろいろな分野で活躍しています。まず、１年次ではそれらの分野について、機械の役目を理解するために学科の教員スタッフによる「機械のいろは」の講義があります。この講義は、例えば、夢の金属とはどのようなものか、人間や生物の機能を参考とした機械とか、インテリジェントロボットなどの賢い機械について講義するものです。

さらに、後期では、仲間同士でエンジンを分解したり、ソーラーカーの製作やラジコンの応用などを自由製作する「夢工房」があります。これまでに、夢工房で製作された一つに紙で作られた車椅子があり人間を乗せることができました。この紙の椅子がなぜこんなに強度があるのだろう？（大学ではこのように問題提起から始まります）。この強度の解明こそ専門基礎科目として位置付けられている授業です。したがって、ただ授業に出れば単位を得られるわけではありません。試験や講義のレポートにより採点され評価されます。その授業科

目を修得する事で単位が与えられるのです。

知能機械工学科では：

1年次から2年次に進級するためには、32単位を取得しなければなりません。

2年次　以降になると専門の科目数が増えます。この時点で、1年次の数学、物理、機械の基礎科目の重要性、その役割がわかります。この時点になって、専門科目がよく分らないというのは1年次の努力が足らなかったためといえます。いくら反省しても、くやしがっていても元には戻りません。ここで十分エンジンをかけ直し、2年次以降に二度とこのような反省をするということのないよう頑張る必要があります。

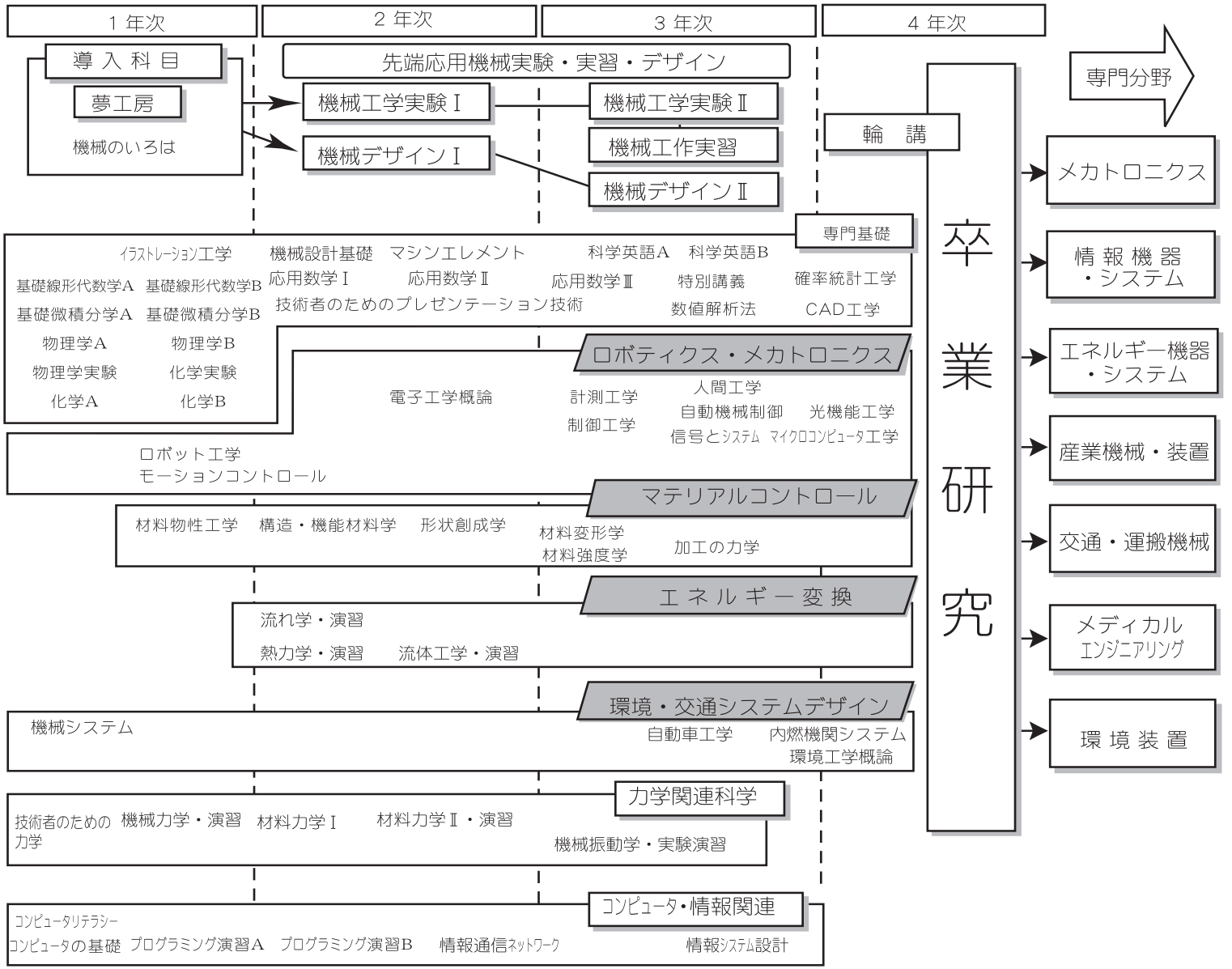
2年次以降の履修では、関連表に示したように大部分が専門科目です。それに演習、実験、実習が始まります。レポートも毎週まとめなければなりません。これが理工学部の宿命で、これに耐えられないようなら早々に方向転換をすべきです。大変なことをやればやるほどやりがいがでます。やさしいことをやり遂げても、その征服感はありません。ぜひ、困難なことをやり遂げた感激を味わって欲しいものです。

※「形状創成学」を履修していないと、3年次必修科目「機械工作実習」の履修が出来ませんので、注意すること。

3年次　は、2年次に引き続き専門科目のオンパレードです。2年次から3年次になるには関門（進級条件）はありません。しかし、それなりの単位を取得しておかないと、学生要覧に記載されている「3年次から4年次になるときの進級条件」を満たすことができません。1単位でもこの条件を満たさないと、4年次生に進級できません。ということは、卒業研究につけないのです。卒研につけないどころか、たった1単位のために高い授業料を1年分支払い、3年次生をもう一回行うことになります。このような状況に陥る学生は毎年、必ずいます。諸君はこの範疇に入らないようにくれぐれも注意してほしいものです。

4年次　は、順調であれば前期の輪講と前後期にまたがる卒業研究、および4年次に開講されている応用科目の履修を行います。4年次生は、知能機械工学科各教員が管理する研究室へ全員配属されます。配属先の研究室において、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って、研究を推進し、おおむね50頁にわたる立派な卒業研究報告書を完成させます。と同時に教員一同並びに後輩が見守る中での卒業研究発表会が開催されます。こうして、卒業研究論文提出と研究発表が無事に終了すると晴れて卒業、学士（工学）の称号が与えられます。

平成18年度１年次履修科目関連表



知能機械工学科
平成18年度1年次在籍者　進級条件

［1年次から2年次への進級条件］
　　1年次に配当されている授業科目のうち、32単位以上を取得すること。

［3年次から4年次への進級条件］

<table>
<tr><th>科目群</th><th>コード</th><th>進　級　条　件</th></tr>
<tr><td>人間形成科目群</td><td>H</td><td>人間形成科目群から4単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td>英語科目群</td><td>E</td><td>英語科目群から6単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">専門科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群</td><td>P</td><td>3年次までに配当されている専門必修科目7科目14単位を全て取得のこと。</td></tr>
<tr><td>B1</td><td>次の2科目4単位を全て取得のこと。
基礎線形代数学A②　物理学実験②</td></tr>
<tr><td>R1・B2</td><td>3年次までに配当されている専門選択科目と共通基幹科目群と学部共通科目群から、54　単位以上取得のこと。
但し、下記の条件を満たすこと。</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>次の科目から12単位以上取得のこと。
プログラミング演習A②　材料力学Ⅰ②　流れ学・演習③　制御工学②
材料物性工学②　形状創成学②　機械システム②
機械設計基礎②</td></tr>
<tr><td>R3</td><td>次の科目から6単位以上取得のこと。
機械力学・演習③　材料力学Ⅱ・演習③　熱力学・演習③
流体工学・演習③</td></tr>
<tr><td>R4・B3</td><td>次の科目から6単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td>R4</td><td>応用数学Ⅰ②　応用数学Ⅱ②　応用数学Ⅲ②</td></tr>
<tr><td>B3</td><td>基礎微積分学A②　基礎微積分学B②</td></tr>
<tr><td>R5</td><td>次の科目から2単位以上取得のこと。
科学英語A②　科学英語B②</td></tr>
<tr><td colspan="3">総取得単位数が　101　単位以上であること。</td></tr>
</table>

授業科目配当表

平成18年度 知能機械工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数																担当教員及び備考	教職コード
						1年				2年				3年				4年					
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
専門科目	科目ベース	P	機械のいろは	2		1	1															浅岡 照夫 他	70100
		P	夢工房	2				2	2													斎藤 之男 他	
		R1	技術者のためのﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ技術Ⅰ		2					1	1												
		R1	技術者のためのﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ技術Ⅱ		2							1	1										
	応用数理学	R4	応用数学Ⅰ		2					1	1												
		R4	応用数学Ⅱ		2							1	1										
		R4	応用数学Ⅲ		2									1	1								
		R1	確率統計工学		2									1	1			1	1				70100
		R1	数値解析法		2											1	1						60200
	応用科学コンピュータ	R1	コンピュータの基礎		2	1	1															国吉 光	40600
		R2	プログラミング演習A		2			1	1													国吉 光	60200
		R1	プログラミング演習B		2					1	1												60200
		R1	情報システム設計		2											1	1						60300
		R1	情報通信ネットワーク		2							1	1										60400
	ダイナミックス・構造	R3	機械力学・演習		3			1.5	1.5													佐藤 太一 他	70100
		R1	機械振動学・実験演習		3									1.5	1.5								70100
		R2	材料力学Ⅰ		2					1	1												40300
		R3	材料力学Ⅱ・演習		3							1.5	1.5										70100
		R1	技術者のための力学		2	1	1															辻 裕一	70100
	エネルギー工学	R3	熱力学・演習		3					1.5	1.5												40300
			内燃機関システム		2													1	1				70100
		R2	流れ学・演習		3					1.5	1.5												40300
		R3	流体工学・演習		3							1.5	1.5										70100
	メカトロニクス	R1	計測工学		2									1	1								60200
		R2	制御工学		2											1	1						60200
		R1	自動機械制御		2											1	1						40300
		R1	ロボット工学		2			1	1													斎藤 之男	70100
		R1	電子工学概論		2							1	1										40400
			マイクロコンピュータ工学		2													1	1				60500
		R1	人間工学		2											1	1						70100
		R1	モーションコントロール		2			1	1													°小田 高広	40300
		R1	信号とシステム		2											1	1						60200
	インテリジェント加工・材料	R2	材料物性工学		2			1	1													浅岡 照夫	40200
		R1	構造・機能材料学		2					1	1												70100
		R1	材料強度学		2									1	1								70100
		R2	形状創成学		2							1	1									※1	40100
		R1	材料変形学		2									1	1								40200
		R1	加工の力学		2											1	1						40200
			光機能工学		2													1	1				70100
	創造プログラミング	R2	機械システム		2	1	1															里見 忠篤	70100
		R1	図学		2	1	1															金竹 隆志	70100
		R1	イラストレーション工学		2			1	1													°福島 博	60500
		R2	機械設計基礎		2					1	1												70100
		R1	マシンエレメント		2							1	1										70100
			CAD工学		2													1	1				60500
	ニアリング総合エンジ		環境工学概論		2													1	1				70100
			自動車工学		2											1	1						70100

※ 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成18年度 知能機械工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数																担当教員及び備考	教職コード
						1年				2年				3年				4年					
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
専門科目		P	機械工学実験Ⅰ	2						1	1	1	1										40400
		P	機械工学実験Ⅱ	2										1	1	1	1						70100
		P	機械工作実習	2										1	1	1	1					※2	40300
		P	機械デザインⅠ	2						1	1	1	1										40300
		P	機械デザインⅡ	2										1	1	1	1						60500
		R5	科学英語A		2									1	1								70100
		R5	科学英語B		2											1	1						70100
		R1	特別講義		2											1	1					集中講義	
		R1	特別研修		2	半期1コマ																	
		R1	情報と職業入門		1	前前期1コマ																゜佐藤 達雄	60600
		R1	情報と職業		2	後期1コマ																゜佐藤 達雄	60600
	卒研等	R1	インターンシップA		2	1	1															浅岡 照夫 集中講義	
		R1	インターンシップB		2			1	1													浅岡 照夫 集中講義	
		R1	インターンシップC		2					1	1											集中講義	
		R1	インターンシップD		2							1	1									集中講義	
		R1	インターンシップE		2									1	1							集中講義	
		R1	インターンシップF		2											1	1					集中講義	
			インターンシップG		2													1	1			集中講義	
			インターンシップH		2															1	1	集中講義	
			輪講	2														1	1				
			卒業研究Ⅰ	3														3	3				
			卒業研究Ⅱ	3																3	3		
			卒業研究Ⅰ	3												3	3					3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			卒業研究Ⅱ	3														3	3				

※1・2 形状創成学を履修(5回以上出席し、学期末試験を受験)していなければ、機械工作実習を履修出来ない。

※ 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

専門教育科目

電子情報工学科

(Department of Electronic and Computer Engineering)

電子情報工学科履修モデル

1．はじめに

電子情報工学科のカリキュラムは、電子工学と情報工学に基礎をおいた、21世紀の電子情報工学のエンジニアとして必要な科目の配当を特徴としています。また、大学院進学も視野に入れ、基礎から応用まで無理なく身につけることのできるカリキュラム編成にしています。

電子情報工学科では、学生が主体的に履修計画を立て、しっかり学習していくことが要求されます。授業で学んだ事を、演習、実験、実習で着実に自分のものにしていくよう努力して下さい。また、判らない事をそのままにしないで、予習、復習にも力を入れるようにして下さい。以上のことを十分に留意して気持ちを引き締めて勉強してください。

ここでは電子情報工学科のカリキュラムの概要と履修計画作成のための参考資料を示します。

2．カリキュラムの概要

電子情報工学科の授業科目は大きく分けて次の 7 つに分類されます。

1）専門科目群
2）学部導入科目群
3）共通基幹科目群
4）学部共通科目群
5）人間形成科目群
6）リテラシー科目群
7）英語科目群

電子情報工学科を卒業するためには専門科目群・学部導入科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群より84単位以上、英語科目群より 2 単位以上、人間形成科目群より 4 単位以上、そのほかに上記 7 つの科目群のいずれかより34単位以上の合計124単位以上を取得しなければなりません。

２－１．専門科目群

専門科目群は、

ａ）ベース科目

ｂ）電気電子基礎科目

ｃ）電子情報科目

ｄ）電子応用科目

ｅ）電子材料科目

ｆ）ゼミナール・実験・卒研科目

に分けられます。その概要を図１に示します。

ａ）ベース科目

ベース科目とは、上記のｂ）～ｆ）の科目を学習するにあたっての基礎となる科目であり、低学年に配置されています。

ｂ）電気電子基礎科目

電気電子基礎科目は、電気磁気学、電気回路学、電子回路学、計測・制御工学、コンピュータプログラミングの５つの分野から構成されています。これらは電子情報工学技術者の基礎知識として非常に重要なものであることから、すべて演習が用意されている科目となっています。就職、進学に当たってこれらをしっかりと身につけておくことが非常に重要です。

ｃ）電子情報科目、ｄ）電子応用科目、ｅ）電子材料科目

これらの専門科目では、ベース科目、電気電子基礎科目において学習してきた内容を土台として、情報通信工学、生体電子工学、電子デバイス工学、産業電子工学等の専門性の強い科目を学習します。これらの多くは３年次生以上に配当されます。将来希望する進路を念頭におき、履修計画を立てることが重要となってきます。

ｆ）ゼミナール・実験・卒研科目

ゼミナール・実験・卒研科目には、電子計測実験Ⅰ，Ⅱ、基礎電子工学実験Ⅰ，Ⅱ、電子情報工学実験Ⅰ，Ⅱ、基礎電子情報工学ゼミナール，ロボット製作実習Ⅰ、電子情報工学ゼミナール，ロボット製作実習Ⅱ、応用電子情報工学ゼミナールⅠ，Ⅱ、卒業研究Ⅰ，Ⅱがあります。各ゼミナール，ロボット製作実習Ⅰ，Ⅱ以外はすべて必修科目です。実験を通して授業科目で学習したことを体得します。また、実験内容によっては授業に先だって実際に実験を行うこともあります。ゼミナールでは、少人数制グループに分かれて英文テキストの輪読などを行います。また、ロボット製作実習Ⅰ，Ⅱは集中講義でグループごとにロボットを

設計、製作し、マイコンやセンサアクチュエータの動作原理を修得します。これらによりエンジニアとして必要な技術英語の習得や実用的な技術力を身につけます。４年次生に配当されている卒業研究Ⅰ，Ⅱ（必修）では１年間かけて各自独自のテーマで研究を進めます。授業や実験で身につけた事の集大成として、高い技術力、研究能力、プレゼンテーション能力を身につけることができる科目であると言えます。

２－２．共通基幹科目群と学部共通科目群

共通基幹科目群には、数学、物理学、化学などの自然科学を学習するにあたっての基礎となる科目が含まれ、主に低学年に配置されています。本学を受験したみなさんの中には化学は苦手だといった諸君がいるかと思います。しかしながら、半導体デバイスの開発には化学的な知識が重要となります。この例からもわかるように、これらの科目は一見電子工学とは直接関連がないような印象を与えるかも知れませんが、工学分野を学ぶためには必ず必要となる科目です。

学部共通科目群には、共通基幹科目の補習や、科学技術者の入門等に関する科目が配当されています。

２－３．人間形成科目群とリテラシー科目群・英語科目群

人間形成科目群とリテラシー科目群英語科目群には、英語科目と従来より一般教養科目と呼ばれていた心理学、哲学等の人文科学科目、経済学などの社会科学科目、これらの枠にとらわれない少人数授業を特色とする教養ゼミナール、そして保健体育科目等が配当されています。企業の国際化、技術交流の国際化は今後一層進むことは明らかです。その意味から国際共通語としての英語の運用能力が求められます。また、大学を卒業する人間にはその専門に関する深い知識とともに、その他の分野に関する一般的な知識も要求されます。特に新しい分野を開拓する場合には専門にとらわれない広い視野が必要となります。たとえば優れたヒューマンインターフェースを開発するためには心理学的なアプローチが必要となるでしょう。また、企業においては経済的な視野に立った研究開発プロジェクトの立案なども要求されるでしょう。このような立場から専門教育を学習することと並行して自分の将来の進路や各自の興味を考慮して履修計画を立ててください。

3．履修計画作成における考え方

以下ではいくつかの例により、どのような考え方で履修計画を立てたらよいかを説明します。

1）情報通信工学分野へ進むことを考えている場合

共通基幹科目、ベース科目、電気電子基礎科目、さらに、電子情報科目はここで重要であることは言うまでもありません。特に、数学についての実力が要求されます。数学の基礎に立って情報工学、信号処理工学、通信工学などを勉強して行きます。また、電子回路、コンピュータに関する知識はハードウェア・ソフトウェアともに重要となります。また、今後は通信衛星を利用した宇宙規模での通信も重要となる事を考え、４年生では専門性の高い宇宙通信工学を学べるようにしています。

2）電子デバイス工学分野へ進むことを考えている場合

半導体、集積回路などについて勉強し将来これらの分野に進むことを希望する場合にどのような考え方で履修計画を立てたらよいかについて説明します。

共通基幹科目、ベース科目、電気電子基礎科目は、やはりここでも重要であることは言うまでもありませんが、特に、電気磁気学、電気・電子回路学、物理学、化学は重要です。そして高学年次で電子デバイス工学についてしっかり勉強することが重要です。

3）生体電子工学分野へ進むことを考えている場合

医用電子工学、生体情報工学などについて勉強し将来これらの分野に進むことを希望する場合にどのような考え方で履修計画を立てたらよいかについて説明します。

共通基幹科目、ベース科目、電気電子基礎科目の重要性は、他分野と同様です。さらに、化学、コンピュータ、制御工学の知識が要求されます。そして、高学年次に配当されている医用電子工学、システム工学、生体情報工学について勉強することが重要です。

4）産業電子工学分野へ進むことを考えている場合

共通基幹科目、ベース科目、電気電子基礎科目はここでもたいへん重要であることは言うまでもありません。また、数学についても深く理解していることが必要です。またコンピュータを使用する技術はソフトウェア、ハードウェアともに重要です。メカトロニクス分野へ進むことを考えている場合には機械工学に関する知識も必要となります。従って電気電子基礎科目については十分理解を深め身につけることが大切です。そして高学年次でロボット電子工学、計測・制御工学、メカトロニクス等の応用科目について学習して行くことになります。

5）大学院進学を考えている場合

大学院に進むということは将来研究開発に携わる道に進むことを意味します。研究開発には未知の分野を新しいアプローチにより開拓していく能力が必要となります。したがって非常に幅広くかつ深い知識が必要となります。その意味から共通基幹科目、ベース科目、電気電子基礎科目のほとんどをマスターしていることが要求されます。そして、その他の専門科目についても、上記では専門性が強いという説明をしましたが、これも大学院レベルから考えると専門基礎に相当する科目がほとんどであり、その多くを履修することが要求されます。たとえ、ロボット等のメカトロニクスを研究する場合であっても、各部位には最先端のセンサが利用されます。これのため、ロボットの開発にはセンサの基礎として半導体デバイスの知識が必要となります。また、新しい半導体デバイスの開発においてもその開発装置には複雑な制御が必要となることも考えられます。このように研究開発には多くの専門的な知識を自ら獲得していくという姿勢が要求されます。

このように大学を卒業してからどのような進路に進むことを希望するのかという点が履修計画を立てる上で重要になります。そうは言っても低学年次のうちにはまだ具体的なイメージがわからないのが実状ではないかと思います。カリキュラム上では低学年次には電子情報工学のいずれの分野に進む場合にも必要となる基礎科目を配当してあります。したがって低学年次にはこれらをしっかりと学習していくことが大切です。

4．履修上の注意

4－1．1年次生前期の学習の重要性

大学入試を終え、諸君は一息いれているところかと思います。しかしながら、ここでひとつの注意を与えておきます。1年次生前期に勉強をおろそかにして、1年次生前期で通常の学生が取得する単位数の半数以下の単位数しか取得できなかった学生は、3年次生から4年次生になる段階で多くの場合留年をしています。また、1年次に学習する科目は電子情報工学の基礎科目ですから、これらの修得に支障がある場合、上級年次の科目を理解し習得することは、事実上不可能になってきます。このため大学生として各自が自覚を持ちながら、科目の履修と単位の取得が必要です。このことからも1年次生前期の過ごし方がこれからの4年間に大きく影響することは明らかです。この点に注意して1年次生前期の過ごし方には十分注意して下さい。また、1年次から2年次への進級条件として、必修科目である電子計測実験Ⅰ，Ⅱの単位取得があります。この実験は、電子情報工学分野で学んで行く上で必要な

知識が得られる重要な実験ですので、しっかり学習して下さい。

４－２．２年次生における学習の注意点

電子情報工学科では２年次から３年次への進級条件は「授業科目単位数が64単位以上取得されていること」です。２年次生には多くの重要な電気電子基礎科目が配置されており、また電子計測実験より専門性の高い基礎電子工学実験も始まります。従って２年次生は電気電子技術者としての基礎学力を身につけるため非常に重要な時期となります。このような重要性を十分理解してしっかり学習してください。

４－３．３年次生における学習の注意点

３年次生ではさらに進んだ専門科目を履修します。そのためには１、２年次生で学習した専門基礎科目を十分理解していることが不可欠となってきます。１、２年次生の時に専門基礎科目の習得が不十分であったと思われる学生諸君は、基礎に立ち返って学習する姿勢が大切です。また、卒業後の進路を意識しながら、自分の得意分野が出来上がるように学習を行って行くことが要求されます。さらに３年次生から４年次生に進級するためには所定の進級条件を満足しなければなりません。

４－４．４年次生における学習上の注意点

４年次生では大学における学習の総まとめともいうべき「卒業研究Ⅰ，Ⅱ」が履修の中心に置かれます。また、更に進んだ応用に力点を置いた「集積回路工学」、「生体情報工学」、「宇宙通信工学」、「メカトロニクス」という専門科目が配当されています。進路決定に関する活動や卒業研究で忙しい日々を送ることになりますが、ぜひこれらの科目も積極的に履修して、幅広い知識を身につけることを目指して下さい。

４－５．履修科目数について

専門基礎科目においては、多くの場合演習が付属しており、さらにレポートなども頻繁に課されることになります。その為の予習と復習の時間も必要となります。したがって１学期間にあまり多くの科目を履修しようとしても、個々の科目の学習が不十分となります。以上のことから、１年間に履修できる単位の上限が50単位と定められています。これらの事に十分留意して履修計画を立てることが重要です。消化不良のまま多くの科目を履修するより、履修した科目は必ず身につけるといった意気込みで勉強して下さい。

５．３年以上の在学での卒業について

３年以上在学して、極めて優秀な学生は卒業研究を履修するなどの所定の条件を満たすと同時に、学科の判断により卒業を可能とする場合があります。その後大学院修士課程への受験が許可されます。進路の確定している学生にとって早い段階で卒業し、大学院の勉学・研究環境に入ることは大変有意義なことです。また、１年次より大学院進学を視野に入れた履修をしていくことにより学部＋大学院修士課程を５年間で修了するスペリオルコースも設置されています。

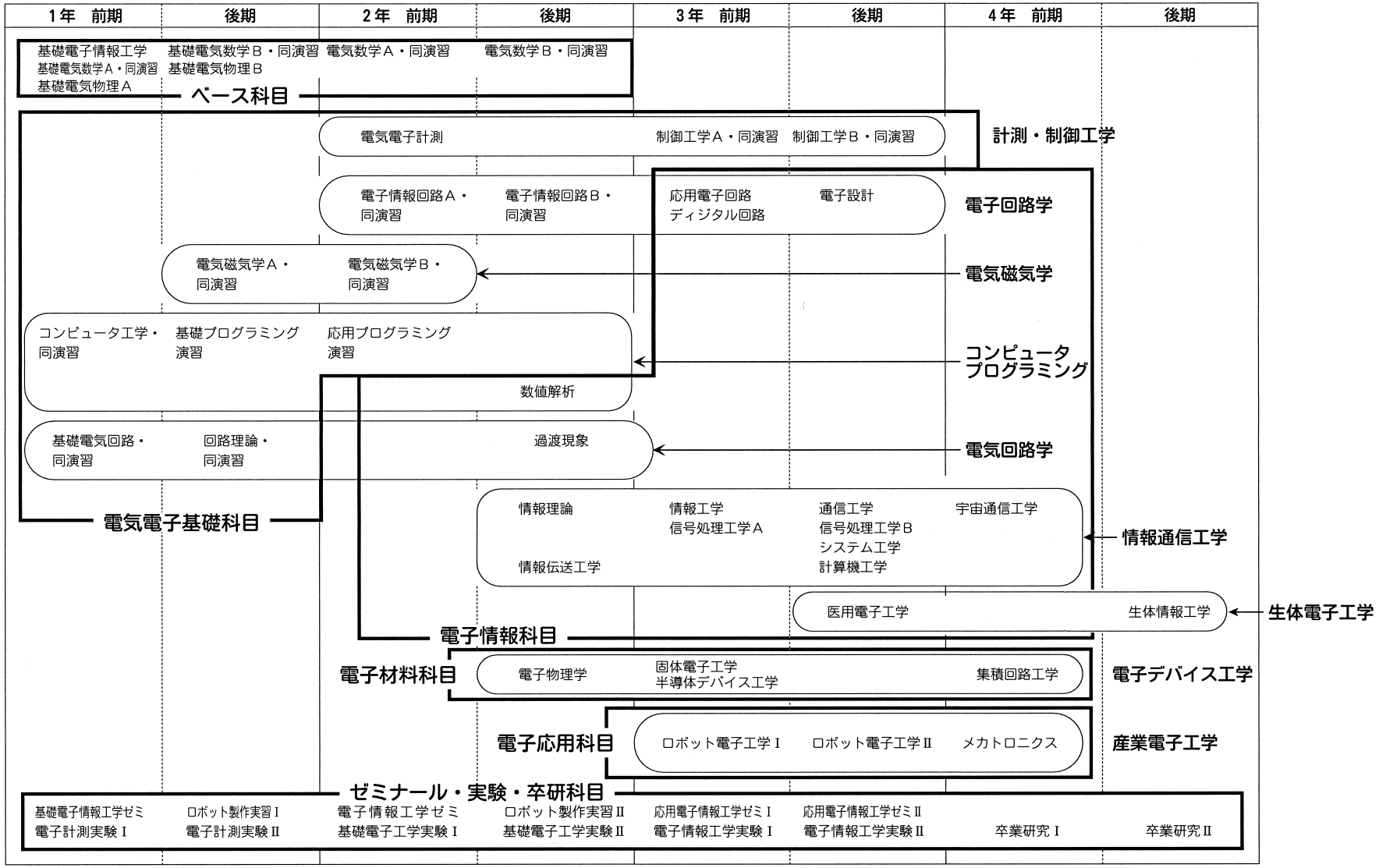


図1　電子情報工学科における専門科目群

電子情報工学科

平成18年度1年次在籍者　**進級条件**

[1年次から2年次への進級条件]

1年次に配当されている授業科目の必修科目を全て取得のこと。

[2年次から3年次への進級条件]

2年次までに配当されている授業科目のうち、64単位以上を取得すること。

[3年次から4年次への進級条件]

<table>
<tr><th colspan="2">コード</th><th>進　級　条　件</th></tr>
<tr><td>人間形成科目群</td><td colspan="2">H</td><td>人間形成科目群から4単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td>英語科目群</td><td colspan="2">E</td><td>英語科目群から2単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専門科目群・共通基幹科目群・学部共通科目群</td><td colspan="2">P</td><td>3年次までに配当されている専門必修科目6科目16単位を全て取得のこと。</td></tr>
<tr><td colspan="2">R1・B1</td><td>3年次までに配当されている専門選択科目群と共通基幹科目群と学部共通科目群から、62単位以上取得のこと。
但し、下記の条件を満たすこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td>R2・B2</td><td>次の科目から16単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td>R2</td><td>基礎電気物理A②　基礎電気物理B②
基礎電気数学A・同演習③　基礎電気数学B・同演習③
電気数学A・同演習③　電気数学B・同演習③</td></tr>
<tr><td>B2</td><td>基礎微積分学A②　基礎微積分学B②
基礎線形代数学A②　基礎線形代数学B②　物理学A②　物理学B②
物理学実験②　量子物理学②　化学A②　化学B②　化学実験②</td></tr>
<tr><td></td><td>R3</td><td>次の科目から24単位以上取得のこと。
基礎電子情報工学②　基礎電気回路・同演習③　回路理論・同演習③
電子情報回路A・同演習③　電子情報回路B・同演習③
電気磁気学A・同演習③　電気磁気学B・同演習③
制御工学A・同演習③　制御工学B・同演習③
コンピュータ工学・同演習③</td></tr>
<tr><td colspan="4">総取得単位数が　104　単位以上であること。</td></tr>
</table>

授業科目配当表

平成18年度 電子情報工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目	ベース科目	R3	基礎電子情報工学		2	1	1															星野　洋 他	70100
		R2	基礎電気物理A		2	1	1															*黒井　恒男	
		R2	基礎電気物理B		2			1	1													*黒井　恒男	
		R2	基礎電気数学A・同演習		3	2	2															*黒井　恒男 他	
		R2	基礎電気数学B・同演習		3			2	2													*黒井　恒男 他	
		R2	電気数学A・同演習		3					2	2												
		R2	電気数学B・同演習		3							2	2										
	電気電子基礎	R3	基礎電気回路・同演習		3	2	2															宮下　收 他	40400
		R3	回路理論・同演習		3			2	2													宮下　收 他	70100
		R3	電子情報回路A・同演習		3					2	2												60200
		R3	電子情報回路B・同演習		3							2	2										70100
		R3	電気磁気学A・同演習		3			2	2													内川　義則 他	70100
		R3	電気磁気学B・同演習		3					2	2												70100
		R3	制御工学A・同演習		3									2	2								70100
		R3	制御工学B・同演習		3											2	2						70100
		R3	コンピュータ工学・同演習		3	2	2															舟久保　昭夫 他	40600
		R1	基礎プログラミング演習		2			1	1													舟久保　昭夫 他	60300
		R1	応用プログラミング演習		2					1	1												60200
		R1	電気電子計測		2					1	1												70100
	電子情報	R1	数値解析		2							1	1										60200
		R1	情報伝送工学		2							1	1										60400
		R1	情報理論		2							1	1										60400
			生体情報工学		2													1	1				
		R1	信号処理工学A		2									1	1								70100
		R1	信号処理工学B		2											1	1						70100
		R1	計算機工学		2											1	1						60300
		R1	情報工学		2									1	1								60400
		R1	通信工学		2											1	1						60400
		R1	医用電子工学		2											1	1						70100
		R1	システム工学		2											1	1						60500
			宇宙通信工学		2													1	1				60400
		R1	応用電子回路		2									1	1								70100
		R1	ディジタル回路		2									1	1								60200
		R1	過渡現象		2							1	1										70100
		R1	電子設計		2											1	1						70100
	電子応用		メカトロニクス		2													1	1				40300
		R1	ロボット電子工学Ⅰ		2									1	1								40300
		R1	ロボット電子工学Ⅱ		2											1	1						70100
	電子材料	R1	電子物理学		2							1	1										70100
		R1	固体電子工学		2									1	1								40200
		R1	半導体デバイス工学		2											1	1						70100
			集積回路工学		2													1	1				70100
	卒研等	R1	基礎電子情報工学ゼミナール		2	1	1															星野　洋 他	
		R1	ロボット製作実習Ⅰ		1			1	1													星野　洋 他　集中講義	
		R1	電子情報工学ゼミナール		2					1	1												
		R1	ロボット製作実習Ⅱ		1							1	1									集中講義	
		R1	応用電子情報工学ゼミナールⅠ		2									1	1								
		R1	応用電子情報工学ゼミナールⅡ		2											1	1						
		P	電子計測実験Ⅰ	2		2	2															植野　彰規 他	60400
		P	電子計測実験Ⅱ	2				2	2													植野　彰規 他	60500

※　教職コードは、第3章「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成18年度 電子情報工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数 1年 前期 1	1年 前期 2	1年 後期 3	1年 後期 4	2年 前期 5	2年 前期 6	2年 後期 7	2年 後期 8	3年 前期 9	3年 前期 10	3年 後期 11	3年 後期 12	4年 前期 13	4年 前期 14	4年 後期 15	4年 後期 16	担当教員及び備考	教職コード
専門科目		P	基礎電子工学実験Ⅰ	3						3	3												70100
		P	基礎電子工学実験Ⅱ	3								3	3										70100
		P	電子情報工学実験Ⅰ	3										3	3								40300
		P	電子情報工学実験Ⅱ	3												3	3						70100
		R1	情報と職業入門		1	前前期1コマ																゜佐藤 達雄	60600
		R1	情報と職業		2	後期1コマ																※1 ゜佐藤 達雄	60600
	卒研等	R1	インターンシップA		2	1	1															星野 洋 集中講義	
		R1	インターンシップB		2			1	1													星野 洋 集中講義	
		R1	インターンシップC		2					1	1											集中講義	
		R1	インターンシップD		2							1	1									集中講義	
		R1	インターンシップE		2									1	1							集中講義	
		R1	インターンシップF		2											1	1					集中講義	
			インターンシップG		2													1	1			集中講義	
			インターンシップH		2															1	1	集中講義	
			卒業研究Ⅰ	3														3	3				
			卒業研究Ⅱ	3																6			
			卒業研究Ⅰ	3												3	3					3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			卒業研究Ⅱ	3														3	3				

※1 「情報と職業」はインターンシップの科目と振替可能。

※2 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

専門教育科目

生　命　工　学　科

(Department of Biotechnology)

生命工学科履修モデル

はじめに

生命工学科には、３つのコースがあります。自分の興味や将来の進路のことを考えて、２年次が終了する頃には、どのコースを選択するか決めて下さい。それぞれのコースの履修モデルは、表１から表３にまとめました。また、それぞれのコースの目標は次の通りです。

１）生命化学コース：生命物質の構造や反応システムの特徴を明らかにし、諸物質と生命とのかかわりを究明するとともに、機能性物質の創製を目的とする。環境生命工学、生命支援工学の基礎分野ともなる。

２）環境生命工学コース：環境生物学および生物機能利用学として、様々な環境変化・刺激・ストレスに対する生物の応答機構を解明し、環境問題の解決や生物・物質の生産、食品、医療への応用に結びつける。

３）生命支援工学コース：医療や福祉への応用を目的に、生体システムと物質・材料のかかわりを明らかにし、生体適合材料や支援システムの開発を通して社会に貢献する。

表１から表３からわかるように、選択するコースにより、共通基幹科目、学科固有専門科目の履修の優先順位が異なっています。また、各コースの専門科目は14単位ぐらいは履修するのが望ましいとなっていますので注意して下さい。１年次から２年次、３年次から４年次へは進級条件があります（進級条件参照）。

各コースには３年次から分れますが、希望者があるコースに集中した場合、成績で優先順位がつけられるので、このことにも注意して下さい。

１年次生

１年から２年に進級するためには、１年次に配当されている授業科目のうち30単位以上取得することとなっています。しかし、これは最低限の単位数ですから、できるなら40単位以上取得できるように履修計画を立てて下さい。

学部導入科目の数学基礎、物理学基礎、化学基礎を１年前前期で集中的に学ぶことになっています。これらの科目の単位を前前期で取得できなかった場合は、前後期にもう一度履修することをすすめます。物理学実験、化学実験、英語ＩＡ、ＩＢ、Communicative EnglishＩＡ、ＩＢ、コンピューターリテラシー、日本語リテラシーは１年のうちに単位を取得する

ことを強くすすめます。これらの科目の単位は 1 年次配当で、しかも 3 年次から 4 年次に進級するときに必要となるからです。次に人間形成科目、共通基幹科目の授業を時間割に入れます。 1 年次に配当されている専門科目は 6 つありますが、前期の生命工学概論と後期の生命工学ゼミ A は必修科目なので取りこぼしのないようにしましょう。

2 年次生

2 年次から専門科目が増えます。 4 年次に所属する研究室のことも考え、単位の取り方も考えなければなりません。つまり、自分の進むコースに必要な授業を優先して取るわけです。 2 年次に配当された専門科目で必修なものは生命工学ゼミ B と生命工学基礎実験A，Bがあります。 2 年次から 4 年次の卒業研究のことを言うと気が早いようですが、この時期に確実に単位を取得しておかないと、 4 年次にたくさんの単位をとるはめになり、とても卒業研究どころではなくなります。

3 年次生

3 年次配当の専門科目の中で、必修科目は、生命工学ゼミC、D、生命工学実験A、Bです。残りは選択科目なので、自分の進んだコースの内容を考えて履修すればよいでしょう。ただし、注意しなければならないことは、 3 年次から 4 年次への進級条件があることです（P181参照）。 3 年次が終わった時点で、進級条件が満たされるように時間割りを立ててください。

4 年次生

1 年から 3 年までに順調に単位を取得しておけば、 4 年次には、卒業研究に多くの時間を注ぐことができるはずです。そのためにも、若い学年でできるだけ多くの単位を取得しておきましょう。

教職課程の単位履修のすすめ

生命工学科では、中学校と高校の理科の教員免許状を取得できます。大学を卒業してから、教員免許状を取得するのはとても難しくなるので、在学中に免許状取得に必要な単位を履修するようにすることをすすめます。詳しいことは第 3 章の教職課程を参考にして下さい。

臨床工学技士になるには

臨床工学技士とは、医師の指示のもとに医療機器の操作や保守点検を行うことのできる者のことです。厚生労働省の指定する科目の単位を本学および専門学校などで取得し、指定の機関で研修を積めば、臨床工学技士の受験資格が得られます。臨床工学技士の免許取得に関する説明会や案内が学科内でもありますので、掲示には注意してください。

大学院に進学するには

最近、理工系の学部卒業生の大学院進学率が高くなり、大学によっては学部卒業生の半分以上が進学するところもあります。将来、専門性の高い職業につきたいと考えている人には、大学院進学をお勧めします。生命工学専攻の大学院は平成14年４月に設置されました。３年次までの成績優秀者には推薦入学制度があります。また、それ以外の学生も一般試験で合格すれば進学できます。

表１：生命化学コース学生の履修モデル

◎卒業研究Ａ・Ｂ
6 単位

◎生命工学特別ゼミ
2 単位

生命化学コース科目
14単位がのぞましい

生命の化学Ａ
遺伝学
分子生物学
有機化学
生命有機化学
生命分析化学
生命物理化学Ａ
分子分光学
生体高分子化学

環境生命工学コース科目
各コース 4 単位以上で計10単位

環境生命工学
生物情報科学
細胞工学
電気化学
公害防止・環境計測
生態地球科学
微生物学
生物反応工学
食品工学
応用微生物学

生命支援工学コース科目

生命材料工学
循環器系人工臓器論
先端治療・福祉工学概論
計測工学
基礎医学概論
センサー工学
生体代替工学
臨床工学
臨床医学概論

自主選択科目
20

実験・ゼミ
全て必修16単位

◎生命工学ゼミ
Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ

◎生命工学基礎実験Ａ・Ｂ

◎生命工学実験Ａ・Ｂ

学科固有専門科目
生命工学概論を含めて14単位

◎生命工学概論
○機器分析
○生命工学実践論

○生命無機化学
○遺伝子工学
○生命物理化学Ｂ
○プログラミング演習
○生物学

△制御工学
○生命の化学Ｂ
電子工学
機械工学

学部導入科目

以下の科目から 3 単位
○数学基礎
○物理学基礎
○化学基礎
理工学入門

共通基幹科目

以下の科目から14単位
◎物理学実験
◎化学実験
△基礎微積分学Ａ・Ｂ
△基礎線形代数学Ａ・Ｂ
○物理学Ａ・Ｂ
○化学Ａ・Ｂ
○生物科学

学部共通科目

以下の科目から 4 単位
量子物理学
○環境科学
○材料化学

◎：科目指定必修，または 3 年次から 4 年次の進級に必要な科目　○特に履修すべき重要科目
△：履修することが望ましい科目

表２：環境生命工学コース学生の履修モデル

◎卒業研究Ａ・Ｂ
6 単位

◎生命工学特別ゼミ
2 単位

生命化学コース科目
各コース 4 単位以上で

生命の化学Ａ
遺伝学
分子生物学
有機化学
生命有機化学
生命分析化学
生命物理化学Ａ
分子分光学
生体高分子化学

環境生命工学コース科目
14単位がのぞましい
環境生命工学
生物情報科学
細胞工学
電気化学
公害防止・環境計測
生態地球科学
微生物学
生物反応工学
食品工学
応用微生物学

生命支援工学コース科目
計10単位

生命材料工学
循環器系人工臓器論
先端治療・福祉工学概論
計測工学
基礎医学概論
センサー工学
生体代替工学
臨床工学
臨床医学概論

自主選択科目
20

実験・ゼミ
全て必修16単位

◎生命工学ゼミ
Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ

◎生命工学基礎実験Ａ・Ｂ

◎生命工学実験Ａ・Ｂ

学科固有専門科目
生命工学概論を含めて14単位

◎生命工学概論
○機器分析
○生命工学実践論

○生命無機化学
○生命の化学Ｂ
○遺伝子工学
○プログラミング演習
○生物学

△生命物理化学Ｂ
△電子工学
機械工学
制御工学

学部導入科目
以下の科目から 3 単位

○数学基礎
○物理学基礎
○化学基礎
理工学入門

共通基幹科目
以下の科目から14単位

◎物理学実験
◎化学実験
△基礎微積分学Ａ・Ｂ
△基礎線形代数学Ａ・Ｂ
△物理学Ａ・Ｂ
○化学Ａ・Ｂ
○生物科学

学部共通科目
以下の科目から 4 単位

量子物理学
○環境科学
材料化学

◎：科目指定必修，または 3 年次から 4 年次の進級に必要な科目　○特に履修すべき重要科目
△：履修することが望ましい科目

表３：生命支援工学コース学生の履修モデル

◎卒業研究Ａ・Ｂ
6 単位

◎生命工学特別ゼミ
2 単位

生命化学コース科目
各コース 4 単位以上で計10単位

生命の化学Ａ
遺伝学
分子生物学
有機化学
生命有機化学
生命分析化学
生命物理化学Ａ
分子分光学
生体高分子化学

環境生命工学コース科目

環境生命工学
生物情報科学
細胞工学
電気化学
公害防止・環境計測
生態地球科学
微生物学
生物反応工学
食品工学
応用微生物学

生命支援工学コース科目
14単位がのぞましい

生命材料工学
循環器系人工臓器論
先端治療・福祉工学概論
計測工学
基礎医学概論
センサー工学
生体代替工学
臨床工学
臨床医学概論

自主選択科目
20

実験・ゼミ
全て必修16単位

◎生命工学ゼミ
Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ

◎生命工学基礎実験Ａ・Ｂ

◎生命工学実験Ａ・Ｂ

学科固有専門科目
生命工学概論を含めて14単位

◎生命工学概論
○機器分析
○生命工学実践論

○電子工学
○機械工学
○制御工学
○プログラミング演習
○生物学

△遺伝子工学
生命無機化学
△生命の化学Ｂ
生命物理化学Ｂ

学部導入科目
以下の科目から 3 単位

○数学基礎
○物理学基礎
○化学基礎
理工学入門

共通基幹科目
以下の科目から14単位

◎物理学実験
◎化学実験
○基礎微積分学Ａ・Ｂ
○基礎線形代数学Ａ・Ｂ
○物理学Ａ・Ｂ
△化学Ａ・Ｂ
○生物科学

学部共通科目
以下の科目から 4 単位

量子物理学
○環境科学
△材料化学

◎：科目指定必修，または 3 年次から 4 年次の進級に必要な科目　○特に履修すべき重要科目
△：履修することが望ましい科目

生命工学科

平成18年度1年次在籍者　進級条件

[1年次から2年次への進級条件]

1年次に配当されている授業科目のうち、30単位以上を取得すること。

[3年次から4年次への進級条件]

科目群	コード	進　級　条　件
人間形成科目群	H	人間形成科目群から14単位以上取得のこと。
英語科目群	E	英語科目群から6単位以上取得のこと。
リテラシー科目群	LJ	日本語リテラシー分野から1単位を取得のこと。
	LC	コンピュータリテラシー分野から2単位を取得のこと。
専門科目群	Q1	3年次までに配当されている、専門必修科目のうち7科目14単位以上を取得のこと。
	R1	3年次までに配当されている、専門選択科目から28単位以上を取得のこと。
学部共通科目群 共通基幹科目群	B1	共通基幹科目群・学部共通科目群から14単位以上取得のこと。 但し、下記の条件を満たすこと。
	B2	B2の2科目4単位全て取得のこと。 物理学実験②　化学実験②
総取得単位数が　105　単位以上であること。		

授業科目配当表

平成18年度 生命工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数																担当教員及び備考	教職コード
						1年				2年				3年				4年					
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
専門科目	学科固有専門科目	Q1	生命工学概論	2		1	1															田中 眞人 他	
		R1	生物学		2					1	1												30500
		R1	生命無機化学		2					1	1												30300
		R1	生命の化学B		2					1	1												
		R1	生命物理化学B		2									1	1								30100
		R1	遺伝子工学		2									1	1								
		R1	機器分析		2									1	1								
		R1	電子工学		2					1	1												
		R1	機械工学		2							1	1										
		R1	制御工学		2									1	1								
		R1	プログラミング演習		2			1	1													内田 干城 他	
		R1	生命工学実践論		2							1	1										
		R1	免疫学		2									1	1								30500
	生命化学	R1	生命の化学A		2			1	1													田中 眞人	30300
		R1	遺伝学		2									1	1								30500
		R1	分子生物学		2							1	1										30500
		R1	有機化学		2					1	1												30300
		R1	生命有機化学		2							1	1										30300
		R1	生命分析化学		2									1	1								30300
		R1	生命物理化学A		2					1	1												30300
		R1	分子分光学		2							1	1										30300
		R1	生体高分子化学		2											1	1						30300
		R1	薬理学		2											1	1						30300
	環境生命工学	R1	環境生命工学		2			1	1													村勢 則郎	
		R1	生物情報科学		2							1	1										30500
		R1	細胞工学		2											1	1						30500
		R1	電気化学		2							1	1										
		R1	公害防止・環境計測		2											1	1						
		R1	生態地球科学		2									1	1								30700
		R1	微生物学		2					1	1												30500
		R1	生物反応工学		2									1	1								30500
		R1	食品工学		2											1	1						
		R1	応用微生物学		2											1	1						30500
	生命支援工学	R1	生命材料工学		2									1	1								
		R1	センサー工学		2							1	1										
		R1	循環器系人工臓器論		2											1	1						30500
		R1	先端治療・福祉工学概論		2			1	1													村松 和明	
		R1	計測工学		2							1	1										
		R1	基礎医学概論		2							1	1										30500
		R1	臨床医学概論		2									1	1								
		R1	生体代替工学		2									1	1								
		R1	臨床工学		2									1	1								
	ゼミ・実験	Q1	生命工学ゼミA	2				1	1													村勢 則郎 他	
		Q1	生命工学ゼミB	2								1	1										
		Q1	生命工学ゼミC	2										1	1								
		Q1	生命工学ゼミD	2												1	1						
			生命工学特別ゼミ	2														1	1				
		R1	地学実験		2									半期1コマ								集中講義	30800

※ 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成18年度 生命工学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数																担当教員及び備考	教職コード
						1年				2年				3年				4年					
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
専門科目	ゼミ・実験	Q1	生命工学基礎実験A	2						2	2												30600
		Q1	生命工学基礎実験B	2								2	2										30600
		Q1	生命工学実験A	2										2	2								30600
		Q1	生命工学実験B	2												2	2						30600
	卒研等	R1	情報と職業入門		1	1／4期1コマ																中山　洋　集中講義	
		R1	インターンシップA		2	1	1															内田　干城　集中講義	
		R1	インターンシップB		2			1	1													内田　干城　集中講義	
		R1	インターンシップC		2					1	1											集中講義	
		R1	インターンシップD		2							1	1									集中講義	
		R1	インターンシップE		2									1	1							集中講義	
		R1	インターンシップF		2											1	1					集中講義	
			インターンシップG		2													1	1			集中講義	
			インターンシップH		2															1	1	集中講義	
			卒業研究A	3														3	3				
			卒業研究B	3																3	3		
			卒業研究A	3												3	3					3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			卒業研究B	3														3	3				

※ 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

専門教育科目

情報社会学科

(Department of Information and Arts)

情報社会学科の履修モデル

1．情報社会学科のコンセプト

私たちの社会はさまざまな問題を抱えながら休みなく変化し続けています。カナダの社会学者であるマーシャル・マクルーハンは、私たちの社会が到達しつつあるグローバルネットワーク社会を予見してグローバル・ヴィレッジ（地球村）と呼びました。グローバル・ヴィレッジにおいてインターネットは先端技術ではなく、電気や水道と同じ社会基盤のひとつと考えます。このような社会では、デジタル化された「コンテンツ（情報の中身そのもの）」を創造的に扱えること、つまり、アート感覚豊かな情報発信能力と、社会における諸問題を解決できる資質とがますます重要になっていくでしょう。物質的豊かさや便利さ、経済効率だけを追い求める時代は終わったのです。

情報社会学科は、新しい概念でデザインされた文理統合型の学科です。昨日までキミを縛っていた理系・文系という枠組みはもう忘れてください。情報学、工学、社会学、心理学、表現学、芸術学…情報社会学科では、多彩な分野を複合的に学んでいきます。そしてこの多彩なカリキュラムを支えているのは、工学系、人文社会系、芸術表現系などさまざまな分野の専門家で構成された教授陣、私学随一のマルチメディア教育環境、日本最大級のバーチャルスタジオなどキミたちの夢や発想を形にするプロ仕様のコンテンツ制作システムです。

情報社会学科は、新しい社会をより人間性豊かで環境負荷の少ない社会として実現していくことを目標に、理工系の知識や思考力に加え、社会の仕組みや動きを的確に理解できる素養や、情報を感性豊かに表現できる高度なコミュニケーション能力を併せ持った人材、地球全体、社会全体を見渡せ、発信できる「新しい技術者」の育成を目指します。

2．情報社会学科の専門教育分野

情報社会学科では表１のように、「マルチメディア工学」、「表現工学」、「情報社会」および、これら３分野を総合的に扱う「総合系」の４つの専門教育分野が用意されています。「総合系」科目に加え、「マルチメディア工学」、「表現工学」、「情報社会」の３つの分野の科目群から自分の興味や関心、さらに進路などを考慮して、カリキュラム・アドバイザー教員の指導の下、勉強すべき科目を選択し、自分独自のカリキュラムを構成していきます。

２．１「マルチメディア工学」系

コンピュータ、ネットワーク、画像、音声などマルチメディア情報を扱う基本技術の習得と科学的思考力を養います。

2．2「表現工学」系

情報の表現・デザイン・創造などに関わるアート感覚を磨き、メディアの特性について学びます。

2．3「情報社会」系

人間、政治経済、社会に関わる基本的な知識を習得し、さまざまな専門分野におけるコミュニケーション能力を養います。

2．4「総合」系

3分野の知識を活用し、総合的なコンテンツ制作能力、実践的な問題解決能力、コミュニケーション能力などを養います。

3．履修モデル

大学では高校までのように予め定められた時間割に沿って科目を学んでいくのではなく、履修申告という手続きによって自分自身で主体的に履修する科目を決めて学んでいきます。つまり大学生は自己責任で履修計画（具体的には時間割）を作成するわけです。ではどのように履修科目を決めていくかですが、みなさんは基本的に共通教育科目に加えて、工学系の「マルチメディア工学」分野、芸術系の「表現工学」分野、人文社会系の「情報社会」分野の専門科目をいろいろに組み合わせ、履修計画を作っていくことになります。1年次では未定ということでもかまいませんが、自分のやりたいこと、進みたい進路、得意なことなどを考え、中心的に学ぶ分野を決め、卒業・進級条件を踏まえた上で年次ごとの履修計画を立案してください。例として、表2、3、4に3つの履修モデルを挙げておきますので、カリキュラム・アドバイザー教員と相談する際の参考にしてください。

3．1 情報社会学科の教育方針

- コンピュータの利用・活用についてはいうまでもなく、英語などの外国語ならびに日本語（リテラシー科目）、また調査や表現の技法など、自律的な学習活動と表現創造に必要な技能（基本的なコミュニケーション能力、カレッジスキルほか）の習得を必須とする。
- 「カリキュラム・アドバイザー」教員の助言に基づいて、自分で学ぶべき事項を決め、自己責任のもとで自律的に行動する経験を通じ、教えてもらうのを待っているのではなく、自ら学んでいく姿勢を身に付ける。

・実習を重視した実践的教育を行う。特に「情報クリエイション実習」は１～３年次に配置される実習科目で、スタジオ、メディア工房にある設備を駆使し、マルチメディアコンテンツ、Webコンテンツ、映画、ドキュメンタリー、（ＣＧ）アニメーション、音楽、ペーパーメディア、コンピュータプログラム、研究レポート等を制作し、実践的な問題解決能力を磨く。

・教養文化科目分野、総合文化科目分野など人間形成科目群について、また共通基幹科目群（いわゆる自然科学科目）などについても積極的に学習し、新しい社会で必要とされる人材としての幅広い視野と教養を育むよう努める。

３．２　履修ガイド

・１年次（進級条件あり）

自然科学、人文社会、リテラシ科目など学部共通科目を多く学びます。専門科目としては、前期に情報社会学の概要を理解するための科目、後期に情報社会学の基礎となる科目を学びます。

・２年次

マルチメディア工学、表現工学、情報社会のそれぞれの専門分野における中核的な知識を学びます。総合科目である情報クリエイション実習ⅡＡ、ⅡＢでは、個人またはグループでの作品制作実習を行います。

・３年次（進級条件あり）

各自の履修計画に従って、より高度な内容を持つ専門科目を学びます。総合科目である情報クリエイション実習ⅢＡでは、より高度な作品制作、情報クリエイション実習ⅢＢでは４年次の卒業研究につながる専門ゼミなどを行います。

・４年次（卒業条件あり）

大学で学んだ内容を総合して、１年を通じ卒業研究を行います。学年の最後には、卒業論文、卒業制作作品を提出し、発表会を行います。

４．大学院について

情報社会学科に接続する大学院修士課程として情報社会学専攻があります。情報社会学専攻では、理工系の知識を中心に、情報の表現創造に関わる知識をより深め、人文・社会系諸学と統合・融和した活動を通じて、情報の観点からの問題発見・解決に対する資質をもつ人材の育成を目標としています。より高度な知識や技能を求める人は大学院への進学を視野に入れた履修計画を作成することを推奨します。

表１　情報社会学科のカリキュラム構成図

卒業研究Ⅰ・Ⅱ　必修６単位

情報社会系科目

社会とコミュニケーション
教育とコミュニケーション
認 知 科 学
情報処理心理学
経営情報システム論
国際政治経済学
産業経済学
社会心理学
感性文化論
コミュニケーション科学

表現工学系科目

文化情報論
イメージ創造工学
マスコミ論
放送・番組研究
音楽文化論
出版論・電子出版
技術情報の表現
情報イメージング

マルチメディア工学系科目

情報統計学入門
コンピュータシステム
データベース
デジタル・コンテンツ論
コンピュータ・グラフィックスⅠ
言 語 工 学
情報基礎数学
システム思考と創造工学
ネットワーク工学

自主選択科目
20

実習・セミナー　すべて必修14単位

情報クリエイション実習ⅠA、ⅠB　情報クリエイション実習ⅡA、ⅡB　情報クリエイション実習ⅢA、ⅢB
「情報社会」入門セミナー

学科固有専門科目

メディアの法と倫理	情報社会学概論	言語表現学
プログラミング入門・同演習	人間工学	感性工学
システムインテグレーション	色彩論	CGプログラミング
コンピュータ・グラフィックスⅡ	音響情報工学	シミュレーションプログラミング
情報理論	映像情報工学	サーバプログラミング
科学技術社会学	医療・福祉とコミュニケーション	画像工学
	社会調査とデータマイニング	空間情報工学
	社会基盤工学	科学技術のコミュニケーション
		マーケティング
		デザイン論

英語科目

人間形成科目	リテラシー科目	共通基幹科目
総合文化科目	学部導入科目	学部共通科目

卒業単位124単位。専門科目、共通基幹科目、学部導入科目、学部共通科目等から84単位以上。人間形成科目14単位、英語科目６単位、日本語リテラシー１単位を含むこと。

表２　情報社会系学生の履修モデル図

進路、就職先：　新聞社、放送局、出版社、広告業界、教育・教材開発、テクニカル・ライター、ジャーナリスト、企業・官公庁、情報関連サービス産業、高校教員等

資　　格：　情報処理技術者試験（たとえば「システムアドミニストレータ」）、データベース検索技術者資格試験、DTPエキスパート資格試験、高校教員免許（公民、情報）等

◎卒業研究Ⅰ・Ⅱ　必修６単位

表現工学系科目 以下のうち４単位以上を選択	**情報社会系科目** **以下のうち18単位を選択**	マルチメディア工学系科目 以下のうち４単位以上を選択	自主選択科目 20
文化情報論 イメージ創造工学 マスコミ論 放送・番組研究 音楽文化論 出版論・電子出版 技術情報の表現	**社会とコミュニケーション** **医療・福祉とコミュニケーション** **教育とコミュニケーション** **科学技術のコミュニケーション** **認 知 科 学** **情報処理心理学** **社会心理学** **社会調査とデータマイニング** **経営情報システム論** **マーケティング** **国際政治経済学** **科学技術社会学** **産業経済学** **社会基盤工学** **感性文化論** **コミュニケーション科学**	情報統計学入門 コンピュータシステム データベース デジタル・コンテンツ論 コンピュータ・グラフィックスⅠ 言 語 工 学 情報基礎数学 システム思考と創造工学 ネットワーク工学	

実習・セミナー　すべて必修14単位

◎情報クリエイション実習ⅠA、ⅠB　◎情報クリエイション実習ⅡA、ⅡB　◎情報クリエイション実習ⅢA、ⅢB

◎「情報社会」入門セミナー

学科固有専門科目

◎メディアの法と倫理	◎情報社会学概論	◎言語表現学
◎プログラミング入門・同演習	人間工学	感性工学
システムインテグレーション	色彩論	CGプログラミング
コンピュータ・グラフィックスⅡ	音響情報工学	シミュレーションプログラミング
情報理論	映像情報工学	サーバプログラミング
		画像工学
		空間情報工学
		デザイン論

英語科目

人間形成科目	リテラシー科目	共通基幹科目
総合文化科目	学部導入科目	学部共通科目

◎：科目指定必修

卒業単位124単位。専門科目、共通基幹科目、学部導入科目、学部共通科目等から84単位以上。人間形成科目14単位、英語科目６単位、日本語リテラシー１単位を含むこと。

表３　表現工学系学生の履修モデル図

進路、就職先：　マルチメディア、アミューズメント産業、教育・教材開発、コンテンツ制作者、コンピュータ・グラフィック・デザイナー、テクニカルライター、新聞社、放送局、プロダクション、ジャーナリスト等
資　　格：　情報処理技術者試験、CG検定、カラーコーディネータ、高校教員免許（公民、情報）等

◎卒業研究Ⅰ・Ⅱ　必修６単位

情報社会系科目 以下のうち４単位以上を選択	**表現工学系科目 以下のうち18単位を選択**	マルチメディア工学系科目 以下のうち４単位以上を選択	自主選択科目 20
社会とコミュニケーション 医療・福祉とコミュニケーション 教育とコミュニケーション 科学技術のコミュニケーション マーケティング 国際政治経済学 科学技術社会学 社会基盤工学	**デザイン論 文化情報論 イメージ創造工学 感性工学 色彩論 音響情報工学 映像情報工学 マスコミ論 放送・番組研究 音楽文化論 出版論・電子出版 技術情報の表現 情報イメージング**	コンピュータシステム データベース デジタル・コンテンツ論 言 語 工 学 画 像 工 学 コンピュータ・グラフィックスⅠ コンピュータ・グラフィックスⅡ システム思考と創造工学 ネットワーク工学 情報理論	

実習・セミナー　すべて必修14単位
◎情報クリエイション実習ⅠA、ⅠB　◎情報クリエイション実習ⅡA、ⅡB　◎情報クリエイション実習ⅢA、ⅢB
◎「情報社会」入門セミナー

学科固有専門科目

◎メディアの法と倫理	◎情報社会学概論	情報統計学入門
◎言語表現工学	認知科学	◎プログラミング入門・同演習
人間工学	情報処理心理学	CGプログラミング
システムインテグレーション	社会心理学	シミュレーションプログラミング
社会調査とデータマイニング	経営情報システム論	サーバプログラミング
空間情報工学		工学的思考
産業経済学		情報基礎数学

英語科目

人間形成科目	リテラシー科目	共通基幹科目
総合文化科目	学部導入科目	学部共通科目

◎：科目指定必修

卒業単位124単位。専門科目、共通基幹科目、学部導入科目、学部共通科目等から84単位以上。人間形成科目14単位、英語科目６単位、日本語リテラシー１単位を含むこと。

表４　マルチメディア工学系学生の履修モデル図

進路、就職先：　システムインテグレータ、セールスエンジニア、システムアナリスト、情報通信機器インストラクタ、データベース検索技術者、システムエンジニア、その他情報関連サービス産業
資　　格：　情報処理技術者試験（「アプリケーションエンジニア、システムアナリスト、システムアドミニストレータ」）、CG検定、マルチメディア検定、高校教員免許（情報）等

◎卒業研究Ⅰ・Ⅱ　必修６単位

情報社会系科目 以下のうち４単位以上を選択	**マルチメディア工学系科目 以下のうち１８単位を選択**	表現工学系科目 以下のうち４単位を選択	自主選択科目 20
社会とコミュニケーション 認知科学 情報処理心理学 社会調査とデータマイニング 経営情報システム論 マーケティング 国際政治経済学 社会基盤工学	**情報理論 情報基礎数学 情報統計学入門 コンピュータシステム シミュレーションプログラミング データベース デジタル・コンテンツ論 言 語 工 学 画 像 工 学 空間情報工学 コンピュータ・グラフィックスⅠ コンピュータ・グラフィックスⅡ システム思考と創造工学 システムインテグレーション 人間工学 ネットワーク工学**	文化情報論 感性工学 音響情報工学 映像情報工学 出版論・電子出版 技術情報の表現 デザイン論	

実習・セミナー　すべて必修14単位
◎情報クリエイション実習ⅠA、ⅠB　◎情報クリエイション実習ⅡA、ⅡB　◎情報クリエイション実習ⅢA、ⅢB
◎「情報社会」入門セミナー

学科固有専門科目

◎メディアの法と倫理	◎情報社会学概論	産業経済学
◎言語表現工学	医療・福祉とコミュニケーション	教育とコミュニケーション
◎プログラミング入門・同演習	科学技術のコミュニケーション	マスコミ論
イメージ創造工学	色彩論	放送・番組研究
音楽文化論	社会心理学	工学的思考
	科学技術社会学	

英語科目

人間形成科目	リテラシー科目	共通基幹科目
総合文化科目	学部導入科目	学部共通科目

◎：科目指定必修

卒業単位124単位。専門科目、共通基幹科目、学部導入科目、学部共通科目等から84単位以上。人間形成科目14単位、英語科目６単位、日本語リテラシー１単位を含むこと。

情報社会学科

平成18年度1年次在籍者　進級条件

［1年次から2年次への進級条件］

1年次に配当されている授業科目のうち、30単位以上を取得すること。

［3年次から4年次への進級条件］

科目群	コード	進　級　条　件
人間形成科目群	H	人間形成科目群から14単位以上取得のこと。
英語科目群	E	英語科目群から6単位以上取得のこと。
リテラシー科目群	LJ	日本語リテラシー分野から1単位を取得のこと。
専門科目群	P	3年次までに配当されている専門必修科目11科目22単位を全て取得のこと。
総取得単位数が　110　単位以上であること。		

授業科目配当表

平成18年度 情報社会学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数														担当教員及び備考	教職コード
						1年				2年				3年				4年			
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
専門科目	マルチメディア工学		コンピュータシステム		2			1	1													志和 新一	60200
		P	プログラミング入門・同演習	2						1	1												60200
			CGプログラミング		2							1	1										60200
			シミュレーションプログラミング		2									1	1								60200
			サーバプログラミング		2											1	1						60200
			データベース		2							1	1										60300
			ネットワーク工学		2							1	1										60300
			デジタル・コンテンツ論		2											1	1						60500
			言語工学		2									1	1								
			画像工学		2							1	1										60500
			空間情報工学		2									1	1								60300
			コンピュータ・グラフィックスⅠ		2			1	1													志和 新一	60500
			コンピュータ・グラフィックスⅡ		2							1	1										60500
			システム思考と創造工学		2					1	1												
			システムインテグレーション		2											1	1					集中講義	60300
			情報理論		2					1	1												
			人間工学		2									1	1								
	表現工学		文化情報論		2					1	1												60600
			イメージ創造工学		2							1	1										
			デザイン論		2					1	1												
			感性工学		2									1	1								60200
			色彩論		2			1	1													柴田 良二	
			音響情報工学		2					1	1												
			映像情報工学		2									1	1								60500
			マスコミ論		2					1	1												50200
			放送・番組研究		2									1	1								60600
			音楽文化論		2									1	1								
			出版論・電子出版		2							1	1										60100
			情報イメージング		2									1	1								60500
		P	言語表現学	2		1	1															寺島 悦恩	
			技術情報の表現		2					1	1											集中講義	
	情報社会		社会とコミュニケーション		2											1	1						60400
			医療・福祉とコミュニケーション		2											1	1						50200
			教育とコミュニケーション		2											1	1						50300
			科学技術のコミュニケーション		2											1	1						60400
			コミュニケーション科学		2					1	1												60100
			認知科学		2											1	1						
			情報処理心理学		2									1	1								50300
			社会心理学		2					1	1												50300
			社会調査とデータマイニング		2											1	1						50200
			感性文化論		2							1	1										60100
			経営情報システム論		2									1	1								60300
			マーケティング		2							1	1										50200
			産業経済学		2											1	1						50200
			国際政治経済学		2					1	1												50100
		P	メディアの法と倫理	2				1	1													石塚 正英	60100
			科学技術社会学		2									1	1								50200
			社会基盤工学		2											1	1						60400

授業科目配当表

平成18年度 情報社会学科 1年次

科目群	分野	進級コード	授業科目名	必修単位	選択単位	毎週授業時限数														担当教員及び備考	教職コード
						1年				2年				3年				4年			
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
専門科目	卒研等		情報基礎数学		2	1	1															志和 新一	60200
			情報統計学入門		2			1	1													市野 学	
			工学的思考		2			1	1													細村 宰	
		P	情報社会入門セミナー	2		1	1															寺島 悦恩 他	60100
		P	情報社会学概論	2		1	1															寺島 悦恩 他	60100
		P	情報クリエイション実習ⅠA	2		2	2															柏崎 尚也 他	60400
		P	情報クリエイション実習ⅠB	2				2	2													柏崎 尚也 他	60400
		P	情報クリエイション実習ⅡA	2						2	2												60500
		P	情報クリエイション実習ⅡB	2								2	2										60500
		P	情報クリエイション実習ⅢA	2										2	2								60300
		P	情報クリエイション実習ⅢB	2												2	2						60300
			情報社会特論Ⅰ		2													1	1				50200
			情報社会特論Ⅱ		2															1	1		50200
			情報と職業入門		1	1／4期1コマ																中山 洋 集中講義	60600
			情報と職業		2	半期1コマ																寺島 悦恩 集中講義	60600
			インターンシップA		2	1	1															寺島 悦恩 集中講義	
			インターンシップB		2			1	1													寺島 悦恩 集中講義	
			インターンシップC		2					1	1											集中講義	
			インターンシップD		2							1	1									集中講義	
			インターンシップE		2									1	1							集中講義	
			インターンシップF		2											1	1					集中講義	
			インターンシップG		2													1	1			集中講義	
			インターンシップH		2															1	1	集中講義	
			卒業研究Ⅰ	3														3	3				
			卒業研究Ⅱ	3																3	3		
			卒業研究Ⅰ	3												3	3					3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
			卒業研究Ⅱ	3														3	3				

※ 教職コードは、第3章「教職課程」参照。

第 3 章

教職課程

教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて中学校・高等学校の教員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位修得できるように設置された課程です。

中学校や高校の教員になるということは、社会で重要な役割を担うことになります。そのような教員を育てるということは、社会においても大事な義務である為、直接大学とは関係のない方々にもお世話になることになります。

教職課程の履修希望者は、教職関係科目を充分に理解できる能力（単位取得）は勿論のこと、教員としての適確性が必要であることはいうまでもありません。また、一般の学生以上に手続きや確認事項等で手間隙がかかります。それらが全て完了して初めて免許状を手にすることができるのです。

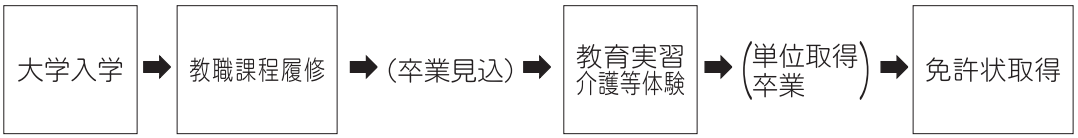
従って、当然のことながら、いい加減な気持ちで受けていると、学外者の方にご迷惑をお掛けしたり、後輩にも影響が出る場合もあります。自分の進路をよく考えながら、履修を進めていくようにしてください。

教職課程を修めようとする者は、本学部に設置された共通教育科目及び各学科で専門教育科目として定める単位の他に、必要な教職関係科目を履修し、単位を修得しなければなりません。講義概要はオンラインシラバスにおいて、把握してください。また、教育実習（科目名「教育実践研究Ⅰ（中学）・Ⅱ（高校）」や介護等体験（科目名「教職総合演習」）を受けなくてはならないことがあります。このように科目の履修や実習・体験等については、必要な時期に説明会や事前指導が行われますので、必ず出席するようにしてください。

これらの連絡は全て掲示板にて行われます。掲示に注意し見落としがないように注意してください。

大学入学から免許状取得まで

大学入学から教員免許状取得までの手順は下図のとおりです。



介護等の体験は卒業するまでに終了していること。

年次／月		1　年	2　年	3　年	4　年
4月	上旬	教職課程説明会			
	中旬	教職科目の履修申告			
	下旬	教職課程履修費納入			教育実習願提出および実習費納入 教育実習関係書類配布 教育実習オリエンテーション
5月					
6月					教育実習（実習校により実施期間は異なる）
9月	下旬	教職課程履修費納入			
10月	中旬				教員免許状一括申請に関する説明会
11月	上旬				一括申請書類提出
2月			教育実習校受入れ可否打診		
3月	上旬		教育実習申込書提出 教育実習許可判定発表 教育実習依頼に関する書類配布	進級発表 教育実習許可判定最終発表	卒業発表
	中旬				教員免許状交付 （卒業式当日）

※教職科目の履修申告は他の授業科目と同様に修正申告を行うことができます。

※各々の詳細については、その都度**共通掲示板**にてお知らせします。

※教職課程履修費については、掲示・説明会等でお知らせします。

取得できる免許状

学部卒業および大学院修了に必要な単位の取得のほかに、教科および教職に関する授業科目を修得することにより、次の教員免許状が授与されます。

基礎資格	免許状の種類	免許の教科別	該当学科及び専攻
学部卒業	中学校教諭1種免許状	数学	数理科学科・情報科学科
		技術	情報システム工学科・建設環境工学科 知能機械工学科・電子情報工学科
		理科	生命工学科
	高等学校教諭1種免許状	数学	数理科学科・情報科学科
		工業	情報システム工学科・建設環境工学科 知能機械工学科・電子情報工学科
		理科	生命工学科
		公民	情報社会学科
		情報	数理科学科・情報科学科・情報システム工学科・建設環境工学科・知能機械工学科・電子情報工学科・情報社会学科
大学院修了	中学校教諭専修免許状	数学	数理科学専攻・情報科学専攻
		技術	情報システム工学専攻・建設環境工学専攻・ 知能機械工学専攻・電子情報工学専攻
		理科	生命工学専攻
	高等学校教諭専修免許状	数学	数理科学専攻・情報科学専攻
		工業	情報システム工学専攻・建設環境工学専攻・ 知能機械工学専攻・電子情報工学専攻
		理科	生命工学専攻
		情報	情報科学専攻・情報システム工学専攻・ 電子情報工学専攻・情報社会学専攻

履　修　要　件

免許法に基づき本学部で免許状を取得するための最低単位数は、次のとおりです。

(1) 本学部における最低取得単位数

免許状の種類 ＼ 所要資格		基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	計
教諭 中学校	1種免許状	学士の学位を有すること	20	37	2	59
	専修免許状	修士の学位を有すること	20	37	26	83
教諭 高等学校	1種免許状	学士の学位を有すること	20	29	10	59
	専修免許状	修士の学位を有すること	20	29	34	83

注）基礎資格（学士の学位を有すること）について

本学部を卒業することによって、数理科学科・情報科学科は学士（理学）、情報システム工学科・建設環境工学科・知能機械工学科・電子情報工学科・生命工学科は学士（工学）、情報社会学科は学士（情報社会学）のそれぞれの学位が与えられますので、学部を卒業することによって基礎資格は得られます。

(2) 文部科学省が定める科目

教職に関する科目、教科に関する科目の他に、人間形成科目群・リテラシー科目群・英語科目群より**日本国憲法 2 単位、体育 2 単位、外国語コミュニケーション 2 単位、情報機器の操作 2 単位**の 8 単位を必ず取得しなければなりません（人間形成科目群、リテラシー科目群・英語科目群の科目配当表の教職コード欄参照）。

文部科学省が定める科目	必要単位	教職コード	本学での該当科目　　（　）内は、単位数
「日本国憲法」	2	00100	日本国憲法（2）
「体　　育」	2	00200	体育Ⅰ(1)、体育Ⅱ(1)、体育Ⅲ(1)、体育Ⅳ(1)
「外国語コミュニケーション」	2	00300	ドイツ語入門Ⅰ（1）　英語ⅠA（1） ドイツ語入門Ⅱ（1）　英語ⅠB（1） ドイツ語基礎AⅠ（1）　英語ⅡA（1） ドイツ語基礎AⅡ（1）　英語ⅡB（1） ドイツ語基礎BⅠ（1）　英語ⅢA（1） ドイツ語基礎BⅡ（1）　英語ⅢB（1） フランス語入門Ⅰ(1)　Communicative English ⅠA（1） フランス語入門Ⅱ(1)　Communicative English ⅠB（1） フランス語基礎AⅠ(1)　Communicative English ⅡA（1） フランス語基礎AⅡ(1)　Communicative English ⅡB（1） フランス語基礎BⅠ(1)　Communicative English ⅢA（1） フランス語基礎BⅡ(1)　Communicative English ⅢB（1） 中国語入門Ⅰ（1）　海外英語研修A（2） 中国語入門Ⅱ（1）　海外英語研修B（2） 中国語基礎AⅠ（1）　海外英語研修C（2） 中国語基礎AⅡ（1）　海外英語研修D（1） 中国語基礎BⅠ（1）　国内英語研修A（1） 中国語基礎BⅡ（1）　国内英語研修B（1）
「情報機器の操作」	2	00400	コンピュータリテラシー（2）

(3) 教科に関する科目

教科に関する科目については、科目配当表の教職コード欄に免許法上の区分が記載されています。下記の表は区分ごとにまとめたものです。(2006年４月１日現在)

数理科学科

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　(　) 内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
中学校一種・高等学校一種・**数学**(共通)	代数学	２０１００	線形代数学Ⅰ・同演習(3)、線形代数学Ⅱ・同演習(3)、線形代数学Ⅲ・同演習(3)、代数学Ⅰ・同演習(3)、代数学Ⅱ(2)、代数学Ⅲ(2)、応用代数学(2)
	幾何学	２０２００	位相空間Ⅰ・同演習(3)、位相空間Ⅱ(2)、幾何学Ⅰ(2)、幾何学Ⅱ(2)、曲線・曲面論(2)
	解析学	２０３００	解析学Ⅰ・同演習(3)、解析学Ⅱ・同演習(3)、解析学Ⅲ・同演習(3)、解析学Ⅳ(2)、積分論(2)、複素関数論(2)、常微分方程式(2)、関数解析学Ⅰ(2)、偏微分方程式(2)、数理科学Ⅰ(2)、数理科学Ⅱ(2)、数理科学Ⅲ(2)、数理科学Ⅳ(2)、数理科学演習Ⅰ(2)、数理科学演習Ⅱ(2)、応用数値解析学(2)、計画数学Ⅰ(2)、計画数学Ⅱ(2)
	「確率論、統計学」	２０４００	確率論(2)、数理統計学Ⅰ(2)、数理統計学Ⅱ(2)、確率過程論(2)
	コンピュータ	２０５００	データ構造論Ⅰ(2)、形式言語とオートマトンⅠ(2)、計算機数学(2)、計算機演習Ａ(2)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・情報	情報社会及び情報倫理	６０１００	情報と倫理(2)、技術者倫理(2)
	コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	６０２００	数値解析学Ⅰ(2)、数値解析学Ⅱ(2)、線形システムⅠ(2)、線形システムⅡ(2)、電子計算機(2)、形式言語とオートマトンⅡ(2)、プログラミング演習Ⅰ(2)、プログラミング演習Ⅱ(2)
	情報システム（実習を含む。）	６０３００	データ構造論Ⅱ(2)、計算機機構学(2)
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）	６０４００	情報論(2)、情報通信ネットワーク(2)、コンピュータネットワーク(2)
	マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	６０５００	人間情報論(2)、計算機演習Ｂ(2)、計算機応用演習(2)
	情報と職業	６０６００	情報と職業入門(1)、情報と職業(2)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。
※　情報と職業入門、情報と職業はどちらか１科目を必ず取得すること。
※　「コンピュータネットワーク」については、情報システム工学科の「コンピュータネットワーク」（２年次配当、後期１コマ開講）を他学科履修すること。

情報科学科

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
中学校一種・高等学校一種・**数学**（共通）	代数学	２０１００	線形代数学Ⅰ・同演習(3)、線形代数学Ⅱ・同演習(3)、代数学Ⅰ(2)、代数学Ⅱ(2)、離散数学Ⅱ(2)、応用線形代数学(2)、線形システム論Ⅰ・同演習(3)、線形システム論Ⅱ(2)
	幾何学	２０２００	距離空間論(2)、グラフ理論(2)、最適化法(2)
	解析学	２０３００	解析学Ⅰ・同演習(3)、解析学Ⅱ・同演習(3)、応用解析学(2)、微分方程式(2)、数値解析(2)、画像解析(2)
	「確率論、統計学」	２０４００	確率論Ⅰ(2)、確率論Ⅱ(2)、確率過程論(2)、信号理論(2)
	コンピュータ	２０５００	オートマトンⅠ(2)、オートマトンⅡ(2)、アルゴリズム論Ⅱ(2)、プログラム言語論(2)、コンパイラ理論(2)、計算理論(2)、計算機数学演習(2)、プログラム言語Ⅱ・同演習(3)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・情報	情報社会及び情報倫理	６０１００	情報と倫理(2)、情報科学概論(2)、技術者倫理(2)
	コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	６０２００	プログラム言語Ⅰ・同演習(3)、計算機システムⅠ(2)、アルゴリズム論Ⅰ・同演習(3)
	情報システム（実習を含む。）	６０３００	デジタル信号論(2)、計算機システムⅡ(2)、オペレーティングシステム(2)、データベース(2)、情報科学演習ⅠＡ(2)、情報科学演習ⅠＢ(2)
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）	６０４００	情報論Ⅰ・同演習(3)、情報論Ⅱ(2)、ネットワーク(2)、情報科学演習ⅡＡ(2)、情報科学演習ⅡＢ(2)
	マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	６０５００	画像処理(2)、人工知能(2)
	情報と職業	６０６００	情報と職業入門(1)、情報と職業(2)、情報科学(2)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。
※　情報と職業入門、情報と職業はどちらか１科目を必ず取得すること。

情報システム工学科

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
中学校一種・技術	木材加工（製図及び実習を含む。）	４０１００	木材加工・同実習(3)、情報システム工学実験Ⅰ(1)
	金属加工（製図及び実習を含む。）	４０２００	金属加工(2)、電子工学(2)
	機械（実習を含む。）	４０３００	機械・同実習(3)、情報システム工学総合実験Ⅰ(1)
	電気（実習を含む。）	４０４００	基礎電気回路(2)、電気回路(2)、情報システム工学基礎実験(1)
	栽培（実習を含む。）	４０５００	栽培・同実習(3)
	情報とコンピュータ（実習を含む。）	４０６００	プログラム基礎・同演習Ⅰ(3)、ソフトウェア工学(2)、コンピュータ基礎(2)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。
※　「木材加工・同実習」については、建設環境工学科の「建築構法」（３年次配当、前期１コマ開講）と「設計製図」（２年次配当、前期２コマ開講）と同時開講となります。
「機械・同実習」については、知能機械工学科の「機械工作実習」（３年次配当、後期２コマ開講）と「自動機械制御」（３年次配当、後期１コマ開講）と同時開講となります。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・工業	工業の関係科目	７０１００	システム数学(2)、自動制御(2)、言語とオートマトン(2)、科学技術のための数学(2)、システムアナロジ(2)、信号処理(2)、システム制御理論(2)、システム工学手法(2)、情報システム工学演習Ｃ(2)、情報システム工学演習Ｄ(2)、数理計画法(2)、計算量理論(2)、電子制御(2)、エネルギー工学(2)
	職業指導	７０２００	職業指導(4)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・情報	情報社会及び情報倫理	６０１００	情報と倫理(2)、技術者倫理(2)
	コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	６０２００	情報数学入門(2)、分散並列システム(2)、データ構造とアルゴリズム(2)、コンピュータシステム(2)、プログラム基礎・同演習Ⅱ(3)、コンピュータ制御システム(2)、情報処理技術(2)
	情報システム（実習を含む。）	６０３００	オペレーティングシステム(2)、情報システム工学演習Ａ(2)、情報システム工学演習Ｂ(2)、データベース(2)
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）	６０４００	コンピュータネットワーク(2)、情報セキュリティ(2)、情報システム工学総合実験Ⅱ(1)
	マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	６０５００	情報システム工学演習Ｅ(2)、情報システム工学演習Ｆ(2)、マルチメディア基礎(2)、マルチメディア工学(2)、情報システム工学実験Ⅱ(1)
	情報と職業	６０６００	情報と職業入門(1)、情報と職業(2)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。
※　情報と職業入門、情報と職業はどちらか１科目を必ず取得すること。

建設環境工学科

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
中学校一種・技術	木材加工（製図及び実習を含む。）	４０１００	建築構法(2)、設計製図(2)
	金属加工（製図及び実習を含む。）	４０２００	金属加工(2)、鉄筋コンクリート工学(2)、鋼構造学(2)
	機械（実習を含む。）	４０３００	機械・同実習(3)、応用力学Ａ・同演習(3)、応用力学Ｂ(2)、耐震設計法(2)
	電気（実習を含む。）	４０４００	電気・同実習(3)、物理学Ｂ(2)
	栽培（実習を含む。）	４０５００	栽培・同実習(3)
	情報とコンピュータ（実習を含む。）	４０６００	プログラミング演習Ａ(2)、プログラミング演習Ｂ(2)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。
※　「電気・同実習」については、情報システム工学科の「基礎電気回路」（１年次配当、後期１コマ開講）と情報システム工学基礎実験（１年次配当、後期１コマ開講）と同時開講となります。
「機械・同実習」については、知能機械工学科の「機械工作実習」（３年次配当、後期２コマ開講）と「自動機械制御」（３年次配当、後期１コマ開講）と同時開講となります。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・工業	工業の関係科目	７０１００	建築構造学(2)、構造実験(1)、測量学・同演習(3)、空間情報工学(2)、測量実習(2)、流れの科学(2)、水理学Ａ・同演習(3)、水理学Ｂ(2)、河海工学(2)、水文学(2)、水理実験(1)、建設材料学(2)、材料実験(1)、土質力学Ａ・同演習(3)、土質力学Ｂ(2)、建設基礎工学(2)、道路工学(2)、建設施工法(2)、土質実験(1)、地域・都市計画(2)、景観工学(1)、経済・政策と環境(2)、環境アセスメント(2)、水圏の環境(2)、衛生工学(2)、建設マネジメント(2)、気圏・地圏の環境(2)、交通計画(2)、建設環境セミナーＡ(1)、建設環境セミナーＢ(1)、建設環境セミナーＣ(1)、空間デザインＡ(2)、プロジェクト評価(1)、生物圏の環境(1)、住居論(2)、建築計画学(2)、建築史(2)、建築デザイン論(2)、建築とアートワーク論(2)、建築環境工学(2)、空間デザインＢ(2)、ランドスケープデザイン(2)、生態系のデザイン(1)、基礎製図(2)
	職業指導	７０２００	職業指導(4)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・情報	情報社会及び情報倫理	６０１００	情報と倫理(2)、技術者倫理(2)
	コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	６０２００	数値計算法(2)、プログラミング演習Ｃ(2)
	情報システム（実習を含む。）	６０３００	情報システム(2)、データベース(2)、システムインテグレーション(2)
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）	６０４００	計画数理(2)、ネットワーク(2)、社会基盤工学(2)
	マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	６０５００	画像解析・リモートセンシング(2)、図形処理(2)
	情報と職業	６０６００	情報と職業入門(1)、情報と職業(2)、建設環境工学へのアプローチ(2)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。
※　情報と職業入門、情報と職業はどちらか１科目を必ず取得すること。
※　「データベース」「ネットワーク」については、情報科学科の「データベース」（３年次配当、後期１コマ開講）、「ネットワーク」（３年次配当、後期１コマ開講）、「システムインテグレーション」「社会基盤工学」については、情報社会学科の「システムインテグレーション」（３年次配当、後期１コマ開講）、「社会基盤工学」（３年次配当、後期１コマ開講）を他学科履修すること。

知能機械工学科

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
中学校一種・技術	木材加工（製図及び実習を含む。）	４０１００	木材加工・同実習(3)、形状創成学(2)
	金属加工（製図及び実習を含む。）	４０２００	材料物性工学(2)、材料変形学(2)、加工の力学(2)
	機械（実習を含む。）	４０３００	材料力学Ⅰ(2)、熱力学・演習(3)、流れ学・演習(3)、自動機械制御(2)、機械工作実習(2)、機械デザインⅠ(2)、モーションコントロール(2)
	電気（実習を含む。）	４０４００	電気・同実習(3)、電子工学概論(2)、機械工学実験Ⅰ(2)、物理学Ｂ(2)
	栽培（実習を含む。）	４０５００	栽培・同実習(3)
	情報とコンピュータ（実習を含む。）	４０６００	コンピュータの基礎(2)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。
※　「木材加工・同実習」については、建設環境工学科の「建築構法」（３年次配当、前期１コマ開講）と「設計製図」（２年次配当、前期２コマ開講)、「電気・同実習」については、情報システム工学科の「基礎電気回路」（１年次配当、後期１コマ開講）と情報システム工学基礎実験（１年次配当、後期１コマ開講）と同時開講となります。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・工業	工業の関係科目	７０１００	機械のいろは(2)、確率統計工学(2)、機械力学・演習(3)、機械振動学・実験演習(3)、材料力学Ⅱ・演習(3)、内燃機関システム(2)、流体工学・演習(3)、ロボット工学(2)、人間工学(2)、構造・機能材料学(2)、材料強度学(2)、光機能工学(2)、機械システム(2)、機械設計基礎(2)、マシンエレメント(2)、環境工学概論(2)、自動車工学(2)、機械工学実験Ⅱ(2)、科学英語Ａ(2)、科学英語Ｂ(2)、技術者のための力学(2)、図学(2)
	職業指導	７０２００	職業指導(4)

※　□で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・情報	情報社会及び情報倫理	６０１００	情報と倫理(2)、技術者倫理(2)
	コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	６０２００	数値解析法(2)、プログラミング演習Ａ(2)、プログラミング演習Ｂ(2)、計測工学(2)、制御工学(2)、信号とシステム(2)
	情報システム（実習を含む。）	６０３００	情報システム設計(2)
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）	６０４００	情報通信ネットワーク(2)
	マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	６０５００	マイクロコンピュータ工学(2)、イラストレーション工学(2)、CAD 工学(2)、機械デザインⅡ(2)
	情報と職業	６０６００	情報と職業入門(1)、情報と職業(2)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。
※　情報と職業入門、情報と職業はどちらか１科目を必ず取得すること。

電子情報工学科

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
中学校一種・技術	木材加工（製図及び実習を含む。）	４０１００	木材加工・同実習(3)
	金属加工（製図及び実習を含む。）	４０２００	金属加工(2)、固体電子工学(2)
	機械（実習を含む。）	４０３００	機械・同実習(3)、メカトロニクス(2)、ロボット電子工学Ⅰ(2)、電子情報工学実験Ⅰ(3)
	電気（実習を含む。）	４０４００	基礎電気回路・同演習(3)、物理学Ｂ(2)
	栽培（実習を含む。）	４０５００	栽培・同実習(3)
	情報とコンピュータ（実習を含む。）	４０６００	コンピュータ工学・同演習(3)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。
※　「木材加工・同実習」については、建設環境工学科の「建築構法」（３年次配当、前期１コマ開講）と「設計製図」（２年次配当、前期２コマ開講）と同時開講となります。
「機械・同実習」については、知能機械工学科の「機械工作実習」（３年次配当、後期２コマ開講）と「自動機械制御」（３年次配当、後期１コマ開講）と同時開講となります。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・工業	工業の関係科目	７０１００	基礎電子情報工学(2)、回路理論・同演習(3)、電子情報回路Ｂ・同演習(3)、電気磁気学Ａ・同演習(3)、電気磁気学Ｂ・同演習(3)、制御工学Ａ・同演習(3)、制御工学Ｂ・同演習(3)、電気電子計測(2)、信号処理工学Ａ(2)、信号処理工学Ｂ(2)、医用電子工学(2)、応用電子回路(2)、過渡現象(2)、電子設計(2)、ロボット電子工学Ⅱ(2)、電子物理学(2)、半導体デバイス工学(2)、集積回路工学(2)、基礎電子工学実験Ⅰ(3)、基礎電子工学実験Ⅱ(3)、電子情報工学実験Ⅱ(3)
	職業指導	７０２００	職業指導(4)

※　□ で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・情報	情報社会及び情報倫理	６０１００	情報と倫理(2)、技術者倫理(2)
	コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	６０２００	電子情報回路Ａ・同演習(3)、応用プログラミング演習(2)、数値解析(2)、ディジタル回路(2)
	情報システム（実習を含む。）	６０３００	基礎プログラミング演習(2)、計算機工学(2)
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）	６０４００	情報伝送工学(2)、情報理論(2)、情報工学(2)、通信工学(2)、電子計測実験Ⅰ(2)、宇宙通信工学(2)
	マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	６０５００	システム工学(2)、電子計測実験Ⅱ(2)
	情報と職業	６０６００	情報と職業入門(1)、情報と職業(2)

※　□で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。
※　情報と職業入門、情報と職業はどちらか１科目を必ず取得すること。

生命工学科

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
中学校一種・理科	物理学	３０１００	生命物理化学Ｂ(2)、物理学Ａ(2)、量子物理学(2)
	物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	３０２００	物理学実験(2)
	化学	３０３００	生命無機化学(2)、生命の化学Ａ(2)、有機化学(2)、生命有機化学(2)、生命分析化学(2)、生命物理化学Ａ(2)、分子分光学(2)、生体高分子化学(2)、化学Ａ(2)、化学Ｂ(2)、材料化学(2)、薬理学(2)
	化学実験（コンピュータ活用を含む。）	３０４００	化学実験(2)
	生物学	３０５００	生物学(2)、遺伝学(2)、分子生物学(2)、生物情報科学(2)、細胞工学(2)、微生物学(2)、生物反応工学(2)、循環器系人工臓器論(2)、基礎医学概論(2)、生物科学(2)、応用微生物学(2)、免疫学(2)
	生物学実験（コンピュータ活用を含む。）	３０６００	生命工学基礎実験Ａ(2)、生命工学基礎実験Ｂ(2)、生命工学実験Ａ(2) 生命工学実験Ｂ(2)
	地学	３０７００	生態地球科学(2)、環境科学(2)
	地学実験（コンピュータ活用を含む。）	３０８００	地学実験(2)

※　□で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・理科	物理学	３０１００	生命物理化学Ｂ(2)、物理学Ａ(2)、量子物理学(2)
	化学	３０３００	生命無機化学(2)、生命の化学Ａ(2)、有機化学(2)、生命有機化学(2)、生命分析化学(2)、生命物理化学Ａ(2)、分子分光学(2)、生体高分子化学(2)、化学Ａ(2)、化学Ｂ(2)、材料化学(2)、薬理学(2)
	生物学	３０５００	生物学(2)、遺伝学(2)、分子生物学(2)、生物情報科学(2)、細胞工学(2)、微生物学(2)、生物反応工学(2)、循環器系人工臓器論(2)、基礎医学概論(2)、生物科学(2)、応用微生物学(2)、免疫学(2)
	地学	３０７００	生態地球科学(2)、環境科学(2)
	「物理学実験(コンピュータ活用を含む。)、	３０２００	物理学実験(2)
	化学実験(コンピュータ活用を含む。)、	３０４００	化学実験(2)
	生物学実験(コンピュータ活用を含む。)、	３０６００	生命工学基礎実験Ａ(2)、生命工学基礎実験Ｂ(2)、生命工学実験Ａ(2)、生命工学実験Ｂ(2)
	地学実験(コンピュータ活用を含む。)」	３０８００	地学実験(2)

※　□で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。

情報社会学科

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・公民	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	50100	国際政治経済学(2)、法学Ａ(2)、法学Ｂ(2)、現代社会と法(2)、政治学(2)、国際政治学(2)
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	50200	マスコミ論(2)、医療・福祉とコミュニケーション(2)、社会調査とデータマイニング(2)、マーケティング(2)、産業経済学(2)、科学技術社会学(2)、経済学Ⅰ(2)、経済学Ⅱ(2)、社会学Ａ(2)、社会学Ｂ(2)、社会福祉論(2)、情報社会特論Ⅰ(2)、情報社会特論Ⅱ(2)
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	50300	教育とコミュニケーション(2)、情報処理心理学(2)、社会心理学(2)、哲学Ａ(2)、哲学Ｂ(2)、倫理学Ａ(2)、倫理学Ｂ(2)、心理学Ａ(2)、心理学Ｂ(2)、論理学Ａ(2)、論理学Ｂ(2)

※　□で囲ってある科目は、必ず履修し修得すること。
※　　の科目は、共通教育科目の人間形成科目群から履修すること。

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上修得すること。　（　）内は単位数

免許状の種類・教科	免許法上の区分	教職コード	該当科目
高等学校一種・情報	情報社会及び情報倫理	６０１００	出版論・電子出版(2)、メディアの法と倫理(2)、情報社会入門セミナー(2)、情報社会学概論(2)、技術者倫理(2)、コミュニケーション科学(2)、感性文化論(2)
	コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	６０２００	コンピュータシステム(2)、プログラミング入門・同演習(2)、シミュレーションプログラミング(2)、情報基礎数学(2)、CGプログラミング(2)、サーバプログラミング(2)、感性工学(2)
	情報システム（実習を含む。）	６０３００	データベース(2)、空間情報工学(2)、システムインテグレーション(2)、経営情報システム論(2)、情報クリエイション実習ⅢＡ(2)、情報クリエイション実習ⅢＢ(2)、ネットワーク工学(2)
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）	６０４００	社会とコミュニケーション(2)、科学技術のコミュニケーション(2)、社会基盤工学(2)、情報クリエイション実習ＩＡ(2)、情報クリエイション実習ＩＢ(2)
	マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	６０５００	デジタル・コンテンツ論(2)、画像工学(2)、コンピュータ・グラフィックスⅠ(2)、コンピュータ・グラフィックスⅡ(2)、映像情報工学(2)、情報クリエイション実習ⅡＡ(2)、情報クリエイション実習ⅡＢ(2)、情報イメージング(2)
	情報と職業	６０６００	情報と職業入門(1)、情報と職業(2)、文化情報論(2)、放送・番組研究(2)

※　　の科目は、各学科における科目配当表の必修科目。
※　情報と職業入門、情報と職業はどちらか１科目を必ず取得すること。

(4) 教職に関する科目

教職に関する科目とは、教職課程を履修する学生のために特設した科目で、下記の科目が設置されています。中学校免許は下記の科目の中から、必修科目を含めて37単位、高校免許は最低29単位修得することになります。(教科教育法は、当該教科のみの修得)。　　(　) 内は単位数

免許法上の区分			単位数	教職コード	授業科目名	備考
	科目	各科目に含める必要な事項				
第一欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、進路選択に資する各種の機会の提供等	2	10100	教職入門(2)	中学・高校免許必修科目
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	10200	教育学概論Ｂ(2)	中学・高校免許必修科目
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学概論(2)	中学・高校免許必修科目
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			教育学概論Ｃ(2)	中学・高校免許必修科目
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	中学校16 高校10	10300	教育課程論(2)	中学・高校免許必修科目
		特別活動の指導法			特別活動論(2)	中学・高校免許必修科目
		教育の方法及び技術			教育方法論(2)	中学・高校免許必修科目
		各教科の指導法			数学科教育法Ａ(2) 数学科教育法Ｂ(2) 数学科教育法Ｃ(2) 数学科教育法Ｄ(2) 工業科教育法Ａ(2) 工業科教育法Ｂ(2) 技術科教育法Ａ(2) 技術科教育法Ｂ(2) 技術科教育法Ｃ(2) 技術科教育法Ｄ(2) 理科教育法Ａ(2) 理科教育法Ｂ(2) 理科教育法Ｃ(2) 理科教育法Ｄ(2) 公民科教育法Ａ(2) 公民科教育法Ｂ(2) 情報科教育法Ａ(2) 情報科教育法Ｂ(2)	中学校免許は当該教科の教育法Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ必修、 高校免許は当該教科の教育法Ａ、Ｂ必修
		道徳の指導法			道徳教育論(2)	中学校免許のみ必修科目
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法	4	10400	生徒指導論(2)	中学・高校免許必修科目
		教育相談の理論及び方法			学校カウンセリング論(2)	中学・高校免許必修科目
第五欄	総合演習		2	10500	教職総合演習(2)	中学・高校免許必修科目
第六欄	教育実習		中学校7 高校5	10600	教育実践研究入門(2) 教育実践研究Ⅰ(中学)(5) 教育実践研究Ⅱ(高校)(3)	中学・高校免許必修科目 中学校免許のみ必修 高校免許のみ必修 ※中学・高校両免許取得希望者は「教育実践研究Ⅰ(中学)」を履修すること。

注) 中学校免許取得の場合は、120時間以上（３週間～４週間)、高校免許取得の場合は、60時間以上（２週間）の教育実習を行なう必要があります。

注) 　　は、卒業単位に算入されます。したがって履修上限50単位に入ります。

注) 備考欄の必修は、取得しようとする免許状に対してであり、卒業するための必要要件ではありません。

注)「道徳教育論」については高校免許のみの取得希望者が単位取得した場合は、「教科又は教職に関する科目」としてカウントされます。

(5) 介護等の体験

中学校の教員免許状を取得する場合に必要となります。介護等の体験は、満18歳を過ぎてから免許取得までの時期に省令等で指定する施設等で７日間の介護等の体験を行い、その体験を施設等の長に証明していただくことにより、小・中学校教諭一種免許状授与の要件となります。

この法律は平成10年度入学生より適用されています。本学においては、この介護等の体験の為に「**教職総合演習**」という科目を開講しています（前・後期開講）。介護等の体験希望者は、介護等体験を行う年度以前に必ずこの科目を履修し、単位を取得する必要があります。介護等の体験は、埼玉県教育委員会、埼玉県社会福祉協議会を通して養護学校、社会福祉施設へ申し込みを行います。その際に、賠償責任保険への加入が必要となります。手続き方法等については、教職課程説明会（４月上旬）、「教職総合演習」の授業中、掲示等で行いますので、中学校の教員免許状の取得希望者は、必ず出席し、掲示に注意してください。

(6) 高等学校１種「工業」の教科について

高等学校１種「工業」の教員免許を取得するためには、本来は、それぞれ教科に関する科目、教職に関する科目の中の、定められた科目・単位を取得しなければなりませんが、現在のところ、免許法上の附則事項により、「教職に関する科目の単位については、教科に関する科目の同数の単位の取得をもってこれに替えることができます。従って、教職に関する科目の単位を全く修得しなくても、人間形成科目群・リテラシー科目群・英語科目群の中から文部科学省が定める科目（８単位：「日本国憲法２単位、体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳから２単位、ドイツ語入門Ⅰ・ドイツ語入門Ⅱ・ドイツ語基礎ＡⅠ・ドイツ語基礎ＡⅡ・ドイツ語基礎ＢⅠ・ドイツ語基礎ＢⅡ、フランス語入門Ⅰ・フランス語入門Ⅱ・フランス語基礎ＡⅠ・フランス語基礎ＡⅡ・フランス語基礎ＢⅠ・フランス語基礎ＢⅡ、中国語入門Ⅰ・中国語入門Ⅱ・中国語基礎ＡⅠ・中国語基礎ＡⅡ・中国語基礎ＢⅠ・中国語基礎ＢⅡ、英語ⅠＡ・ⅠＢ・ⅡＡ・ⅡＢ・ⅢＡ・ⅢＢ、Communicative English ⅠＡ・ⅠＢ・ⅡＡ・ⅡＢ、ⅢＡ・ⅢＢ、海外英語研修Ａ、海外英語研修Ｂ、海外英語研修Ｃ、海外英語研修Ｄ、国内英語研修Ａ、国内英語研修Ｂから２単位、コンピュータリテラシー２単位の修得は必要」）を修得し、かつ工業の教科に関する科目（「職業指導：4単位」を含む）を59単位以上修得することにより、工業の免許状が取得できます。（ただし、所属学科の工業の教科に関する科目が少ない場合は、前記の措置では59単位を充足しませんので、教職に関する科目か、他学科の工業の教科に関する科目を他学科履修して、単位を取得して下さい）

従ってこの措置で免許状の取得は可能ではありますが、教職に関する科目は教員となるための基本的な科目ですので、教員を志望する者は、この措置に頼ることなく、少なくとも教職入門、教育学概論Ｂ、教育心理学概論、工業科教育法Ａ、工業科教育法Ｂについては修得しておくことが望まれます。

又、同じ免許状を取得するにしても、教職に関する科目を修得しているといないとでは、教職に就いた場合は勿論のこと、将来社会に出てからの役立ち方にも大きな差異がでてくることがあります。こうした点からも、教職に関する科目が重要な科目であることを充分に認識して、できるだけ修得するよう心がけてください。

(7) 自学科以外の免許教科を取得する場合について

教務担当窓口に必ず申し出て下さい。個別に履修指導を行います。

(8) 大学院で取得できる「専修免許状」について

各教科の中学校教諭専修免許状、高等学校教諭専修免許状については、Ｐ200に記載の通りです。

教職課程の履修手続

1．履修申告

所定の時期に履修申告を行ってください。申告の方法は、他の科目と同様です。

2．教職課程履修費の納入

教職課程の授業科目を履修するためには、通常の履修申告の他に**教職課程履修願**を提出し、所定の**履修費（10,000円：平成17年度実績）**を納入することが必要です。下記の教職科目の履修申告を行っていても、履修費を納入しない者は教職科目の履修を取り消します。

これらの手続は前期は４月下旬頃、後期は９月下旬頃行いますので、掲示に注意してください。

教育方法論	理科教育法Ａ
教育実践研究入門	理科教育法Ｂ
教育実践研究Ⅰ（中学）	理科教育法Ｃ
教育実践研究Ⅱ（高校）	理科教育法Ｄ
道徳教育論	公民科教育法Ａ
特別活動論	公民科教育法Ｂ
生徒指導論	情報科教育法Ａ
教育課程論	情報科教育法Ｂ
学校カウンセリング論	情報と倫理
数学科教育法Ａ	職業指導
数学科教育法Ｂ	木材加工・同実習
数学科教育法Ｃ	金属加工
数学科教育法Ｄ	機械・同実習
工業科教育法Ａ	電気・同実習
工業科教育法Ｂ	栽培・同実習
技術科教育法Ａ	
技術科教育法Ｂ	
技術科教育法Ｃ	
技術科教育法Ｄ	

◎在学中（学部・大学院）、１回の納入とする。

◎いずれの場合においても、一度納入したら履修費は返金しない。

3．教職課程履修券の交付

１、２の手続きを行った者に、「教職課程履修券」を交付します。この履修券は卒業時に免許状を受領する際に必要となります。また、在学中有効ですが、再発行はしませんので、大切に保管してください。

教　育　実　習

教育実習は、４年次生になって、中学校は120時間以上（３週間～４週間）、高等学校は60時間以上（２週間）以上にわたり、教育活動（教科指導および生徒指導等）に参加することによって行われます。高校１種「工業」の免許状を取得する場合は、前記（Ｐ224）したように必ずしも行う必要はありません。

１．教育実習履修の条件

本学においては従来より、教育実習を行う場合、教育実習を大学として許可するかどうかの判定基準を設けています。判定基準に合格しないと教育実習が行えませんので注意して下さい。皆さんに適用される判定基準については、決まり次第、掲示しますが、参考に昨年度の判定基準を掲載しておきます。

参考：平成17年度２年次生・３年次生教育実習許可判定基準について

＜２年次学年末許可判定基準＞

３年次に進級できる者であり、尚且つ２年次学年末の取得単位数（教職・自由科目除く）が正規進級者72単位以上、留年者80単位以上とする。

＜３年次学年末許可判定基準＞

以下の教職に関する科目において５科目以上が合格点に達していて、かつ４年次へ進級した者（２年次学年末許可判定に合格しても、３年次学年末で不合格の場合は教育実習は行えません）。

科　目　名	配当学年	配　当　期
教　職　入　門	全年次	前期
教　育　学　概　論　Ｂ	全年次	後期
教　育　心　理　学　概　論	２年次	前期
特　別　活　動　論	全年次	前期
道　徳　教　育　論	全年次	前期
生　徒　指　導　論	全年次	前期
教　育　学　概　論　Ｃ	全年次	後期
教　科　教　育　法　Ａ　※	２年次	前期
教　職　総　合　演　習	全年次	前期・後期
教　育　課　程　論	全年次	後期
学　校　カ　ウ　ン　セ　リ　ン　グ　論	２年次	後期

※各教科教育法Ａとは、数学科教育法Ａ、技術科教育法Ａ、工業科教育法Ａ、理科教育法Ａ、公民科教育法Ａ、情報科教育法Ａ。ただし、教科教育法Ａは、複数教科の単位を取得しても１科目の合格扱いとなるので注意して下さい。

２．教育実習校

実習希望者は、早い段階から自分の出身中学・高校、または縁故のある学校へ出向いて予め依頼し、実習校を確保してください。なお本学部では１．の基準により判定の上、一定のレベル以上にある者に限り、実習校への依頼を認めています。実習希望者は、教務担当に「教育実習申込書」（用紙は教務担当にあり）を必ず提出して下さい（尚､留年した場合､再度提出する必要あり)。

依頼するにあたっては、本学で発行する「教育実習依頼状」等を実習校へ提出する必要がありますので、教育実習を許可された者は掲示しますので、教務担当まで来てください。

３．教育実習の手続き

①　**「教育実習願」**（用紙は教務担当にあり）を、教務担当へ提出すること。

②　教育実習費（10,000円：平成17年度実績）を納入すること。

③　実習の際、次の必要書類を整えて、実習校へ携行すること。

イ）教育実習日誌（本学部所定のものを各自売店で購入すること）

ロ）出勤簿用紙（教務担当で用意する）

ハ）教育実習評価表用紙（教務担当で用意する）

ニ）教育実習終了証明書用紙（教務担当で用意する）

④　実習が終了したならば、ただちにイ）は「教育実践研究Ⅰ(中学)､Ⅱ（高校)」の担当教員へ提出すること。

※　みなさんは実習が終了しましたら、必ず実習校へお礼状を送るようにして下さい。

免許状の申請・交付

教育職員免許状の授与権者は、その大学が所在する都道府県の教育委員会であり、本学部の場合は埼玉県の教育委員会となります。

申請方法には、大学が免許状の申請を一括して受付け、卒業式当日に免許状が交付される**一括申請**と、個人が直接教育委員会へ申請する**個人申請**があります。

1．一括申請

免許状取得を希望する 4 年次生（ただし、卒業見込で、かつ免許状取得見込の者に限る）に対し、10月中旬頃、「教育職員免許状授与願」の用紙を配布し、記入方法などについて説明会を行います。

各自は、記入した用紙に本籍地の市区町村長が発行する「戸籍抄本」を添付して、期日までに教務担当へ提出してください。

教務担当ではこれをまとめて教育委員会へ一括して申請し、審査をうけ、卒業式当日学位記交付時に各自へ教員免許状を交付します。その際**教職課程履修券**と引きかえになります。

2．個人申請

卒業後、居住する都道府県の教育委員会へ、個人で申請して交付を受ける方法です。詳しい事は各教育委員会へ各自で問い合せて下さい。在学中適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わる事があります。その場合は取得しなくてはならない科目が増えたりすることもありますので注意して下さい。

○　免許状取得見込証明書

教員採用試験を受験する際に必要な「教育職員免許状取得見込証明書」は、現在履修中の授業科目を修得見込として扱い、教務担当で発行します。

○　免許状取得証明書

免許状を取得した後、「教育職員免許状取得証明書」が必要となった場合は、交付を受けた教育委員会へ請求してください。

授業科目配当表

平成18年度　数理科学科・情報科学科　教職科目　1年次

科目群	分野	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1 2	1年 後期 3 4	2年 前期 5 6	2年 後期 7 8	3年 前期 9 10	3年 後期 11 12	4年 前期 13 14	4年 後期 15 16	担当教員名及び備考	教職コード
教職課程科目	教職に関する専門科目	教職入門	2	前期1コマ								前島 康男	10100
		教育学概論B	2				後期1コマ					前島 康男	10200
		教育心理学概論	2			1 1							10200
		教育方法論	2				後期1コマ					前原 健二	10300
		教育実践研究入門	2						1 1			※1	10600
		教育実践研究Ⅰ（中学）	5							半期2.5コマ 集中		※1	10600
		教育実践研究Ⅱ（高校）	3							半期1.5コマ 集中		※2	10600
		道徳教育論	2	前期1コマ								前島 康男	10300
		特別活動論	2	前期1コマ								前原 健二	10300
		生徒指導論	2	前期1コマ								前島 康男	10400
		教育学概論C	2				後期1コマ					前原 健二	10200
		数学科教育法A	2			前期1コマ						※3	10300
		数学科教育法B	2				後期1コマ					※3	10300
		数学科教育法C	2					前期1コマ				※3	10300
		数学科教育法D	2						後期1コマ			※3	10300
		情報科教育法A	2					1 1					10300
		情報科教育法B	2						1 1				10300
		教職総合演習	2	半期1コマ（但し、前・後期開講）								池田 旭	10500
		教育課程論	2				後期1コマ					前原 健二	10300
		学校カウンセリング論	2				1 1						10400
教科に関する専門科目		情報と倫理	2				1 1						60100
		情報と職業入門	1	1／4期1コマ								集中講義	60600
		情報と職業	2	半期1コマ※5								集中講義	60600

※1中学・高校免許用　※2 高校免許用　※3 高校免許は、4単位・中学免許は、8単位

※4教職コードは、第3章「教職課程」参照　※5 数理科学科は後期1コマ

平成18年度　情報システム工学科・建設環境工学科
知能機械工学科・電子情報工学科　教職科目　1年次

科目群	分野	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1 2	1年 後期 3 4	2年 前期 5 6	2年 後期 7 8	3年 前期 9 10	3年 後期 11 12	4年 前期 13 14	4年 後期 15 16	担当教員名及び備考	教職コード
教職課程科目	教職に関する専門科目	教職入門	2	前期1コマ								前島 康男	10100
		教育学概論B	2				後期1コマ					前島 康男	10200
		教育心理学概論	2			1	1						10200
		教育方法論	2				後期1コマ					前原 健二	10300
		教育実践研究入門	2						1 1			※1	10600
		教育実践研究Ⅰ（中学）	5							半期2.5コマ 集中		※1	10600
		教育実践研究Ⅱ（高校）	3							半期1.5コマ 集中		※2	10600
		道徳教育論	2				前期1コマ					前島 康男	10300
		特別活動論	2				前期1コマ					前原 健二	10300
		生徒指導論	2				前期1コマ					前島 康男	10400
		教育学概論C	2				後期1コマ					前原 健二	10200
		工業科教育法A	2					1 1					10300
		工業科教育法B	2						1 1				10300
		技術科教育法A	2			前期1コマ							10300
		技術科教育法B	2			後期1コマ							10300
		技術科教育法C	2					前期1コマ					10300
		技術科教育法D	2					後期1コマ					10300
		情報科教育法A	2					1 1					10300
		情報科教育法B	2						1 1				10300
		教職総合演習	2	半期1コマ（但し、前・後期開講）								池田 旭	10500
		教育課程論	2				後期1コマ					前原 健二	10300
		学校カウンセリング論	2				1 1						10400
教科に関する専門科目		職業指導	4							1 1	1 1		70200
		木材加工・同実習	3					2 2				G科履修不可 集中講義	40100
		金属加工	2					1 1				N科履修不可	40200
		機械・同実習	3						2 2			N科履修不可 集中講義	40300
		電気・同実習	3		2 2							K科・F科履修不可 集中講義	40400
		栽培・同実習	3					2 2					40500
		情報と倫理	2				1 1						60100
		情報と職業入門	1	1／4期1コマ※4								集中講義	60600
		情報と職業	2	半期1コマ※5								集中講義	60600

※1　中学・高校免許用　　※2　高校免許用　　※3　教職コードは、第3章「教職課程」参照

※4　情報システム工学科、知能機械工学科、電子情報工学科は前前期1コマ

※5　情報システム工学科、知能機械工学科、電子情報工学科は後期1コマ

授業科目配当表

平成18年度　生命工学科　教職科目　1年次

科目群	分野	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1 2	1年 後期 3 4	2年 前期 5 6	2年 後期 7 8	3年 前期 9 10	3年 後期 11 12	4年 前期 13 14	4年 後期 15 16	担当教員名及び備考	教職コード
教職課程科目	教職に関する専門科目	教職入門	2	前期1コマ								前島　康男	10100
		教育学概論B	2	後期1コマ								前島　康男	10200
		教育心理学概論	2			1	1						10200
		教育方法論	2	後期1コマ								前原　健二	10300
		教育実践研究入門	2						1 1			※1	10600
		教育実践研究Ⅰ（中学）	5							半期2.5コマ 集中		※1	10600
		教育実践研究Ⅱ（高校）	3							半期1.5コマ 集中		※2	10600
		道徳教育論	2	前期1コマ								前島　康男	10300
		特別活動論	2	前期1コマ								前原　健二	10300
		生徒指導論	2	前期1コマ								前島　康男	10400
		教育学概論C	2	後期1コマ								前原　健二	10200
		理科教育法A	2			前期1コマ						※3	10300
		理科教育法B	2			後期1コマ						※3	10300
		理科教育法C	2					前期1コマ				※3	10300
		理科教育法D	2					後期1コマ				※3	10300
		教職総合演習	2	半期1コマ（但し、前・後期開講）								*池田　旭	10500
		教育課程論	2	後期1コマ								前原　健二	10300
		学校カウンセリング論	2				1 1						10400

※1　中学・高校免許用　　※2　高校免許用　　※3　高校免許は4単位・中学免許は8単位

※4　教職コードは、第3章「教職課程」参照

平成18年度　情報社会学科　教職科目　1年次

科目群	分野	授業科目名	単位	毎週授業時限数 1年 前期 1 2	1年 後期 3 4	2年 前期 5 6	2年 後期 7 8	3年 前期 9 10	3年 後期 11 12	4年 前期 13 14	4年 後期 15 16	担当教員名及び備考	教職コード
教職課程科目	教職に関する専門科目	教職入門	2	前期1コマ								前島　康男	10100
		教育学概論B	2	後期1コマ								前島　康男	10200
		教育心理学概論	2			1	1						10200
		教育方法論	2	後期1コマ								前原　健二	10300
		教育実践研究入門	2						1 1			※1	10600
		教育実践研究Ⅱ（高校）	3							半期1.5コマ 集中		※2	10600
		道徳教育論	2	前期1コマ								前島　康男	10300
		特別活動論	2	前期1コマ								前原　健二	10300
		生徒指導論	2	前期1コマ								前島　康男	10400
		教育学概論C	2	後期1コマ								前原　健二	10200
		公民科教育法A	2					1 1					10300
		公民科教育法B	2						1 1				10300
		情報科教育法A	2					1 1					10300
		情報科教育法B	2						1 1				10300
		教職総合演習	2	半期1コマ（但し、前・後期開講）								*池田　旭	10500
		教育課程論	2	後期1コマ								前原　健二	10300
		学校カウンセリング論	2				1 1						10400
教科に関する専門科目		情報と職業入門	1	1／4期1コマ								集中講義	60600
		情報と職業	2	半期1コマ								集中講義	60600

※　教職コードは、第3章「教職課程」参照

第４章

学生生活について

学籍について

みなさんは入学により本学の学生としての身分を取得し、卒業によりその身分を失いますが、退学または除籍により身分を失う場合もあります。いったん入学した以上、卒業を望むのが当然ですが、どうしても退学せざるを得ない事情も生じましょうし、病気などのためやむなく休学しなければならない事態も起こってくるかもしれません。そのようなときには、学生厚生担当で次のような手続きを行ってください。（いずれも所定の願用紙を使用しなければなりません。）

1．休学、復学

病気、ケガその他やむを得ない理由により、３ヶ月以上の欠席を必要とする場合は、所定の「休学願」にその理由を記し、本人と保証人の連署・捺印の上、学生証を添えて届け出て許可を得なければなりません。病気・ケガによる場合は、医師の診断書が必要です。

休学できる期間は、許可を受けた学年限りです。なお、特別の事情があると認められた場合は再休学を許可することがあります。休学期間中の学費は免除されます。

休学の理由がなくなったときは、復学を願い出ることができます。ただし復学できるのは、原則として学期の始めです。

（詳細は、学生厚生担当にて相談してください。）

2．退　　学

病気・ケガその他やむを得ない理由により、退学を希望する場合は、所定の「退学願」にその理由を記し、本人と保証人の連署・捺印の上、学生証を添えて届け出て許可を得なければなりません。病気、ケガによる場合は、医師の診断書が必要です。

（詳細は、学生厚生担当にて相談してください。）

※学期進行中に休学または退学を届け出る場合は、その学期の学費が納入済みであることが必要です。

3．除　　籍

次のいずれかに該当する場合は除籍となります。

⑴　最長在学年数（８年）をこえたとき

⑵　休学による場合を除き、同一学年に 3 回留年してなお進級できないとき
⑶　通算 3 年の休学期間をこえてなお復学しないとき
⑷　正当な理由がなく、無届で、引き続き 3 ヶ月以上欠席したとき
⑸　所定の学費納入期限から起算して 3 ヶ月以内に学費を納入しないとき
（詳細は、学生厚生担当にて相談してください。）

4．転学部、転学科

転学部・転学科は学業上又は経済的な理由により願い出た場合、受け入れ先に定員の余裕があれば、選考のうえ、許可することがあります。
（転学部・転学科の詳細については、10月下旬までに学生厚生担当にて相談してください。P251の「届け出・願い出」⑷⑸も参照してください。）

5．再 入 学

退学または除籍となって、将来、再入学を希望する場合は、定員に余裕あれば、選考のうえ、再入学することができます。
ただし、懲戒による退学、または前記除籍事由の⑴および⑵によって除籍となった場合は、再入学が認められません。
（詳細は、入試センター（神田キャンパス）にて相談してください。）

クラスについて

クラスは、みなさんの所属する学科・学年別に編成されています。各種ガイダンス、学部行事への参加および専門科目の授業などは、これらのクラスを単位として行われることになります。

クラスには、それぞれ数名のクラス担任がおり、クラスのアドバイザーとして、クラスで行う行事および各種手続き事項に関する指示や相談のほか、学習上の問題や個々の悩みなどの相談に応じています。

平成18年度　　理工学部　学級担任

	1　年	2　年	3　年	4　年
R	荒　牧 中　野 I田　中 U仲　光	宮　地 山　形 I前　原	森 陳	◎古　東 ○藤　澤
J	大　塚 町　原 U　硲 e越　川	稲　葉 築　地 I前　島	狩　野 藤　本	◎勝　野 ○内　門
K	畠　山 桧　垣 I都　築	滝　沢 中　村 U本　橋	羽根吉 古　田 I石　塚	◎花　﨑 ○小　泉 ○横　山
G	井　浦 中　尾 高　田 I勝　又 U佐　藤	中　井 松　井 見　村 U井　上 e松　平	近　津 岩　城	◎有　田 ○安　田
N	樫　村 国　吉 I掛　水 I細　川	斎　藤 U越　智	亀　岡 佐　藤 里　見	◎浅　岡 ○　辻
F	内　川 植　野 U小　畑	平　栗 宮　下 I小　島	富　田 広　瀬 福　井 e小山内	◎星　野 ○舟久保
B	栗　山 類　家 I石　村 I岡　林 U小　川 e遠　藤	保　坂 村　勢 U岡　本 U山　室	川　井 宮　脇	◎内　田 ○田　中
L	志　和 柏　崎 I小　林 U木　下	市　野 柴　田 I若　松	細　村 矢　口	◎寺　島 ○鉄　谷 ○山　口

（注）◎：学科長　○：就職担当　I：一般教養系列　U：自然科学系列　e：英語教育系列
※2年次生以降の担任は変更となる場合があります。

オフィス・アワー（Office Hour）

オフィス・アワーとは

オフィス（Office）は通常、勤め先や事務所と訳されますが、本来の意味は「仕事場」です。大学では、教員の仕事場、つまり「教員室」ということになります。教員室は、教員が研究などを行っている個室のことです。アワー（Hour）は時間のことです。直訳すると、オフィス・アワーは教員が「教員室にいる時間」ということになります。

オフィス・アワーは、教員が学生との面談のために教員室で待機している時間のことです。つまり、学生の皆さんは、オフィス・アワーには自由に教員に質問や相談をするために教員室を訪れることができます。

オフィス・アワーの利用方法

オフィス・アワーを利用して教員と話をするために特別な手続きは必要ではありません。オフィス・アワーに教員室をノックすれば良いだけです。各教員のオフィス・アワーは、オンライン・シラバスや教員室のドアなどに掲示されています。時間をチェックして、教員室で先生と話をしてみましょう。

オフィス・アワーは、全学年・全学科の学生に公開されています。オフィス・アワーは、自分が所属する学科以外の教員の話を聞く良い機会です。これからの技術者は専門を越えたより広い見識が必要です。他学科や系列の先生方との接触はみなさんの知識の幅を広げることに役立ちます。

オフィス・アワー利用の心得

オフィス・アワーはあなた個人だけのものではありません。あなた以外の学生にも開かれたものです。オフィス・アワーは学生がだらだらと教員室で過ごすための時間ではありません。言いたいことや質問項目を事前にちゃんと準備しましょう。自分の主張を順序立てて簡潔に表現することは社会人として重要なことです。このようにして、オフィス・アワーを利用することによって、自己表現能力をみがくこともできます。

学費について

1．学費の納入方法

学費は、本学指定の「学費振込票」（記載金額が納入額）により銀行振込みにより本学に納入して下さい。

2．「学費振込票」の交付方法

新 1 年次生および転学部・編入学者は、入学手続き時に前期分の学費を納入済ですので、後期分の振込用紙を 7 月上旬に保証人宛に郵送します。

平成17年度以前入学の学生（学籍番号先頭 2 ケタが05以下の者）には、毎年 4 月上旬に保証人宛に 1 年分（前・後期の 2 枚）の振込用紙を郵送します。

それぞれ前もって保証人に周知しておいてください。

3．学費の納入期限

前期分は、 4 月末日

後期分は、10月末日

ただし、前期分に関しては、新 1 年次生・転学部・編入学者は入学時に納入済です。

4．学費の延納

特別な理由により学費を期限内に納入できず延納を希望するときには、その納入期限前に本学所定の「学費延納願」を提出しなければなりません。

「学費延納願」には、延納事由を具体的に記載してください。

なお、延納が許可される期間は、前期・後期ともに各納入期限日から起算して 2 ヵ月です。（詳細は学生厚生担当に相談してください。）

5．その他納入に関する注意

⑴　学費が所定の手続きを経ず未納の場合は、学則により除籍対象者となりますので、十分注意してください。

⑵　「学費振込票」は、コンピュータで印字されます。出力される保証人の氏名・住所等は、みなさんが入学手続きの際提出した書類にもとづいて処理をしていますので保証人の氏名・住所等の変更がある場合は、必ず変更届を学生厚生担当窓口に提出してください。

⑶　「学費振込票」を紛失した場合は、学生厚生担当にて学費振込票再交付の手続きをとってください。この場合は、保証人宛に送付することができませんので、みなさんから保証人へ「学費振込票」を渡してください。

⑷　学費等納入額内訳表は、４月に郵送する学費振込票に同封します。

奨学金制度

奨学金制度には、日本学生支援機構による奨学金をはじめ本学の奨学金、地方公共団体の奨学金、企業その他民間団体の奨学金があります。

奨学金の種類としては給付奨学金と貸与奨学金があります。給付奨学金は返還義務はありませんが、貸与奨学金は返還義務があります。

奨学金関係の事務取り扱いは学生厚生担当が行っています。募集をはじめ**連絡はすべて掲示にてお知らせしますので、掲示に注意してください。**

１．日本学生支援機構奨学金

学業、人物ともに優秀で経済的理由により修学困難な学生のうち、大学から推薦された学生について、日本学生支援機構で選考の上、次の奨学金が貸与されます。

日本学生支援機構奨学金の種類と募集について

● 「第１種」（無利子）

貸与期間	奨学生に採用された月から卒業予定の最短修業年限まで
募集時期	４月上旬
貸与月額	自宅・・・54,000円　／　自宅外・・・64,000円（平成17年度）
資　　格	１年次生・・・・高校時評定平均値　　3.5以上 ２～４年次生・・クラス内学業成績順位　　上位1/3以内

● 「第２種」（有利子）

貸与期間	奨学生に採用された年度開始月から卒業予定の最短修業年限まで
募集時期	４月上旬
貸与月額	３万、５万、８万、１０万の中から選択（平成17年度）
資　　格	１年次生……高校時評価平均値　　平均水準以上 ２～４年次生…クラス内学業成績順位　　平均水準以上

平成17年度　　本学の日本学生支援機構奨学生数

種類／学部	第一種奨学金	第二種奨学金（きぼう21プラン）	合　　計
理　工　学　部	３０９	４６６	７７５

２．特別奨学金（本学独自）（給付）

故　桜井虎三郎氏の遺志により、桜井家からの寄付および法人からの積立金等を基金として設立された奨学金です。

資　　格	２～４年次生 学業成績・人物ともに優秀な者 学費支弁が困難な者
募集時期	５月～６月
採用者数 平成17年度実績	理工学部５名（年額300,000円／人）

３．東京電機大学奨学利息補給制度

在学生またはその保証人が、本学学費の支弁のため、金融機関等から融資を受けた借入額に対する利息を奨学金として給付する。

資　　格	本学学生（平成15年度入学者から平成19年度入学者まで適用）
給付額	当該年度学費（入学金は除く）の半期分を限度とした借入額に対する利息分（３％を上限）を奨学金として給付する。
給付期間	本学学則で定める修学年限内（４年間）とする。
募集時期	４月・９月（当該年度１回限り）
採用予定者数	昼間部本学で180名以内
採用者数 平成17年度実績	理工学部１名

4．東京電機大学校友会・新電気奨学金（貸与）

東京電機大学校友会が昭和59年度より設立した制度で、家庭の経済的事情急変のために、学業継続が困難になった者に対して貸与される奨学金です。

資　　格	本学学生
貸 与 額	１回に納入する学費等の相当額 卒業後６ヶ月を経過した月から起算し５年間で返還（無利子）
募集時期	学費納入期限以前
採用者数 平成17年度実績	理工学部１名

5．各種団体による奨学金

・地方自治体、その他民間育英団体の奨学金は各種あります。内容の詳細については、募集の依頼があり次第掲示します。
・大学を通さずに募集する自治体等もあります。直接各団体へ問い合わせ、応募の方法等を確認してください。

6．学生救済奨学金

教育の機会均等の精神に基づき学業達成に意欲的でありながら、経済的事由が急変したために修学半ばにして断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与えるために新設されました。

資　　格	大学院、学部に在籍する学生であって、経済的事由により学費の支弁が困難であると認められる者、かつ貸与することにより学業継続が可能である者
応募・採用時期	原則として４月・９月（ただし、各校における在籍期間中１回）
奨 学 金 額	1回に納入する学費等の相当額とし、奨学金は学費に充当する。（無利子）
返　　還	卒業後５年間（繰り上げ返還は可）
採 用 者 数 平成17年度実績	理工学部７名

7．学生支援奨学金

海外英語短期研修への参加およびパーソナルコンピュータ・製図機器等の教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するために新設されました。

資　　格	大学院、学部に在籍する学生（ただし、休学中、留学中、所定修業年限を超えて在籍している者を除く）
応募・採用時期	原則として４月・９月（ただし、各校における在籍期間中１回）
奨　学　金　額	30万円を上限とする（無利子）
返　還　期　間	卒業後５年間（繰り上げ返還は可）
採　用　者　数 平成17年度実績	理工学部３名

平成17年度に募集依頼のあった各種奨学金

奨学金名称	種別	月　額	応　募　資　格	出願時期
〈財団系〉				
あしなが育英会	貸与	一般　40,000 特別　50,000	保護者が病気・災害等で死亡又は後遺障害のために働けなくなった家族の子女	５月上旬
電通育英会	貸与	月額　40,000	①大学に在学し、学業・人物ともに優秀かつ健康で学費の支弁が困難な者 ②学業成績５段階評価で3.5以上の者 ③家計支持者の年収が1,038万円未満又は552万円未満（給与以外）	４月上旬
関育英会	貸与	月額　30,000	人物・学業とも優秀な学部２年生	５月下旬
中村積善会	貸与	月額　53,000	人物・学業とも優秀な学部生	５月下旬
交通遺児育英会	貸与	月額　40,000 50,000 60,000 から選択	保護者等が交通事故で死亡したり、著しい後遺障害で働けないため、教育費に困っている家庭の子女	５月上旬
つつみ奨学財団	給付	月額　40,000	人物・学業とも優秀な学部１年生	５月上旬
守谷育英会	給付	月額　25,000	人物・学業とも優秀な学生	４月中旬
井深大記念奨学基金	給付	月額　80,000	人物・学業とも優秀な学部１年生	４月中旬
吉田育英会	貸与	自宅　50,000 自宅外　60,000	人物・学業ともに優秀な学部１年生	４月下旬
実吉奨学会	貸与	自宅　30,000 自宅外　36,000	人物・学業ともに優秀な学生	４月下旬

〔注〕１．月額は平成17年度のもの
２．隔年で募集される場合や出願時期が年度によって異なる場合があるので、必ず掲示で確認すること。

教育ローン（銀行提携）

本学では、保証人の皆様方の経済的負担の軽減策の一環として、各銀行と教育ローンの提携をしています。この教育ローンは、在学生の保証人を対象に、ご父母から学費等借入れの申し出があった場合に本学が銀行へローンの取り次ぎをするもので、各銀行共に通常の利率よりも低い金利でローンが返済できるものとなっています。また、銀行によっては在学中は元金の返済据置（利息のみ返済）が可能であったり、ご父母だけでなく、学生自身が利用できるなど様々な特徴を備えています。

詳細ならびに手続きについては、学生厚生担当に相談してください。

連絡・呼出し

みなさんへの連絡、呼出しその他の伝達事項は、すべて掲示により指示します。

連絡事項の見落としがないように、毎日掲示板を確認するよう心がけてください。

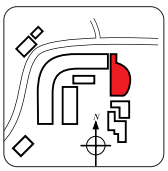
電話での問合わせ、又は呼出し、連絡などは行いません。掲示の期間は原則として１週間ですが、いったん掲示した事項は周知したものとして扱います。掲示を見なかったからということは、理由になりませんから十分に注意してください。

掲示の色分け

教務担当からの掲示は、各学科及び大学院で色分けされています。（２学科以上におよぶ内容の場合は白色です。）
各学科・大学院の色は右のとおりです。この他履修・試験・その他必要に応じ、移動掲示板にて掲示することがあります。

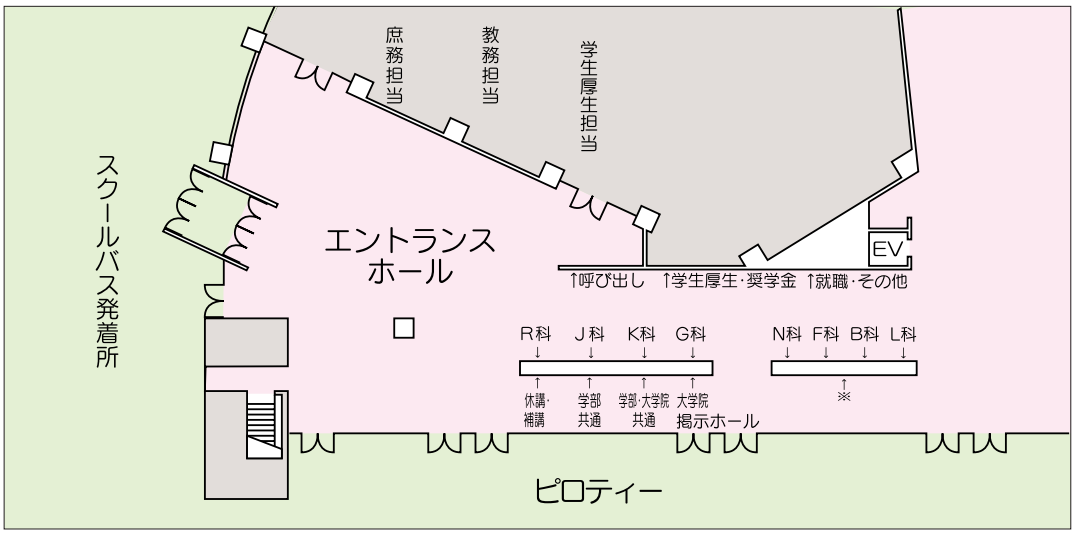
学部共通 白	R科 みずいろ	J科 藤色	K科 ピンク	G科 黄
N科 淡グリーン	F科 オレンジ	B科 濃グリーン	L科 サーモン	大学院 白

全体図



掲示場所

本館１階　掲示ホール



※教職・履修・試験関係の掲示です。時期によって異なるので、十分注意して下さい。

証明書の交付

1．学生厚生担当が交付する証明書

〔証明書自動発行機より発行するもの〕

No.	証明書の種類	在　学　生 手数料（円）
1	在学証明書（和文）	200
2	健康診断証明書	300
3	学生旅客運賃割引証（学割）	無料

〔窓口で発行するもの〕

No.	証明書の種類	在　学　生 手数料（円）
1	学生証再発行	2,000
2	在学証明書（英文）	700
3	通学証明書	無料

(1) 学生証再発行

もし、学生証を紛失または汚損したときは、証明書自動発行機より申請書を購入し、捺印の上学生厚生担当窓口に提出してください。申請翌日に再発行されます。

(2) 在学証明書（和文、英文）

和文在学証明書は証明書自動発行機で交付します。英文在学証明書は学生厚生担当窓口に申請して下さい。３日後に発行します。

(3) 健康診断証明書

証明書自動発行機で交付します。（学内定期健康診断を受診した学生のみ）

(4) 学生旅客運賃割引証（学割）

乗車区間が片道100キロを超える時に利用できます。証明書自動発行機で交付します（無料）。

＊非正規生（研究員・研究生・科目等履修生など）には、学割は発行されません。

個人用：１日２枚まで、年間合計１０枚まで発行します。正課教育等で使用する場合には、年間発行枚数にカウントしない場合がありますので、学生厚生担当窓口へ

問い合わせてください。

団体用：大学に届出のある課外活動（クラブ等）や研究室などの団体で利用する場合に限り交付します。課外活動の場合には、学外活動願に「団体学割申込書」を添えて学生厚生担当窓口へ提出してください。

なお、団体用は年間使用枚数にカウントしません。

◎学生団体運賃割引き制度について

上記の他に、学生１５名以上が教職員に引率されて同一行程で旅行する場合、学生団体として普通運賃が割引になります。なお、申し込みの際に、団体旅行申込書に大学の証明が必要になります。

(5) 通学証明書

通学定期券は、殆どの場合学生証の提示で購入出来ますが、バス・都電など、通学証明書を必要とする場合があります。

その場合には、通学証明書交付願に必要事項を記入し、申し込んでください。即時交付されます（無料）。

通学区間は、学校最寄り駅と居住地最寄り駅との最短経路になります。

＊非正規生（研究員・研究生・科目等履修生など）は、通学定期券を購入することはできません。

2．教務担当が交付する証明書

〔証明書自動発行機より発行するもの〕

No.	証明書の種類	在　学　生 手数料（円）
1	卒業見込証明書	200
2	成績証明書	300
3	成績通知書	期間内は無料 期間外は 200
4	履修登録確認表	無　料
5	仮受験票	1,000

〔窓口で発行するもの〕

No.	証明書の種類	在　学　生 手数料（円）
6	人物調査書	500
7	教職免許状取得見込証明書	500
8	大学院進学用調査書（他大学院宛）	500
9	外国語文卒業見込証明書	1,200
10	外国語文成績証明書	1,500
11	科目等履修生在籍証明書	200
12	科目等履修生単位取得証明書	1,000

(1) 卒業見込証明書（２００円）

卒業見込みであるという内容です。４年次生に対してのみ発行いたします。

（※３年次以上の在学での卒業を希望する学生に対しては、卒業を希望する学期の初めから発行いたします。）

(2) 成績証明書（３００円）

修得した科目、或いは履修中の科目が表記されており、単位数や評価が記載されています。

(3) 成績通知書（期間内は無料・期間外は２００円）

学期末・学年末の成績を本人へ通知するものです。９月・３月の指定期間内に無料で配布されます。ただし期間外は有料となります。

(4) 履修登録確認表（無料）

通常、履修申告終了後、４月下旬と５月中旬、10月中旬ごろに履修登録が認められた結果を通知します。

(5) 仮受験票（１,０００円）

試験を受ける際は学生証が必要ですが、学生証を忘れた者は、証明書自動発行機より受けて下さい。当日１～６時限の仮受験票が紙で出力されますので、該当の時限分を切り取って使用してください。なお、仮受験票は当日のみ有効ですので、受験しない時限の仮受験票は各自で処分してください。

(6) 人物調査書（５００円・１０日後）

学生の人物を客観的に示したものです。

原則として、学生に身近な卒業研究指導教員又は、クラス担当教員などが記入します。申請が出てから教員へ作成依頼をしますので、日にちには余裕をもって申請してください。

(7) 教職免許状取得見込証明書（５００円・２日後）

４年次生の教職課程履修者で免許状取得に必要な単位を取得予定の者へ発行します。

(8) 大学院進学用調査書（５００円・１０日後）

本学の大学院へ提出する場合は必要ありませんが、他大学院を受験する場合に必要となります。人物調査書と同じく卒業研究指導教員へ依頼する項目がありますので、申請は早めにするようにしてください。

(9) 外国語文卒業見込証明書（１,２００円・７日後）

(10) 外国語文成績証明書（１,５００円・７日後）

(11) 科目等履修生在籍証明書（２００円・２日後）

(12) 科目等履修生単位取得証明書（１,０００円・２日後）

※証明書自動発行機について

〇証明書自動発行機の利用時間は９：00から21：00までです。（但し事務室内にある発行機は窓口受付時間内のみ利用可能）

〇在学生は学生証が無いと利用出来ません。

〇窓口で発行する証明書であっても、証明書自動発行機にて手数料を支払い、必要事項を記入する申請書を取り出す必要があります。

卒業後の各種証明書の申請についてはＰ290参照

届け出・願い出

1．学生厚生担当に提出する書類

(1) 退学願

一身上の都合などにより退学を願い出る場合は、所定の退学願に必要事項を記入し、学生証を添えて提出してください。

退学後は再入学が困難（再入学ができない場合もあります）ですので、慎重に検討してください。

(2) 休学願

長期間にわたる欠席を必要とする場合は、所定の休学願に必要事項を記入し、学生証を添えて提出してください。

(3) 復学願

休学の事由が消滅し、復学を願い出る場合は、所定の復学願に必要事項を記入し、所定の期限までに提出してください。

(4) 転学科願

学年が進行していく過程で真にやむを得ない理由で、理工学部内の他の学科へ転科したい場合は、他の学科の定員に余裕がある場合に限り、選考のうえ許可することがあります。事前に学生厚生担当窓口にてご相談ください。

(5) 転学部願

理工学部から工学部第二部への転学部は、希望する理由が主に経済的による場合であって、工学部第二部の学科の定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。情報環境学部への転学部を希望する場合も含め、10月下旬までに学生厚生担当窓口に申し出てください。詳細については事前に学生厚生担当窓口でご相談ください。

(6) 住所変更届

現住所・保証人住所・帰省先・電話番号（携帯電話番号含む）等に変更があった場合は、速やかに住所変更届に必要事項を記入し、学生証を添えて提出してください。

(7) 本籍地変更届

本籍地を変更した場合は、本籍地変更届に必要事項を記入し、提出してください。

(8) 改姓届

改姓した場合は、改姓届に必要事項を記入・捺印し、学生証および戸籍抄本を添えて提出してください。

(9) 保証人変更届

保証人を変更した場合は、保証人変更届に必要事項を記入・捺印し、提出してください。

(10) 教室その他の学内施設使用願

課外活動で教室を使用する場合には、学内集会願、その他の学内諸施設を使用する場合には、施設使用願に必要事項を記入し、願い出て承認を受けてください。

(11) 厚生施設の使用申込書

第5章の厚生施設を参照してください。

(12) 車両通学願

5月・10月に実施する安全運転講習会を受講し、指定期間内に車両通学願にその他の必要書類を添えて提出してください。

(13) 学外活動願

学外で課外活動やボランティア活動等を行う場合、および学内で対外試合等を行う場合には学外活動願を提出してください。

2．教務担当に提出する書類

(1) 履修申告に関する書類

各学年の学期のはじめに1年間の履修計画をたて、履修申告要領に従って授業科目の履修申告をする必要があります。

申告にあたっては、「履修申告」（Ｐ45参照）および年度はじめの履修申告に関する指示を参照して下さい。

なお、**申告をしていない授業科目は受講できず、試験を受ける事はもとより単位の認定もされません。**

(2) 欠席届

病気、ケガ、その他のやむを得ない理由で授業を欠席した場合は、教務担当窓口で欠席届の用紙を受け取り、必要事項を記入の上、診断書等欠席を証明出来る物を添えて提出してください。

なお、教務担当窓口で取り扱う欠席期間は連続して７日以上とします。

６日以内の欠席は、直接授業科目担当教員に提出して下さい。

(3) 追試験願

学期末試験の受験資格があり、かつ、やむを得ない理由により学期末試験を受験できなかった学生は、追試験願に診断書等欠席を証明出来る物を添えて、教務担当に提出して下さい。（Ｐ58参照）

(4) 閉館時間中の正課授業実施願

卒業研究などで、２１時以降学内にいる場合には、「閉館時間中の正課授業実施願」に必要事項を記入の上、指導教員・学科長の認印を受けて、**実施当日の窓口時間内**に提出して下さい。数日分まとめての申請は受付けません。出席する学生名はその都度確認の上、記載するようにして下さい。

学　生　相　談

1．学生相談室

みなさんが大学生活を送るうえで出会うさまざまな困難な問題や、わからない事柄などについて相談に応じ、明るく充実した学生生活を送れるよう援助・協力するために、学生相談室が開設されています。

大学生活を送る間には、学習上や生活上に、大小さまざまな問題が起きてきます。そのような場合、いつも自分ひとりで問題を解決できるとは限りません。堂々めぐりの中でひとりで考えこまず思いきって第三者と話し合うことが時には必要ではないでしょうか。友人・先輩、あるいは両親・教師その他身近な人々と話し合うことによって解決の糸口がみつかることもあるでしょう。学生相談室もその相談相手のひとりとして考えてみてください。何か問題が起きた時、相談したいことがある時、なんとなく気持ちがモヤモヤしている時、無性にだれかと話したくなった時等々、いつでも遠慮なく「学生相談室」に立ち寄ってください。学生相談室はみなさんの学生生活にとって直接の利害関係をもたない機関であり、相談内容の秘密はかたく守られています。

相談は、個人でもグループでも受け付けます。相談員は、カウンセリングの専門家ですが、必要があれば他の部課の職員や先生、あるいは学外の諸機関等を紹介します。みなさんがより豊かな学生生活を送れるよう窓口を開いています。気軽に利用してください。

2．相談内容

- 学業について
- 将来の職業・進路について
- 人生・思想などについて
- 対人関係について
- 心身の健康について
- 性格について
- 家庭の事情などについて
- その他生活全般について

3．相談室の場所・開室曜日・時間

本館 3 階にあります。

開室曜日・時間は、学生厚生担当に常備されているパンフレットを参照して下さい。

健　康　管　理

衣・食・住は私達が生活する上において欠くことのできないものです。これと同様に大切なのは健康であるということです。健康であるということは学生生活を送るうえでもとても大切なことです。本学でもみなさんの健康管理について十分配慮していますが、まずはみなさん自身が日頃から健康の保持に努めることが大切です。

1．健康相談室

授業中・課外活動中等に学内で急に気分が悪くなったり、思わぬケガをしたときは、すぐに健康相談室に来室してください。健康相談室では、校医の指導のもとに看護師がそれぞれの応急の処置にあたっています。

健康相談室では身長や体重、血圧や体脂肪率を自動的に測定する健康管理システムを設置しています。学生の皆さんがこのシステムを定期的に利用することにより健康状態のバロメーターにすることができます。

そのほか、ここでは平常の健康相談にも応じていますので、何となく身体に異常を感じるといった症状のときなども、遠慮なく来室してください。

2．相談室の場所・開室時間

本館１階にあります。

開室時間は

月曜～土曜　９：30～16：30

（ただし、11：30～12：30は休憩時間）

なお、急患は随時受付けます。

健康保険証について

自宅外からの通学者は、遠隔地被扶養者証を取りよせておくと、急病等で医療機関にかかる場合、役に立ちます。交付を希望する場合には、通常は、父母の加入する健康保険組合に申請してください。

3．定期健康診断

毎年 4 月初旬に全学生を対象に定期健康診断を行っています。日本育英会等の奨学生推薦や、クラブ活動、就職などで健康診断証明書が必要になった場合、受診記録に基づいて作成しますので全員必ず受診してください。特にクラブ関係の団体活動をしている学生は、全員受診することが必要です。

定期健康診断の実施項目は次のとおりです。

1．胸部レントゲン間接撮影
2．身体計測
（身長、体重、視力）
3．内科診察（検尿、血圧）

定期健康診断の日程は、事前に学生厚生担当掲示板にて詳細をお知らせします。再検査（精密検査）の場合も同様に掲示連絡致します。

定期健康診断を受けないで、学外で健康診断を受けた場合は、その証明書を健康相談室窓口に提出してください。但し、本学の指定医療機関以外で受診した場合は、本学より健康診断証明書の交付はできません。

4．その他の健康診断について

クラブ活動（強化合宿・公式試合等参加）のために健康診断を受けたい場合は所定の健康診断受診申込書に記入の上、 2 週間前に健康相談室に申し込んでください。

ただし、この健康診断では、レントゲン撮影などができないので、定期健康診断を受けなかった学生に対しては、診断による活動許可ができない場合があります。

5．健康診断証明書

証明書自動発行機で交付します。指定用紙での発行を希望する場合は 2 週間前までに健康相談室へご相談ください。

ハラスメント防止宣言

STOP! HARASSMENT

東京電機大学大学院理工学研究科・理工学部は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることを目指しています。そのためには、全ての学生・教職員等が、鳩山キャンパスにおいて教育・研究・労働、その他の諸活動を、心理的にも肉体的にも安全で快適な環境の中で行なわれなければなりません。

しかしながら、残念なことに大学キャンパスといえども、一般社会が持つ様々な問題が生じています。特に、人間関係において、相手を対等な関係と見ることなく、差別したり、打撃を与えたり、性的対象と見て心理的・身体的に傷つけたり、圧迫したりすることは絶対にあってはならないことです。

鳩山キャンパスでは、このような場合の相談窓口として相談員制度を設け、ハラスメントの防止に取り組むことを宣言します。

理工学研究科 委員長　村 勢 則 郎
理工学部 学部長　山 名 昌 男

ハラスメント相談員

ここには掲載されていませんが、ハラスメント相談員というのを設けています。詳細につきましては、別途パンフレットを作っていますので、そちらで確認して下さい。

ハラスメントにあったら



セクシュアル・ハラスメントもしくはアカデミック・ハラスメントで少しでも悩んでいるなら、一人で悩まずに気軽に相談員に話してください。一緒に話し合っていきましょう。

■相談員は、あなたの立場に立って相談にのります。

- 相談員は、あなたの名誉やプライバシーを固く守ります。
- 相談員の対応に納得がいかない場合は、別の相談員に相談することもできます。
- 匿名での相談、友人の付き添い、または代理での相談も受け付けます。

■問題の解決に向けて

- 相談員は、あなたの話を聞き、必要に応じて助言等を行います。
- 相談員だけでは解決できない場合、調停委員会に調停を申し立てることもできます。
- 調停委員会は、調停グループを設置し、問題を適切かつ迅速に解決するよう努めます。
- いずれの場合も、あなたの意思に沿わない解決はしません。

ハラスメントの

本ガイドラインは、鳩山キャンパスに関わるすべての者が個人として尊重され、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等のない環境の中で就学・就労できる権利を保障することを目的とします。学生、大学院生、外国人留学生のほか、研究生、科目等履修生など、本学で教育を受けるすべての者が対象となります。教職員は、常勤・非常勤を問わず、本学に在職するすべての教職員を対象としています。

Q セクシュアル・ハラスメントとは?

セクシュアル・ハラスメントとは、相手方の**意に反する言動**であり、本人が意図するとせざるとにかかわらず、相手方によって性的な言動であると受けとめられ、それによって、相手方を**不快**にし、差別し、脅威や屈辱感あるいは利益、不利益を与え、また相手方がそこで学び、働く環境を悪化させることをいいます。

Q 意に反する言動とは?

(1) 言葉の問題として、性的な冗談を言ったり、からかったり、執拗に食事やデートに誘ったりすること。あるいは性的なことを話題として取り上げたり、相手方に性的経験などを聞いたりすること

(2) 視覚的な問題として、相手の体をじろじろ見ることや、ヌードポスターなどを配布したり、掲示しておくこと

(3) 行動として、相手方の身体に不必要に接近したり触れることや、性的関係を強要すること

Q 不快さの基準とは?

そのような言動をされた相手方の判断によります。

Q 相手方がそこで学び、働く環境を悪化させるとは?

(1) 職務上の地位を利用して、あるいは教育上、研究上、雇用上の利益の代償あるいは対価として、性的要求をする場合や、逆に陰に陽に不利益的な取扱いをすることをもって性的要求をすること

(2) はっきりとした不利益は伴わないまでも、職務の遂行や勉学の遂行を妨げる等の、職場あるいは勉学環境を悪化させること

防止と対策に関するガイドライン

セクシュアル・ハラスメントは、男性から女性に対するものだけでなく、女性から男性に対するもの、同性間のものも対象になります。そして、いわゆる上下関係にある者の間だけでなく、同僚・同級生の間、あるいは学生から教職員に対してなされる場合も含まれます。



Q アカデミック・ハラスメントとは?

アカデミック・ハラスメントも重大な人権侵害です。それは就学の場で「指導」、「教育」または「研究」の名を借りて、嫌がらせや差別をしたり、人格を傷つけることです。

例えば、次のような行為があります。

(1) 相手によって差別したり、必要以上に厳しく指導したり、指導を放棄したりする。
(2) 「お前はやっぱり駄目だ」と全てを否定する言い方を繰り返す。
(3) 指導の際に「大学をやめろ」とか、「卒業させない」と何度も言う。

アカデミック・ハラスメントも、教職員と学生の間だけではなく、ゼミやクラブの先輩と後輩、同級生同士であっても許されません。

その他に、「一気のみの強要」や「ストーカー的行為」も人権侵害となります。

Q ハラスメントにあったら?

(1) ハラスメントに少しでも悩んでいたら、相談員に相談して下さい。
(2) 相談は、面談だけでなく、電話、手紙、電子メールなどでも受け付けます。代理の方でも受け付けます。
(3) 相談員は、あなたの立場に立って、問題の解決にあたります。
(4) 相談だけでは解決できない場合、調停を申し立てることができます。

Q 調停とは?

(1) 調停は、調停グループが当事者から話しを聞き、当事者間の意思の疎通を支援し、問題の解決にあたるものです。
(2) 調停グループは、学部長(または研究科委員長)のもとに設置され、学科長・系列主任または専攻主任、相談員より選出された3名により構成されます。
(3) 調停グループは、相談に対して助言をおこなったり、申し立ての内容を相手方に伝えたりします。また、必要があると判断したときは当事者間の話し合いの場を設定します。
(4) 調停の合意は当事者が決めることであり、調停グループが強制的に合意をとりつけることはありません。

Q 調停では解決しない場合は?

(1) 学部長(または研究科委員長)のもとの調停委員会が事実調査を行い、対応策を策定し、学長に提案します。
(2) 学長は、すみやかに解決に必要な措置をとります。

当事者の権利とプライバシーの保護

(1) 相談、調停のすべての段階において、また手続き終了後においても、当事者の名誉とプライバシーは保護されます。
(2) 申し立て人に対しては、大学として、心理的ケアを含む可能な限り最善の救済措置が講じられるよう努力します。
(3) 調停の過程において、相手方とされる者には、疑義の内容を知り、また疑義に反論する権利が保障されています。

ハラスメント防止のために

(1) 調停委員会は、ハラスメント防止のためのパンフレットやポスターを作成し、理解を深めるように努めます。
(2) 定期的にハラスメントの相談受付件数、調停件数ならびに対応結果等を、当事者のプライバシーに配慮しながら公表します。

(鳩山キャンパスにおけるハラスメントの防止と対策に関するガイドラインより抜粋)

学習サポートセンターについて

1．学習サポートセンター（通称：SSC）

みなさんが大学の授業をうける上では、高校までに学んできた数学、物理、化学、英語が基礎となり重要になってきます。

学習サポートセンターでは上記科目の基礎の復習、見直し、勉強を進める上での相談など学習の支援をおこなっています。

学習サポートセンターの指導スタッフは、数学、物理、化学については高校で長年授業を行ってきたベテランの先生を中心に、英語についてはネイティブの先生を含めた英語教育専門の先生が、みなさんの希望により個別、グループのどちらでも対応をしてくれます。（※予約も可能です）

基礎科目をもう一度勉強し直したい。勉強方法など相談したい。そう思った時は、親切丁寧に対応しますので、いつでも気軽に利用してください。

2．対応科目

数学、物理、化学、英語

3．場所、時間、曜日

数学、物理、化学　　8号館1階　8101D教室

英語　　8号館1階　EEP教室、
3号館1階　語学自習室

開室曜日・時間は、教務担当共通掲示板のポスターを参照してください。



第５章

各種施設の利用

総合メディアセンター

総合メディアセンターでは、学生と教職員の研究と学習のために、各学科の教育計画や研究計画に沿った設備・機器、情報資源、ネットワークを整備して、各種メディアを有効に活用できるようさまざまなサービスを提供しています。

総合メディアセンターの計算機サービスと図書サービスは、鳩山キャンパス（理工学部）はもとより神田キャンパス（工学部）と千葉ニュータウンキャンパス（情報環境学部）でも1つの利用者ID（学籍番号）とパスワードにより利用することができます。これは、利用者ＩＤとパスワードを共通認証システムで一元管理をしています。

パスワードについて

パスワードは、利用者ＩＤが他人に利用されることを防ぐ役目をする鍵です。個人データとシステムを守るために、パスワードを時々変更するようにしてください。

・初期パスワードは必ず変更してください。
・他人に推測されやすいパスワードに変更しないでください。
・６～８文字の英数字を混在させたパスワードにしてください。

＜ 利用上の注意事項 ＞

・総合メディアセンター施設内での飲食や喫煙は厳禁です。清潔で静粛な環境を保つよう心掛けてください。
・大きな声での話し合いは周りの迷惑になるため厳禁です。守れない場合は、総合メディアセンター施設から退出してもらいます。
・携帯電話やPHSの使用は周りの迷惑となるため禁止します。どうしても使用する時は総合メディアセンター施設から退出して使用してください。
・機器類や図書資料は共有財産です。らくがきや破損等をしないよう、大切に使用してください。
・ユーザー端末、図書検索端末、プリンタ等の機器類に異常が発生した場合や、不測の事態が起きた場合は、直ちに総合メディアセンター員か係員に連絡してください。
・利用者IDの貸借や他人の利用者IDを使った利用は絶対に行わないでください。第三者にパスワードが知られることがあり、不正利用に流用されたり、法令に触れる事件に巻き込まれる危険性があります。
・印刷を実行するときは無駄のないように十分に検討を行った上で出力してください。また、テキスト（手引き書、マニュアル等）の印刷や課題に無関係な出力やコピー機代わりの使用は厳禁です。
・個人情報の載った出力結果等、自分の出力したものは必ず持ち帰ってください。
・ユーザー端末やサーバ等のシステム運用および利用上の変更については、総合メディアセンター内の掲示版とホームページでお知らせします。常に確認するようにしてください。
・総合メディアセンター施設内では、スタッフの指示に従って利用してください。

＜ 総合メディアセンターからのお知らせ ＞

ホームページまたは総合メディアセンターの掲示板にて、お知らせします。
総合メディアセンター・鳩山サテライトセンターのホームページ
URL・・・ http://www.ccs.dendai.ac.jp/mrcl/

＜ 図書サービス＞

◇　利用にあたって

図書資料の館内利用と館外貸出は、すべて学生証によって行います。常に携帯して提示を求められたら身分を証明できるようにしてください。

◇　開館時間及び休館日

通常開館	月～金	土
神田キャンパス	8:45～21:45	8:45～21:15
鳩山キャンパス	2 階　9:00～20:10 3 階　10:00～20:10	2 階　9:00～18:00 3 階　10:00～17:00
千葉ニュータウンキャンパス	9:30～19:00	9:30～16:00

準 開 館	月～金	土
神田キャンパス	8:45～18:15	8:45～16:20
鳩山キャンパス	10:00～16:00	10:00～16:00
千葉ニュータウンキャンパス	10:00～16:00	10:00～16:00

※　休館日は、日曜日、祝祭日、創立記念日（9月11日）、夏季・冬季および春季の休業中の一定期間、その他に法人・総合メディアセンターが特に必要と認めた日

◇　入退館

所持品を持って入館できます。ただし、飲食物の持込みは禁止します。出入口のゲートを通って入退館してください。

貸出手続きをしていない図書資料の持ち出しをすると、ブックディテクション装置が大きな警告音を発して出口を遮断しますので注意してください。

不正行為をした者は、学則によって処分されます。

（注）積層書庫は、所持品の持込みを禁止しています。入庫の際には貴重品以外の荷物を棚に預けてください。

◇　図書資料の館外貸出

図書資料の貸出にあたっては、借用する図書資料に学生証を添えて、カウンターへ出してください。バーコードラベルの添付されている図書資料は、自動貸出装置を利用して貸出手続きができます。ただし、以下の図書資料は館外貸出しませんので注意してください。

- 禁帯出の赤ラベルが貼ってある図書資料
- 学位論文
- 貴重書
- 雑誌
- 視聴覚資料

貸出冊数および貸出期間は以下の通りです。

	冊数	貸出期間
学部１年生～３年生	5 冊	2 週間
学部４年生、大学院生	10冊	1 ヶ月

◇　図書資料の返却

図書資料は、定められた期日までに返却してください。他キャンパスで借りた図書資料はどのキャンパスでも返却可能です。期限日は図書サービスホームページ上から利用者IDとパスワードを入力するだけで簡単に確認することができます。特に、卒業・退学・除籍・転学・休学などの場合は、貸出残余期間を問わず即時返却してください。

返却延滞者は貸出停止となりますので、注意してください。

なお、図書資料を紛失・破損した場合は、弁償していただきます。

※　休館日・開館時間外の図書資料の返却は、ブックポストを利用してください。
（各サテライトセンター　正面出入口に設置されています）

◇　各種サービス

○　レファレンスサービス

図書検索や文献検索等図書サービスの利用についての質問・相談は、カウンターで受け付けます。

○　相互サービス

必要な図書資料が本学に所蔵されていない場合は、カウンターの係員に相談してください。もし、探している図書資料が他機関の図書館等に所蔵されている場合は、文献の複写依頼や利用の紹介を行います。

○　図書資料検索端末

総合メディアセンターで所蔵している図書資料は、館内の図書検索端末または、図書サービスホームページ（URL･･･http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/）から検索することができます。

○　コピーサービス（有料）

総合メディアセンターで所蔵している図書資料を複写したい場合は3階閲覧室で複写することができます。著作権に関しては利用者が全責任を負うものとします。

私物やノート類の複写をすることはできません。

図書館においては、次に掲げる場合には、図書館資料を複製することができる。
・図書館等の利用者の求めに応じ、調査研究のために公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合。（著作権法第31条より抜粋）

○　購入希望図書資料について

購入希望の図書資料がありましたら、図書サービスホームページから必要事項を記入し申込を行ってください。申込内容確認後、購入決定の可否をホームページでご確認ください。

○　図書資料の予約について

貸出中の図書資料は図書サービスホームページ上から予約することができます。

	自キャンパス	他キャンパス
検索結果	貸出中	貸出中・あり
貸出可能日	メール発送後	メール発送後 翌日午後以降 （①下記参照）
取り置き期間	メール発送後　7日間	

①　神田　⇔　鳩山・千葉：1～2日、鳩山　⇔　千葉：2～3日

※　状況によって変わる場合があります。資料がなかった時はメールで連絡します。

○　メールによるお知らせ

図書サービスに関してメールによるお知らせを行っています。

メールはすべて学籍番号（学籍番号@ed.ccs.dendai.ac.jp）宛になります。メールは常に確認してください。

メールサービスの内容を下記に記載します。下記以外の場合にもサービスについて連絡することがあります。

・予約資料の到着

資料予約申込受付の連絡（他キャンパス資料に対しての予約）

予約資料到着の連絡（自キャンパス資料に対しての予約）

・返却期限日のお知らせ

返却期限日の1日前の連絡

・延滞資料のお知らせ

返却期限日以降5日目から10日ごとに連絡

・文献複写到着のお知らせ

複写依頼を行った文献到着の連絡

・購入希望図書到着のお知らせ

購入希望図書が貸出可能になった連絡

◇　ご意見・ご質問

総合メディアセンター　図書サービスへのご意見、ご質問等は下記のメールアドレスにて受け付けています。

mailto：h-library@mrcl.dendai.ac.jp



3 階閲覧室



2 階閲覧室



自動貸出装置

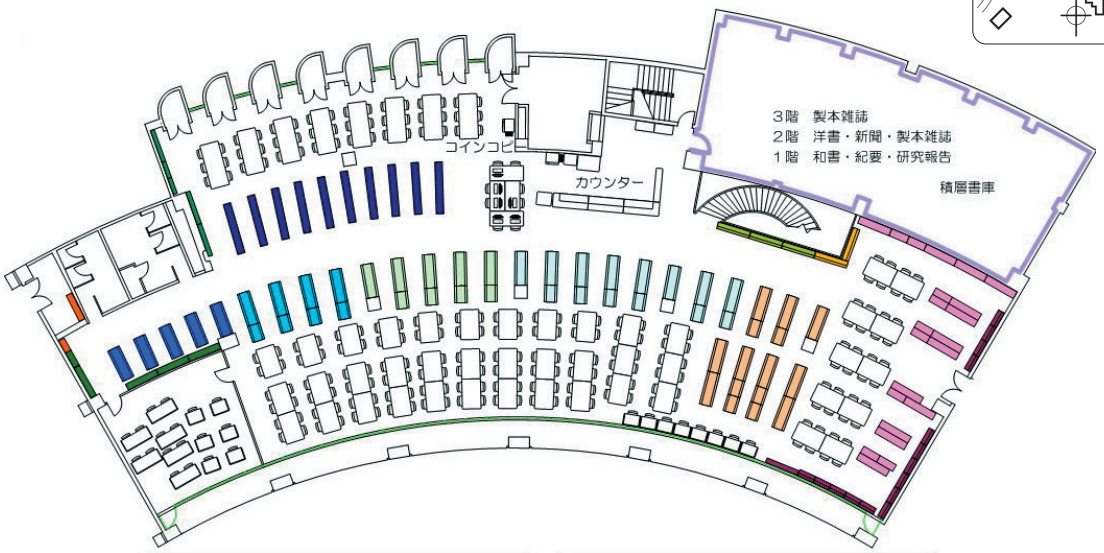


図書検索端末

全体図



1号館3階1301室　図書閲覧室



1	参考図書	000～999	辞書・辞典類
2	一般図書	400～	数学系
3		450～	科学系
4		500～	建設系
5		520～	環境・建設系
6		532～779	通信・コンピュータ 産業・芸術
7	新着本	当月に購入した図書	
8	受験書	資格試験等の参考資料	

9	JIS	日本規格　JIS
10	大型本	地図・百科事典・写真・美術書
11	配架場所	書庫　請求番号　000～999
		書庫1階　和書・紀要・研究報告
		書庫2階　洋書・新聞・製本雑誌
		書庫3階　製本雑誌
12	文庫・新書	
13	雑誌	
14	地図	

1号館2階1201室　図書閲覧室



＜ 計算機サービス ＞

◇　利用にあたって

・各実習室・パソコン教室、及び研究システム等の設備は教育研究を目的として設置しています。目的以外の利用（ゲームやクラブ活動等）は認めていません。
・総合メディアセンターおよび法令に定める不正利用を行わないよう注意してください。
・濡れた傘の持込みは禁止です。傘立てを利用してください。
・第１・２実習室は土足厳禁です。靴は必ず下駄箱に入れてください。

◇　利用方法

○　ユーザー端末（第1・2・3実習室、パソコン教室）の利用

・利用者ID（学籍番号）とパスワードを入力することで利用することができます。
・利用者IDとパスワードは、他のキャンパス（神田・千葉）でも共通して利用することができます。
・パスワードの変更を毎年5月初旬までに行ってください。パスワードの変更方法は、実習室の掲示板かホームページにある操作手順に従ってください。
パスワードの変更がない場合は、利用意思がないものとして使用できなくなります。

○　研究システム（スーパーコンピュータ・演算サーバ）の利用

・卒業研究でスーパーコンピュータ（CRAY - SV1）や演算サーバ（Sun Fire 4800）を利用する場合は、「研究システム利用申請」が必要になります。
申請は、総合メディアセンターのホームページから手続きを行ってください。

◇　利用時間

○　ユーザー端末利用・窓口受付時間

	月～金	土	休業期間
ユーザー端末利用 ・第1～3実習室 ・パソコン教室	9:30 ～ 19:20	9:30 ～ 16:50	9:30 ～ 16:50
窓口受付 ・スタッフ室	9:30 ～ 20:00	9:30 ～ 16:50	9:30 ～ 16:50

※　システム作業等により利用時間が変更になることがあります。

※　休館日は、日曜日、祝祭日、創立記念日（9月11日）、夏季・冬季および春季の休業中の一定期間、その他に法人や総合メディアセンターが特に必要と認めた日。

○　研究システム

	月～金・土・日	休業期間
スーパーコンピュータ ・CRAY - SV1	24時間	24時間
演算サーバ ・Sun Fire 4800	24時間	24時間

※　システム保守作業等で運転を停止することがあります。

◇　ネットワーク利用

インターネットを経由して学外のコンピューターへ接続することは、学外の他機関の通信用コンピューターや専用回線などを利用することになります。快適な利用をするためにも、無駄な接続やデータ転送をしないよう心掛けて利用してください。総合メディアセンターでは快適な利用ができるように、接続状況をモニタリングしています。

ネットワークの利用に際し次のような行為は行わないでください。

- 不正確なメールアドレスへの送信
- 大量なデータの送受信
- いたずらメールの送信
- 著作権を侵害するような取り扱い
- 特定の個人や団体への誹謗中傷
- 大学の名誉を著しく傷つける行為

◇　メール・システム

メール・システムが使用できるようにインフラを提供しています。学生は、入学と同時にメールアドレス（学籍番号@ed.ccs.dendai.ac.jp）が付与されます。これにより各種サービスのお知らせが個人宛に送られてきます。メールは、マナーを守りコミュニケーションツールとして使用してください。

◇　情報コンセント

情報コンセントが利用可能です。LANポート付パソコンとケーブルを持参すれば利用できます。利用に際してユーザー認証が必要となります。使用方法や利用時間はお知らせまたは、ホームページをご覧ください。

	設置場所
10号館	1階　情報端末コーナー 2階　第1・2メディア教室、情報端末コーナー
12号館	1階　アトリウム 情報端末コーナー 12124・12221・12321教室
2号館	1階　総合メディアセンター 第2実習室前廊下

◇　無線LAN

無線ＬＡＮカードが利用可能です。無線ＬＡＮカードを持参すれば利用可能です。利用に際してユーザー認証が必要となります。使用方法や利用時間はお知らせまたは、ホームページをご覧ください。

また、無線ＬＡＮカードは3階図書閲覧室カウンターで貸出を行っています。貸出期間は当日一日です。必ず当日中に3階図書閲覧室カウンターに返却してください。返却されないときは、返却延滞となり図書の貸出等が停止となります。

	設置場所
10号館	1階　エントランスホール、中庭
12号館	1階　アトリウム
13号館	2階　学生ラウンジ
1号館	2階　総合メディアセンター図書閲覧室、中庭

◇　プリンティング・システム

総合メディアセンター設置のプリンターとプロッターの出力管理システムです。
ユーザ端末パソコンのどこからでも印刷処理をしてプリンターとプロッター横のプリンターコンソール端末から必要な分を出力することができます。

印刷出力に「ポイント制」をとっています。毎年度、初期ポイント値が与えられ、印刷の種類に応じたポイントを消費します。ポイントがなくなると印刷出力ができなくなります。
初期ポイント超過分については自己負担（有料）になります。

- ポイント超過分が本人負担であるからといって、何を印刷しても良いということではありません。注意してください。
- ポイント制は、利用者が印刷した枚数を認識して、森林資源の節約に意識してもらうことを目的にしています。初期ポイントを使い切ることをせず、大切に使ってください。
- 初期ポイントは、授業や実験の課題等に使用した過去の利用実績から、年度中に作業が中断しない上位値を設定しています。ポイントを使い切る利用は想定していません。
- テキスト（手引き書、マニュアル等）の印刷や課題に無関係な出力やコピー機代わりの使用は厳禁です。

◇　プログラム相談

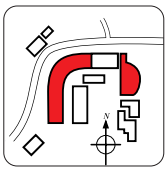
プログラム相談とは、機器の操作方法、課題の処理方法やプログラム技法、さらにはプログラム実行時のエラー等の問題について相談員の意見や解決方法を求めるために設けられています。プログラム相談は、大学院生のプログラム相談員が、第1～3実習室、パソコン教室のプログラム相談窓口で授業期間中に下記の時間で行っています。

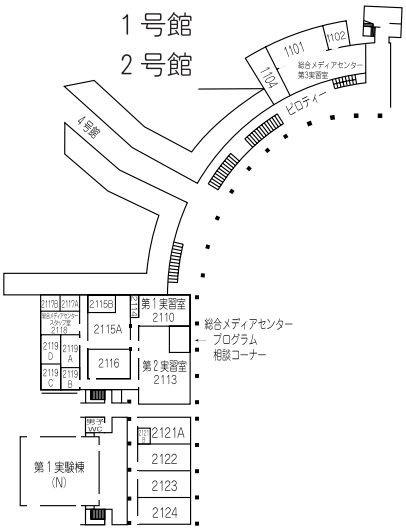
	月～金	土	休業期間
相談時間	12:45 ～ 14:15	12:00 ～ 13:30	－
（1日2回）	16:20 ～ 17:50	15:30 ～ 17:00	－

◇ 利用できる施設・設備

	装置名		台数	備考
第1実習室	パソコン	Fujitsu FMV-W610	24台	< 2号館1階 2110室 > X端末ソフトが利用できます。 20型TFTカラーLCDを設置しています。 ※研究システム利用者優先の実習室です。
	パソコン（スキャナー用）	Fujitsu FMV-E620	1台	
	プリンタ	FUJI XEROX DocuPrint 401	1台	
	カラープリンタ	FUJI XEROX DocuPrint 1250	1台	
	プロッタ	HEWLETT PACARD Designjet 800ps	1台	
	スキャナ	EPSON GT-7400U	1台	
第2実習室	パソコン	Fujitsu FMV-E620	83台	< 2号館1階 2111～2113室 > 授業用のパソコンを設置しています。 ※授業時以外は自由に利用できます。
	パソコン（スキャナー用）	Fujitsu FMV-E620	1台	
	プリンタ	FUJI XEROX DocuPrint 401	4台	
	教材掲示装置	UCHIDA CAI-ACE 教育支援システム	1式	
	VTR	Victor HR-STG 300	1台	
	スキャナ	EPSON GT-7400U	1台	
第3実習室	パソコン	Fujitsu FMV-E620	80台	< 1号館1階 1101室 > 授業用と同一のパソコンを設置しています。 ※開館中は常時利用できます。
	パソコン（スキャナー用）	Fujitsu FMV-E620	2台	
	プリンタ	FUJI XEROX DocuPrint 401	4台	
	スキャナ	EPSON GT-7400U	2台	
パソコン教室	パソコン	Fujitsu FMV-E620	160台	< 10号館（本館）1階 パソコン教室 > 授業用のパソコンを設置しています。 ※授業時以外は自由に利用できます。
	パソコン（スキャナー用）	Fujitsu FMV-E620	2台	
	プリンタ	FUJI XEROX DocuPrint 401	7台	
	カラープリンタ	FUJI XEROX DocuPrint 1250	1台	
	教材掲示装置	UCHIDA CAI-ACE 教育支援システム	1式	
	VTR	Victor HR-STG 300	1台	
	スキャナ	EPSON GT-7400U	2台	
メディア・ラボ	パソコン	Fujitsu FMV-W610	5台	< 2号館1階 2119B室 > 研究システム利用者用の作業室です。 20型TFTカラーLCDを設置しています。
	プリンタ	FUJI XEROX DocuPrint 401	1台	
	スキャナ	EPSON GT-7400U	1台	
機械室	演算サーバ	Sun Fire 4800	1台	<本館1階0118室><2号館1階2115室> 教育・研究用の各種サーバ、ネットワーク機器などを設置しています。 ※関係者以外の入室はできません。
	FireWall・VirusScan	Symantec Security Gateway	1台	
	支線ネットワーク機器	Extreme Networks Summit7i モデル28T4G/PD	1台	
	ドメインコントローラ	Fujitsu PRIMERGY RX200	3台	
	リカバリサーバ	Fujitsu PRIMERGY RX200	2台	
	リカバリサーバ（準備室）	Fujitsu PRIMERGY TX200	1台	
	ログ管理サーバ	Fujitsu PRIMERGY RX200	1台	
	ウィルス管理サーバ	Fujitsu PRIMERGY RX200	2台	
	バックアップサーバ	Fujitsu PRIMERGY RX200	1台	
	教材サーバ	Fujitsu PRIMERGY RX300	1台	
	運用管理サーバ	Fujitsu PRIMERGY ECONEL 30	1台	
	ファイルサーバ	Fujitsu NR1000 F325	1台	
	UNIXサーバ	SunFire V210	1台	
	アプリケーション配信サーバ	Fujitsu PRIMERGY RX100	2台	
	プリントサーバ	Fujitsu PRIMERGY RX100	1台	
		PRIMERGY RX200	3台	
		PRIMERGY RX300	1台	
	FireWall	NOKIA IP440	1台	
	キャッシュ・サーバ	Cache Flow CA-615,CA-610	各1台	
	DHCPサーバ	マイクロDHCPサーバ	10台	
	外線ゲートウェイ	Asend MAX1800（基本サービス用）	2回線	
		Asend MAX1800	4回線	
	無線LAN	ORiNOKO AP-1000	3台	
	スーパーコンピュータ	CRAY SV1	1台	<神田キャンパスに設置>

全体図







第3実習室



第1・2実習室



パソコン教室



プリンティング・システム

10号館（本館）



厚 生 施 設

本学では、みなさんの厚生施設として、軽井沢に「深山荘」、白馬山麓に「栂池山荘」、八ヶ岳山麓に「清里寮」と、３つの山の家を設置しています。ゼミに、合宿に、教職員との交流の場に、またハイキングや山登りの拠点として大いに利用してください。利用申込みは学生厚生担当で取扱っています。詳細については、それぞれの時期に学生厚生担当掲示板および利用のしおり等でお知らせします。

また、高坂駅スクールバス第二発着場に「麓」という飲食施設があります。学生食堂並の料金で食事が出来、夜は宴会場としても利用できます。

軽井沢「深山荘」

所 在 地　長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢字深古屋1369－４
ＴＥＬ　0267（42）3066

開設期間　７月下旬～９月上旬

収容定員　学生　36名（和室６畳９室　各４名）
職員　６名（洋室３室　各２名）

利用料金　１泊２食付（税込）
学生　2,835円
職員　3,150円

備　　品　貸自転車（無料）
卓球台（２台）・テニス・野球用具
ゲーム類

利用日数　学生・職員　３泊４日まで
団体　４泊５日まで
※期間延長については、状況により相談に応じます。

交　　通　東京から長野新幹線で約１時間、軽井沢下車、草軽交通バス約15分三笠下車、徒歩５分。

ＪＲ線　東京 ―長野新幹線（約１時間）― 軽井沢 ―バス（１５分）― 三笠 ―徒歩（５分）― 深山荘



白馬山麓「栂池山荘」

所 在 地　長野県北安曇郡小谷村大字千国字親ノ原乙12840－45
ＴＥＬ　0261（83）2403

開設期間　通年

収容定員　24名
（和室6畳／8畳／10畳　各2室）

利用日数　学生・職員　5泊6日まで
団体　6泊7日まで
※期間延長については、状況により相談に応じます。

利用料金（税金込）　夏季料金（5／1～10／31）
1泊2食付　学生　2,835円
職員　3,150円
冬季料金（11／1～4／30）
1泊2食付（暖房料込み）
学生　3,150円
職員　3,465円

その他施設　卓球台1台・乾燥室

交　通　新宿より中央本線・大糸線にて白馬大池または白馬下車、松本電鉄バス旭化成前下車、徒歩5分。

ＪＲ線　新宿 ―中央本線― 松本 ―大糸線― 白馬大池 ―バス 20分― 旭化成前 ―徒歩 5分― 栂池山荘

又は

白　馬 ―バス 40分― 旭化成前 ―徒歩 5分― 栂池山荘

※冬季のバスは栂池高原が終点です。



八ヶ岳山麓「清里寮」

所 在 地　山梨県北杜市高根町清里
字念場原3545－１
ＴＥＬ　0551（48）2609
開設期間　７月下旬～８月下旬
費　　用　１泊３食　3,616円（大人、７歳以上）
1,796円（小人、３～６歳）
（食事を必要としない場合…
１泊大人1,243円：小人610円）
※全て税込
定　　員　50名

利用日数
そ の 他　バンガロー（定員４～５名）６棟の利用もできます。
交　　通　新宿から中央本線小淵沢下車、小海線乗り換え清里下車、徒歩30分。または、山梨交通バス「学校寮」下車。

ＪＲ線　新宿 ―中央本線― 小淵沢 ―小海線― 清里 ―バス― 学校寮 ―徒歩― 清里寮

清里 ―徒歩（４０分）― 清里寮



高坂「麓」

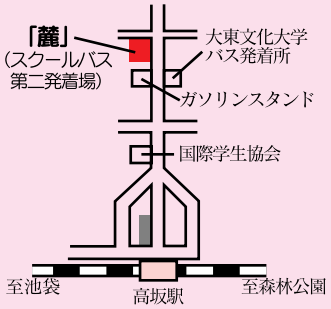
所 在 地　埼玉県東松山市元宿2－25－13

ＴＥＬ　0493（35）0585

開設期間　通年（除く日・祭日、学生休業期間）

座 席 数　ホール20名　和室40名

交　　通　東武東上線高坂駅より徒歩４分





スポーツ施設

各種スポーツ施設は、理工学部の学生や教職員の健康や体力増進のために、体育館やグラウンドをはじめ多くの方の好みに合ったスポーツが実施できるようにつくられた施設です。効率よく、気持ちよく利用するために以下の利用方法に従って下さい。

1．利用の仕方

体育の授業以外の時間帯に使用できます。利用可能な施設と時間帯を確認して利用計画を立て、学生厚生担当において所定の手続きをし、スポーツ施設利用許可証を受けてください。学科授業・行事、自治会公認団体の試合等がある場合は、そちらが優先となります。

利用申込みは、自治会公認団体は使用日の14日前、一般学生は 7 日前から可能です。テニスコートの一般学生の利用は 1 人 1 回 3 時間までです。長期休業の際の申込みについては、別途掲示等でお知らせします。

テニスコート、多目的コートは許可証を理工学部受付に提示し、鍵を借りて利用してください。

2．スポーツ用具の貸出と返却

個人で用具を用意することが望ましいが、用意できない場合には貸出しを行っています。

用具の借用は、個人使用の場合は体育館 1 階フロアーの貸出しコーナーで、氏名や用具名など必要事項を貸出帳に記入のうえ、借用してください。返却時には貸出帳に返却時間を記入し、所定の場所に整理して返却してください。

ゼミや学科など団体で借用する場合は所定の借用書（体育館教官控え室に有）に使用目的、個数、借用期日、責任者の氏名を記入して捺印をして、体育館教員控え室に提出してください。

なお、不注意による用具の紛失や破損をした場合には、弁償していただきます。また、用具の消耗や紛失が激しい場合は用具の貸出は中止します。できるだけ多くの方が利用できるように大事に取り扱ってください。

3．施設利用の心得

・体育館　　土足は禁止します。下足室に靴をおき、館内は館内用シューズか備え付けのスリッパを履いてください。スリッパでの運動は禁止します。

・テニスコート　テニスシューズかそれに類する物を履いてください。使用後はネットをゆるめておくこと。

・グラウンド　雨天時や雨天後などグラウンド状態不良の場合は、原則的に使用を禁止します。

・更衣室　　自由に使用できますが、ロッカーを私物化しないようにしてください。またロッカーには、貴重品や高価な物は絶対に置かず各自で携帯すること。ロッカーを含め体育館内に放置された私物は定期的に撤去します。

・ごみは必ず持ち帰るかごみ箱に入れてください。

・施設使用後は備えつけのモップやレーキ（サッカーシュート練習板裏・体育館地下倉庫に有り）で必ず整備を行ってください。

・盗難防止のため、貴重品等の管理には各自で十分に注意するようにして下さい。

第 6 章

将来への道標

就　　職

みなさんは、卒業した後の進路として大多数の学生が就職を希望するでしょうが、満足な就職先を得るためには、日頃から就職に対する意識を持つことが大切です。例えば、何のために就職するのか、世の中にどんな仕事があって、どんな仕事がしたいのか、どんな仕事ができるのか等をよく理解しておくことです。

また、経済・産業・政治・文化・国際問題に関心を持って、広く世間を眺めるとともに、それらの情報を自分の就職活動に結びつけるように努めていきましょう。

１．就職指導

理工学部における就職指導体制については、就職活動全般について協議し、実行の中心となる組織として学部長を長とする「就職協議会」が活動しており、企業等への推薦については学科長・就職担当教員が中心となり、必要に応じて「就職選考会議」を開催し、そこで求人側条件と求職学生の適性・能力を慎重に検討のうえ推薦者を決定していくことになっています。なお、理工学部の就職関係事務については、学生厚生担当で行っています。

就職を希望するみなさんに対しては適宜、「就職ガイダンス」を開催します。その主な内容は、就職に対する心構えや、就職についての考え方、求人動向とその対策、就職登録や斡旋のための諸手続、就職活動への助言等です。

その他、就職に関する情報を提供すると共に、ＳＰＩ模擬テストや各種講座等を実施していますので積極的に参加して下さい。また、就職資料室（本館１階）では、就職に関する資料を収集し閲覧に供しています。なお、就職についての相談には常時応じています。

２．会社研究のために

参考文献

企業の事業内容・歴史・業績などを知るための主な参考文献としては、帝国データバンク会社年鑑（帝国データバンク）、雑誌類としては会社四季報・東洋経済（東洋経済新報社）、日経ビジネス（日経ＢＰ社）、週刊ダイヤモンド（ダイヤモンド社）、就職ジャーナル（リクルート）等の他、各種就職情報誌があります。

ＴＤＵ求人情報（企業検索システム）

本学に求人依頼のあった企業情報をデータベース化し、インターネット上で閲覧できるシステムです。鳩山キャンパス就職資料室にあるパソコンからアクセスできるのはもちろんのこと、各コンピュータ教室や各研究室等、学外のパソコンからアクセスが可能です。

ホームページアドレスは

http://www.dendai.ac.jp/shushoku/for_student/index.html です。

（学外からのアクセスにはパスワードが必要です。認証用のIDとパスワードは総合メディアセンターを利用するときに使用するものと同じです。）

鳩山キャンパス就職資料室

鳩山キャンパス就職資料室は本館１階事務室内にあり、求人票、会社資料等がファイルされています。個々の会社案内等の資料は、本学に求人の依頼があった企業のものが主体ですが、参考資料その他も取り揃えてあります。また、卒業生が書き残していった就職試験問題報告書綴も閲覧出来ますので大いに活用しましょう。

開室時間　　月～金　９：30～17：00

土　　９：30～13：00

神田キャンパス就職資料室（学生支援センター）

東京電機大学神田キャンパスにある就職担当部署の学生支援センターを利用することも可能です。鳩山キャンパスと同じ就職関連資料の閲覧や就職について相談することが出来ます。就職活動で都内に行った際は、学生支援センターに立ち寄ってみましょう。

開室時間　　月～金　９：00～20：00

土　　９：00～16：00

３．公立学校教員志望者

公立学校の教員採用試験は、教職教養・一般教養・専門教科・面接等で構成されています。この試験で留意しなければならないことは、合格イコール採用ではないことです。ここでの合格とは「公立学校教員採用候補者名簿」に成績順に登載されるということであり、採用は名簿登載者の中から諸条件を考慮して決定されます。したがって、高位で合格することが、採用を確実にする第一の方策となります。

ところで、この試験を高位で突破するということについてですが、教員養成の専門大学ではない一般の大学の場合はカリキュラムそのものが教員養成を直接に目的としていないため、不十分となることはやむを得ません。したがって試験の内容にあわせて、自分で補充、努力していかねばなりませんが、このための参考書、雑誌、問題集等は、一般の書店で容易に手に入りますし、通信講座や公開模試を行うところもありますので、これらを利用するとよいでしょう。

教職につこうとする人は早い段階から問題意識をもって取り組み、しかも、単に知識のみをつめこむだけではなく、教師としての真の情熱をも併わせもつ人材たるべく努力してほしいものです。なお、最近は全国的に教員採用試験の倍率が高いので、その動向については、十分留意することが必要です。

4．公務員志望者

国家公務員・地方公務員を問わず、公務員になる為には言うまでもないことですが、公務員試験に合格しなければなりません。

現在、国や多くの地方自治体では、行政運営の効率化を図るため、行政組織の統廃合、経費の削減、定員増の抑制などの、いわゆる行政改革を推進中であります。このため、新規学卒者の採用人員の増加はまず見込めないものと考えなくてはなりません。また、昨今の社会情勢から新規学卒者の公務員志望数は、増加しており、競争倍率は相当厳しいものになることが予想されます。これに加えて、試験問題の難度が高いことは、従来から定評のあるところです。したがって公務員試験の難関を突破するためには、相当の心構えを持ち、試験までの短い期間を受験準備のために有効に活用するために、入念な対策を立てて、万全の態勢で試験に臨むことが必要です。

本学では公務員志望者を対象とする公務員試験対策講座や模擬試験を実施しますので、各自が充分な学習や対策を講じるとともに、これらの行事に積極的に参加をして実力を養うことを心がけてください。

5．本学卒業・修了後に取得できる資格・免許

（1）卒業・修了後資格が得られたり、試験免除等となったりする主な資格・免許

資格・免許	取　得　条　件	専攻・学科	取扱い機関
高等学校教諭 専修免許状　数学	所定の単位を取得し申請した者は資格を得られる。 詳しいことは学部編または大学院編「教職課程」参照。	数理科学専攻 情報科学専攻	各都道府県 教育委員会
高等学校教諭 専修免許状　工業		情報システム工学専攻 建設環境工学専攻 知能機械工学専攻 電子情報工学専攻	
高等学校教諭 専修免許状　情報		情報科学専攻 情報システム工学専攻 電子情報工学専攻 情報社会学専攻	
高等学校教諭 専修免許状　理科		生命工学専攻	
中学校教諭 専修免許状　数学		数理科学専攻 情報科学専攻	
中学校教諭 専修免許状　技術		情報システム工学専攻 建設環境工学専攻 知能機械工学専攻 電子情報工学専攻	
中学校教諭 専修免許状　理科		生命工学専攻	
高等学校教諭 １種免許状　数学		数理科学科 情報科学科	
高等学校教諭 １種免許状　工業		情報システム工学科 建設環境工学科 知能機械工学科 電子情報工学科	
高等学校教諭 １種免許状　理科		生命工学科	
高等学校教諭 １種免許状　公民		情報社会学科	
高等学校教諭 １種免許状　情報		数理科学科 情報科学科 情報システム工学科 建設環境工学科 知能機械工学科 電子情報工学科 情報社会学科	
中学校教諭 １種免許状　数学		数理科学科 情報科学科	
中学校教諭 １種免許状　技術		情報システム工学科 建設環境工学科 知能機械工学科 電子情報工学科	
中学校教諭 １種免許状　理科		生命工学科	
衛生工学衛生管理者	工学または理学に関する課程を修めて卒業し、労働大臣の定める講習の修了試験に合格した者は資格が得られる。	数理科学科 情報科学科 情報システム工学科 建設環境工学科 知能機械工学科 電子情報工学科 生命工学科	各地労働、中央労働災害防止協会 東京安全衛生教育センター 大阪安全衛生教育センター

資格・免許	取　得　条　件	学　科	取扱い機関
測量士補	測量に関する学科を卒業すれば、資格が得られる。	建設環境工学科	国土交通省 国土地理院
測量士	測量士補で、養成施設において専門知識及び技能を修得すると、測量士の資格が得られる。		
ダム水路主任技術者（第１種・第２種）	土木工学に関する学科を卒業し、実務経験が３年以上あれば第２種の資格が得られる。また、高さ15メートル以上のダムに関する実務経験３年以上を含む５年以上の実務経験があれば、第１種の資格が得られる。	建設環境工学科	経済産業省 原子力安全・保安院電力安全課
ダム管理主任技術者	土木に関する課程を修めて卒業後、最低３年以上の実務経験があれば、資格が得られる。	建設環境工学科	各地方建設局水政課または河川管理課
ボイラー・タービン主任技術者（第１種・第２種）	機械工学に関する学科を卒業後、実務経験を３年以上有する者は、第２種の資格が得られる。また機械工学に関する学科を卒業後、5880kpa以上の設備業務に関する経験３年以上を含む６年以上の実務経験を有する者は第１種の資格を取得できる。	知能機械工学科	経済産業省 原子力安全・保安院電力安全課
消防設備士	所定の学科を卒業した者は受験資格を得られる	電子情報工学科	中央試験センター
技術士補	受験資格については特に制限はない。４年制の理工系大学を卒業すれば、試験科目のうち共通科目が免除される。	各　学　科	(社)日本技術士会
技術士	技術士補としての業務経験が４年以上の者、または、技術士１次試験合格者で実務経験が７年を越える者は受験資格が得られる。		
１級建築士	建築学科、土木学科を卒業し、２年以上の建築に関する実務経験がある者は、受験の資格が得られる。	建設環境工学科	(財)建築技術教育普及センター
２級建築士	指定学科を卒業したものは受験資格が得られる。（知能機械工学科は２年以上の実務経験が必要）	建設環境工学科 知能機械工学科	(財)建築技術教育普及センター
木造建築士	指定学科を卒業したものは受験資格が得られる。（知能機械工学科は２年以上の実務経験が必要）	建設環境工学科 知能機械工学科	(財)建築技術教育普及センター
建設機械施工技士（１級）	指定学科を修め、卒業後３年以上の実務経験がある者は、受験の資格が得られる。	建設環境工学科 電子情報工学科	(社)日本建設機械化協会

資格・免許	取　得　条　件	学　科	取扱い機関
土木施工管理技士（１級）	指定学科を修め、卒業後３年以上の実務経験がある者は、受験の資格が得られる。	建設環境工学科	(財)全国建設研修センター
公害防止主任管理者試験	大学卒業程度の学力を有し、５年程度以上の実務経験のある者を想定して試験を行う。	各　学　科	(社)産業環境管理協会公害防止管理者試験センター
作業環境測定士（第１種・第２種）	第１種・第２種とも、大学理科系統の正規の課程の卒業者で、その後労働衛生の実務経験１年以上の者は受験資格が得られる。 大学理科系統の正規の課程以外の卒業者で、その後労働衛生の実務経験３年以上の者は受験資格が得られる。	生命工学科	(財)安全衛生技術試験協会
危険物取扱者（甲種）	大学、短期大学もしくは高等専門学校において化学に関する学科もしくは課程を修めて卒業した者、その他その者に準ずるものとして総務省令で定める者は受験資格が得られる。（「化学」に関する科目15単位以上が必要）	生命工学科	(財)消防試験研究センター
ＥＩＴ（E.I.）	４年制の工科系大学卒業または卒業見込みの学生は、FE試験(Fundamentals of Engineering)の受験資格が得られる。この試験に合格するとＥＩＴまたはＥＩの資格が取得できる。	情報システム工学科 建設環境工学科 知能機械工学科 電子情報工学科 生命工学科	日本ＰＥ・ＦＥ試験協議会
ＰＥ	ＰＥ（Professional Engineer） ＦＥ試験に合格し、実務経験（エンジニアリングに関連する技術業務 ── 計画・研究・設計・分析・試験・評価又はこれらに関する指導）が４年以上ある者は、受験の資格が得られる。		

※詳細は各取扱い機関に問合せすること。

（２）その他の資格・免許

資格・免許	取　得　条　件	学　科	取扱い機関
国家公務員（Ⅰ種）	21才以上33才未満なら男女・学歴を問わず受験できるが、大学卒業段階の知識・技術及びその応用能力を必要とする程度の学力が必要。（高級官僚コース）	各　学　科	人事院 各事務局
国家公務員（Ⅱ種）	21才以上29才未満なら男女・学歴を問わず受験できるが、大卒程度の学力が必要。（中堅幹部コース）	各　学　科	人事院 各事務局
地方公務員（上級）	学歴等に制限なく各都道府県、市町村職員の採用試験を受験できる。	各　学　科	各地方人事委員会 事務局
特別区職員（Ⅰ種）	採用予定年３月31日現在22才以上28才未満なら男女・学歴を問わず受験できる。	各　学　科	特別区人事委員会 事務局
ソフトウェア 開発技術者	学歴等に制限はないが、大卒程度の一般常識を有し、３年以上の実務経験があれば受験できる。	各　学　科	日本情報処理開発協会、情報処理技術者試験センター

６．各種学内講座

本学では、学生の資格取得又は公務員試験合格を支援するために各種講座を開いています。平成17年度開講した講座は以下の通りです。平成18年度の日程につきましては、別途掲示致します。

（１）基本情報技術者試験対策講座

期　間：８月～10月　　講座料：20,000円　　授業数：90分授業

１日２コマ又は３コマ　計15日間　36コマ　ほか模擬試験１日

（２）ソフトウェア開発技術者試験対策講座

期　間：10月～３月

費　用：50,000円

授業数：90分授業１日２コマ又は３コマ、計15日間50コマのほか全日本模試２日

（３）公務員試験対策講座

期　間：６月～12月

費　用：45,000円

授業数：90分授業１日２コマ又は３コマ、計18日間50コマ

7．学内 TOEIC 試験

TOEIC とは、アジアやヨーロッパなど世界50カ国で実施されている英語能力試験です。ビジネスにおける英語のコミュニケーション能力を測る試験としての特徴があり、多くの企業が採用時にTOEIC試験の得点を重要視しています。在学中に企業にとって認められる得点を得ることが就職に有利であることは言うまでもありません。従いまして、本学では、格安で受験できる学内 TOEIC 試験の受験を薦めています。

〇平成17年度　学内TOEIC実施実績：

第 1 回：平成17年 5 月14日（土）
第 2 回：平成17年 7 月 2 日（土）
：平成17年 8 月 2 日（火）
第 3 回：平成17年10月15日（土）
第 4 回：平成17年12月 3 日（土）
第 5 回：平成18年 2 月 9 日（木）

〇平成18年度学内TOEICについて

☆平成18年度の日程実施要領については、学生厚生担当掲示板にて連絡しますので見落とさないように注意して下さい。

進　　学

大学院理工学研究科には下表に示す、修士課程８専攻が設置されています。また修士課程修了者は、本学の博士後期課程に進むことができます。

修士課程の入学試験は、学内推薦入学（６月頃）、一般公募（７月頃・２月頃）、飛び入学入試（２月頃）、３年次以上の在学での卒業生に対する入試（９月頃・３月頃）に分けて行われます。

なお、学内推薦入学の場合は、３年次終了時点の成績が選考基準となっています。

また、他大学大学院の募集要項が学生厚生担当で保管されていますので、それらをよく見て進路を決定してください。現在では、研究所やそれに類する研究機関を持っている企業も多く、大学院修了生の求人も増加しています。

特に公的研究機関に就職を希望する場合は大学院への進学を勧めます。

大学院（理工学研究科）

修　士　課　程
数　理　科　学　専　攻
情　報　科　学　専　攻
情報システム工学専攻
建　設　環　境　工　学　専　攻
知　能　機　械　工　学　専　攻
電　子　情　報　工　学　専　攻
生　命　工　学　専　攻
情　報　社　会　学　専　攻

※大学院についての詳細は「第７章 大学院」を参照してください。

「東京理工系４大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく他大学院推薦入試制度

「東京理工系４大学による学術と教育の交流に関する協定」（協定校：芝浦工業大学、武蔵工業大学、工学院大学、本学）の一環として、４大学による大学院修士課程への特別推薦入試制度があります。

この制度は、各大学の学部学生に対して各大学の各研究科各専攻が、他大学から推薦された学生（出身大学内の学内推薦基準を満たしている学生）を１名ずつ受入れ、相互の交流をはかることを目的としております。

詳細については、教務担当までお問い合わせ下さい。

科目等履修生（卒業生・その他）

本学において、特定の授業科目について、さらに学習してみたい場合や、各種資格免許の取得、あるいは職務上の必要などから単位が必要となった場合には、科目等履修生として履修することが出来ます。

卒業後このような必要性が生じたら、教務担当に問い合わせて下さい。

〒350－0394
埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学理工学部事務部教務担当
TEL 049－296－2911㈹

卒業後の各種証明書の申請について

卒業後に証明書が必要となることがよくあります。次の事項によく注意して申請をしてください。

1．請求方法

教務担当窓口まで来校するか、または郵送によって申し込んでください。（電話での申し込みは受け付けいたしません。）

2．請求に際しての必要事項（郵送の場合）

・卒業年月
・学科名・学籍番号
・氏名・生年月日・本籍地
・証明書の種類と必要部数
・交付手数料相当の現金または郵便局の小為替・返送用郵便料相当の現金または切手
・返送先の郵便番号・住所・氏名・連絡先（電話番号）
・返送を速達で希望する場合はその旨

※身分証明書のコピーを必ず添付して下さい。

3．交付手数料

卒業証明書	500円
成績証明書	500円
人物調査書	1,000円
大学院進学用調査書	1,000円
教職免許状単位取得証明書	1,000円
基礎資格及び単位修得証明書	1,000円
外国語文卒業証明書	1,200円
外国語文成績証明書	2,000円
元在学成績証明書	1,000円
元在学証明書	500円

（学生厚生担当扱い）

4．問い合わせ・請求先

〒350－0394
埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学理工学部事務部教務担当
ＴＥＬ　049（296）2911㈹
（在学生の問い合わせは受付ません。）

本学のホームページ　理工学部事務部教務担当に証明書申込み方法が記載してあります。
http://www.cse.dendai.ac.jp/teacher/syomeisho.html

校　友　会

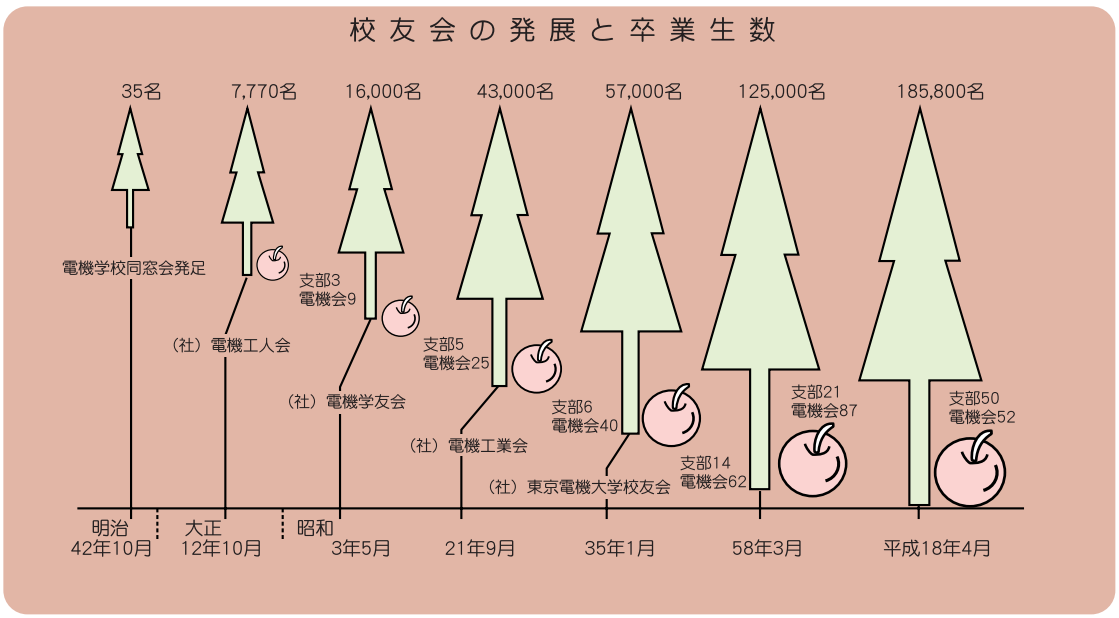
みなさんが学園の一員として学生生活を送る中で、校友会・同窓会という言葉を耳にする機会が多々あると思います。ここでは校友会・同窓会活動について紹介します。

1．校友会と在学生とのかかわり

校友会を卒業生の親睦団体と考えている方が多いと思いますが、本学園では在学中から準会員として校友会と種々の面で連係が保たれています。一例を挙げれば、奨学金貸付や厚生資金の貸付による経済援助、学園祭・合同体育祭行事およびクラブ活動への援助があります。

その他、卒業生情報の管理、機関誌「工学情報」の発行など、在学生や卒業生のための活動を積極的に展開しております。





2．校友会組織と現況

現在、校友会の組織下には各校別の同窓会があり、卒業生の出身地域別の地方・県支部（みなさんの出身地にもあります。）や企業内支部（職域電機会）等が全国各地に組織化されています。

これらの支部組織は将来就職等によりＵターンする場合など何かとみなさんの相談に力を貸していただけるものと思います。

3．東京電機大学校友会・新電気奨学金

この制度の特色は一般の奨学金制度のように特定の期間に限定して公募するのではなく、学生本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難な状態が生じたとき、申請により校友会が立て替えるものです。

希望者は下記の要件を確認したうえ、学生厚生担当へ相談してください。

貸与額：学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の１／２相当額

返　還：卒業後半年据え置いた後、５年間で年賦・半年賦・月賦による元本均等返済（一括返済可）無利息

4．大学同窓会の活動

学園の諸活動と密接な関係のある大学同窓会は、クラス会の開催はもとより、みなさんのクラブ活動や諸行事にも校友会本部と一体となって活動しています。これらの活動を支えている卒業生は大学院・大学・短大関係で約８万７千名に達しております。

特に、大学同窓会では学園と協力して"就職セミナー"を開催しており、産業界で活躍している先輩による就職進路相談は好評であり、また卒業生と在学生との交歓行事"OB 交歓会"では、優秀な学生団体に丹羽賞、同窓会奨励賞を授与しております。

5．丹羽賞

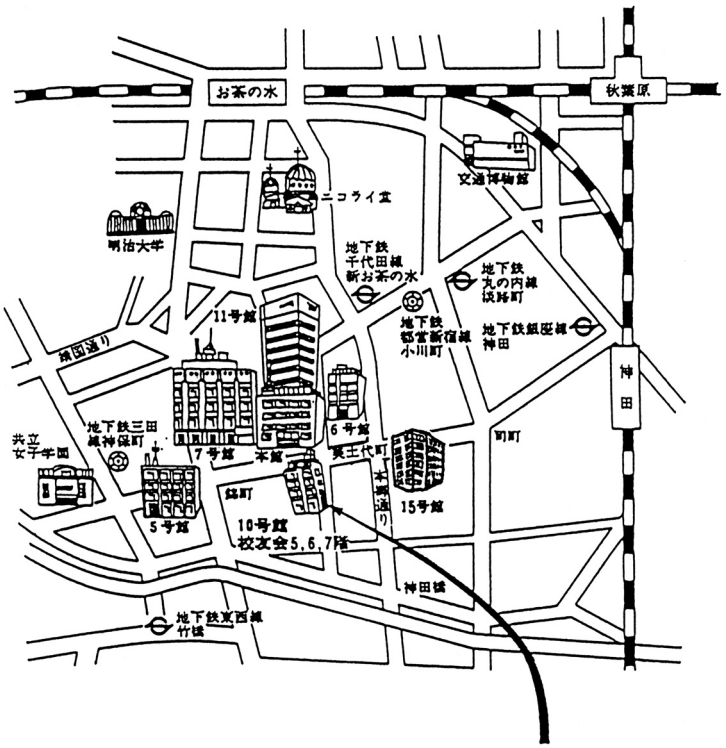
初代学長の故丹羽保次郎先生が、生前同窓会に寄せられた基金を基に創設されたもので、準会員（在学生）のクラブ活動の育成援助を目的とし、過去１年間に優秀な成績をあげた学生団体に与えられます。

6．同窓会奨励賞

昭和60年度より設けられた賞で丹羽賞の対象にはなりませんが、地道で着実な活動を続けている団体を応援する目的で贈られます。

7．校友会館を訪ねてください

校友会館は、神田キャンパス10号館５Ｆにあります。在学中に先輩のこと、郷里の校友会支部のことなど知りたいことがありましたら、お気軽にご相談ください。



校友会事務局

〒101－8457 東京都千代田区神田錦町２－５－１
社団法人　東京電機大学校友会
ＴＥＬ　０３－５２８０－３５１２
ＦＡＸ　０３－５２８０－３５６２
E-Mail:kouyukai@jim. dendai. ac. jp
URL:http://www.tduaa.or.jp/koyu/
業務時間　９：20～17：00

第7章

大学院

大学院入学のすすめ

（理工学研究科の教育方針）

本研究科では，21世紀の高度技術社会で活躍できる創造性豊かな科学・技術者の養成に特化した実践的な研究教育を目指しています。理工学部を 4 年あるいは 3 年で卒業した後に、より高度な学問を身につける事ができます。

本研究科の研究教育方針は次のような特色があります。

１．自律性と課題探求能力の育成

授業の履修においては、学生が専攻の区分にとらわれず独自の学習計画を立て学際的に選択できるカリキュラム編成を行っています。

研究活動においては、院生ひとりひとりが独自のテーマについて“なぜ”にこだわって自分で創意工夫し、計画を立て、実行することによって問題発見能力および問題解決能力を育成するようにしています。

教育研究活動を通じてコンピュータを使ったプレゼンテーション、インターネットの利用など情報通信（ＩＴ）技術を活用できるように教育研究環境の整備に努めています。

２．国際化への対応

これからの技術者・研究者は、激動の時代を生き抜くために、グローバルスタンダードに合致した国際感覚をもつ必要があります。海外での国際会議での論文発表を支援するための奨励金があり、多くの院生が国際的に活動しています。本研究科ではコロラド大学、コースタルカロライナ大学での短期語学研修制度を実施しています。

３．昼夜開講制

社会の多様な要請と期待に応えるために修士課程 6 専攻（情報システム工学専攻、建設環境工学専攻、知能機械工学専攻、電子情報工学専攻、生命工学専攻、情報社会学専攻）、また先端科学技術研究科博士課程の全専攻において夜間にも授業を行う昼夜開講制を導入しています。これによって社会人が大学院において勉学することが容易になっています。

４．奨学制度

本研究科では、優秀な学生に勉学の機会を幅広く与えるために、いろいろな奨学制度を提供しています。貸与奨学制度をはじめ、副手（ティーチングアシスタント）制度があり、多くの学生がこれらの制度を利用しています。

５．修了年限の短縮化

修士課程の標準修学年限は 2 年、博士課程は 3 年ですが、優れた研究業績を修めた院生は修士課程を 1 年以上の在学で、博士課程は 2 年の期間短縮で修了でき、修士・博士課程を併せて 3 年以上の在学で短期修了することができ、すでにこの制度での修了者がおります。

以上のような特色をもつ本研究科へ意欲ある学生が入学することを期待しています。

数理科学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

現代の数学は、コンピュータの発達と相まってその応用範囲を拡大しており、関連分野は物理学、工学のみならず生物学、情報科学へと広く展開しています。

本専攻の学生は代数学、幾何学、解析学等の基礎的理論を身につけながら、数学を中心とする広義の数理科学諸分野への展開力を養うことを目指します。

〈主要研究部門・テーマ〉

■代数学部門：代数幾何学、楕円曲線論、射影多様体への群作用、超積の中の定礎部分モデル、ガロア表現

■幾何学部門：位相幾何学、部分多様体論

■解析学部門：関数解析学、偏微分方程式論、非線形偏微分方程式論、複素解析学

■数理科学部門：数値解析学、数理物理学、数理計画、グリッドコンピューティング

■計算機部門：計算機ソフトウエア、計算機数学、計算量の理論、アルゴリズムの理論、構造的計算量

〈開設科目〉

解析学Ⅰ	解析学Ⅱ	代数学
幾何学	物理数学	計算科学
解析学特論Ⅰ	解析学特論Ⅱ	解析学特論Ⅲ
代数学特論Ⅰ	代数学特論Ⅱ	代数学特論Ⅲ
応用数学特論	数理物理学特論	オートマトン特論
プログラム言語特論	計算の理論	理論計算機科学特論
数理最適化特論	数理セミナーⅠ	数理セミナーⅡ
数理科学特別研究Ⅰ	数理科学特別研究Ⅱ	科学英語Ⅰ
科学英語Ⅱ		

数理科学専攻 教員一覧

氏　名	職　名	研　究　部　門 現　在　の　研　究　テ　ー　マ
☆硲　文夫 ＊	教　授	代数学部門
		楕円曲線論、ホッジ理論
荒牧淳一 ＊	教　授	解析学部門
		関数解析学、偏微分方程式論
古東　馨	教　授	計算機部門
		計算機数学、形式言語理論、計算機ソフトウェア
陳　致中 ＊	教　授	計算機部門
		アルゴリズムの理論、計算の複雑さの理論
中野哲夫 ＊	教　授	代数学部門
		射影多様体への群作用、不変式論、代数曲線のモジュライ空間
堀口　博 ＊	教　授	代数学部門
		超積の中の定礎部門モデル
森　正武 ＊	教　授	数理科学部門
		数値解析学、数理物理学
井上　真	助教授	数理科学部門
		統計物理学、磁性体のスピン模型
越智禎宏 ＊	助教授	代数学部門
		楕円曲線の数論
藤澤克樹 ＊	助教授	数理科学部門
		数理計画、グリッドコンピューティング
宮地秀樹 ＊	助教授	解析学部門
		複素解析学
山形周二	助教授	代数学部門
		ガロア表現、形式群

☆：専攻主任，＊：研究指導を受けることができる教員

【非常勤講師】小　黒　　隆　　竹　内　精　一

情報科学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

近年のコンピュータとその周辺分野における科学技術の急速な発展は、自然科学だけでなく広範な学問分野に「情報」を軸とする学際化を進めると共に、新しい学問分野としての「情報科学」を生成発展させてきました。この情報科学は、「情報」の発生、変換、伝送、蓄積などに関する抽象的かつ論理的体系を持つ一つの基礎科学です。本専攻では、現実を抽象化してその理論体系を構築し、そこから新しい概念や方法を発見・発展させるために必要な数学と物理現象に関する基礎理論を、情報科学の側面から研究・教育することを重視し、その方面の基礎的能力と創造性の豊かな技術者および研究者を養成することを目的としています。

〈主要研究部門・テーマ〉

■情報ネットワーク部門：通信理論、待ち行列理論、トラヒック理論、マルコフ過程論、確率ネットワーク

■システム情報部門：システム理論、制御理論、マシンビジョン理論、ニューラルネットワーク理論、信号処理、超音波画像処理

■計算機科学部門：人工知能、知識表現、分散処理、数理論理、プログラミング環境、データベース理論、情報システム論、ソフトウエアシステム

■知能情報部門：自律ロボット、画像理解、学習制御、行列方程式論、脳の計算論、生物的自律分散制御

〈開設科目〉

応用解析学	応用代数学	情報力学系理論
情報数学	アルゴリズム理論	計算機ネットワーク
グラフ理論	確率過程論	情報理論
量子情報理論	確率ネットワーク	大規模ネットワーク理論
応用画像解析	システム理論	確率システム理論
ニューラルネットワーク理論	ロボティックス	生物情報論
学習制御論	数値処理	人工知能
プログラム言語論	コンパイラ理論	システム設計論
量子計算論	情報科学セミナーⅠ	情報科学セミナーⅡ
情報科学特別研究Ⅰ	情報科学特別研究Ⅱ	科学英語Ⅰ
科学英語Ⅱ		

情報科学専攻 教員一覧

氏　名	職　名	研　究　部　門 現 在 の 研 究 テ ー マ
☆大塚尚久 ＊	教　授	システム情報部門 システム理論、制御理論
伊東正安 ＊	特　任 教　授	システム情報部門 信号処理、超音波画像処理
稲葉　博 ＊	教　授	システム情報部門 システム理論、マシンビジョン理論、ニューラルネットワーク理論
内門　茂 ＊	教　授	知能情報部門 静止画像処理、動画像処理、学習制御
勝野裕文 ＊	教　授	計算機科学部門 知識表現、分散処理、数理論理
狩野弘之 ＊	教　授	知能情報部門 自律ロボット、視覚情報解析、行列方程式論
佐藤定夫 ＊	教　授	情報ネットワーク部門 マルコフ過程論、ソフトウェアシステム
番　雅司 ＊	客　員 教　授	計算機科学部門 量子情報理論
Bijoy K. Ghosh ＊	客　員 教　授	システム情報部門 マシンビジョン
町原文明 ＊	教　授	情報ネットワーク部門 通信理論、待ち行列理論、トラヒック理論
山口陽子 ＊	客　員 教　授	知能情報部門 脳の計算論、生物的自律分散制御
築地立家 ＊	助教授	計算機科学部門 計算理論、計算論的学習理論、ゲームと計算量
藤本　衡	助教授	情報ネットワーク部門 計算機ネットワーク、システム性能評価

☆：専攻主任，＊：研究指導を受けることができる教員

【非常勤講師】榊 原 康 文　櫻 井 彰 人　竹 内 精 一　宮 寺 庸 造

情報システム工学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

情報通信技術（IT）の急速な進歩によって支えられている今日の情報化社会は、日ごとに複雑化、多様化、高度化しつつあります。この中で、情報システム技術者の社会的役割は重要であり、必要とされる特性も、情報工学とシステム工学の素養を合わせ持ち、かつ次世代技術の研究開発に携われるだけの能力が要求されます。本専攻では、広い視野に立ったシステムの分析と設計、情報工学（の基礎理論）ネットワーク技術を中心として技術を備えた情報システム技術者および研究者の育成を行います。

〈主要研究部門・テーマ〉

■情報基礎部門：計算可能性、計算量理論、暗号理論、言語理論、オートマトン理論、論理プログラミング、機械学習

■情報工学部門：情報システムアーキテクチャ、オペレーティングシステム、グループウェア、モバイル通信、ソフトウェア工学、計算機ネットワーク、分散システム、データベースシステム、マルチメディア工学、コンピュータ自動設計

■情報駆動システム部門：制御システム工学、複雑系工学、信号処理、システムモデリング、システム同定、ロボティクス、ハプティック系制御、ヒューマンアダプティブメカトロニックス、計算機制御

■システム制御部門：ニューラルネット、パワーエレクトロニクス、モーションコントロール、エネルギー変換システム、システム制御工学、新エネルギーシステム

〈開設科目〉

理論計算機科学特論	論理プログラミング	オートマトン
分散システム特論	マルチメディア工学特論	ソフトウェア開発工学特論
情報システム分析設計特論	オペレーティングシステム特論	計算機アーキテクチャ特論
コンピュータシステム特論	ＣＡＤシステム特論	動的システム解析特論
動的システム設計特論	制御工学特論	システムと信号特論
信号処理特論	ＩＴとビジネスモデル	電気システム制御工学
モーションコントロール特論	電子制御システム特論	情報システム工学特別研究Ⅰ
情報システム工学特別研究Ⅱ	特別輪講ⅠＡ	特別輪講ⅠＢ
特別輪講ⅡＡ	特別輪講ⅡＢ	情報システム工学特論Ａ
情報システム工学特論Ｂ	情報システム工学特論Ｃ	情報システム工学特論Ｄ

情報システム工学専攻 教員一覧

氏　名	職　名	研　究　部　門 現　在　の　研　究　テ　ー　マ
☆古田勝久 ＊	教　授	情報駆動システム部門 デジタル制御、非線型システム制御、ヒューマンアダプティブメカトロニックス、ハプティック制御
小泉寿男 ＊	教　授	情報工学部門 情報システムアーキテクチャ、ソフトウェア工学、情報システム分析設計
滝沢　誠 ＊	教　授	情報工学部門 計算機ネットワーク、データ工学、分散システム、情報セキュリティ
中村克彦 ＊	教　授	情報基礎部門 オートマトン理論、形式言語、論理プログラミング、人工知能
畠山省四朗 ＊	教　授	情報駆動システム部門 システム同定、システム制御工学、カオス複雑系工学、金融工学
花崎　泉 ＊	教　授	情報駆動システム部門 システムモデリング、ファジィシステム、信号処理
羽根吉寿正 ＊	教　授	システム制御部門 電子制御工学、ニューラルネット、パワーエレクトロニクス、駆動システム、エネルギー変換システム
山田昭彦 ＊	特　任 教　授	情報工学部門、情報基礎部門 ＣＡＤシステム、コンピュータ診断システム、コンピュータ技術史論
桧垣博章 ＊	助教授	情報工学部門 コンピュータネットワーク、オペレーティングシステム、通信プロトコル、フォールトトレラントシステム
横山智紀 ＊	助教授	システム制御部門 電子制御工学、パワーエレクトロニクス、システム制御工学、マイクロコンピュータ制御システム

☆：専攻主任，＊：研究指導を受けることができる教員

【非常勤講師】

小　宮　　清
佐　藤　裕　幸
宮　武　信　春
村　谷　拓　郎

建設環境工学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

建設技術は、人と環境との調和を考え、人々が安全で快適な生活を送れるための生活基盤施設、人々の生産活動を高めより豊かな社会を建設するための生産基盤施設、人々の生命、財産、そして社会資本を災害から守る国土保全施設の計画と建設を通して人間社会に貢献している。このような各種施設の建設プロジェクトは、ますます大型化、複雑化してきており、他分野にわたる多くの人々の共同作業により実現可能となる。建設環境工学専攻の修了者は、大型プロジェクトの計画・設計・建設に従事する機会も多くなってくる。そのため、建設工学の基礎学問とシステム的な手法を修得させ、より多様化、複雑化、高度化した問題に柔軟に対処できるような人材育成を目的としている。

〈主要研究部門・テーマ〉

■構造・材料部門：最適設計、舗装構造診断、鋼構造物の疲労と破壊、構造物の性能評価、骨組およびシェル構造物の非線形解析、構造同定、逆解析

■耐震・地盤部門：スチールハウスの構造挙動と設計法、鋼構造物の解析および設計法、地震時の地盤の液状化、斜面崩壊、ハザードマップ、地盤改良

■流体・水理・水文部門：多自然型河川工法、河川水質改善、水文観測、密度噴流の拡がりと制御、河口域の環境問題、浅海域の環境保全・創造、砂漠化現象の解明

■計画・計測・環境部門：生物機能のシステム的研究、人体の動作解析、バリアフリー支援システム、都市空間データーの自動計測、都市地域計画、交通システム計画、建築・都市空間の分析、建築設計手法の分析および設計理論の構築

〈開設科目〉

水理学特論	応用水理学Ⅰ	応用水理学Ⅱ
流体力学特論	耐風工学特論	環境流体力学Ⅰ
環境流体力学Ⅱ	環境生物工学	交通計画学特論
意思決定の理論	画像計測Ⅰ	画像計測Ⅱ
建築空間論	建築設計論	環境影響評価特論
環境計測学	低温生物工学	振動論
構造設計論	土質工学特論	地震防災工学特論
耐震工学特論	地盤防災工学特論	薄肉構造解析
弾性論	材料特性論	応用数理学
有限要素法	座屈理論	建設信頼性工学
コンクリート工学特論	科学英語Ⅰ	科学英語Ⅱ
建設環境工学特別研究Ⅰ	建設環境工学特別研究Ⅱ	

建設環境工学専攻 教員一覧

氏　名	職　名	研　究　部　門 現 在 の 研 究 テ ー マ
☆松井邦人 ＊	教　授	構造・材料部門 最適設計、逆解析、構造同定、舗装構造診断、気象と舗装のインターアクション
有田正光 ＊	教　授	流体・水理・水文部門 密度噴流の拡がりと制御、河口域の環境問題
井浦雅司 ＊	教　授	構造・材料部門 骨組およびシェル構造物の非線形解析
近津博文 ＊	教　授	計画・計測・環境部門 画像処理・画像計測・３Ｄモデリング・地理情報の空間分析
中井正則 ＊	教　授	流体・水理・水文部門 浅海域の環境保全・創造、砂漠化現象の解明
中尾雅躬 ＊	教　授	耐震・地盤部門 鋼構造物の解析および設計法、スチールハウスの構造設計
見村博明 ＊	教　授	構造・材料部門 鋼構造物の疲労と破壊、構造物の性能評価
安田　進 ＊	教　授	耐震・地盤部門 地震時の地盤の液状化、斜面崩壊、地盤改良、ハザードマップ
岩城和哉	助教授	計画・計測・環境部門 建築および都市空間の形態分析
高田和幸 ＊	助教授	計画・計測・環境部門 都市・地域計画、交通計画、交通市場分析

☆：専攻主任，＊：研究指導を受けることができる教員

【非常勤講師】

河井宏允　竹内精一　野田行衛　日野幹雄
福島真紀　松田　隆　大保直人　日鼻宏一

知能機械工学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

20世紀に始まり、新しい世紀にかけての目覚ましい科学技術の発展を振り返ると、人間と機械との関わりの深さに改めてその長い歴史を感じるものであります。その機械の歴史の流れは、いくつかの川の流れを統合して大河となっていきます。知能機械工学専攻の教育と研究の目的は、この大河を育むように広い基礎知識と主要研究分野を柱とした高度の専門知識と、人間と機械との知的な融合を目指した創造性豊かな人材育成を目指しています。
特にエレクトロニクスの技術を支える開発能力、コンピュータを駆使し、企画から製造に至る一貫したシステムを構築できる応用能力を備え、さらに先端的機械技術に関する素養をもった技術者・研究者の育成を行います。

〈主要研究部門・テーマ〉

■インテリジェント材料・加工システム部門：自己修復型インテリジェント材料に関する研究、生体材料としてのアパタイト傾斜機能材料の研究、多孔質アパタイト・ビーズの骨代替材料への応用、冷凍チャックに関する研究、複合材料の金型への適用、工作機械の構造設計に関する研究、統合生産システムに関する研究、構造物の動的設計法と防振技術の開発、機械騒音と聴感に関する研究、材料の強度特性評価及びこれに関する計測制御、マイクロメカニズムの研究

■エネルギー変換・環境システム部門：感温液晶粒子による可視化された温度場の自動計測についての研究、ヒートパイプの基礎的研究、エンジンにおける燃料噴流の特性、空調機の吹出しが室内環境におよぼす影響、冷蔵ショーケースのエアーカーテンの解析

■オプト・メカトロニクス部門：レーザ干渉計による形状計測、医療・福祉ロボットを目的としたインテリジェントアームとハンドの研究、電気自動車の要素技術の研究、生産技術の最適化に関する研究

■人間・精密機械部門：空気軸受を含む新しい機械要素の開発研究、膝関節の運動機能解析などの生体計測に関する研究、光通信部品加工などの産業機械に関する研究、人間の組織・器官の力学的特性の解明とその再生技術に関する研究

〈開設科目〉

材料力学特論	材料科学特論	結合工学特論
機構のダイナミックス	トライボロジー特論	有限要素解析
振動のモデリングと解析	工作機械システム特論	マイクロ加工特論
技術評価特論	品質工学特論	インテリジェントシステム工学
エンジンの燃焼と解析	流体力学特論	伝熱学特論
エネルギー変換特論	自動車の運動力学特論	実装工学特論
バイオメカニックス特論	再生医工学	メカトロニクス特論
光工学特論	生体治療機械システム特論	科学英語Ａ～Ｄ
知能機械工学特別研究Ⅰ	知能機械工学特別研究Ⅱ	

知能機械工学専攻 教員一覧

氏　名	職　名	研　究　部　門 現　在　の　研　究　テ　ー　マ
☆里見忠篤 ＊	教　授	人間・精密機械部門 空気軸受に関する研究、生体計測に関する研究、産業機械に関する研究
浅岡照夫 ＊	教　授	インテリジェント材料・加工システム部門 自己修復型インテリジェント材料に関する研究、生体材料としてのTi - Ni合金に関する研究
樫村幸辰 ＊	教　授	インテリジェント材料・加工システム部門 冷凍チャックの開発、複合材料の金型への適用、工作機械の構造設計に関する研究
亀岡利行 ＊	教　授	エネルギー変換・環境システム部門 感温液晶粒子により可視化された温度場の自動計測についての研究、ヒートパイプの基礎的研究
国吉　光 ＊	教　授	エネルギー変換・環境システム部門 エンジンにおける燃料噴流の特性、冷蔵ショーケースにおけるエアカーテン流れの最適化
斎藤之男 ＊	教　授	オプト・メカトロニクス部門 福祉用ロボットの研究、インテリジェントロボット・高機能ハンドとセンサ制御の研究
佐藤太一 ＊	教　授	インテリジェント材料・加工システム部門 構造物の動的設計法と防振技術の開発、機械騒音と聴感に関する研究
辻　裕一 ＊	教　授	インテリジェント材料・加工システム部門 材料の強度特性評価及びこれに関する計測制御、マイクロファクトリの研究
角田興俊	特任 教授	インテリジェント材料・加工システム部門 総合生産システムに関する研究
立石哲也 ＊	客員 教授	人間・精密機械部門 バイオニックデザインに関する研究
矢野　宏 ＊	客員 教授	人間・精密機械部門 品質工学の研究、生産システムの設計、情報システムの設計に関する研究

☆：専攻主任，＊：研究指導を受けることができる教員

【非常勤講師】
諸　隈　　肇，A. S. E. Morgan，正　宗　　賢，佐　野　彰　一

【兼　　担】
岩　本　順二郎（工学研究科所属）

電子情報工学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

近年における科学技術の革新を招来させたと言われる「電子工学」は、今日この学問分野の広がりとともに、特に情報工学、通信工学との急速な学際化が進んでおり、今後ともますます深く拡大していくものと考えられます。その電子工学と情報工学を基盤とした応用技術、即ち電子情報工学は現代社会の技術革新の中核を成し、その発展の要請は極めて高くなっています。

このような認識のもとに、科学技術の高度化とその変革、産業の拡大と情報などに伴う高度情報化社会に対応できる応用能力を備えた技術者の育成を目標としています。

〈主要研究部門・テーマ〉

■電子デバイス工学部門：多孔質シリコンの作製に関する研究、多孔質シリコンの応用研究、大面積集積回路のＣＡＤ、インテリジェントマテリアルを利用したバイオセンサ、非同期ディジタル回路の設計、プラズマCVD法によるダイヤモンド合成、ナノシリコンの作製と応用

■情報通信工学部門：脳磁図（MEG）・心磁図（MCG）の計測に関する研究、信号処理・画像処理システムの開発に関する研究、通信システムに関する研究、電磁波工学に関する研究、不規則系材料の電子構造計算、電気・磁気回路のモデリングとシミュレーション、超音波応用工学とそのマテリアルへの応用、ソノケミストリー

■産業電子工学部門：パワーエレクトロニクス変換器の研究、高力率整流器の研究、アクティブパワーフィルタの研究、電動機の解析と制御、リハビリテーション工学に関する研究、ロボットシステムに関する研究、ブラシレスDCモーターの開発、ベアリングレスモータの応用

■生体情報工学部門：生体情報処理に関する研究、人工臓器に関する研究、生物工学に関する研究、生体計測に関する研究、生命支援技術に関する研究、生体材料に関する研究

〈開設科目〉

電磁気工学
画像情報工学
センサ工学
インターフェイス工学
知能ロボット工学
生体情報工学特論
システム制御論
環境安全工学
電子情報工学特別研究Ⅰ～Ⅱ
情報計測工学
通信システム工学
情報回路設計
パワーエレクトロニクス特論
電子情報回路特論
医用電子工学特論
生体材料工学
科学技術英語
情報通信工学
電子デバイス工学
半導体工学
産業電子情報工学
エネルギー変換工学
医療福祉工学
情報物理学
電子情報工学セミナーⅠ～Ⅳ

電子情報工学専攻 教員一覧

氏　名	職　名	研　究　部　門 現　在　の　研　究　テ　ー　マ
☆平栗健二 ＊	教　授	電子デバイス工学部門 人工ダイヤモンドの合成、生体材料の合成と応用、ナノシリコンの作製と応用
内川義則 ＊	教　授	情報通信工学部門 脳磁図・心磁図の計測に関する研究、信号処理・画像処理システムの開発に関する研究
木下　彬 ＊	教　授	電子デバイス工学部門 多孔質シリコンの作製に関する研究、多孔質シリコンの応用研究
外村　彰 ＊	客員 教授	電子デバイス工学部門 電子線フォログラフィーの研究
富田英雄 ＊	教　授	産業電子工学部門 パワエレクトロニクスに関する研究、リハビリテーション工学に関する研究、ロボットシステムに関する研究
野村浩康 ＊	教　授	情報通信工学部門 液体・溶液の音波物性、ソノケミストリー、超音波応用工学に関する研究
広瀬数秀 ＊	教　授	情報通信工学部門 情報通信システム用アンテナの理論解析と開発、広帯域アンテナ系の電磁界数値解析
福井康裕 ＊	教　授	生体情報工学部門 人工臓器に関する研究、生命支援技術に関する研究、生物工学に関する研究
舟久保昭夫 ＊	教　授	生体情報工学部門 人工臓器に関する研究、生体計測に関する研究
星野　洋 ＊	教　授	電子デバイス工学部門 大面積集積回路のCAD、微少電力通信用集積回路、生体計測用集積回路
宮下　收 ＊	教　授	産業電子工学部門 パワーエレクトロニクスに関する研究、リハビリテーション工学に関する研究
勇田敏夫 ＊	客員 教授	生体情報工学部門 医用生体材料工学に関する研究
渡辺博巳	特任 教授	産業電子工学部門 ブラシレスモータに関する研究、高周波電力変換回路に関する研究
植野彰規	助教授	産業電子工学部門 眠気センシングと覚醒維持システムの開発、生体電気計測とその応用に関する研究
小畑修二 ＊	助教授	情報通信工学部門 不規則性材料の電子構造の研究、電磁現象の解析とその応用に関する研究

☆：専攻主任，＊：研究指導を受けることができる教員

【非常勤講師】浅野　和俊　　小山内　大　　川上　春夫　　小池　　淳　　高井　信治　　竹内　精一
村上　幸夫

生命工学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

生命現象を様々な観点から深く探究しようとする「生命科学」は、21世紀の学問の主流をなすもので、分子生物学、化学、物理学、医学、工学などの広範囲な知識・技術を必要とする領域です。生命科学は生命現象の知的探究のみならず、そこから得られた知識や技術を人類の福祉へ応用するという重要な使命も帯びています。この使命を達成するうえで必要不可欠な技術者および研究者の育成を「生命工学専攻」の目標としております。

〈主要研究部門・テーマ〉

■生命化学部門：小胞体におけるタンパク質の品質管理機構、抗体の高度利用法に関する研究、生命化学物質の溶媒和に関する熱力学的研究、生命および環境化学物質を含む溶液の物性論的研究、超臨界流体の熱力学的研究、食品中のがん予防物質の探索、細胞周期制御物質の構造活性相関、カンキツ類におけるフラボノイド生合成の遺伝様式、多孔性固体による物質の吸着、糖の水溶液中での水和に関する熱力学的研究

■環境生命工学部門：植物培養細胞の超低温保存、組織培養による植物の生産、植物細胞の低温・乾燥耐性、燃料電池の研究、リズム・カオス・パルスの化学的ダイナミックスの研究、高分子ゲル中の水のキャラクタリゼーション、クモの糸の氷核活性とその利用、線虫の凍結保存、植物成長に及ぼす磁場、振動、超音波の効果、植物電位の計測、果物の品質計測

■生命支援工学部門：心機能回復促進型補助人工心臓の開発に関する研究、マグネタイトの生体適合性に関する研究、遺伝子組換え支援技術の開発に関する研究、循環器系生体パラメータの非観血・無侵襲計測法及び診断への応用に関する研究、連続パルス磁気刺激による低浸襲治療法の研究、心室細動除去法の低エネルギー化の研究、皮膚の老化度の測定に関する研究、色測定による皮膚の診断に関する研究、妊娠線の発症メカニズムに関する研究

〈開設科目〉

生命分子物性論	細胞分子生物学	生理活性有機化合物論
化学熱力学特論	生理化学	コロイド化学
生命のダイナミックス	低温生物工学	環境計測学
植物細胞工学	環境生物学	医用福祉工学
医用工学	臨床医学	生体治療システム工学
生体計測	生命工学セミナーⅠ	生命工学セミナーⅡ
生命工学特別研究Ⅰ	生命工学特別研究Ⅱ	科学技術英語Ⅰ
科学技術英語Ⅱ		

生命工学専攻 教員一覧

氏　名	職　名	研　究　部　門 現　在　の　研　究　テ　ー　マ
☆川井　悟 ＊	教　授	生命化学部門 食品中のがん予防物質の探索、細胞周期制御物質の構造活性相関、カンキツ類におけるフラボノイド生合成の遺伝様式
内田干城	教　授	生命支援工学部門 皮膚の老化度の測定に関する研究、色測定による皮膚の診断に関する研究、妊娠線の発症メカニズムに関する研究
岡本博司 ＊	教　授	環境生命工学部門 燃料電池の研究、リズム・カオス・パルスの化学的ダイナミックスの研究
小川英生 ＊	教　授	生命化学部門 生命化学物質の溶媒和に関する熱力学的研究、生命および環境化学物質を含む溶液の物性論的研究、超臨界流体の熱力学的研究
栗山　昭 ＊	教　授	環境生命工学部門 植物培養細胞の超低温保存、組織培養による植物の生産、植物細胞の低温・乾燥耐性
田中眞人 ＊	教　授	生命化学部門 小胞体におけるタンパク質の品質管理機構、抗体の高度利用法に関する研究
保坂栄弘 ＊	教　授	生命支援工学部門 循環器系生体パラメータの非観血・無侵襲計測法及び診断への応用に関する研究、連続パルス磁気刺激による低侵襲治療法の研究、心室細動除去法の低エネルギー化の研究
宮脇富士夫 ＊	教　授	生命支援工学部門 心機能回復促進型補助人工心臓の開発に関する研究、マグネタイトの生体適合性に関する研究、遺伝子組換え支援技術の開発に関する研究、器械出しナース・ロボットの開発研究
村勢則郎 ＊	教　授	環境生命工学部門 高分子ゲル中の水のキャラクタリゼーション、クモの糸の氷核活性とその利用、線虫の凍結保存
山名昌男 ＊	教　授	環境生命工学部門 植物成長に及ぼす磁場、振動、超音波の効果、植物電位の計測、果物の品質計測、スピロピランの電解酸化
類家正稔	助教授	生命化学部門 多孔性固体による物質の吸着、糖の水溶液中での水和に関する熱力学的研究

☆：専攻主任，＊：研究指導を受けることができる教員

【非常勤講師】

片桐千仭　　戸川達男　　福島真紀　　四宮貴久　　正宗　賢

情報社会学専攻　修士課程

（内容と特色）

情報社会は既にコンテンツ中心時代へと着実に歩みを進めており、今後予想される情報に関わる多くの問題の発見・解決、特に諸問題に対する意志決定に必要な情報を提供するために、学問の統合に基づく総合的・複眼的なものの見方が重要になると考えられる。本「情報社会学専攻」は、情報の表現創造に関わる知識をより高度に深めるとともに、人文・社会系諸学との統合・融和の活動を通じて、情報の観点からの問題発見・解決に対する高い資質を有した人材の育成を目的としている。

（主要研究部門・テーマ）

■マルチメディア技術部門：マルチメディアによる人と人とのコミュニケーションにおいては、言語情報の他に身振りや表情といった、非言語情報が大きな役割を果たしている。本部門では最新の技術的動向をもとに、「非言語情報認識」、「画像情報処理」、「情報表示デバイス」など、画像を中心とした基本技術について研究する。

■マルチメディア表現部門：高臨場感サイバースペースの構築技術や、言語・非言語コミュニケーションに関する表現技術は、認知・身体科学的考察を含めて、総合的に考究する必要がある。本部門では、「空間情報工学」、「言語情報システム」、「ヒューマン・インターフェイス」等、マルチメディア表現を総合的に研究する。

■情報社会部門：サイバースペースを基礎として、大量の情報の収集・蓄積・処理・伝達が可能となっている。本部門ではサイバースペースを活用した学習環境とその心理学的特性、大量データからの知識獲得と意志決定支援、さらに合意形成や政策形成等の分野に関わる研究をする。

〈開設科目〉

非言語情報認識論	画像情報処理論	情報表示デバイス論
空間情報工学特論	言語情報システム論	ヒューマン・インターフェイス
応用サイバースペース情報論	情報コミュニケーション心理学	データマイニング
政策科学論	情報倫理学	マルチメディア情報基礎論
情報社会セミナーⅠ	情報社会セミナーⅡ	情報社会学特別研究Ⅰ
情報社会学特別研究Ⅱ	科学技術英語Ⅰ	科学技術英語Ⅱ

情報社会学専攻 教員一覧

氏　名	職　名	研　究　部　門 現 在 の 研 究 テ ー マ
☆鉄谷信二 ＊	教　授	マルチメディア技術部門 メディアインターフェイスの研究、ジェスチャーや顔の表情などの非言語（5感）コミュニケーションの研究
市野　学 ＊	教　授	情報社会部門 パターン認識、シンボリック・データ・アナリシス、データマイニング
石塚正英	教　授	マルチメディア表現部門 身体に関する複合科学的研究、フェティシズムに関する比較文明論的研究、情報社会に関する社会思想史的研究
志和新一 ＊	教　授	情報社会部門 遠隔学習に関する研究、英単語の学習法と評価法の研究、３Ｄ画像によるインタラクティブな応用に関する研究
細村　宰	教　授	マルチメディア技術部門 衛星画像の土地被覆分類、カメラを用いた３Ｄ画像計測、ＣＧを用いた情報の可視化に関する研究
山口正二 ＊	教　授	情報社会部門 認知や動機づけに関する研究、学校教育における生徒と教師の心理的距離、教師の聖職性に関する実証的研究
若松征男	教　授	情報社会部門 科学技術政策形成過程への参加型システムの組み込みの研究、参加型手法の研究
柏崎尚也	助教授	マルチメディア技術部門 感性パラメータにより芸術作品等の感性評価、ミュージックパズルの研究、新しい表示デバイスの開発研究
小林春美 ＊	助教授	マルチメディア表現部門 環境と人間の言語・認知の関係についての研究、言語発達における環境情報の役割に関する研究

☆：専攻主任，＊：研究指導を受けることができる教員

【兼任教員】
中山　洋

第8章

そ の 他

エクステンションセンター

多彩な学習機会を提供して知を還元する！

エクステンションセンターは「開かれた高等教育機関」の一役を担い、2001年４月に設立しました。以来、①在学生向け課外学習支援講座、②一般社会人向け講座、③公開講座等による生涯学習機会の提供や地域社会・社会啓蒙活動への貢献を中心に、学習機会の提供を積極的に図っています。

多様化・高度化する学習ニーズに応え、理工系総合教育研究機関としての特色を活かした講座、資格取得講座の他、語学、一般教養、実務系の講座も多数実施しています。東京・神田という立地条件を活かした通学型講座に加えて、自宅や職場から“いつでも・どこでも”受講できるインターネットを利用したオンライン講座（e-ラーニング講座）も多数開講しています。また、受講料は、より多くの方に身近な学習機会を提供するという方針に沿って、世間相場に比べて格安に設定しています。

平成18年度実施予定の主な講座

講座種別		講座名
通学型講座	語学講座	**ネイティブと毎日学ぶ英会話講座** 毎日40分間ずつ月曜日～金曜日まで年間約100日間（５月～７月、９月～12月の期間開講）、ネイティブ講師による「生の英語」に直接触れ、すべて英語で行なわれるレッスンを受けることによって、まるで国内にいながら留学しているかのような体験をすることができ、確実に英語力を高めていくという実践型講座です。
	資格取得講座	**電気数学入門講座** 電気関連の資格取得に欠かせない電気数学の知識と解法を丁寧に一から講義する入門講座です。
		電験三種合格対策講座 今年度の「第三種電気主任技術者」試験合格を第１目標に、最近の出題傾向を徹底分析する講座です。科目分野ごとの弱点強化が可能なように、全科目受講のほか科目別や受講日指定、模試のみの受講も可能です。
		初学者のための初級システムアドミニストレータ合格対策講座 人気の国家資格「初級システムアドミニストレータ」の取得を目標に、ムダを省いた効率的なカリキュラムにより、初学者向けに合格を目指した講座です。
		基本情報技術者合格対策講座 国家資格「基本情報技術者試験」（旧第二種情報処理技術者）の短期取得を目標に、ムダを省いた効率的なカリキュラムにより、合格を目指した講座です。
		宅地建物取引主任者合格対策講座 不動産、建設、金融業界で人気の国家資格「宅地建物取引主任者」試験合格を目標に初学者向けに開講する講座です。

講座種別		講　　座　　名
通学型講座	資格取得講座	**工業英語検定３級・４級合格対策講座** 技術英語の能力を評価する（社）日本工業英語協会主催（文部科学省認定）「工業英語検定３級」及び「工業英語検定４級」に合格することを目指す短期集中講座です。技術英語を読み書きする上で基本的な文法・表現を見につけることから、企業で求められる技術英語の基本的表現を豊富な例文をもとにして実践展開していくコツまで、レベルに合わせた講座内容になっています。 ４級レベル：工業高校、工業高等専門学校程度の工業英語の基礎知識を有する者 ３級レベル：大学専門課程、工業高等専門学校上級学年在学程度の工業英語の応用知識を有する者
		技術士一次試験合格対策講座 科学技術・土木系のエンジニアにとって最高峰の資格“技術士”のうち「電気・電子」「環境」部門の一次試験突破を目標とする講座です。
	一般教養・実務系講座	**身近な気功体験講座** 気功を科学的に解明する研究の第一人者、町　好雄　工学部教授が初心者向けにわかりやすく解説し、講義の後には本場中国の気功師、劉　超　講師（工学博士）による気功体験ができる講座です。
		陶芸教室（飯能焼窯元　破草鞋窯） 江戸時代後期に栄え、明治時代に炎が途絶えてしまった「飯能焼」を本学卒業生の陶工が復活させました。埼玉県飯能市街から約10㎞離れた静かな山間にある「工房破草鞋窯」で本物の陶工が陶芸の基本から墾切丁寧に指導し、実用性のある陶芸製作を体験できます。
オンライン講座（ｅラーニング）		**ネイティブチュータと学ぶｅラーニング英語実践コース（７レベル）**
		インターネットで学ぶｅラーニング（全100コース以上） Word、Excel、PowerPoint等のOfficeシリーズ、Java、C言語、Visual Basic、ＳＱＬのプログラミング言語、ネットワークデータベース等の情報技術シリーズ、オラクル、ＭＣＰ、初級システムアドミニストレータ、基本情報技術者等の資格試験対策シリーズ、Microsoft(R)*.Netシリーズ、ビジネススキルシリーズ、行動基準シリーズなど全100コース以上を（株）ネットラーニングと提携して提供しております。 ＊Microsoft(R)はMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です
公開講座		**ＭＥ（医用生体工学）講座** ME（医用生体工学）は大きく進歩し、医学・高齢者・環境・遺伝子など広い範囲に応用され、技術の発展はめざましいものです。本講座では、第一線で活躍している講師陣を招いて、医療と福祉の最新技術の動向と展望、社会的要請などを取り入れた講義をいたします。
		Mathematica 公開講座 レベル（初級コース・中級コース・応用コース）別に数式処理ソフト（マセマティカ）を使用し、数学の楽しさを体験していただく講座です。

連絡先　東京電機大学エクステンションセンター
電　話　03-5280-3680
ＦＡＸ　03-5280-2353
ＵＲＬ　http://www.dendai.ne.jp
e-mail　extension@dendai.ac.jp

留　　学

１．留学のすすめ

本学では、みなさんが在学中の一時期に海外の大学に留学することを制度として認めています。みなさんが感受性に富んだ若い時代に外国に留学し、勉学に励むと同時に外国の異文化に触れ、相互理解を深め、国際性を身につけることは、将来、技術者・研究者として国際社会で活躍するためには大切なことです。

積極的にこの制度を利用し、是非、有益な留学を実現させてください。

２．協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって、単位の取得を目的として留学する制度です。現在の協定校は、アメリカのアイオワ大学で、募集は毎年11月頃行います。選考には、ＴＯＥＦＬのスコアが重要視され、530点（コンピュータ利用によるテストでは197点）を目安としています。留学は翌年９月からの１年間で、学部で60単位を限度とした単位認定を行っており、留学先の学費は免除となります。（原則的に本学学費は納入。）

３．認定校留学

単位の取得を目的とした留学を希望する者が、自分で外国の大学の留学または受入れ許可をとり、本学がこれを許可し、留学する制度です。募集は毎年11月頃行います。留学は翌年度中からで期間は１年とし、学部で60単位を限度とした単位認定を行っており、留学先の学費は自己負担となります。（原則的に本学学費は納入。）

４．海外英語短期研修

現在、英語短期研修はコロラド大学・アイオワ大学・シドニー大学において開催されています。いずれも、現地教師による少人数レッスンで本学学生専用のプログラムが組まれています。所定の成績を修めれば、本学が指定した英語科目の単位を修得したものとして認定さ

れます。コロラド大学は７月～８月、アイオワ大学・シドニー大学は２月～３月に約３週間実施されます。実施の約半年前に募集をし、選抜試験を行っています。

ＴＯＥＦＬ（Test of English as a Foreign Language）は、英語を母国語としない外国人留学生のために英語の聴解力（Listening Comprehension Section）、文法・作文力（Structure and Written Expression Section）、読解・語彙力（Reading Comprehension and Vocabulary Section）、および文章力（Test of Written English）の知識をテストするものである。また、テストはコンピュータにて行なわれるComputer-Based Testと筆記試験で行なわれるPaper-Based Testとがあります。

留学に係わる手続きや必要な注意事項は、冊子「海外協定校留学案内」に集約されており、学生厚生担当にて配布しています。

また、留学に関する相談は学生厚生担当にて随時応じています。

５．コースタルカロライナ大学（CCU）体験留学プログラム

ＣＣＵでの体験留学プログラムは、従来の英語短期研修とは異なり、実際にＣＣＵで行われている正規の授業（体験プログラム）に参加することが特色で、充分な英語能力があらかじめ備わっている学生を対象としたプログラムです。外国の文化や習慣を体得できるのはもちろんのこと、アメリカ式授業がどのようなものかを知る上でも最も理想的な内容となっております。実施時期は８～９月で期間は約３週間です。４・５月に募集をし、選抜試験を行っています。なお、所定の成績を修めれば、本学が指定した英語科目の単位を修得したものとして認定されます。

保険制度

本学では、正課中あるいは課外活動中の不慮の災害事故補償のための「学生教育研究災害傷害保険」への加入受付事務等をしています。新入生は入学手続時に４年間分の保険料を納入し、全員が加入しています。留年等で保険期間が切れた場合は、４月はじめに学生厚生担当において所定の手続きをすることにより継続加入ができます。

１．保険金が支払われる場合

１．正課授業中
２．学校行事中
３．１、２以外で学校施設内にいる間
４．学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間
５．通学中

２．保険金の種類・金額

下記の一覧表を参照してください。

保険金種類 / 担保範囲	死　亡	後遺傷害	医　療	入院（日額）
正課中 学校行事中	2,000万円	90万～3,000万円	0.6万～30万円	4,000円
上記以外で学校施設内にいる間	1,000万円	45万～1,500万円	3万～30万円	4,000円
学校施設以外で大学に届出た課外授業中	1,000万円	45万～1,500万円	3万～30万円	4,000円

※死亡保険金の支払いは、事故の日から180日以内に死亡したとき
※後遺障害保険金は、事故の日から180日以内に後遺障害が生じたとき
※医療保険金は、平常の生活ができるようになるまでの治療期間に応じて異なる。正課中お

よび学校行事中の事故は実治療日数（実際に入院または通院した日数）が 4 日以上の場合支払われ、学内での休憩中および課外活動中の事故は14日以上の場合に支払われる。

※事故の状況等によっては、保険金が支払われない場合があります。

3．保険料・保険期間

保険期間	保険料適用区分
	昼　間　部 （理工系・体育系）
1　年　間	1,200円
2　年　間	2,100円
3　年　間	3,050円
4　年　間	3,900円

※保険期間（ 4 年間）の切れた場合の加入受付については、 3 月下旬～ 4 月上旬に掲示でお知らせします。必ず受付期間内に延長の手続きを行ってください。（追加の保険料が必要です。）

※その他、詳細は「学校教育研究災害傷害保険のしおり」を参照してください。

※介護等体験、インターンシップ等を行う場合には、「学生教育研究災害障害保険」に加えて、オプションで対物賠償等も補償範囲となる「インターンシップ・介護体験活動・教育実習等賠償責任保険」へ加入の必要があります。

　加入は随時受け付けていますが、その際には本体となる「学生教育研究災害障害保険」へ加入している必要があります。留年等で保険期間（入学から 4 年間）を経過している場合には、予め 4 月上旬までに「学生教育研究災害障害保険」へ加入しておいてください。

　（詳細は、学生厚生担当窓口にて相談してください。）

学生生活支援

1．短期貸与金

短期貸与金制度は、みなさんの先輩方が設けた「東京電機大学同窓会助け合い基金」をもって運用しているもので、みなさんが緊急に金銭を必要とする場合に貸付をする制度です。取扱いは、学生厚生担当で行っています。

貸与金額　　10,000円以内
貸与期間　　１ヵ月以内

なお、**貸付を受ける際に、学生証、印鑑が必要です。**

2．アパートの紹介

本学では、理工学部のアパート・貸間の斡旋を錦電サービス㈱に委嘱しています。斡旋される物件の大部分は駅より徒歩10分の範囲にあり、理工学部まで30分以内（待ち時間除く）で通学できます。

新入生の自宅外通学者のなかには、はじめての一人暮らしに不安を覚える方もいると思います。

―― 新しい環境に早く順応する ――これは、これからの希望に満ちた学生生活を送るうえで、大切な要素です。理工学部では、新入生は、同じような環境にある者が協力し合っていけるよう、できるだけ本学部の新入生が多い物件を斡旋するよう指導しています。なお、ワンルームタイプの本学学生専用のＴＤＵスチューデントハウスを高坂駅および東松山駅周辺に設置しており、入居募集は学生厚生担当よりお知らせ致します。

一般のアパート・貸間の申込みは

錦電サービス㈱　　〒350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学　理工学部内

TEL　０４９－２９６－２９６２㈹

http://www.kinden-service.co.jp

課外活動

課外活動の意図するところは、団体の運営にたずさわることによって自主性を養い、協調精神を身につけ、秩序を守ることを知り自己の人間形成に役立てることにあります。

この人間形成は、いうまでもなく正課教育を通して行われるのですが、より一層の効果をあげるための役割を果たしているのがこの課外活動です。しかし課外活動に必要以上のエネルギーを費やし、勉学がおろそかになるようでは、もはや学生とはいえません。この課外活動の目的を充分に把握した上でクラブ活動に参加するよう望みます。

なお、学生が課外活動を行うときは、「学生生活についての規程」に基づき次の手続きを、とらなければなりません。

1．学外活動を行うとき

学生厚生担当備付けの学外活動願に記入の上、開始の 1 週間前までに学生厚生担当に届け出なければなりません。

2．学内集会を行うとき

学生厚生担当備付けの学内集会願に記入の上、実施の 3 日前までに学生厚生担当に届け出なければなりません。

アルバイト

アルバイトを希望するみなさんのために、学生厚生担当ではその紹介を行っています。原則的にアルバイトの実施期間は夏・冬・春の休業期間中に限りますが、教育関連等の職種については、随時紹介を行っています。

求人の受入れから紹介にいたる取扱いにあたっては、学業などに支障があってはならないという教育的配慮と、事故防止上から職種を制限しています。

（後掲の一覧表を参照）

1．応募方法

掲示板の求人票から、自分の条件にあうアルバイトを選択し、各自で先方に申し込みをしてください。求人票の掲示は１ヵ月を目安としていますが、定員になり次第、剥がします。なお、紹介状が必要となるアルバイトもあります。その件に関しては学生厚生担当窓口に申し出て下さい。

2．留意事項

求人内容・条件などが著しく違った場合は報告してください。病気・急用・その他突発的な理由で遅刻、欠勤などをする場合は、必ず勤務先へ連絡してください。安易な考えや行動は多大な迷惑をかけることになり、みなさん自身や大学の信用問題に及ぶことにもなりますので特に注意してください。

制　限　職　種　一　覧　表

	具体例	理　由　及　び　参　考　事　項
危険性をともなうもの	●プレス、ボール盤、旋盤、断裁機など自動機械の操作	…危険で、事故が伴う。
	●高電圧、高圧ガス等危険物の取扱い（助手も含む）	…免許を必要とし、高度の危険度がある。
	●自動車、単車の運転、自転車による重量物（30kg以上）の配達 ●線路内や交通頻繁な路上での作業（測量、白線引き、交通整理等） ●土木・水道工事現場作業	…最近の厳しい交通状況から危険度も高く、また、事故を起こした場合の経済的・精神的負担が重すぎ、刑事責任まで負うことになる。
	●建築中の現場作業、建物倒壊、残材片付作業 ●２階以上の高所での屋外作業（ガラス拭き、器具取りつけ等）	…落下物・転落等の危険度が大きい（内装工事は除く）。
	●整備員……	…会場整備、誘導、受付は除く。
人体に有害なもの	●農薬、劇薬など有害な薬物の扱い（めっき作業、白蟻駆除等） ●特に高温度・低温度の作業 ●塵埃、粉末、有害ガス、騒音等の著しい中での作業	健康上、人体に有害と考えられる。
法令に違反するもの	●労働争議に介入するおそれのあるもの	…職業安定法20条参照
	●営利職業斡旋業者への仲介斡旋……	…職業安定法の趣旨（雇用関係の成立の斡旋）に反する。
	●マルチ・ネズミ講商法に関するもの……	…無限連鎖講の防止に関する法律参照
教育的に好ましくないもの	●街頭でちらし配り、ポスター張り……	…内容的に問題があったり、無許可の場合が多い。
	●不特定多数を対象とした街頭や訪問による調査	…相手側の了解が得られない場合が多く、トラブルの原因となることが多い。
	●訪問販売、勧誘、専門におこなう集金 ●競馬、競輪場等ギャンブル場内の現場作業 ●バー、キャバレー、マージャン、パチンコなど風俗営業の現場作業 ●住込みと夜間作業（20時以降）	
	●選挙の応援に関連する一切の業務…… ●スパイ行為に類する調査	…大学としては特定の政党や候補者を応援することは望ましくない。
望ましくないもの	●人命にかかわることが予想される業務	…無資格の水泳指導員、監視員、ベビーシッター等
	●労働条件が不明確なもの……	…賃金、時間、場所、労働内容、支払方法等に関することが明示されていないもの
	●人員の限定を条件とするもの…… ●学生を紹介しても採否の連絡が無かったり、正当な理由なく採用されないことがしばしばくり返されるもの	…例えば、10人中１人でも欠けると他の９人を不採用とするようなもの
	●各大学の判断により好ましくないもの	

東京電機大学　校歌

歯切れよく　雄大に

草野心平 作詞
平岡照章 作曲



東京電機大学校歌

一

日輪（にちりん）は　天にかがやき
白雲（はくうん）は　富士に沸（わ）きたつ
朋（とも）がらよ　眉（まゆ）あげよ
大いなる　歴史のなかで
われら新しい　真理を創（つく）る
東京電大　われらが母校
あゝ讃（たた）えん哉（かな）
その伝統

二

天体は　いよよ近づき
めぐる四季　時間は早し
朋（とも）がらよ　夢もてよ
大いなる　時空（じくう）をめざし
われら新しい　文化を創（つく）る
東京電大　われらが母校
あゝ燦然（さんぜん）たり
その未来

東京電機大学　学生歌

望月直文作詞
田辺尚雄作曲

一、見よ日本のあさぼらけ　自由の天地ここにあり
玲瓏富士を仰ぎつつ　高潔き心の若人は
自律協和の旆高く　民主の世界先駆けん

二、聞け黄昏の鐘の音　平和の祈願ここにあり
信愛と誠実をたたえつつ　熱き血潮の若人は
撞くや響もおほらかに　久遠の理想具現せん

三、ああ幾万の同胞よ　我等の誇りここにあり
真理を究め技術を錬り　燃ゆる希望の若人は
今金鉄の意志かたく　文化の覇業なしとげん



東京電機大学理工学部　讃歌

小泉磐夫作詞
橋本忠作曲

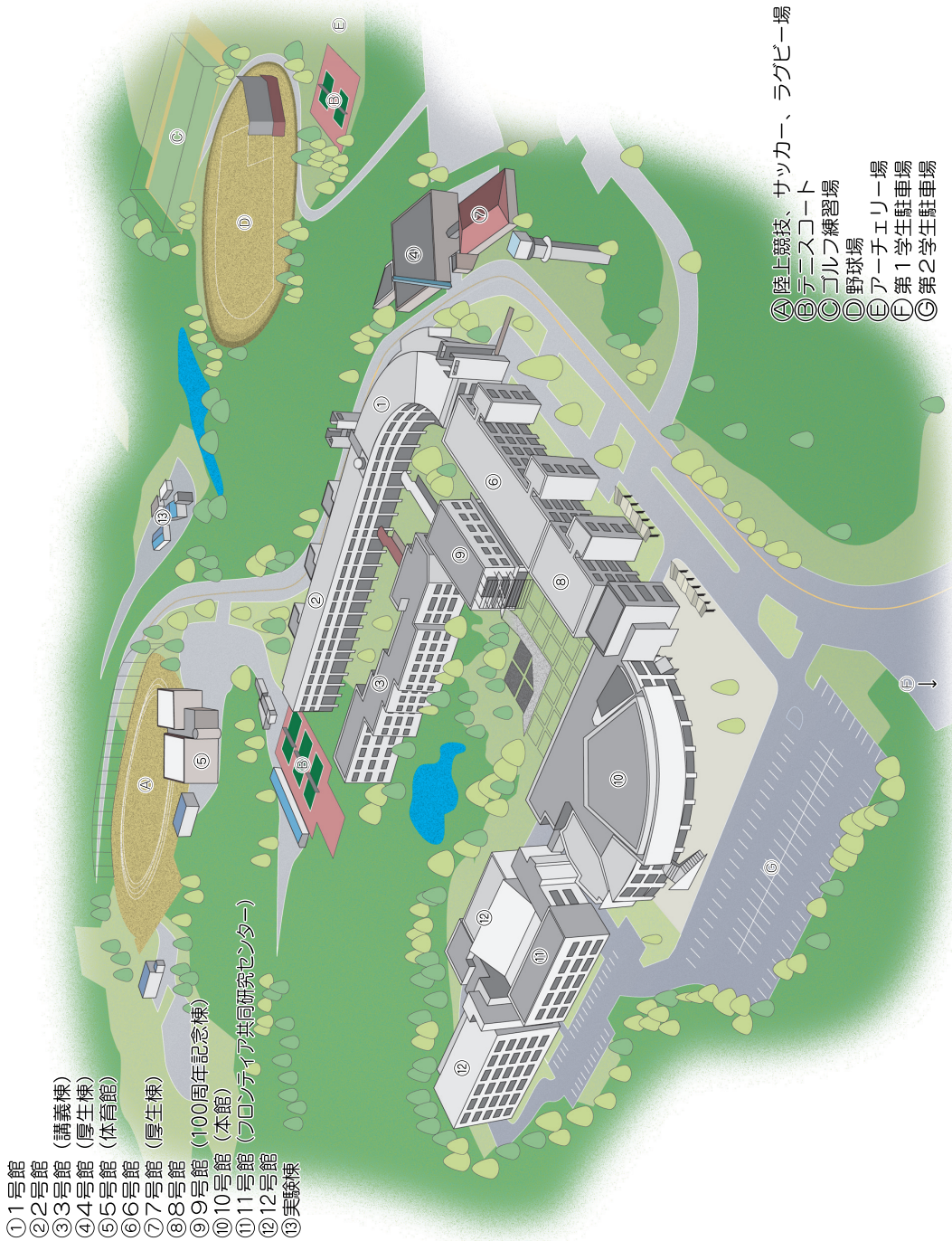
一、新春の比企の丘辺に　集い来し若人四百
創設の礎踏みて　固め来し四年は経りぬ
学修め業を磨きて　今し鳴る君の腕はも
その門出茲に祝わん　世に臨む備は成ると

二、新しき酒槽踏みて　新しき酒は醸しぬ
盛らん哉香る甘酒を　ふさわしき杯は備る
君に待つ望は深く　君に待つ光汎し
その門出共に祈らん　自愛しめ若き命を

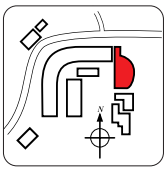
三、君と共に拓きし学部　新しき生命を継ぎて
永遠に後に続かん　若き等の瞳清しも
老は去り若きに代り　学舎に生気溢れぬ
その門出共に唱わん　「吾が学部よとわに栄あれ」



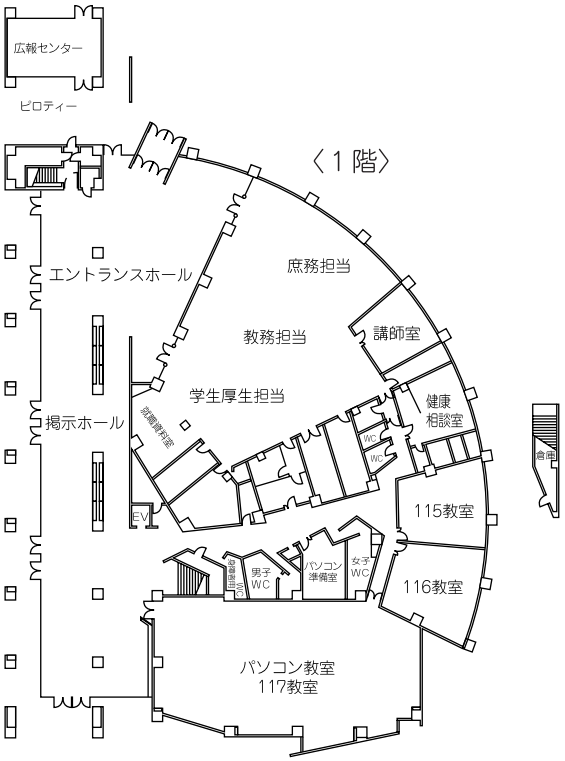
鳩山キャンパス案内図

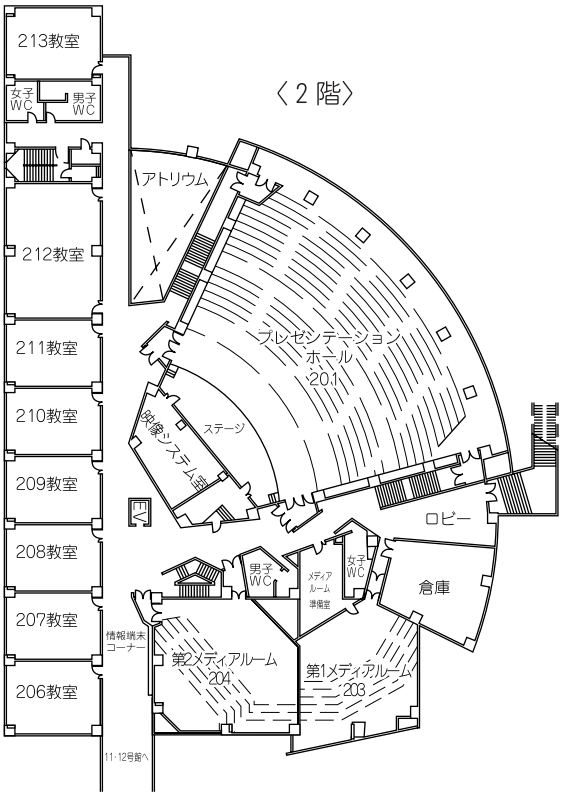

①1号館
②2号館
③3号館（講義棟）
④4号館（厚生棟）
⑤5号館（体育館）
⑥6号館
⑦7号館（厚生棟）
⑧8号館
⑨9号館（100周年記念棟）
⑩10号館（本館）
⑪11号館（フロンティア共同研究センター）
⑫12号館
⑬実験棟
Ⓐ陸上競技、サッカー、ラグビー場
Ⓑテニスコート
Ⓒゴルフ練習場
Ⓓ野球場
Ⓔアーチェリー場
Ⓕ第1学生駐車場
Ⓖ第2学生駐車場

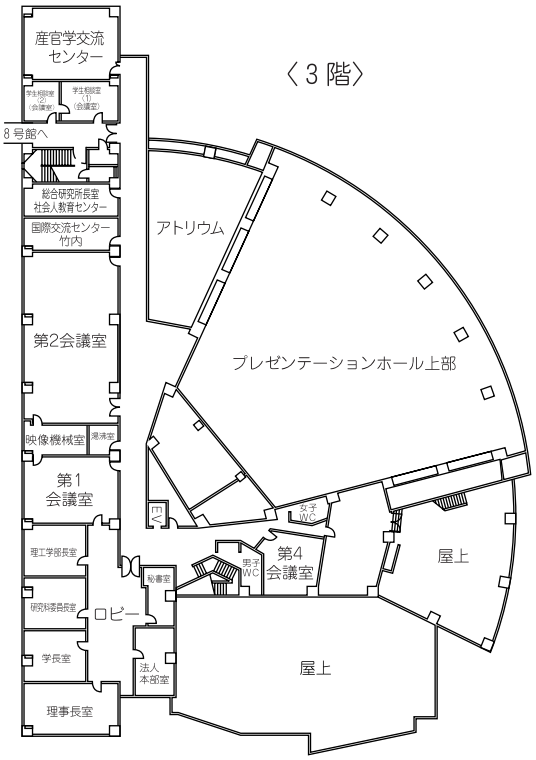
全体図

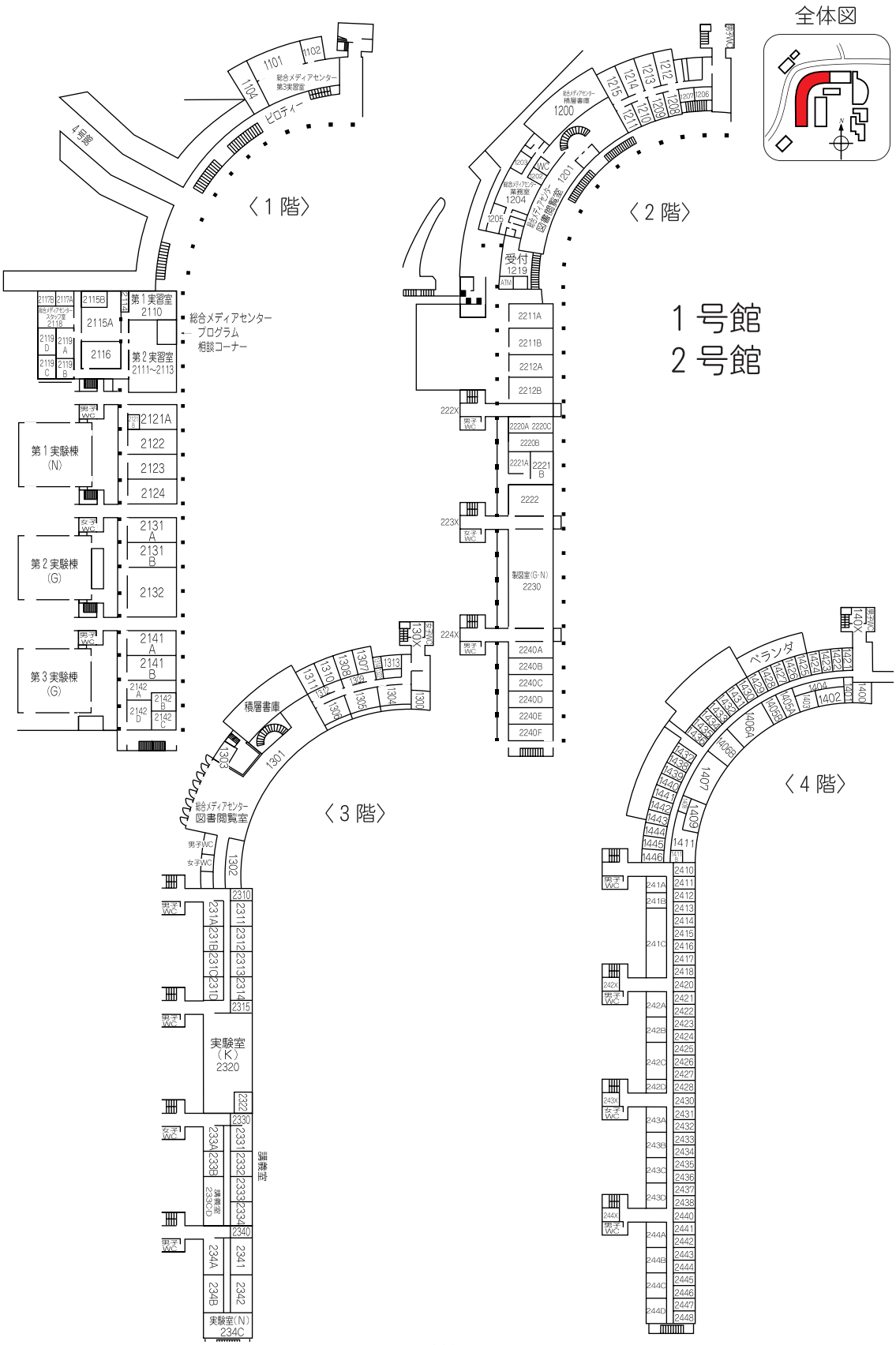


10号館（本館）

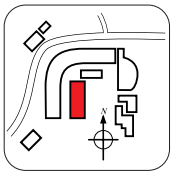

広報センター
ピロティー
〈1階〉
エントランスホール
庶務担当
教務担当
講師室
学生厚生担当
健康相談室
掲示ホール
就職資料室
WC
WC
EV
115教室
倉庫
男子WC
女子WC
パソコン準備室
116教室
パソコン教室
117教室


〈2階〉
213教室
女子WC
男子WC
アトリウム
212教室
211教室
210教室
209教室
208教室
207教室
206教室
プレゼンテーションホール 201
ステージ
映像システム室
ロピー
男子WC
女子WC
メディアルーム準備室
倉庫
情報機器コーナー
第2メディアルーム 204
第1メディアルーム 203
11・12号館へ


〈3階〉
産官学交流センター
学生相談室(2)(会議室)
学生相談室(1)(会議室)
8号館へ
総合研究所長室
社会人教育センター
国際交流センター竹内
アトリウム
第2会議室
プレゼンテーションホール上部
映像機械室
第1会議室
女子WC
男子WC
第4会議室
屋上
理工学部長室
秘書室
研究科委員長室
ロビー
学長室
法人本部室
屋上
理事長室

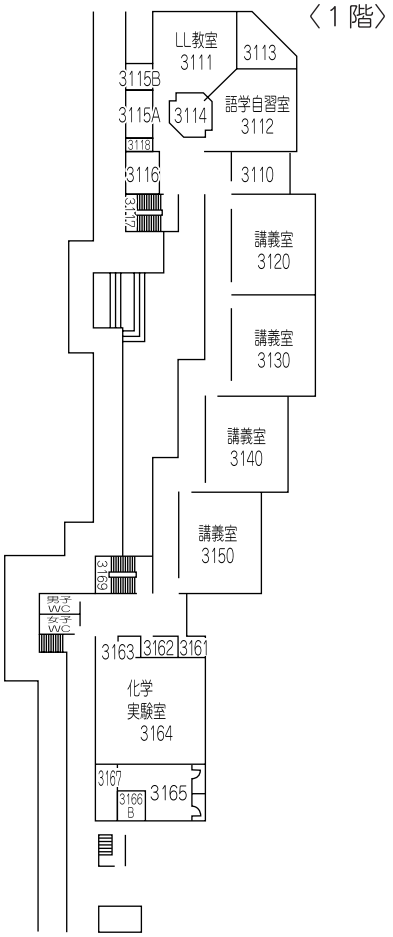

全体図
1号館
2号館
〈1階〉
〈2階〉
〈3階〉
〈4階〉
1号館
ピロティー
総合メディアセンター
第3実習室
1101
1102
1104
第1実習室
2110
2115A
2116
2115B
2117A
2117B
2118
2119A
2119B
2119C
2119D
第2実習室
2111~2113
総合メディアセンター
プログラム
相談コーナー
第1実験棟
(N)
第2実験棟
(G)
第3実験棟
(G)
2121A
2122
2123
2124
2131A
2131B
2132
2141A
2141B
2142A
2142B
2142C
2142D
受付
1219
ATM
1200
1201
1204
1205
1206
1207
1208
1209
1210
1211
1212
1213
1214
1215
2211A
2211B
2212A
2212B
2220A 2220C
2220B
2221A
2221B
2222
製図室(G・N)
2230
2240A
2240B
2240C
2240D
2240E
2240F
222X
223X
224X
積層書庫
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
1308
1309
1310
1311
1312
1313
130X
131X
2310
2311
2312
2313
2314
2315
2320
2321
2330
2331
2332
2333
2334
2340
2341
2342
実験室(N)
2340
実験室(K)
2320
講義室
2330C・D
1401
1402
1403
1404
1405
1406A
1406B
1407
1408
1409
1411
1412
1413
1414
1415
1416
1417
1418
1419
1420
1421
1422
1423
1424
1425
1426
1427
1428
1429
1430
1431
1432
1433
1434
1435
1436
1437
1438
1439
1440
1441
1442
1443
1444
1445
1446
140X
141X
ベランダ
2410
2411
2412
2413
2414
2415
2416
2417
2418
2420
2421
2422
2423
2424
2425
2426
2427
2428
2430
2431
2432
2433
2434
2435
2436
2437
2438
2440
2441
2442
2443
2444
2445
2446
2447
2448
241A
241B
241C
242A
242B
242C
242D
243A
243B
243C
243D
244A
244B
244C
244D
242X
243X
244X
男子WC
女子WC

全体図

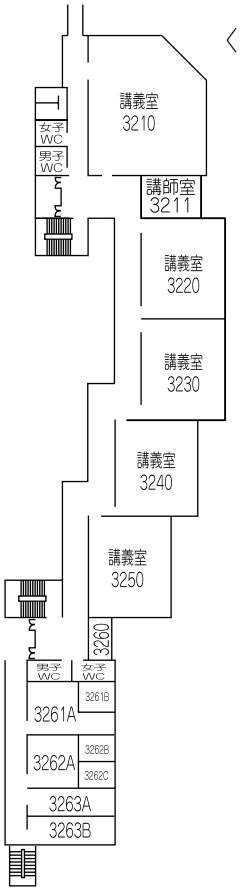


3号館（講義棟）

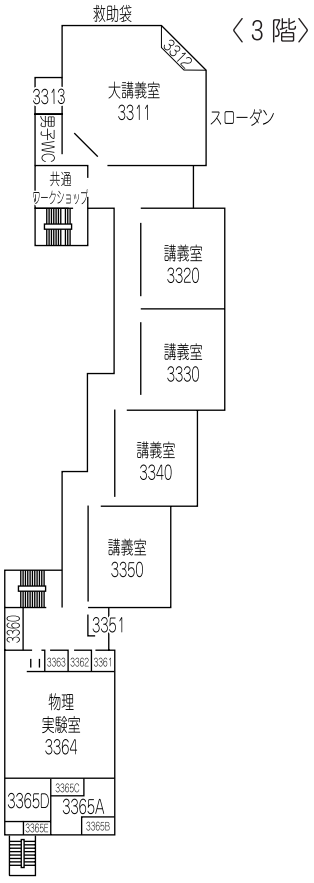
〈1階〉



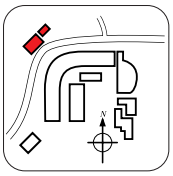
〈2階〉



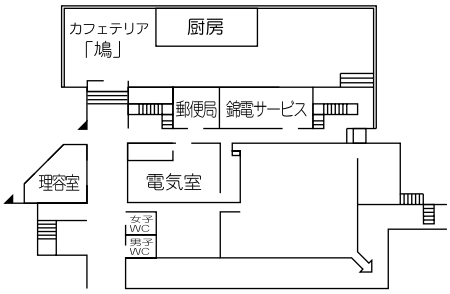
〈3階〉



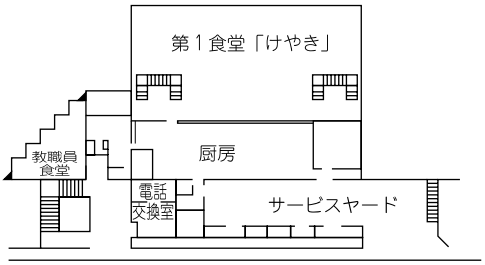
全体図



4号館（厚生棟）

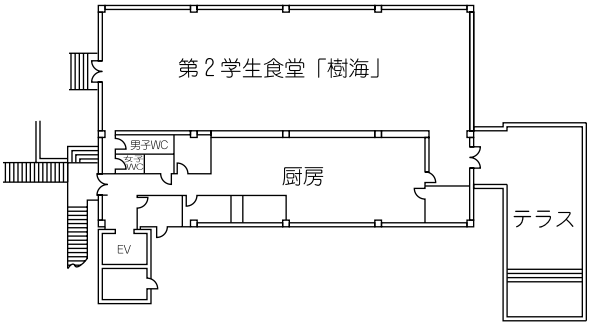


〈1階〉



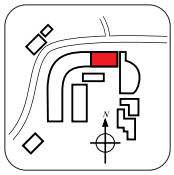
〈2階〉

7号館（厚生棟）



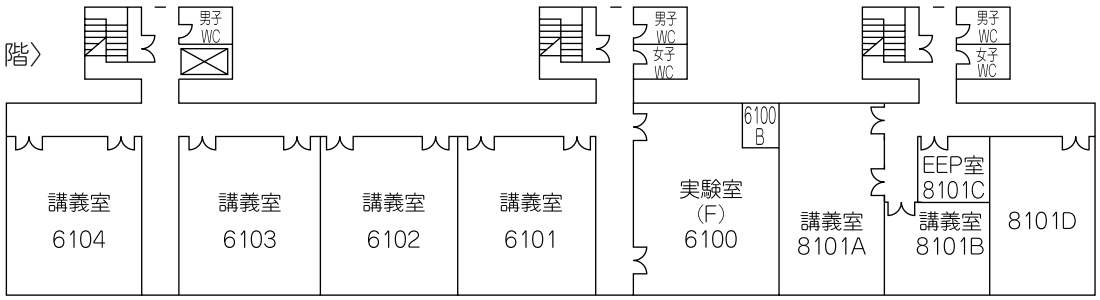
〈1階〉

全体図

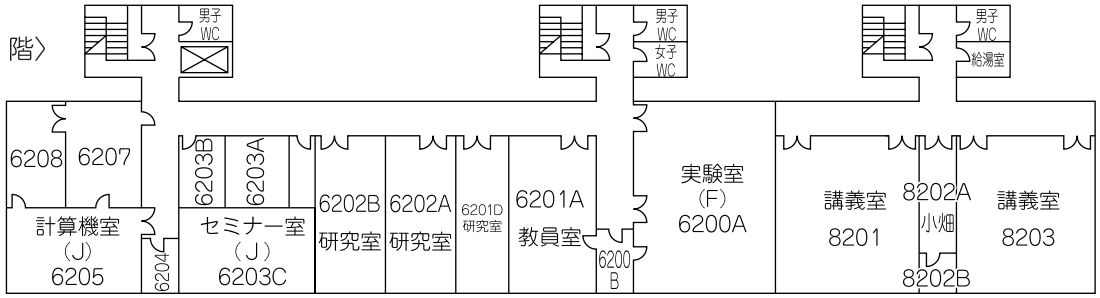


6・8号館

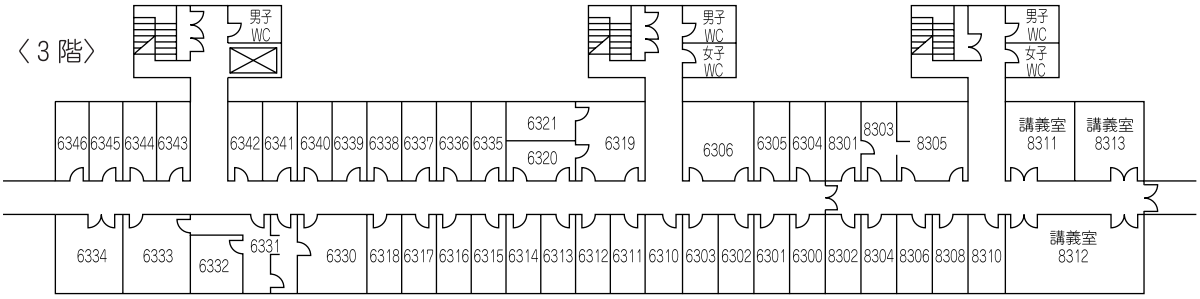
〈1階〉



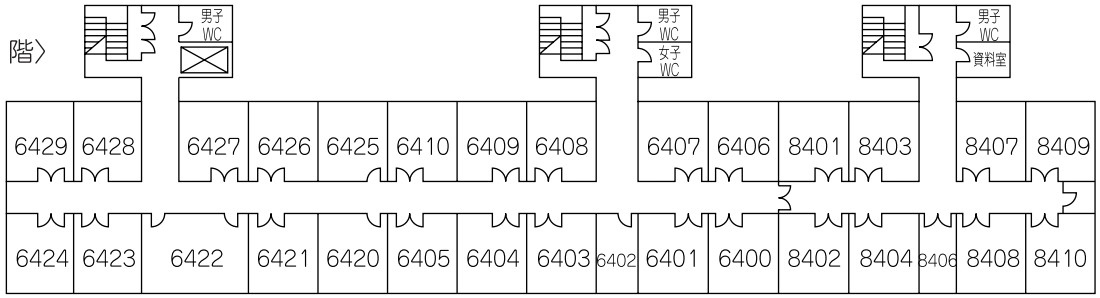
〈2階〉



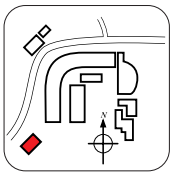
〈3階〉



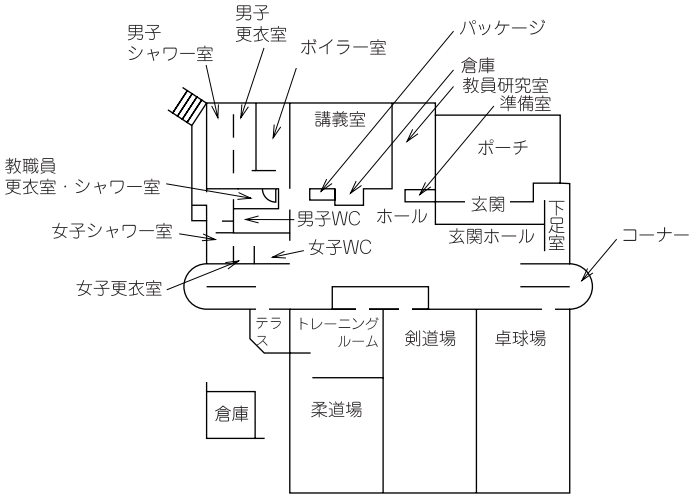
〈4階〉



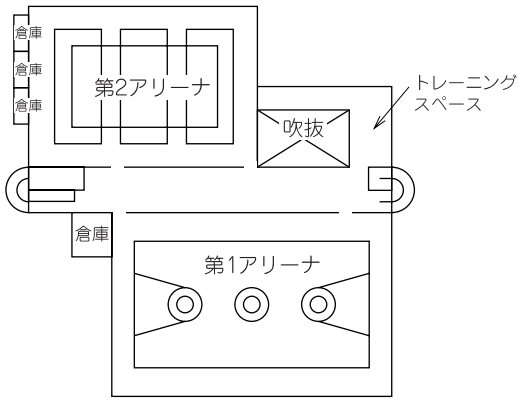
全体図



5号館（体育館）

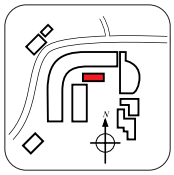


〈1階〉



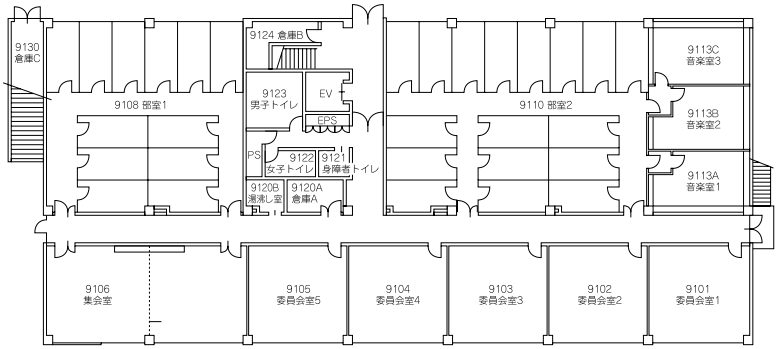
〈2階〉

全体図

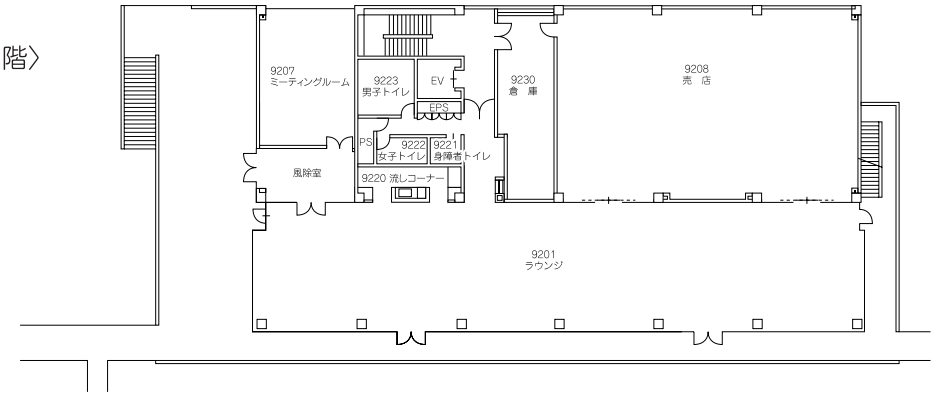


9号館

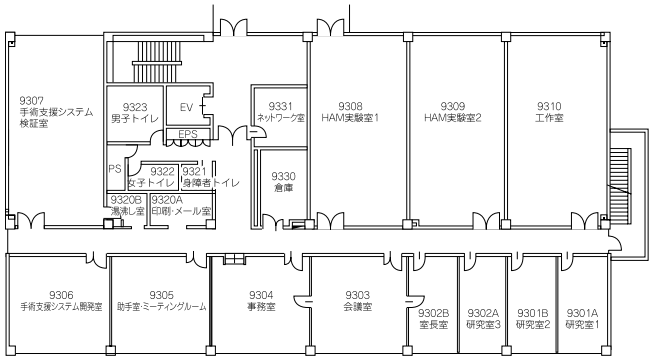
〈1階〉



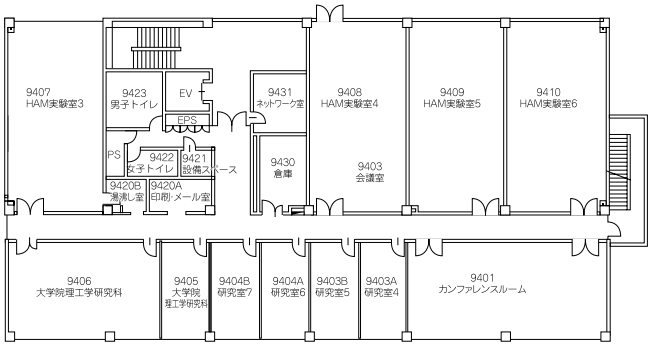
〈2階〉



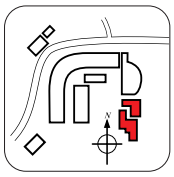
〈3階〉



〈4階〉



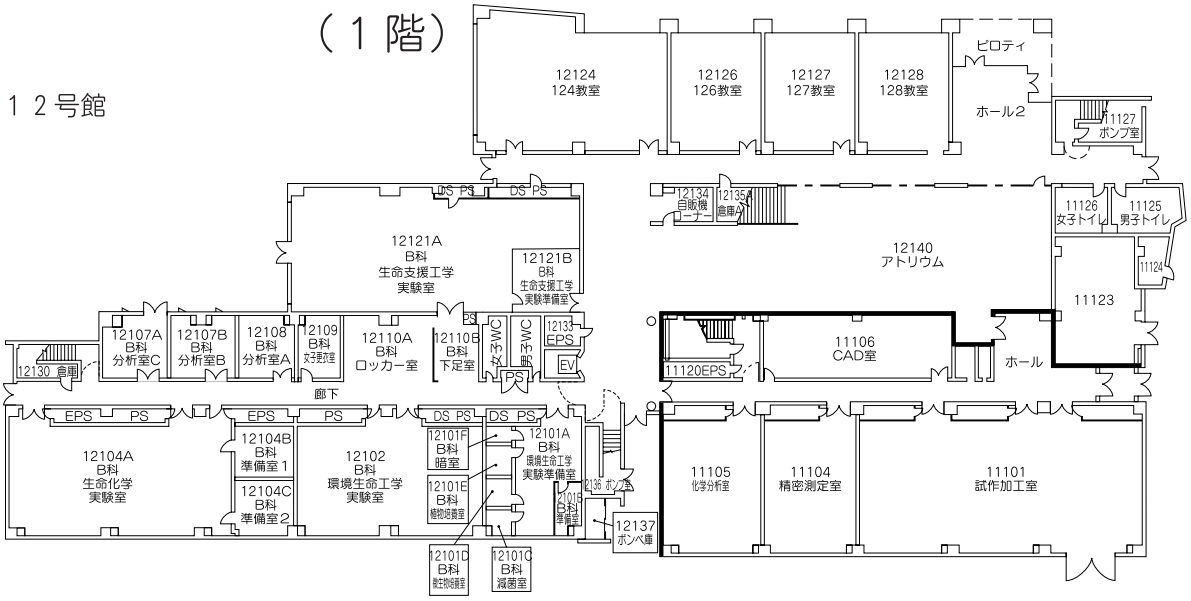
全体図



12号館
11号館（フロンティア共同研究センター）

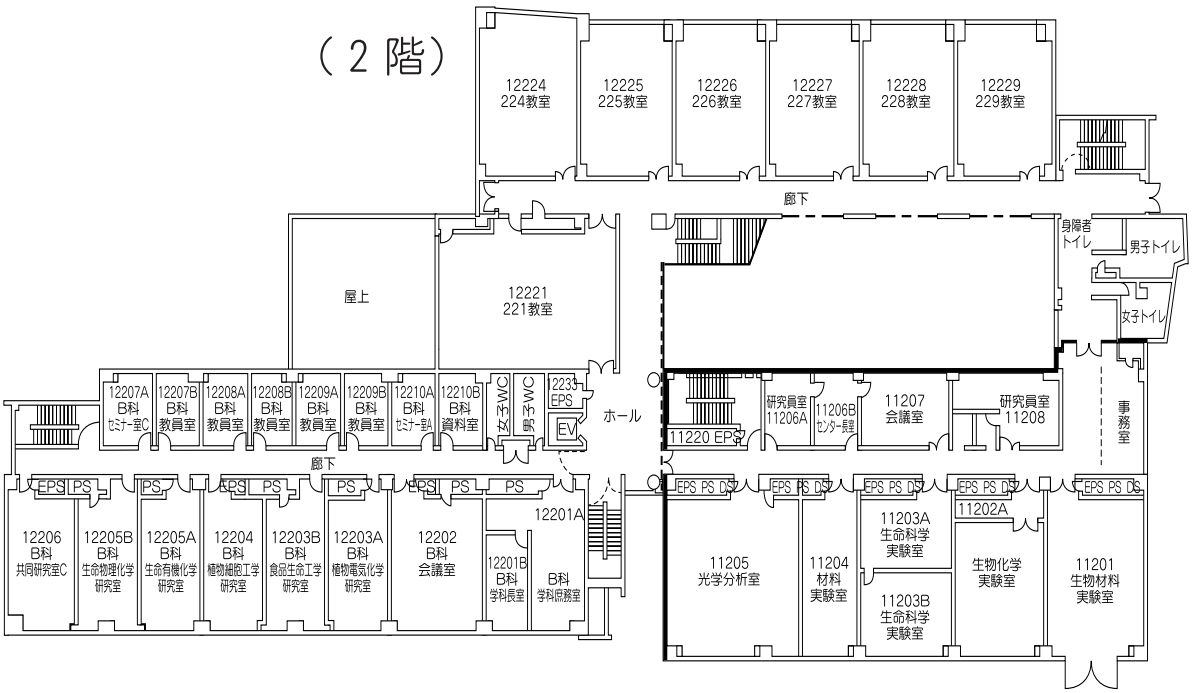
（１階）

１２号館



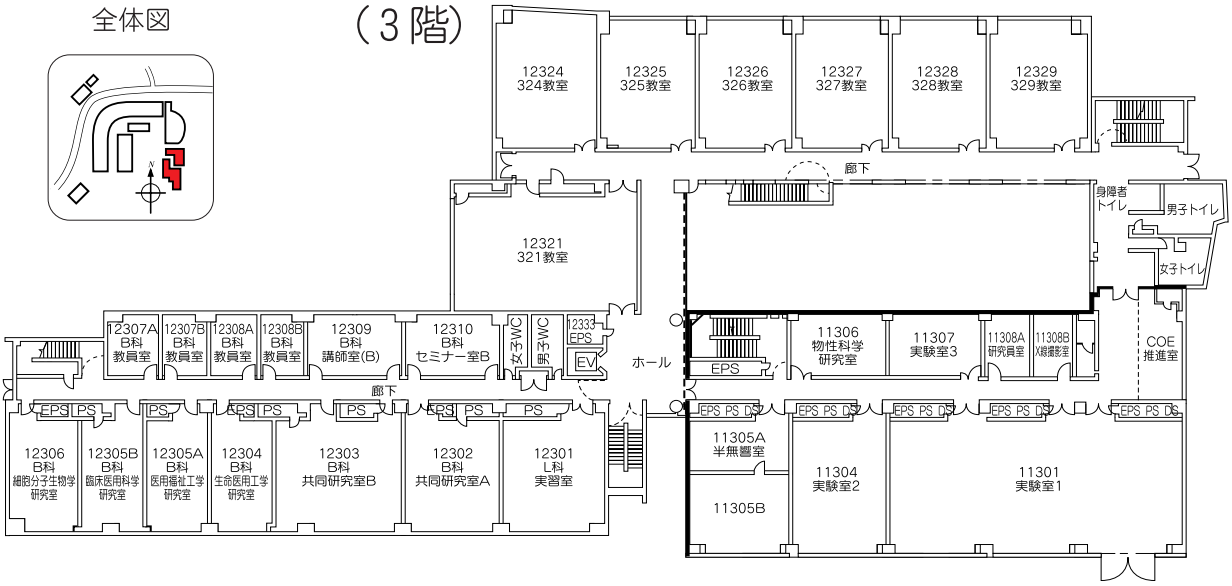
フロンティア共同研究センター

（２階）

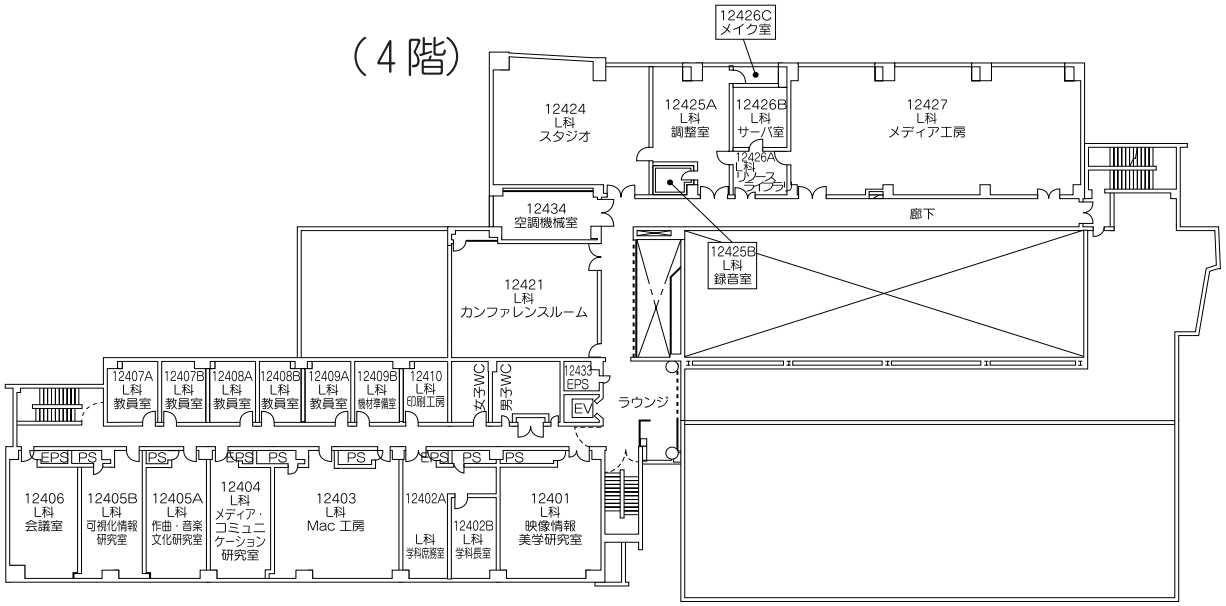


全体図

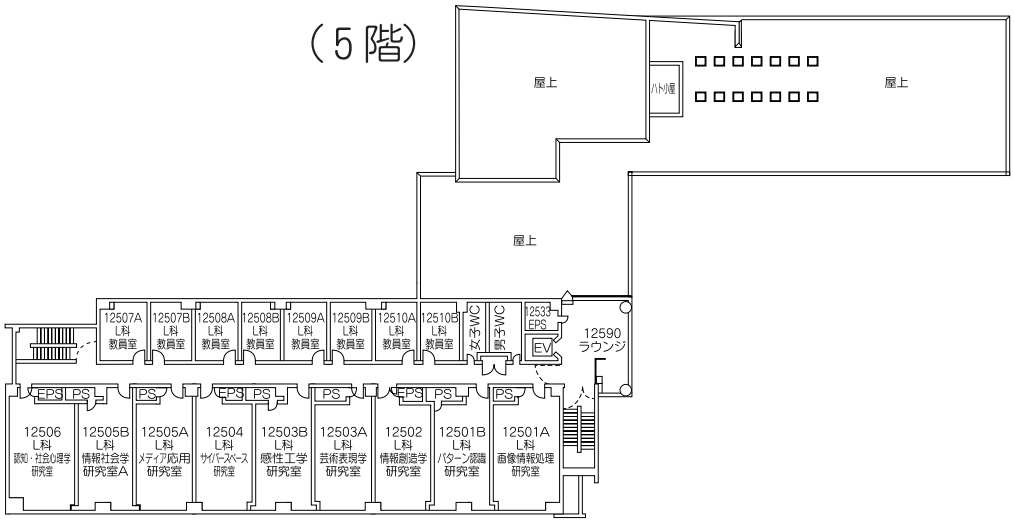
（3階）


12324 324教室
12325 325教室
12326 326教室
12327 327教室
12328 328教室
12329 329教室
廊下
12321 321教室
身障者トイレ
男子トイレ
女子トイレ
12307A B科 教員室
12307B B科 教員室
12308A B科 教員室
12308B B科 教員室
12309 B科 講師室(B)
12310 B科 セミナー室B
女子WC
男子WC
1233 EPS
EV
ホール
11306 物性科学 研究室
11307 実験室3
11308A 研究員室
11308B X線撮影室
COE 推進室
EPS
PS
DS
廊下
12306 B科 細胞分子生物学 研究室
12305B B科 臨床医用科学 研究室
12305A B科 医用福祉工学 研究室
12304 B科 生命医用工学 研究室
12303 B科 共同研究室B
12302 B科 共同研究室A
12301 L科 実習室
11305A 半無響室
11305B
11304 実験室2
11301 実験室1

（4階）

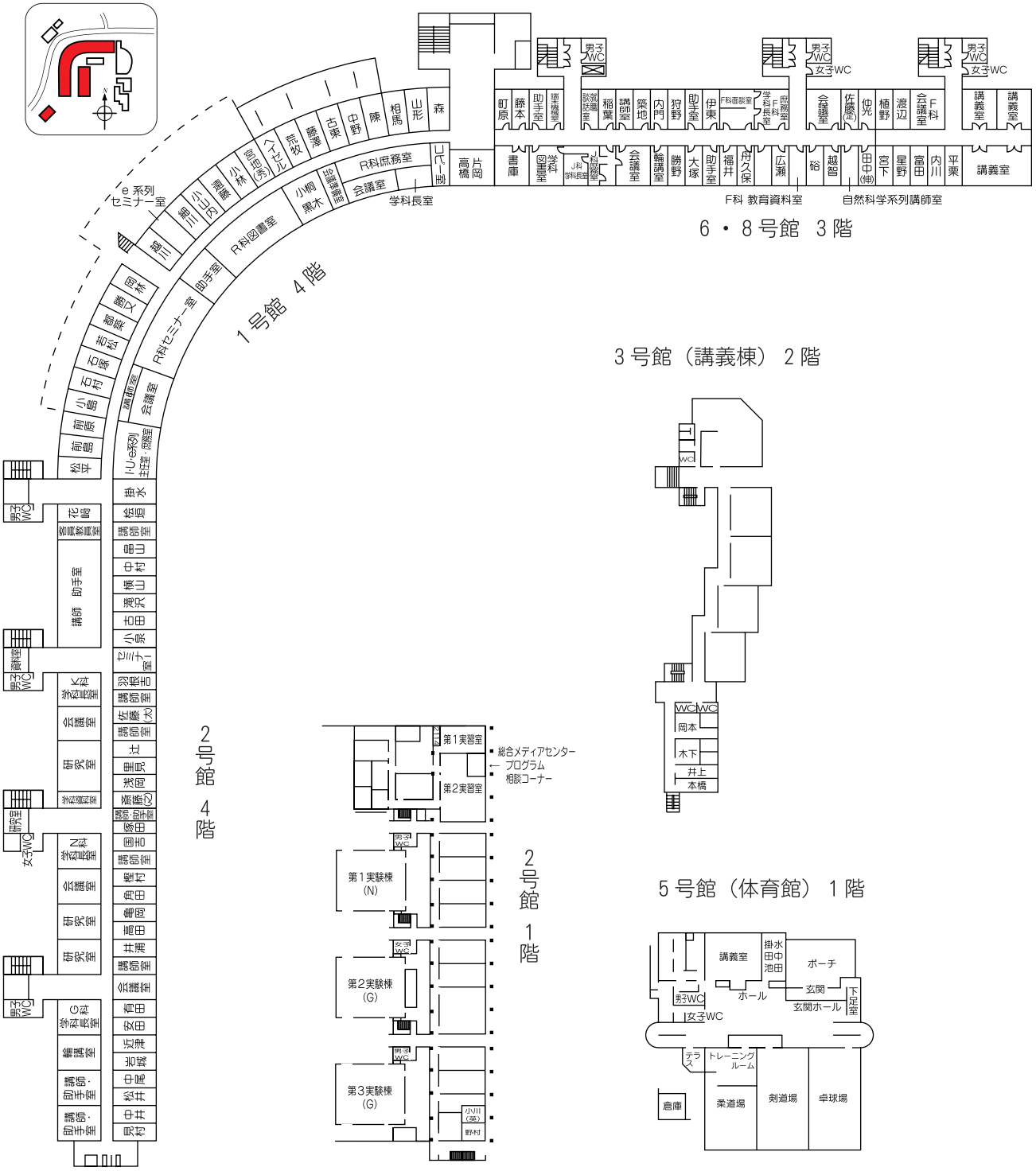

12426C メイク室
12424 L科 スタジオ
12425A L科 調整室
12426B L科 サーバ室
12427 L科 メディア工房
12426A L科 リソース ライブラリ
12434 空調機械室
廊下
12425B L科 録音室
12421 L科 カンファレンスルーム
12407A L科 教員室
12407B L科 教員室
12408A L科 教員室
12408B L科 教員室
12409A L科 教員室
12409B L科 機材準備室
12410 L科 印刷工房
女子WC
男子WC
1243 EPS
EV
ラウンジ
EPS
PS
DS
12406 L科 会議室
12405B L科 可視化情報 研究室
12405A L科 作曲・音楽 文化研究室
12404 L科 メディア・ コミュニ ケーション 研究室
12403 L科 Mac 工房
12402A L科 学科応募室
12402B L科 学科長室
12401 L科 映像情報 美学研究室

（5階）

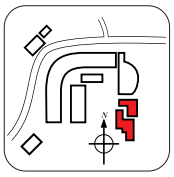

屋上
ハト小屋
屋上
屋上
12507A L科 教員室
12507B L科 教員室
12508A L科 教員室
12508B L科 教員室
12509A L科 教員室
12509B L科 教員室
12510A L科 教員室
12510B L科 教員室
女子WC
男子WC
1253 EPS
EV
12590 ラウンジ
EPS
PS
DS
12506 L科 認知・社会心理学 研究室
12505B L科 情報社会学 研究室A
12505A L科 メディア応用 研究室
12504 L科 サイバースペース 研究室
12503B L科 感性工学 研究室
12503A L科 芸術表現学 研究室
12502 L科 情報創造学 研究室
12501B L科 パターン認識 研究室
12501A L科 画像情報処理 研究室

鳩山キャンパス 教員室一覧

全体図

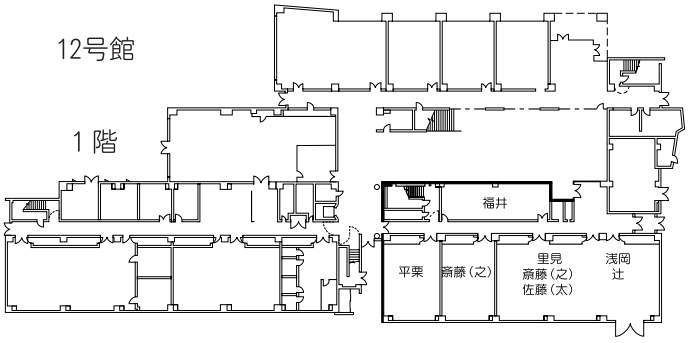


全体図



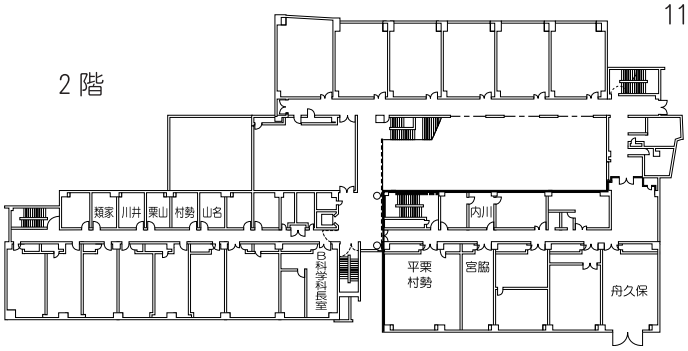
12号館

1 階

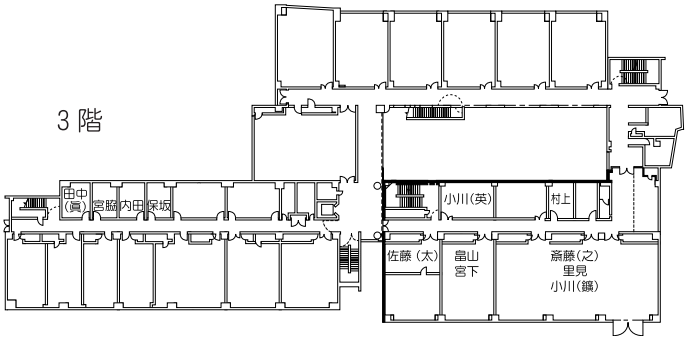


11号館（フロンティア共同研究センター）

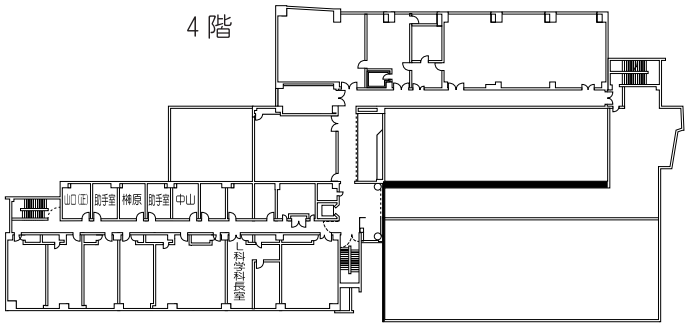
2 階



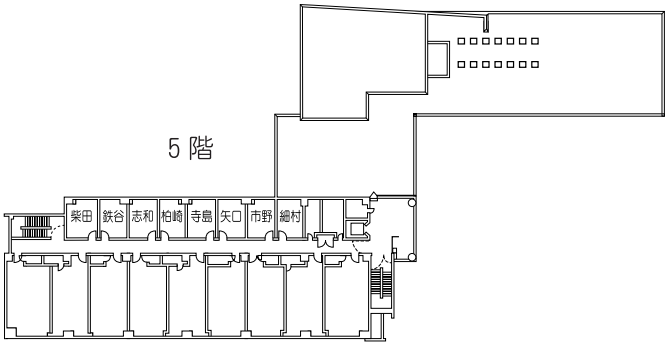
3 階



4 階



5 階



理工学部教員一覧

＊は学科長、系列主任

数理科学科

氏　　名	職　　名	室　　番　　号
古　東　　馨　＊	教　　授	1426
荒　牧　淳　一	教　　授	1428
陳　　致　中	教　　授	1424
中　野　哲　夫	教　　授	1425
森　　正　武	教　　授	1421
藤　澤　克　樹	助　教　授	1427
宮　地　秀　樹	助　教　授	1430
山　形　周　二	助　教　授	1422
小　黒　　隆	講　　師	1405B
片　岡　一　夫	講　　師	1400
高　橋　秀　慈	講　　師	1400
アヒニヤズ・ヌルメメット	講　　師	1405B
山　岸　日　出	講　　師	1406B
名古屋　孝　幸	助　　手	1406B
田　澤　義　彦	教　　授	0607（千葉キャンパス）
有　田　友　和	非常勤講師	
神　永　正　博	非常勤講師	
桐　木　　紳	非常勤講師	
栗　原　文　香	非常勤講師	
佐　藤　達　雄	非常勤講師	
中　島　禎　志	非常勤講師	
相　馬　輝　彦	非常勤講師	
松　本　文　士	非常勤助手	
メメット・マイヌル	非常勤助手	

情報科学科

氏　　名	職　　名	室　　番　　号
勝　野　裕　文　＊	教　　授	6317
稲　葉　　博	教　　授	6341
内　門　　茂	教　　授	6338

氏　　名	職　　名	室　番　号
大　塚　尚　久	教　　授	6316
狩　野　弘　之	教　　授	6337
町　原　文　明	教　　授	6346
和　田　成　夫	教　　授	0809Ａ（神田キャンパス）
築　地　立　家	助　教　授	6339
藤　本　　衡	助　教　授	6345
浅　野　泰　仁	講　　師	6204
徳　田　太　郎	講　　師	6315
藤　岡　覚　之	講　　師	6336
小野寺　　薫	助　　手	6344
カイラン・アリムカン	助　　手	6336
出　澤　正　徳	非常勤講師	
近　谷　英　昭	非常勤講師	
早　勢　　實	非常勤講師	
宮　寺　庸　造	非常勤講師	
山　口　陽　子	非常勤講師	
青　野　裕　一	非常勤助手	

情報システム工学科

氏　　名	職　　名	室　番　号
花　﨑　　泉　＊	教　　授	241A
小　泉　寿　男	教　　授	2418
滝　沢　　誠	教　　授	2416
中　村　克　彦	教　　授	2414
畠　山　省四朗	教　　授	2413
羽根吉　寿　正	教　　授	2421
古　田　勝　久	教　　授	2417
山　田　昭　彦	特任教授	241C
桧　垣　博　章	助　教　授	2411
横　山　智　紀	助　教　授	2415
三　井　浩　康	講　　師	2322
泉　　智　紀	講　　師	241C
岩　瀬　将　美	講　　師	241C
松　浦　昭　洋	講　　師	241C

氏　　名	職　　名	室　　番　　号
林　原　尚　浩	助　　手	241C
潘　　耀　東	講　　師	（21世紀COEプロジェクト推進室）
足　立　暁　生	非常勤講師	
石　川　　潤	非常勤講師	
佐　藤　達　雄	非常勤講師	
遠　山　宏　明	非常勤講師	
藤　村　　茂	非常勤講師	

建設環境工学科

氏　　名	職　　名	室　　番　　号
有　田　正　光　＊	教　　授	2441
井　浦　雅　司	教　　授	2437
近　津　博　文	教　　授	2443
中　井　正　則	教　　授	2447
中　尾　雅　躬	教　　授	2445
松　井　邦　人	教　　授	2446
見　村　博　明	教　　授	2448
安　田　　進	教　　授	2442
岩　城　和　哉	助　教　授	2444
高　田　和　幸	助　教　授	2436
石　澤　俊　希	助　　手	244D
武　村　　武	助　　手	244D
根　本　修　平	助　　手	244C
滋　賀　秀　實	教　　授	1407Ｂ（神田キャンパス）
井　上　武　美	非常勤講師	
内　田　　明	非常勤講師	
大　嶋　孝　二	非常勤講師	
日　鼻　宏　一	非常勤講師	
牛　島　　栄	非常勤講師	
清　野　聡　子	非常勤講師	
佐　藤　正　行	非常勤講師	
志　村　　勉	非常勤講師	
日　野　幹　雄	非常勤講師	
國　井　洋　一	非常勤講師	

氏　　名	職　　名	室　番　号
吉　本　國　春	非常勤講師	
坂　口　裕　志	非常勤講師	
吉　田　喜　忠	非常勤講師	
松　井　芳　彦	非常勤講師	
高　瀬　忠　重	非常勤講師	
藤　井　弘　義	非常勤講師	

知能機械工学科

氏　　名	職　　名	室　番　号
浅　岡　照　夫　＊	教　　授	2427
樫　村　幸　辰	教　　授	2433
亀　岡　利　行	教　　授	2435
国　吉　　光	教　　授	2431
斎　藤　之　男	教　　授	2428
佐　藤　太　一	教　　授	2423
里　見　忠　篤	教　　授	2426
辻　　裕　一	教　　授	2425
角　田　興　俊	特任教授	2434
佐　野　彰　一	客員教授	
金　竹　隆　志	講　　師	2430
小　平　和　仙	助　　手	2132
塚　田　敦　史	助　　手	2430
音　琴　　浩	助　　手	11308B（フロンティア共同研究センター）
貞　弘　晃　宜	助　　手	（21世紀CEOプロジェクト推進室）
池　辺　一　彦	非常勤講師	
井　上　　健	非常勤講師	
小　川　鑛　一	非常勤講師	
小　田　高　広	非常勤講師	
佐　藤　誠四郎	非常勤講師	
佐　藤　達　雄	非常勤講師	
新　堀　克　美	非常勤講師	
花　岡　一　男	非常勤講師	
福　島　　博	非常勤講師	
宮　地　敏　雄	非常勤講師	

氏　　名	職　　名	室　番　号
諸　隈　　肇	非常勤講師	
矢　野　　宏	非常勤講師	
鈴　木　源　治	非常勤助手	

電子情報工学科

氏　　名	職　　名	室　番　号
星　野　　洋　＊	教　　授	8304
内　川　義　則	教　　授	8308
富　田　英　雄	教　　授	8306
平　栗　健　二	教　　授	8310
広　瀬　数　秀	教　　授	6311
福　井　康　裕	教　　授	6314
舟久保　昭　夫	教　　授	6313
宮　下　　收	教　　授	8302
渡　辺　博　巳	特任教授	8303
竹　内　精　一	客員教授	
外　村　　彰	客員教授	
植　野　彰　規	助　教　授	8301
大　越　康　晴	助　　手	6201Ａ
尾　関　和　秀	助　　手	11301（フロンティア共同研究センター）
金　　鳳　洙	助　　手	6201A
佐　藤　慶　介	助　　手	6201A
塚　本　壮　輔	助　　手	6201A
矢　口　俊　之	助　　手	6201A
我　妻　　洋	非常勤講師	
井　上　浩三郎	非常勤講師	
黒　井　恒　男	非常勤講師	
佐　藤　達　雄	非常勤講師	
鳥谷部　　達	非常勤講師	
中　島　義　賢	非常勤講師	
中　谷　隆　之	非常勤講師	
福　島　　博	非常勤講師	
松　元　明　弘	非常勤講師	

生命工学科

氏　　名	職　　名	室　番　号
内　田　干　城　＊	教　　授	12308A
川　井　　悟	教　　授	12208A
栗　山　　昭	教　　授	12208B
田　中　眞　人	教　　授	12307A
保　坂　栄　弘	教　　授	12308B
宮　脇　富士夫	教　　授	12307B
村　勢　則　郎	教　　授	12209A
山　名　昌　男	教　　授	12209B
類　家　正　稔	助　教　授	12207B
長　原　礼　宗	講　　師	12206
村　松　和　明	講　　師	12309
松　永　直　樹	助　　手	12309
大　貫　裕　之	非常勤講師	
清　野　清　子	非常勤講師	
畠　山　　晋	非常勤講師	
馬　場　　凉	非常勤講師	
藤　澤　英　幸	非常勤講師	

情報社会学科

氏　　名	職　　名	室　番　号
寺　島　悦　恩　＊	教　　授	12509A
市　野　　学	教　　授	12510A
志　和　新　一	教　　授	12508A
鉄　谷　信　二	教　　授	12507B
細　村　　宰	教　　授	12510B
山　口　正　二	教　　授	12407A
柏　崎　尚　也	助　教　授	12508B
柴　田　良　二	助　教　授	12507A
矢　口　博　之	助　教　授	12509B
榊　原　洋　子	講　　師	12408A
中　山　　洋	講　　師	12409A
柴　山　拓　郎	助　　手	12407Ｂ
師　井　聡　子	助　　手	12408Ｂ

氏　　名	職　　名	室　番　号
新　井　啓　之	非常勤講師	
市　川　美　知	非常勤講師	
大　隅　　昇	非常勤講師	
落　合　　良	非常勤講師	
志　水　賢　二	非常勤講師	
白　井　達　郎	非常勤講師	
菅　原　昌　平	非常勤講師	
武　田　博　直	非常勤講師	
遠　山　宏　明	非常勤講師	
美　頭　千不美	非常勤講師	
森　住　俊　美	非常勤講師	

一般教養系列

氏　　名	職　　名	室　番　号
若　松　征　男　＊	教　　授	1440
石　塚　正　英	教　　授	1441
石　村　多　門	教　　授	1442
掛　水　　隆	教　　授	2410
勝　又　洋　子	教　　授	1438
小　島　　勇	教　　授	1443
都　築　廣　巳	教　　授	1439
細　川　正　昭	教　　授	1434
前　島　康　男	教　　授	1445
岡　林　　茂	助　教　授	1437
小　林　春　美	助　教　授	1431
田　中　伸　明	助　教　授	6300
前　原　健　二	助　教　授	1444
池　田　瑞　音	助　　手	5104A
Gilles Delmaire	非常勤講師	
池　田　　旭	非常勤講師	
岩　田　憲　和	非常勤講師	
工　藤　　豊	非常勤講師	
黒　田　俊　郎	非常勤講師	
河　野　次　郎	非常勤講師	

氏　　名	職　　名	室　番　号
小久保　孝　芳	非常勤講師	
小　原　政　敏	非常勤講師	
酒　井　ひろみ	非常勤講師	
謝　　韞	非常勤講師	
杉　山　精　一	非常勤講師	
高　橋　喜　郎	非常勤講師	
濁　川　孝　志	非常勤講師	
林　　直　樹	非常勤講師	
星　野　時　二	非常勤講師	
本　多　満　正	非常勤講師	
増　島　高　敬	非常勤講師	
増　田　晴　美	非常勤講師	
水　戸　克　典	非常勤講師	
美　頭　千不美	非常勤講師	
林　　鳴　宇	非常勤講師	
呂　　小　燕	非常勤講師	
天　畠　一　郎	非常勤助手	
新　井　誠　至	非常勤助手	
塚　原　謙太郎	非常勤助手	
福　富　信　也	非常勤助手	
長　門　智　史	非常勤助手	

自然科学系列

氏　　名	職　　名	室　番　号
佐　藤　定　夫　＊	教　　授	6305
岡　本　博　司	教　　授	3261B
小　川　英　生	教　　授	2142B
木　下　　彬	教　　授	3262
野　村　浩　康	教　　授	2142D
硲　　文　夫	教　　授	6303
井　上　　真	助　教　授	3263A
越　智　禎　宏	助　教　授	6302
小　畑　修　二	助　教　授	8202
仲　光　邦　昭	助　教　授	6304

氏　　名	職　　名	室　番　号
本　橋　　章	助　教　授	3263B
山　室　憲　子	助　教　授	3165
内　藤　政　雄	講　　師	3365
向　山　義　治	講　　師	3165
細　田　真妃子	助　　手	11308A（フロンティア共同研究センター）
勝　　忠　義	非常勤講師	
勝　本　正　之	非常勤講師	
河　津　　璋	非常勤講師	
谷　井　一　者	非常勤講師	
中　島　禎　志	非常勤講師	
村　上　幸　夫	非常勤講師	
村　山　美佐緒	非常勤講師	
本　山　美　穂	非常勤講師	
山　田　祐　理	非常勤講師	

英語教育系列

氏　　名	職　　名	室　番　号
越　川　邦　夫　＊	教　　授	1436
遠　藤　晶　子	助　教　授	1432
小山内　　大	助　教　授	1433
松　平　圭　一	助　教　授	1446
Kenneth Hazel	講　　師	1429
Blair Thomson	英語インストラクター	8101C
Sean Joseph Kennedy	英語インストラクター	8101C
Dean Culell	英語インストラクター	8101C
多　田　優　子	英語インストラクター	8101C
中　村　友　紀	英語インストラクター	8101C
福　島　真　紀	英語インストラクター	8101C
藤　井　康　成	英語インストラクター	8101C

第 9 章

学則および諸規定

- 大学学則
- 学生生活についての規程
- 試験に関する細則
- 特別奨学生規程
- 理工学部学生の車両通学に関する取扱細則

東京電機大学学則

第１章　　総　　則

（目的・使命）

第１条　本大学は、学校教育法による最高の教育機関として、民主的社会人としての教養を涵養するとともに、深く専門の学芸を教授・研究し、その知的道徳的能力を展開させ、もって優秀な人材を養成することを目的とする。

（自己評価等）

第２条　本大学においては、教育研究水準の向上を図り、大学の目的および社会的使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表するものとする。

２　前項の点検および評価は、その趣旨に則して適切に項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。

３　本大学は、第１項の点検および評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。

４　本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第２章　　組　　織

（学部・学科の組織）

第３条　本大学に、次の学部および学科を置く。

工学部第一部

電気工学科

電子工学科

環境物質化学科

機械工学科

機械情報工学科

情報通信工学科

情報メディア学科

建築学科

工学部第二部

電気工学科

電子工学科

機械工学科

情報通信工学科

理工学部

数理科学科

情報科学科

情報システム工学科

建設環境工学科

知能機械工学科

電子情報工学科

生命工学科

情報社会学科

情報環境学部

情報環境学科

2　前項の各学科の入学定員、編入学定員および収容定員は、別表第1とする。

（大学院）

第4条　本大学に、大学院を置く。大学院に関する規則は別に定める。

（総合メディアセンター・研究所等）

第5条　本大学に、総合メディアセンターを置く。

2　本大学に、次の研究所を置く。

総合研究所、先端工学研究所（ハイテク・リサーチ・センターを含む）、建設技術研究所、フロンティア共同研究センター

3　前2項のほか、実習工場、その他教育・研究に必要な施設を置く。

第3章　運営の機関および教職員

（学長・学部長等）

第6条　本大学に、学長をおく。学長は、校務をつかさどり、大学を代表する。学長の選出に関する規則は、別に定める。

2　各学部に、学部長をおく。学部長は当該学部に関する学務をつかさどる。

3　前2項のほか、教育・研究の運営上必要な職をおく。

（職　員）

第7条　教育職員として、教授、助教授、講師、および助手をおく。

2　事務職員、技術職員、および必要な職員をおく。

（学部教授会）

第8条　各学部に、教授会を置く。

2　教授会は、その学部の教授をもって組織する。但し、必要があるときは、その学部の助教授および専任の講師を、教授会に出席させることができる。

3　教授会は、学部長が招集する。

（連合・合同教授会）

第9条　工学部第一部および工学部第二部については、その連合教授会をひらくことができる。

2　学長は、全学部の合同教授会を招集することができる。

（審議事項）

第10条　教授会は、その学部に関する次の事項を審議する。

①　学生の入学・進級・卒業・休学・退学等に関する事項

②　学位授与に関する事項

③　教職課程および授業に関する事項

④　履修・試験・成績等に関する事項

⑤　学生の厚生補導および賞罰に関する事項

⑥　学則の改正に関する事項

⑦　学部長の推挙に関する事項

⑧　学科長および系列主任の選定に関する事項

⑨　教授、助教授、講師、および助手の人事に関する事項

⑩　学部長が諮問した事項

⑪　その他教育・研究に関する事項

2　教授会は、大学全般にわたるもしくは各学部に共通する次の事項を審議する。

但し、必要があるときは、合同教授会においてこれを審議する。

①　学長の推挙に関する事項

②　学長室長、入試センター長、キャリア支援センター長、研究所長および総合メディア

センター長の選定に関する事項

③　学長が諮問した事項

④　その他の重要な事項

第４章　　修学期間および授業

（修業年限）

第11条　修業年限は、４年とする。

（最長在学年限）

第12条　最長在学年限は、８年とする。但し、編入学、転入学、および再入学した者の最長在学年限は、その者の在学すべき年数の２倍に相当する年数とする。

（学年・学期・授業期間）

第13条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終る。

２　学年を、次の２つの学期に分ける。

①　工学部第一部、工学部第二部、理工学部

前学期　４月１日から９月15日まで

後学期　９月16日から翌年３月31日まで

②　情報環境学部

前学期　４月１日から８月31日まで

後学期　９月１日から翌年３月31日まで

３　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

４　各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

（休業日）

第14条　休業日は、次の通りとする。

日　曜　日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

創立記念日　９月11日

夏季休業

①　工学部第一部、工学部第二部、理工学部

７月26日から９月15まで

② 情報環境学部

7月10日から8月31まで

冬季休業　12月21日から翌年1月7日まで

春季休業　3月21日から4月3日まで

但し、必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。

2　休業中でも、特別の必要があるときは、授業を行うことがある。

（授業の時）

第15条　工学部第一部、理工学部および情報環境学部は昼間に、工学部第二部は夜間に、授業を行う。

第5章　教育課程および単位

（教育課程の編成方針）

第16条　本大学においては、学部および学科または課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2　教育課程の編成に当たっては、当該学部および学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮する。

3　本大学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究の実施に努めるものとする。

（授業科目）

第17条　授業科目の区分は、共通教育科目、専門教育科目および教職に関する科目とし、それぞれ別表第3－1、第3－2のとおり開講する。

2　各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、各年次に配当して編成する。ただし、自由科目の単位数は、卒業に必要な単位数に算入しない。

3　共通教育科目として、特定の主題について2以上の科学の分野にわたる内容を総合した科目を設けることができる。

（履修の要件）

第18条　工学部第一部、工学部第二部、理工学部および情報環境学部の各々における履修の要件については、それぞれ別表第2－1、第2－2、第2－3および第2－4のとおりとする。

2　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき

単位数について、１年間または１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、別に定める。

3　所定の単位を優れた成績をもって修得した学生について、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認定することについては、別に定める。

（他学部等の科目履修）

第19条　本大学の学生が所属する学部の他学科または他学部の学科において履修し、修得した授業科目の単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、当該学生が所属する学科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項により修得したものとみなすことのできる科目および単位数等は、各学部において定めるものとする。

（教員の免許状授与の所要の資格の取得）

第20条　教育職員の免許を取得しようとする者は、教職に関する科目および必要な授業科目を修得しなければならない。

2　本大学において取得できる免許状の種類ならびに教職に関する科目および必要な授業科目は別表第４とする。

（単位の算定基準）

第21条　各授業科目の単位数は、各学部教授会において定めるものとする。

2　授業科目の単位数の算定に当たっては、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、原則として、授業の方法に応じ、次のとおり単位数を計算するものとする。

①　講義および演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって１単位とする。

②　実験、実習、製図、および実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって１単位とする。

3　前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることができる。

第６章　　試験、成績、進級、卒業および学位授与

（履修届）

第22条　学生は、履修する授業科目につき、指定の期限までに、履修届を提出しなければならない。

（試　験）

第23条　授業科目の履修終了の認定のため、試験を行う。但し、授業科目によっては、平常の成績をもって試験に代えることができる。

（試験の方法・時期）

第24条　試験は、筆記、口述、または論文審査等の方法により行う。

2　試験の時期は、学期末とする。但し、必要があるときは、その他の時期においても行うことができる。

（受験資格）

第25条　学生は、本学則、およびこれに基づいて定められた規則に従って履修した授業科目についてのみ、試験を受けることができる。

（成績評価・単位認定）

第26条　試験の成績は、S、A、B、C、およびDとし、S、A、B、およびCを合格とし、Dを不合格とする。

2　試験に合格した授業科目については、その授業科目について定められた単位を与える。

（他の大学等における授業科目の履修等）

第27条　本大学の学生が本大学に入学した後に他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定は、本大学の学生が、外国の大学または短期大学に留学する場合および外国の大学または短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第28条　本大学の学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2　前項により与えることができる単位数は、前条第1項および第2項により本大学において修得したものとしてみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第29条　本大学の学生が本大学に入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生によって修得した単位を含む。）のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修によ

り修得したものとみなすことができる。

2　本大学の学生が本大学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における履修とみなし、単位を与えることができる。

3　前２項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合をのぞき、本大学において修得した単位以外のものについては、前々条第１項および第２項並びに前条第１項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（進　級）

第30条　本大学においては、学生の単位修得の状況を考慮し、上級学年次に進みその学年次に配当された授業科目を履修するための条件を定めることができる。

2　前項の条件をみたさない者は、原学年次に留年する。

（卒　業）

第31条　本大学は、４年以上在学し、第18条別表第２－１、第２－２、第２－３および第２－４に規定する履修の要件に従い、工学部第一部、工学部第二部、理工学部および情報環境学部において、各合計124単位以上を修得した者を卒業と認定する。

2　本大学が文部科学大臣の定めるところにより、本大学の学生として３年以上在学した者（これに準ずるものとして文部科学大臣が定めるものを含む。）で、卒業の要件として本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合の卒業の取扱いは、前項の規定にかかわらず、別に定める。

（学位の授与）

第32条　本大学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

2　前項の学士の学位に付記する名称は、次のとおりとする。

工学部第一部	電気工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	環境物質化学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械情報工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報メディア学科	学士（工学）（東京電機大学）
	建築学科	学士（工学）（東京電機大学）
工学部第二部	電気工学科	学士（工学）（東京電機大学）

	電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
理　工　学　部	数理科学科	学士（理学）（東京電機大学）
	情報科学科	学士（理学）（東京電機大学）
	情報システム工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	建設環境工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	知能機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	電子情報工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	生命工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報社会学科	学士（情報社会学）（東京電機大学）
情報環境学部	情報環境学科	学士（情報環境学）（東京電機大学）

第７章　　入学、学籍の異動、および賞罰

（入学の時期）

第33条　入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

（入学資格）

第34条　本大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

①　高等学校を卒業した者もしくは通常の課程による12年の学校教育を修了した者

②　外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

③　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

④　文部科学大臣の指定した者

⑤　大学入学資格検定規程により、文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

⑥　その他、本大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学志願手続）

第35条　入学志願者は、指定の期間内に、入学志願手続をとらなければならない。

（入学者の選考）

第36条　本大学に入学するには、入学者の選考に合格しなければならない。

2　入学者の選考は、学力検査、調査書の審査、面接、健康診断等の方法により行う。

（入学手続）

第37条　入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに、保証人連署の誓約書その他必要な書類に、別表第５に定める学費を添えて、入学の手続をしなければならない。

2　学長は、前項の入学手続を完了した者に、入学を許可する。

（保証人）

第38条　学生は、在学中、保証人がなければならない。

2　保証人は、父、母、またはその他の成年者で、独立の生計を営む者でなければならない。

3　保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

（変更の届）

第39条　学生は、氏名、本籍、住所、および保証人もしくはその住所に変更があったときは、すみやかに届出なければならない。

（編入学・転入学）

第40号　次の各号のいずれかに該当する者が、所定の手続を経て、編入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。但し、理工学部および情報環境学部においては、編入学定員の範囲内において選考のうえ、許可する。

①　大学を卒業した者

②　短期大学を卒業した者

③　高等専門学校を卒業した者

④　他の大学で１年以上を修了した者

⑤　その他法令により編入学を認められた者

2　他の大学の学生が、所定の手続を経て、転入学を願い出たときは、定員に余裕のある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

3　前２項により編入学または転入学した者の在学年数には、本条による入学以前の学校在学年数の全部または一部を算入する。

4　本大学の学生が他の大学に転入学を志望するときは、事情により許可することがある。

（転学部・転学科）

第41条　本大学の学生が転学部または転学科を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

2　転学部または転学科した者の在学年数には、前に在籍した学部または学科の在学年数の全部または一部を算入する。

（休　学）

第42条　傷病またはやむを得ない理由により、ひき続き３ケ月以上出席することができない者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、休学を願い出て、学部長の許可を受けて休学することができる。

（休学期間）

第43条　休学期間は、休学の許可を受けた年度かぎりとする。但し、特別の事情があると認めたときは、願い出により、休学期間の延長を許可することがある。

２　休学期間は、通算して３年をこえることができない。

３　休学期間は在学年数に算入しない。

４　工学部第一部、工学部第二部および理工学部においては、休学期間中における学費の納入を免除する。情報環境学部においては、休学者は学期ごとに、60,000円の在籍料を納入する。

（復　学）

第44条　休学した者は、休学の理由が消滅したときは、保証人と連署のうえ、復学を願い出て、学部長の許可を受けて、復学することができる。

２　復学の時期は、原則として、学期の始めとする。

（退　学）

第45条　傷病その他の理由により退学をしようとする者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、願い出て許可を受けなければならない。

（除　籍）

第46条　次の各号のいずれかに該当する者は除籍する。

①　最長在学年数をこえた者

②　工学部第一部および工学部第二部においては休学による場合を除き、同一学年に３回留年してなお進級できない者。また、理工学部においては休学による場合を除き、同一学年に３回留年してなお進級・卒業できない者

③　学業成績が特に不良で、改善の見込みがない者

④　第43条第２項に定める通算休学期間をこえてなお復学しない者

⑤　正当な理由がなく、無届で、ひき続き３ケ月以上欠席した者

⑥　工学部第一部、理工学部および工学部第二部において、前期分学費を７月末日までに、後期分学費を１月末日までに納入しない者。情報環境学部においては、所定の学費納入期限から起算して３ケ月以内に学費を納入しない者

（再入学）

第47条　本大学を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。但し、懲戒による退学者、および前条第１号ならびに第２号の規定により除籍された者の再入学は、許可しない。

（留　学）

第48条　本大学の学生が、外国の大学等の授業科目を履修するため、当該大学等への留学を希望し、かつ本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

２　留学期間は１年を原則とする。ただし、本学が認めた大学等への短期留学については、１年未満であっても特別に留学を認めることができる。

３　前項により認められた留学期間については、１年を限度として第11条に定める修業年数に算入することができる。

４　留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

（表　彰）

第49条　学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することができる。

（懲　戒）

第50条　本大学の規則・規程に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

２　懲戒の種類は、その情状により、退学、停学、および訓告とする。

３　前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

①　性行不良で改善の見込みがない者

②　本大学の秩序を乱し、その他学生として本分にいちじるしく反した者

第８章　　学費およびその他の費用

（学費およびその他の費用）

第51条　入学検定料、学費および科目等履修費は、別表第５とする。

２　学費とは、入学金、授業料、実験実習料、教育充実費をいう。

３　学費およびその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。

４　すでに納入した学費およびその他の費用は返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。

５　入学金を除く学費は分納することができる。

第９章　　研究生、研究員、科目等履修生および外国人留学生

（研究生・研究員）

第52条　本大学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者は、選考のうえ、研究生として受入れることができる。

2　本大学において特定の専門事項について特定の教員と協力して研究を行うことを志望する者は、選考のうえ、研究員として受入れることができる。

（科目等履修生）

第53条　本大学の学生以外の者で、本大学で開設している１または複数の授業科目の履修を希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考のうえ、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。

2　科目等履修生については、別に定める。

（外国人留学生）

第54条　外国人で第34条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、外国人特別学生として入学を許可することができる。

2　外国人で本学における特定の授業科目を聴講することを志願する者は、選考のうえ、外国人特別聴講生として入学を許可することができる。

3　外国人で本学における特定の教員について研修を志願する者は、選考のうえ、外国人特別研究生として受入れを許可することができる。

（社会人学生）

第55条　社会人で第34条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、社会人特別学生として入学を許可することができる。

2　社会人特別学生についての事項は、別に定める。

（準　用）

第56条　前３条の規定に抵触しないかぎり、本学則の他の規定は、科目等履修生、外国人留学生、および社会人学生に準用する。

第10章　　改正および雑則

（改　正）

第57条　本学則の改正は、各学部教授会の議を経なければならない。

（施行細則その他）

第58条　本学則施行についての細則その他必要な事項は別に定める。

学生生活についての規程

1　目　　的

この規程は、本学学生が平和で秩序ある学生生活を営み、教育・研究の環境を適性に保つことを目的とする。

2　学生に対する通知・連絡

学生に対する通知・連絡はすべて掲示により行う。「一週間」掲示した通知事項は、関係ある学生全員に通知されたものとして扱う。ただし、緊急の場合は学内放送又は直接連絡により行うことがある。

休講・授業時間割等についての電話による問合せには応じないから各自が注意すること。

3　学生証

(1)　学生証は入学の際交付を受け、その後は毎年 4 月前年度の学生証を更新すること。また、学生は常時学生証を携帯し、本学職員の請求があったときはいつでもこれを呈示すること。

(2)　学生証は卒業・退学・除籍・休学の場合に直ちに返納の手続を受けること。

(3)　学生証を紛失したときは直ちに諸手続を経て再交付を受けること。

4　保証人

学生は、入学手続時に父母又は、これに代わる者を保証人として届け出るものとする。保証人を変更したとき又はその住所に異動があったときは、速やかに事務部長あてに届け出ること。

5　現住所

学生は、その現住所を届け出て連絡先を明らかにし、現住所に変更があったときは、直ちに変更届を事務部長あてに提出すること。

6　学生の掲示

(1)　学内における学生の掲示は、掲示者の責任において行うものとする。ただし掲示の内容は、事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

(2)　学内における学生の掲示場所は次のとおりである。

イ　学生用掲示板

ロ　普通教室内のクラス用掲示板

(3)　掲示場所の円滑適正な運用は、学生自治会、短大学友会が行うものとする。

(4)　新入生オリエンテーション・学園祭等特別の行事の際は、前述の場所以外に特に事務部長が期間を定めて掲示を許可することがある。

期間を経過した掲示物は速やかに撤去しなければならない。

7　学生の印刷物の発行・配布

学生の印刷物は、その学生の責任において発行・配布するものとする。ただし、印刷物の内容は事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

8　学生の学内集会

(1)　学生が学内で集会しようとするときは、次の事項を記載した集会願を学生部長あて提出すること。

ア　責任者の氏名　　イ　集会の名称

ウ　集会の目的　　エ　集会の場所

オ　集会の日時　　カ　参加者の人数

キ　学外者参加団体名および人数

ク　その他

提出期限は原則として、開催日の１週間前とする。

(2)　集会において、本学の教育研究及び業務に支障をおよぼしたり、本学の近隣に対し迷惑をおよぼしたりするような行為をしてはならない。そのような行為があるときは、集会を中止させることがある。

(3)　集会は、神田キャンパスにおいては22時20分、千葉ニュータウンキャンパス並びに鳩山キャンパスにおいては21時までとする。

(4)　学内の宿泊は禁止する。ただし、特別の事情がある場合は、事前に宿泊願を事務部長に提出し、本学の許可を受けなければならない。

又、学生の宿泊に関する必要な事項は別に定める。

9　学生の学外活動

学生の団体が学外において活動を行おうとするときは、開始日の１週間前までに、所定の学外活動願を事務部長あてに提出すること。

10　団体の結成

(1)　学生が新しく団体を設立しようとするときは、所定の用紙に会則等必要事項を記入し、責任者の署名捺印のうえ事務部長あてに願い出ること。

(2)　団体の会則又は、その他の事項を変更したときは、速やかに事務部長あてに届け出ること。

(3)　学生の団体の継続については、団体の名簿を毎年５月末日現在で事務部長あてに届け出ること。

届け出のない団体は事務部長は解散したものとみなす。

付　　則

本規程は、昭和53年４月１日から施行する。

付　　則（平成15年３月18日決定）

この改正は、平成15年４月１日から施行する。

試験に関する細則

第 1 条（目的）　本細則は、大学、短期大学および大学院の学則に定める試験について、その細部のことを定める。

第 2 条（試験の種類）　試験は定期試験、中間試験、追試験とする。

2．定期試験は授業科目を履修する全学生を対象として、各学期末または学年末に定期的に行う試験をいう。

3．中間試験は授業科目を履修する全学生を対象として、学期の中間に随時行う試験をいう。

4．追試験は急病等真にやむを得ない事情により、定期試験を受けることのできなかった学生を対象として、当該授業科目を担当する教員が必要と認めたときに随時行う試験をいう。

5．第 1 項に定めるほか再試験を加えることができる。

第 3 条（再試験）　再試験は前条第 2 項に定める試験の成績不良のため履修完了が認定されない学生を対象として、当該科目を担当した教員が特に必要と認めたとき行う試験をいい、その成績をもって履修完了の認定にあてることができる。

第 4 条（受験資格）　定期試験を受験するには、定められた期間に当該科目に対し履修届を提出し、かつ、その授業に常時出席していなければならない。

2．定期試験を受験するには、前項のほか、その期までの学費を納入していなければならない。

3．追試験は定期試験の受験資格をみたし、かつ、定期試験期間終了後 3 日以内に試験欠席届を提出した学生につき考慮するものとする。

第 5 条（追・再試験の手続）　追試験の受験を希望する者は、学部事務部の指定する期間内に所定の受験料を添えて受験申告書を学部事務部に提出し、受験票の交付を受けなければならない。

2．特に指定して行われる再試験においては、前項に定める手続をしなければならない。

第 6 条（学生証・受験票の提示）　定期試験の受験者は定刻迄に試験室に入り、つねに学生

証を机の上に置かなければならない。

2．追試験又は再試験の受験者は、前項によるほか、受験票を机の上に置かなければならない。

第7条（遅刻及び退室）　受験者の遅刻は、第1時限目に行う科目に限り試験開始後30分以内は認める。ただし試験時間は延長しない。

2．第2時限目以降に行う科目については遅刻は認めない。ただし特別の事情のある場合に限り学部長（又はその代行者）の判断により受験許可書の交付を受けて受験することができる。

3．受験者の退室は、試験開始後40分を経過してから試験終了10分前迄許可する。

第8条（試験監督者）　試験監督者は、当該試験時限中試験実施について一切の権限を有する。

2．試験監督者は、前項の権限に基づいて処置した事項について、試験終了後直ちに学部長（又はその代行者）に報告しなければならない。

3．試験監督者については、前2項に定めるもののほか、試験監督規程として別に定める。

第9条（不正行為）　試験監督者は、試験中に不正行為を行つた学生があるときには、その答案を取上げた上退室を命ずるものとする。

2．試験監督者は、試験中に受験態度不良若しくは試験監督者の注意に違反した学生があるときには、その答案を取り上げた上退室を命ずることができる。

3．前2項の場合には、試験監督者はその試験終了後、直ちに学部長（又はその代行者）に事情を報告するものとする。

第10条（不正行為に対する処置）　前条の場合には、学部長は教授会の議を経て、当該学生に対し次の各号のうち、いずれかの処置を行い、これを公示し、かつ、その学生の保証人に通知するものとする。

（1）当該試験の属する定期試験の一部又は全部を無効とする。

（2）当該試験を無効とする。

付　　則

1．本細則は、昭和56年12月22日に改正し、同日から施行する。

2．本細則は、昭和57年12月15日に改正し、同日から施行する。

3．本細則は、平成３年２月28日に改正し、平成３年４月１日から施行する。

4．本細則第７条第２項、第８条第２項、第９条第３項及び第10条の学部長は大学院研究科においては研究科委員長と読替え、短期大学においては短期大学長と読替えるものとする。

5．短期大学における再試験は、原則として７月下旬及び12月下旬に行う。７月の再試験は後期配当授業科目について行い、12月の再試験は前期配当授業科目について行う。この場合においては第５条第２項及び第６条第２項を適用する。

6．工学部第二部においては、昭和58年に限り、付則４の短期大学を工学部第二部とよみかえて適用する。

7．理工学部においては再試験は行なわない。

8．本細則第５条第１項の学部事務部は、情報環境学部については千葉事務室と読み替えるものとする。

特別奨学生規程

第１条（目　的）　この規程は、学校法人東京電機大学が設置する学校の学生及び生徒であって、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ学費の支弁が困難な者に対して奨学金を給付することを目的とする。

第２条（基　金）　この奨学金の基金は次の各号の基金をもって構成する。

①　桜井虎三郎氏の遺志により桜井家から本法人に寄贈された基金

②　その他の基金

第３条（奨学金）　奨学金は、前条の基金から生ずる果実をもって充当する。

２．奨学金の各校への配分は当該年度の予算に計上して行う。

第４条（給付額）　奨学金の給付額は各学校の学則に定める当該年度の学費の一部もしくは全額とする。

２．給付金は学費に充当しなければならない。

第５条（奨学生の選考、決定、採用等）　奨学生は、各学校ごとに設置された奨学生選考委員会の選考を経て、学校の長がこれを決定し、採用する。

２．前項による奨学生を採用した時は、学校の長は遅滞なく理事長宛（総務部長経由）に文書をもって報告しなければならない。

第６条（奨学生の資格の喪失）　奨学生が次の各号のいずれかに該当し、奨学生として不適当と認められるにいたった時は、その資格を失うものとする。

①　学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。

②　成績不良もしくは素行不良のとき。

③　学校への提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

２．奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金を返済させることができる。

第 7 条（事　務）　奨学生に係る事務は各学校の奨学金担当部署が行う。

2．前項の他に、本規程実施についての必要な事務は総務部総務担当において行う。

第 8 条（実　施）　この規程の実施についての必要事項は別に定める。

付　　則

1．この規程は、昭和54年 4 月 1 日から施行する。（昭和54年 3 月13日決定）

2．この規程の施行と同時に桜井奨学金規程（昭和36年 3 月14日施行）、東京電機大学奨学生規程（昭和26年 4 月 1 日施行）、東京電機大学特別奨学生規程（昭和38年12月施行）は廃止する。

3．この規程の施行されたときに、前 2 項の規程による奨学生である者は、卒業までなお旧規程の適用を受けるものとする。

理工学部学生の車両通学に関する取扱細則

（目　的）

第１条　この取扱細則は、理工学部学生の車両通学および鳩山校地内において学生が運転する車両の駐車に関し必要な事項を定める。

（車両の定義）

第２条　この取扱細則でいう車両とは、道路交通法に基づく運転免許を要する車両をいう。

（車両通学の許可願）

第３条　車両を運転して通学を願いでる者（以下「車両通学者」という。）は別紙により必要事項記入の上理工学部長あてに申請しなければならない。

（許　可）

第４条　理工学部長は申請があった者の内で、次の条件を具備若しくは合致している場合は駐車許可証（以下「許可証」という。）を発行する。許可証の発行を受けていない者の車両による通学は認めない。

１．公共の交通機関を利用して通学することが客観的判断に照らして著しく困難な者。

２．原則として運転免許証取得後6ヶ月以上を経過していること。

３．自動車損害賠償責任保険及び次の自動車任意保険の適用を受けられる者。

	対　人　賠　償	対　物　賠　償	搭 乗 者 賠 償
四　　輪	7,000万円以上	100万円以上	500万円以上
自動二輪	5,000万円以上	100万円以上	200万円以上

４．道路運送車両法による1年毎の定期点検整備を受けていること。

（許可証の有効期間）

第 5 条　許可証の有効期間は当該年度内とする。

（順守事項）

第 6 条　車両通学者は、道路交通法等の関係法令及び学内諸規定を順守し、安全運転の励行に努めなければならない。

（許可の取消しおよび違反者の処置）

第 7 条　車両通学者が道路交通法等の関係法令及び学内諸規定に違反した場合並びに第 4 条の条件を具備若しくは合致しない場合は、理工学部長は車両通学許可を取消すことができる。

2．前項における違反者に対しては、次のとおり段階的に処置することとする。

①本人に対する警告

②前号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、学部長より厳重に訓戒する。

③第 2 号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、車両通学許可を取消すこととする。

3．前項第 3 号により車両通学許可を取消された者が車両で通学した場合、学則第50条に則り、停学または退学処分とすることができる。

（事故処理）

第 8 条　車両通学者が運転中に起こした事故について大学は一切責任を負わない。

2．鳩山校地内車両を駐車している間に生じた破損、盗難等の事故について大学はその補償を行わない。

3．前各項の事故が発生したときは当事者はその内容を理工学部事務部（学生厚生担当）に連絡しなければならない。

（安全運転講習会）

第９条　大学は車両通学者を対象にした安全運転講習会を必要に応じて実施することとする。

２．車両通学者は前項の講習会に出席しなければならない。理由なく欠席した者には駐車許可を取消すことがある。

（その他の事項）

第10条　駐車中は許可証を車内の見やすいところにおかなければならない。

２．許可証は他人に貸与してはならない。

３．許可証を紛失したときは理工学部事務部（学生厚生担当）に直ちに届け出なければならない。

４．指定の駐車場以外には駐車をしてはならない。

付　　則

1　この取扱細則は、昭和52年９月13日から施行する。

2　昭和55年１月22日一部変更（昭55．１．22決定）

付　則（昭和59年11月６日決定）

この改正は、昭和59年11月６日から施行する。（第４条１項(3)原付自転車削除、第７条違反者の処置追加、第７条１項一部変更、同条２項、３項追加）

付　則（昭和63年９月28日決定）

この改正は、昭和63年９月28日から施行する。

付　則（平成８年９月９日決定）

この改正は、平成８年10月１日から施行する。

付　則（平成15年３月31日決定）

この改正は、平成15年４月１日から施行する。（第８条、第10条）

大学キャンパス等所在地

神田キャンパス

〔大学（工学部第一部，第二部）・大学院工学研究科〕

〒101-8457 東京都千代田区神田錦町２－２

☎03(3294)1551

千葉ニュータウンキャンパス

〔大学（情報環境学部）・大学院情報環境学研究科〕

〒270-1382 千葉県印西市武西学園台２－1200

☎0476(46)4111

鳩山キャンパス

〔大学（理工学部）・大学院理工学研究科〕

〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町大字石坂

☎049(296)2911（代）

高坂「麓」

〒355-0063 東松山市元宿２－25－13

☎0493(35)0585

岩殿校宅

〒355-0065 東松山市大字岩殿字児沢156－１－９

☎0493(34)4881

軽井沢「深山荘」

〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢字深古屋1369－４

☎0267(42)3066

白馬山麓「栂池山荘」

〒399-9400 長野県北安曇郡小谷村大字千国字親ノ原乙12840－45

☎0261(83)2403

八ヶ岳山麓「清里寮」

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里字念場原3545－１

☎0551(48)2609

本冊子は新入生のみ配布されます。卒業するまで大切に取扱いください。

平成18年４月１日　発行

編　者　　理工学部事務部教務担当
発行者　　東京電機大学理工学部
〒350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂
電話　049（296）2911

印刷所　　関　根　印　刷　所
〒360-0113　埼玉県大里郡江南町御正新田413-5
電話　048（536）0162

〔非売品〕


TDU